

オニキシベ2遺跡

—厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 4—

2011.3

厚真町教育委員会



1. オニキシベ2遺跡空撮(SW→)

カラー図版2



1. ⅢGP-01アイヌ文化期土坑墓と対岸のヲチャラセナイチャシ跡(E →)



1. III GP-01出土ガラス玉・古銭・鐏状銅製品



2. III GP-01ガラス玉・古銭・鐏状銅製品出土状態(NW→)



3. III GP-01出土漆器皿塗膜(NW→)

カラー図版4



1. ⅢGP-03完掘(NE→)



2. ⅢGP-03副葬品出土状態(SW→)



1. III GP-03出土遺物

[写真撮影協力 佐藤雅彦氏]

カラー図版6



1. ⅢH-02擦文文化期竪穴住居跡完掘(NE→)



2. ⅢH-02カマド検出状態(NE→)



1. 縄文文化期集中区13検出状態(SW→)



2. 縄文文化期出土遺物

カラー図版8



1. 擦文土器集合



2. 後北B式土器集合



3. 後北C₁式土器集合

序 文

厚真町は、胆振・日高地区屈指の豊かな水田地帯を有する農業の町であります。この穀倉地帯を潤す厚真川は夕張山地の南端を源として流れ、農作物へ恩恵を授ける大切な河川でもあります。この豊かな厚真川と豊かな“ふるさと厚真”を更なる発展へと進めるために、農業用水確保と治水対策を主な柱とした多目的ダム「厚幌ダム」が、平成7年度に本格着工されました。

さて、本書はこの厚幌ダム建設に先駆けて、沈み行く地域に残された埋蔵文化財の記録保存を目的として発掘調査されたオニキシベ2遺跡の報告書であります。平成19・20年度に行った本遺跡の調査では、数々の発見が相次ぎ、厚真の歴史について新たな知見を得ることができました。とりわけ約700年前のアイヌ文化期のお墓からは貴重な副葬品が数多く納められており、厚真に先住したアイヌ民族の裕福さを物語る重要な資料となりました。他にも1,000年前の擦文文化期の竪穴住居跡や約1,800年前の続縄文文化期の作業場跡など、興味深い成果を得ております。

厚幌ダム建設事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、今後も数カ年にわたり継続される予定でございますが、このような貴重な埋蔵文化財を地域の教育的資源、文化的財産として普及活用を推し進めてまいりたいと思う所存でございます。また、本書が広く、埋蔵文化財の保護並びに調査・研究の一助となれば幸いに存じます。

最後となりましたが、調査・整理・報告にあたり御指導、御支援を賜りました関係諸氏ならびに関係機関に、誠に厚く、感謝申し上げる次第であります。

厚真町教育委員会
教育長 兵頭利彦

例言

1. 本書は、平成19・20年度に行った厚幌ダム建設事業に伴い発掘調査されたオニキシベ2遺跡(登録番号: J-13-77)の発掘調査報告書である。
2. 調査は、北海道の委託を厚真町教育委員会が受託し、発掘調査を行った。
3. 調査・整理は以下の体制で行った。

調査担当者: 小野哲也 乾 哲也
調査員: 天方博章
測量技能作業員・写真工: 宮崎美奈子 渡辺博道 畑嶋朝江
整備技能作業員: 小林輝男 松本 稔
小野: 金属製品実測・撮影、擦文土器実測・撮影、第Ⅱ・Ⅲ章遺構図作成、写真図版作成
天方: 縄文土器実測・撮影、縄文土器実測・撮影、剥片石器実測、礫石器実測・撮影、第Ⅳ・Ⅴ章遺構図作成、写真図版作成
乾: 統括、渉外、第Ⅰ章
調査協力: 奈良智法・荻野幸男(厚真町教育委員会嘱託職員)
4. 本書の編集は小野・乾の協力を得て天方が行った。

第Ⅰ章: 乾 第Ⅱ章: 小野(乾、天方加筆) 第Ⅲ章: 小野 第Ⅳ・Ⅴ章: 天方 第Ⅶ章: 小野・天方
5. 関連諸科学については、以下の機関および個人に依頼した。

AMS法¹⁴C年代測定: 株式会社 加速器分析研究所
古人骨同定: 札幌医科大学 松村博文
動物遺存体同定: 千歳市埋蔵文化財センター 高橋 理
炭化種子同定: 札幌国際大学博物館 客員研究員 樽坂恭代
金属製品保存処理分析: 岩手県立博物館 赤沼英男
(財)元興寺文化財研究所 塚本敏夫
漆片・ガラス玉分析: 岩手県立博物館 赤沼英男
6. 調査・報告にあたり下記の方々より特段の御指導を賜った。

土器の整理・分類: 大沼忠奉(北海道教育庁生涯学習推進局文化・スポーツ課)
脆弱資料の取上: 田口 尚(財団法人 北海道埋蔵文化財センター)
アイヌ民族文化関連遺物の取扱: 古原敏弘(道立アイヌ民族文化研究センター)
山崎幸治(北大アイヌ・先住民研究センター)
森岡健治(平取町教育委員会)
7. カラー図版の遺物写真撮影: 有限会社写真事務所クリーク 佐藤 雅彦
8. 地形測量の一部、遺物出土状態平面図及び包含層堆積図の作成、復元土器実測の一部、剥片石器の実測は、株式会社 シン技術コンサルに委託した。
9. 本調査によって得られた資料等は、厚真町教育委員会で保管している。
10. 調査・報告にあたって下記の間機および個人より御指導御協力を頂いた、記して感謝申し上げます。

北海道教育庁生涯学習推進局文化・スポーツ課、北海道胆振支庁、胆振総合振興局企画建設管理部 厚幌ダム建設

事務所・苫小牧道路事務所、財団法人北海道埋蔵文化財センター、社団法人北海道アイヌ協会・胆振地区支部連合会、財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構、北海道立アイヌ民族文化研究センター、札幌医科大学、北海道開拓記念館、苫小牧駒澤大学国際化学部、札幌学院大学人文学部、札幌国際大学、東京大学常呂実習施設、苫小牧市博物館、千歳市埋蔵文化財センター、平取町沙流川歴史館、平取町立二風谷アイヌ文化博物館、日高町教育委員会、新ひだか町教育委員会、伊達市教育委員会、七飯町教育委員会、森町教育委員会、せたな町教育委員会、富良野市教育委員会、深川市教育委員会、小樽市教育委員会、泊村教育委員会、余市町教育委員会、標津町教育委員会、陸別町教育委員会、青森市教育委員会、蓬田村教育委員会、岩手県立博物館、財団法人元興寺文化財研究所、三重県埋蔵文化財センター、岡山市オリエント美術館、備前長船刀剣博物館、厚真町視内自治会、(有)講神組

青野友哉、赤石慎三、秋野茂樹、阿部義明、天野哲也、石川恵美、石川 朗、石橋孝夫、乾 芳宏、井上美知子、白 杵 勲、右代啓視、宇田川洋、上屋真一、大塚和義、岡田路明、長田佳宏、小野裕子、加藤博文、川谷内修、川上 淳、菊池俊彦、工藤研治、熊谷仁志、越田賢一郎、佐藤一夫、佐藤 剛、佐藤雄生、澤田 健、四角隆二、新免歳靖、福田光明、鈴木邦輝、鈴木琢也、鈴木 信、瀬川拓郎、関根達人、高橋和樹、高橋 毅、武田 修、田才雅彦、田中哲朗、谷一尚、種市幸生、田村俊之、鶴丸俊明、中田裕香、長沼 孝、長町章弘、中村和之、西田 茂、西脇功名夫、長谷山隆博、畑 宏明、広田良成、福井淳一、藤原秀樹、藤原弘明、本田裕子、前田正憲、松田浩介、松田 猛、松田 功、松本建速、松谷純一、三浦正人、裴島栄紀、三宅俊彦、宗像公司、森 秀之、森 靖裕、數中 剛、山浦 清、山田 央

凡 例

1. 本書の遺構・遺物等について下記の略号を用いた。なお、層位がこれらの略号に付加している。

【遺構】 住居跡：H 住居内のピット：HP 住居内の焼土：HF 墓坑：GP 土坑：P 焼土：F
灰集中：AS 杭穴：KP 小ピット：SP

【遺物】 土器：P 擦文土器：SP 縄文土器：ZP 縄文土器：JP 土製品：CP 剥片石器：FT
礫石器：ST フレイク・チップ：FC 礫：S 石製品：STP 鉄製品：IP 銅製品：BP ガラス製品：GP
骨角器：BHP

【遺物等集中】 土器片集中：PB フレイク・チップ集中：FCB 礫集中：SB
獣骨集中：BB 炭化物集中：CB

2. 調査区を含めた周辺の河岸段丘面に以下の記号を用いた。

標高約 56.2-56.8m(氾濫原)：T₀ 標高約 58m：T₁ 標高約 62m：T₂ 標高約 68m：T₃
標高約 72.5-75m：T₄ 標高約 80-100m：T₅

3. 地層等について下記の略号を用いた。

【堆積土】 樽前 a 砂質降下火山灰：Ta-a 駒ヶ岳 C2 砂質降下火山灰：Ko-c2 樽前 b 降下軽石：Ta-b
白頭山苫小牧火山灰：B-Tn 樽前 c 砂質降下軽石：Ta-c 樽前 d1 細礫質降下スコリア：Ta-d1
樽前 d2 中礫質降下軽石：Ta-d2.p 粘土質黄褐色シルト(いわゆるローム)：L 攪乱：KR

【色 調】 小山・竹原編著(1994)『新版 標準土色帳』に従った。

【注 記】 土層注記は下記の略号を用いて、左側より混合比率の順列をつけている。また、混入土については()内に粒径(単位：mm)、状態を記載した。

混入土の比率

A + B : A と B が同量比混じる A-B : A を主体に B が多量に混じる

A = B : A を主体に B が少量 A≡B : A を主体に B が微量

φ : 粒径(単位:mm) ↓ : 以下 (状態) : 斑状に混じる・均一に混じる

〔層位〕 標準堆積層はローマ数字を用い、遺構覆土や風倒木攪乱などの二次的に堆積したものにはアラビア数字を用いた。また各層の上・中・下位について下記の略号を用いている。

U : 上位 M : 中位 L : 下位

4. 挿図は基本的に次のように縮尺を統一したが、異なるものについては図中スケールに縮尺を明記している。

遺構周辺図 : 1/100、1/80、1/60、1/40 住居跡 : 1/50 住居跡に付属する柱穴その他の土坑 : 1/20


土坑 : 1/40 焼土 : 1/20 集中遺物出土状態 : 1/10、1/20

土器実測図 : 1/3、1/4 土器拓影図 : 1/3 剥片石器実測図 : 1/2 礫石器実測図 : 1/3、1/6

5. 遺構実測図中に以下の線種・トーンを用いている。

〔線種〕 : オーバーハング - - - - - : 推定線

〔柱穴〕 平地式住居跡柱穴の確認面からの深さ 20cm 以上のものは、平面図中にトーンを用いた。また断面図において、しまりの強い壁面に斜線を用い、土層注記に下記アルファベットによる記号を使用している。

〔平面〕  : 確認面からの深さが20cm以上の柱穴

〔断面〕  : 柱穴の壁面周辺が強くしまる部分

〔注記〕 A : IIIb 層主体土 B : IIIc 層主体土 C : IV層主体土 D : V層主体土 E : VI~VII層主体土

〔焼土〕 被熱による土壤赤色化の度合いの表現に以下のトーンを用いた。



〔Tピット〕 第V章第1節ではTピット堆積図に下記トーンを用いている。



6. 写真図版中の「●」は実測図掲載遺物である。

7. 遺物実測図中に以下の略号を用いている。

〔断面〕 V——V : たたき痕 |———| : 剥片石器 微細剥離 / 礫石器 擦り痕・滑沢面

〔平面〕  : 滑沢面範囲  : 被熱による赤色化/付着物範囲

8. 一覧表中の材質については天方・小野が肉眼観察で分類し、下記の略号を用いた。緑泥片岩は緑色泥岩に含めてい。また頁岩・泥岩の分類については、粒度による基準ではなく、破断面等の肉眼観察によるものである。

Agc. : メノウ Aga-Sh. : メノウ質頁岩 Amp. : 角閃岩 And. : 安山岩 Bl-Sch. : 青色片岩

Cha. : チャート Con. : 礫岩 Dio. : 閃緑岩 Gra. : 花崗岩 Gr-Mud. : 緑色泥岩 Mud. : 泥岩

Obs. : 黒曜石 Qu. : 石英 Qua. : 珪岩 Sch. : 片岩 Sa. : 砂岩 Ser. : 蛇紋岩 Sh. : 頁岩 Tu. : 凝灰岩

Tu-Sa. : 凝灰質砂岩 Cray. : 粘土 Irn. : 鉄 Cu. : 銅 Sn. : 錫 B. : 骨 Jp. : 漆

本文目次

カラー図版	1. 土器……………	9
1 オニキシベ2遺跡空撮	2. 剥片石器……………	11
2 III GP-01 アイヌ文化期土坑墓と対岸のフチャラセナイチャシ跡	3. 礫石器……………	11
3-1 III GP-01 出土ガラス玉・古銭・鈔状銅製品	4. 鉄器……………	12
3-2 III GP-01 出土ガラス玉・古銭・鈔状銅製品出土状態	5. 土器一覧表について……………	13
3-3 III GP-01 出土漆器皿塗膜	第5節 調査結果の概要……………	15
4-1 III GP-03 完掘	1. アイヌ文化期……………	15
4-2 III GP-03 副葬品出土状態	2. 檜文文化期……………	16
5 III GP-03 出土遺物	3. 続縄文文化期……………	16
6-1 III H-02 檜文文化期竪穴住居跡完掘	4. 縄文時代……………	16
6-2 III H-02 カマド検出状態	第6節 遺跡の位置……………	17
7-1 続縄文文化期集中区13検出状態	1. 厚真町の概要……………	17
7-2 続縄文文化期出土遺物	2. 遺跡の位置と周辺の環境……………	25
8-1 檜文土器集合	3. 調査区内の地形と地質……………	29
8-2 後北B式土器集合	第II章 アイヌ文化期の調査	
8-3 後北C式土器集合	第1節 平地式住居跡と関連遺構……………	39
序文	第2節 建物跡……………	58
例言	第3節 土坑墓……………	59
凡例	第4節 集中区……………	96
第I章 調査の概要	第5節 焼土……………	107
第1節 調査要項と体制……………	第6節 灰集中……………	110
1. 調査要項……………	第7節 アイヌ文化期包含層出土遺物……………	110
2. 調査体制……………	第III章 檜文文化期の調査	
第2節 調査に至る経緯……………	第1節 竪穴住居跡……………	113
1. 厚幌ダム建設事業……………	第2節 集中区……………	126
2. 発掘調査までの経緯……………	第3節 土坑……………	156
第3節 調査の方法……………	第4節 焼土……………	157
1. グリッド設定……………	第5節 集中遺物……………	170
2. 包含層および遺構調査の方法……………	第6節 檜文文化期包含層出土遺物……………	178
3. 整理作業……………	第IV章 続縄文文化期の調査	
第4節 遺物の分類……………	第1節 集中区……………	188
	第2節 焼土……………	253

第3節	焼骨片集中	253
第4節	遺物集中	254
第5節	縄縄文化期包含層出土遺物	260

第V章 縄文時代の調査

第1節	Tピット	272
第2節	土坑	280
第3節	焼土	281
第4節	集石炉	281
第5節	集中遺物	282
第6節	包含層出土遺物	288

第VI章 自然科学的分析

第1節	オニキシベ2遺跡における 放射性炭素年代	310
第2節	オニキシベ2遺跡出土の中世 人骨について	317
第3節	北海道勇払郡厚真町 オニキシベ2遺跡の動物遺存体	321

第4節	オニキシベ2遺跡から検出された 植物種子	327
第5節	複合素材遺物の材質科学的 分析結果報告書	336
第6節	オニキシベ2遺跡出土漆片の 自然科学的調査結果	348
第7節	オニキシベ2遺跡出土ガラス玉の 自然科学的調査結果	352
第8節	厚真町オニキシベ2遺跡出土鉄器の 金属考古学的調査結果 —アイヌ文化成立過程における鉄器 地金の組成変化—	379

第VII章 まとめ

第1節	総括	434
第2節	縄縄文土器について	436
引用・参考文献		565
報告書抄録		567
奥付		568

挿 図 目 次

第I章

図I-1	厚幌ダム建設事業関連埋蔵文化財 包蔵地位位置図	3
図I-2	年度別調査区及び試掘穴位置図	5
図I-3	Ⅲ層調査方法区分図	6
図I-4	グリッド網設定図	7
図I-5	グリッド区分図	7
図I-6	厚真町内遺跡分布図	20
図I-7	遺跡周辺の地形区分図	26
図I-8	厚真川上流域と 鶴川中流域遺跡分布図	27
図I-9	厚真川上流域と鶴川中流域の 地形図	29
図I-10	調査区内の微地形区分図	30
図I-11	調査区内地形図	31

図I-12	基本土層柱状図	35
図I-13	Lライン土層断面図	36
図I-14	18ライン土層断面図(1)	37
図I-15	18ライン土層断面図(2)	38

第II章

図II-1	アイヌ文化期遺構配置図	41
図II-2	1号平地式住居跡周辺平面図	43
図II-3	1号平地式住居跡(ⅢH-01)平面図	45
図II-4	1号平地式住居跡関連遺構(1)	46
図II-5	1号平地式住居跡関連遺構(2)	47
図II-6	1号平地式住居跡出土遺物(1)	48
図II-7	1号平地式住居跡出土遺物(2)	49
図II-8	1号平地式住居跡周辺遺構(1)	52
図II-9	1号平地式住居跡周辺遺構(2)	54

図Ⅱ-10	1号平地式住居跡	
	周辺遺構出土遺物	55
図Ⅱ-11	1号平地式住居跡周辺遺構(3)	56
図Ⅱ-12	建物跡1	58
図Ⅱ-13	1号土坑墓(ⅢGP-01)	61
図Ⅱ-14	1号土坑墓断面図	63
図Ⅱ-15	1号土坑墓副葬品出土状態	65
図Ⅱ-16	1号土坑墓出土遺物(1)	68
図Ⅱ-17	1号土坑墓出土遺物(2)	69
図Ⅱ-18	1号土坑墓出土遺物(3)	70
図Ⅱ-19	1号土坑墓出土遺物(4)	71
図Ⅱ-20	1号土坑墓出土遺物(5)	72
図Ⅱ-21	1号土坑墓出土遺物(6)	73
図Ⅱ-22	2号土坑墓(ⅢGP-02)	77
図Ⅱ-23	2号土坑墓断面	78
図Ⅱ-24	2号土坑墓副葬品出土状態	79
図Ⅱ-25	2号土坑墓出土遺物	80
図Ⅱ-26	3号土坑墓全体図	83
図Ⅱ-27	3号土坑墓断面図	84
図Ⅱ-28	3号土坑墓副葬品出土状態	86
図Ⅱ-29	3号土坑墓出土遺物(1)	87
図Ⅱ-30	3号土坑墓出土遺物(2)	89
図Ⅱ-31	3号土坑墓出土遺物(3)	90
図Ⅱ-32	3号土坑墓出土遺物(4)	91
図Ⅱ-33	4号土坑墓(ⅢGP-04)	93
図Ⅱ-34	4号土坑墓断面図	94
図Ⅱ-35	4号土坑墓出土遺物	95
図Ⅱ-36	集中区1 関連遺構	96
図Ⅱ-37	集中区1 平面図	97
図Ⅱ-38	集中区1 出土遺物(1)	99
図Ⅱ-39	集中区1 出土遺物(2)	100
図Ⅱ-40	集中区2 平面図	104
図Ⅱ-41	集中区2 関連遺構及び 出土遺物	105
図Ⅱ-42	アイヌ文化期焼土(1)	108
図Ⅱ-43	アイヌ文化期焼土(2)	109
図Ⅱ-44	灰集中	110
図Ⅱ-45	アイヌ文化期 包含層出土遺物	111

第三章

図Ⅲ-1	糠文文化期遺構配置図	115
図Ⅲ-2	2号竪穴住居跡(ⅢH-02)	117
図Ⅲ-3	2号竪穴住居跡平面図及び柱穴 断面図	119
図Ⅲ-4	2号竪穴住居跡カメラ平面図	120
図Ⅲ-5	2号竪穴住居跡カメラ断面図	121
図Ⅲ-6	2号竪穴住居跡出土遺物(1)	122
図Ⅲ-7	2号竪穴住居跡出土遺物(2)	123
図Ⅲ-8	集中区3 平面図	127
図Ⅲ-9	集中区3 関連遺構(1)	129
図Ⅲ-10	集中区3 関連遺構(2)	130
図Ⅲ-11	集中区3 出土遺物(1)	131
図Ⅲ-12	集中区3 出土遺物(2)	132
図Ⅲ-13	集中区4 平面図	135
図Ⅲ-14	集中区4 関連遺構	136
図Ⅲ-15	集中区4 出土遺物(1)	137
図Ⅲ-16	集中区4 出土遺物(2)	138
図Ⅲ-17	集中区4 出土遺物(3)	139
図Ⅲ-18	集中区5 平面図	141
図Ⅲ-19	集中区5 関連遺構	143
図Ⅲ-20	集中区5 出土遺物(1)	145
図Ⅲ-21	集中区5 出土遺物(2)	146
図Ⅲ-22	集中区5 出土遺物(3)	147
図Ⅲ-23	集中区5 出土遺物(4)	148
図Ⅲ-24	集中区5 出土遺物(5)	149
図Ⅲ-25	集中区5 出土遺物(6)	150
図Ⅲ-26	集中区5 出土遺物接合 関係図(1)	151
図Ⅲ-27	集中区5 出土遺物接合 関係図(2)	152
図Ⅲ-28	糠文文化期土坑	157
図Ⅲ-29	糠文文化期焼土(1)	159
図Ⅲ-30	糠文文化期焼土(2)	161
図Ⅲ-31	糠文文化期焼土(3)	163
図Ⅲ-32	糠文文化期焼土(4)	164
図Ⅲ-33	糠文文化期焼土(5)	165

図Ⅲ-34	捺文文化期焼土(6)……………	167
図Ⅲ-35	捺文文化期焼土(7)……………	168
図Ⅲ-36	捺文文化期焼土出土遺物……………	169
図Ⅲ-37	土器集中平面図……………	171
図Ⅲ-38	礫集中平面図……………	173
図Ⅲ-39	土器集中出土遺物……………	174
図Ⅲ-40	土器集中・礫集中出土遺物……………	175
図Ⅲ-41	捺文文化期包含層出土遺物(1)……………	179
図Ⅲ-42	捺文文化期包含層出土遺物(2)……………	180
図Ⅲ-43	A地区捺文文化期土器接合 関係図……………	183
図Ⅲ-44	B地区捺文文化期土器接合 関係図……………	185

第IV章

図IV-1	統縄文文化期遺構配置図……………	189
図IV-2	集中区6平面図……………	191
図IV-3	集中区6 関連遺構……………	192
図IV-4	集中区6 関連土器集中 及び出土遺物……………	193
図IV-5	集中区7平面図……………	197
図IV-6	集中区7 関連焼土及び出土遺物……………	198
図IV-7	集中区8平面図及び 関連遺構……………	200
図IV-8	集中区8出土遺物……………	201
図IV-9	集中区9平面図……………	204
図IV-10	集中区9 関連焼土……………	205
図IV-11	集中区9出土遺物(1)……………	206
図IV-12	集中区9出土遺物(2)……………	207
図IV-13	集中区10平面図……………	210
図IV-14	集中区10 関連土坑及び 土器集中……………	211
図IV-15	集中区10出土遺物……………	212
図IV-16	集中区11平面図……………	215
図IV-17	集中区11 関連焼土(1)……………	217
図IV-18	集中区11 関連焼土(2)……………	218
図IV-19	集中区11出土遺物(1)……………	219
図IV-20	集中区11出土遺物(2)……………	220
図IV-21	集中区11出土遺物(3)……………	221
図IV-22	集中区12平面図……………	225
図IV-23	集中区12 関連遺構……………	227
図IV-24	集中区12出土遺物(1)……………	228
図IV-25	集中区12出土遺物(2)……………	229
図IV-26	集中区12出土遺物(3)……………	230
図IV-27	集中区12出土遺物(4)……………	231
図IV-28	集中区13平面図……………	235
図IV-29	集中区13 関連集石炉……………	238
図IV-30	集中区13出土遺物(1)……………	239
図IV-31	集中区13出土遺物(2)……………	240
図IV-32	集中区14平面図……………	243
図IV-33	集中区14出土遺物……………	244
図IV-34	集中区15平面図……………	246
図IV-35	集中区15出土遺物……………	247
図IV-36	集中区16平面図……………	250
図IV-37	集中区16出土遺物……………	251
図IV-38	統縄文文化期焼土……………	253
図IV-39	統縄文文化期土器集中平面図及び 出土遺物(1)……………	255
図IV-40	統縄文文化期土器集中平面図及び 出土遺物(2)……………	256
図IV-41	統縄文文化期土器集中平面図及び 出土遺物(3)……………	257
図IV-42	統縄文文化期土器集中平面図及び 出土遺物(4)……………	258
図IV-43	フレイク・チップ集中出土石器……………	260
図IV-44	統縄文文化期包含層 出土土器(1)……………	261
図IV-45	統縄文文化期包含層 出土土器(2)……………	262
図IV-46	統縄文文化期包含層 出土剥片石器……………	264
図IV-47	統縄文文化期包含層 出土礫石器(1)……………	268
図IV-48	統縄文文化期出包含層 出土礫石器(2)……………	269

第V章

図V-1	縄文時代遺構配置図	273
図V-2	TP-01~03	276
図V-3	TP-04~06	277
図V-4	TP-07~09	278
図V-5	TP-10~12	279
図V-6	縄文時代土坑	280
図V-7	縄文時代焼土	281
図V-8	縄文時代集石炉	282
図V-9	縄文時代土器集中平面図 及び出土遺物(1)	284
図V-10	縄文時代土器集中平面図 及び出土遺物(2)	285
図V-11	縄文時代包含層出土土器(1)	289
図V-12	縄文時代包含層出土土器(2)	291
図V-13	縄文時代包含層出土土器(3)	292
図V-14	縄文時代包含層出土	

剥片石器(1)	297	
図V-15	縄文時代包含層出土 剥片石器(2)	298
図V-16	縄文時代包含層出土礫石器(1)	301
図V-17	縄文時代包含層出土礫石器(2) ・石製品	302
図V-18	土器分布図(1)	304
図V-19	土器分布図(2)	305
図V-20	土器分布図(3) ・剥片石器分布図(1)	306
図V-21	剥片石器分布図(2)	307
図V-22	剥片石器分布図(3)	308
図V-23	フレイク重量分布図	309

第VII章

図VII-1	後北B・C式土器集成図	438
--------	-------------	-----

表 目 次

第I章

表I-1	グリット設定基準坑座標値 一覧表	7
表I-2	オニキシベ2遺跡層位年度別概要 一覧表	15
表I-3	厚真町内埋蔵文化財包蔵地 一覧表(1)	21
表I-4	厚真町内埋蔵文化財包蔵地 一覧表(2)	22
表I-5	厚真町内埋蔵文化財包蔵地 一覧表(3)	23
表I-6	厚真川流域の河岸段丘面区分	26

第II章

表II-1	アイヌ文化期遺構群一覧表	39
表II-2	IIIH-01 属性表	40
表II-3	IIIH-01 付属炉属性表	40

表II-4	IIIH-01 柱穴属性表	40
表II-5	IIIH-01 出土遺物属性表	50
表II-6	IIISB-08 属性表	50
表II-7	IIISB-09 属性表	51
表II-8	IIIH-01 周辺焼土属性表	56
表II-9	IIIH-01 周辺灰集中属性表	56
表II-10	IIIH-01 周辺遺構出土遺物属性表	57
表II-11	IIISB-05 属性表	57
表II-12	IIISB-01 属性表	58
表II-13	建物跡1 属性表	59
表II-14	建物跡1 柱穴属性表	59
表II-15	IIIGP-01 属性表	74
表II-16	IIIGP-01 墓標穴属性表	74
表II-17	IIIGP-01 出土遺物属性表	74
表II-18	IIIGP-01 出土古銭属性表	74
表II-19	IIIGP-01 出土ガラス玉属性表	75
表II-20	IIIGP-02 属性表	81

表Ⅱ-21	ⅢGP-02 墓塚穴属性表	81
表Ⅱ-22	ⅢGP-02 出土遺物属性表	81
表Ⅱ-23	ⅢGP-03 属性表	91
表Ⅱ-24	ⅢGP-03 墓塚穴属性表	91
表Ⅱ-25	ⅢGP-03 出土遺物属性表	92
表Ⅱ-26	ⅢGP-04 属性表	94
表Ⅱ-27	ⅢGP-04 出土遺物属性表	94
表Ⅱ-28	集中区1 焼土属性表	99
表Ⅱ-29	集中区1 出土遺物属性表	101
表Ⅱ-30	ⅢSB-10 属性表	101
表Ⅱ-31	集中区2 焼土属性表	105
表Ⅱ-32	集中区2 関連遺構出土遺物 属性表	105
表Ⅱ-33	ⅢSB-11 属性表	105
表Ⅱ-34	ⅢSB-12 属性表	106
表Ⅱ-35	アイヌ文化期焼土属性表	110
表Ⅱ-36	アイヌ文化期灰集中属性表	110
表Ⅱ-37	アイヌ文化期包含層出土遺物 属性表	112

第三章

表Ⅲ-1	燎文文化期遺構群一覽表	113
表Ⅲ-2	ⅢH-02 属性表	124
表Ⅲ-3	ⅢH-02 カマド属性表	124
表Ⅲ-4	ⅢH-02 焼土粒集中属性表	124
表Ⅲ-5	ⅢH-02 柱穴属性表	124
表Ⅲ-6	ⅢH-02 出土土器属性表	125
表Ⅲ-7	ⅢH-02 出土遺物属性表	125
表Ⅲ-8	ⅢH-02 礫集中属性表	125
表Ⅲ-9	集中区3 土抗属性表	133
表Ⅲ-10	集中区3 焼土属性表	133
表Ⅲ-11	集中区3 出土土器属性表	133
表Ⅲ-12	集中区3 出土遺物属性表	134
表Ⅲ-13	ⅢSB-01 属性表	134
表Ⅲ-14	ⅢSB-02 属性表	134
表Ⅲ-15	集中区4 焼土属性表	139
表Ⅲ-16	集中区4 出土土器属性表	140
表Ⅲ-17	集中区4 出土遺物属性表	140

表Ⅲ-18	集中区5 焼土属性表	153
表Ⅲ-19	集中区5 出土土器属性表(1)	153
表Ⅲ-20	集中区5 出土土器属性表(2)	154
表Ⅲ-21	集中区5 出土遺物属性表	154
表Ⅲ-22	ⅢSB-21 属性表	155
表Ⅲ-23	燎文文化期土抗属性表	157
表Ⅲ-24	燎文文化期焼土属性表	168
表Ⅲ-25	燎文文化期焼土出土土器属性表	170
表Ⅲ-26	燎文文化期焼土出土遺物属性表	170
表Ⅲ-27	燎文文化期集中遺物出土土器 属性表	176
表Ⅲ-28	燎文文化期集中遺物 出土礫石器属性表	176
表Ⅲ-29	ⅢSB-03 属性表	176
表Ⅲ-30	ⅢSB-04 属性表	176
表Ⅲ-31	ⅢSB-06 属性表	177
表Ⅲ-32	ⅢSB-07 属性表	177
表Ⅲ-33	ⅢSB-13 属性表	177
表Ⅲ-34	ⅢSB-15 属性表	177
表Ⅲ-35	ⅢSB-20 属性表	178
表Ⅲ-36	燎文文化期包含層出土土器 属性表	181
表Ⅲ-37	燎文文化期包含層出土遺物 属性表	182

第四章

表Ⅳ-1	統縄文文化期遺構群一覽表	187
表Ⅳ-2	集中区6 土坑属性表	194
表Ⅳ-3	集中区6 焼土属性表	195
表Ⅳ-4	集中区6 焼骨片集中属性表	195
表Ⅳ-5	集中区6 フレイク・チップ集中 属性表	195
表Ⅳ-6	集中区6 出土剥片石器集計表	195
表Ⅳ-7	集中区6 出土土器属性表	195
表Ⅳ-8	集中区6 出土遺物属性表	196
表Ⅳ-9	集中区7 焼土属性表	199
表Ⅳ-10	集中区7 フレイク・チップ集中 属性表	199

表IV-11	集中区 7 出土剥片石器集計表	199	表IV-45	ⅢSB-14 属性表	241
表IV-12	集中区 7 出土土器属性表	199	表IV-46	集中区 13 フレイク・チップ集中 属性表	241
表IV-13	集中区 7 出土剥片石器属性表	199	表IV-47	集中区 13 出土剥片石器集計表	242
表IV-14	集中区 8 土坑属性表	202	表IV-48	集中区 13 出土土器属性表	242
表IV-15	集中区 8 焼土属性表	202	表IV-49	集中区 13 出土遺物属性表	242
表IV-16	集中区 8 焼骨片集中属性表	203	表IV-50	集中区 14 焼骨片集中属性表	245
表IV-17	集中区 8 フレイク・チップ集中 属性表	203	表IV-51	集中区 14 フレイク・チップ集中 属性表	245
表IV-18	集中区 8 出土剥片石器集計表	203	表IV-52	集中区 14 出土剥片石器集計表	245
表IV-19	集中区 8 出土土器属性表	203	表IV-53	集中区 14 出土土器属性表	245
表IV-20	集中区 8 出土遺物属性表	203	表IV-54	集中区 14 出土遺物属性表	245
表IV-21	集中区 9 焼土属性表	207	表IV-55	集中区 15 焼骨片集中属性表	248
表IV-22	集中区 9 焼骨片集中属性表	208	表IV-56	集中区 15 フレイク・チップ集中 属性表	248
表IV-23	集中区 9 フレイク・チップ集中 属性表	208	表IV-57	集中区 15 出土剥片石器集計表	248
表IV-24	集中区 9 出土剥片石器集計表	208	表IV-58	集中区 15 出土土器属性表	248
表IV-25	集中区 9 出土土器属性表	208	表IV-59	集中区 15 出土遺物属性表	248
表IV-26	集中区 9 出土遺物属性表	208	表IV-60	集中区 16 焼骨片集中属性表	251
表IV-27	集中区 10 土坑属性表	212	表IV-61	集中区 16 フレイク・チップ集中 属性表	252
表IV-28	集中区 10 焼骨片集中属性表	212	表IV-62	集中区 16 出土剥片石器集計表	252
表IV-29	集中区 10 出土土器属性表	212	表IV-63	集中区 16 出土土器属性表	252
表IV-30	集中区 10 出土剥片石器属性表	213	表IV-64	集中区 16 出土遺物属性表	252
表IV-31	集中区 11 焼土属性表	222	表IV-65	統縄文文化期焼土属性表	253
表IV-32	集中区 11 焼骨片集中属性表	222	表IV-66	統縄文文化期焼骨片集中属性表	253
表IV-33	集中区 11 フレイク・チップ集中 属性表	222	表IV-67	出土土器属性表	259
表IV-34	集中区 11 出土剥片石器集計表	223	表IV-68	剥片石器属性表	260
表IV-35	集中区 11 出土土器属性表	223	表IV-69	統縄文文化期包含層出土土器 属性表	263
表IV-36	集中区 11 出土遺物属性表	224	表IV-70	統縄文文化期包含層出土剥片石器 属性表	266
表IV-37	集中区 12 土坑属性表	232	表IV-71	統縄文文化期包含層出土礫石器 属性表	270
表IV-38	集中区 12 焼土属性表	232			
表IV-39	集中区 12 焼骨片集中属性表	232			
表IV-40	集中区 12 フレイク・チップ集中 属性表	233			
表IV-41	集中区 12 出土剥片石器集計表	233			
表IV-42	集中区 12 出土土器属性表	233			
表IV-43	集中区 12 出土遺物属性表	234			
表IV-44	集中区 13 焼骨片集中属性表	241			

第V章

表V-1	平成19・20年度V層地区別検出 遺構・遺物一覧表	271
------	------------------------------	-----

表V-2	Tピット計測一覧表	275
表V-3	縄文時代土抗属性表	280
表V-4	縄文時代焼土属性表	281
表V-5	縄文時代集石炉属性表	282
表V-6	VSB-01 属性表	282
表V-7	土器集中出土土器属性表	287
表V-8	縄文時代包含層出土土器属性表	293

表V-9	縄文時代包含層出土剥片石器 属性表	299
表V-10	縄文時代包含層出土礫石器 属性表	303

第VII章

表VII-1	土器属性表	439
--------	-------	-----

図 版 目 次

図版 1-1	オニキシベ2 遺跡近景	442
図版 1-2	平成 20 年度オニキシベ2 遺跡 A 地区火山灰除去後	442
図版 2-1	平成 19 年度オニキシベ2 遺跡 A 地区火山灰除去後	443
図版 2-2	平成 19 年度オニキシベ2 遺跡 B 地区火山灰除去後	443
図版 3-1	A 地区 18 ライン堆積状態	444
図版 3-2	B 地区 L ライン堆積状態	444
図版 3-3	B 地区 VII 層下位堆積状態	444
図版 4-1	IIIH-01 完掘状態	445
図版 4-2	IIIKP-05 断面	445
図版 4-3	IIIKP-07 断面	445
図版 4-4	IIIKP-08 断面	445
図版 4-5	IIIKP-09 断面	445
図版 4-6	IIIKP-11 断面	445
図版 4-7	IIIKP-14 断面	445
図版 4-8	IIIKP-15 断面	445
図版 4-9	IIIKP-17 断面	445
図版 5-1	IIIF-17・29, IIISB-08・09 検出	446
図版 5-2	IIIF-17 検出	446
図版 5-3	IIIF-17 断面	446
図版 5-4	IIIF-29 検出	446
図版 5-5	IIIF-29 断面	446
図版 5-6	IIIF-53 検出	446
図版 5-7	IIISB-08 出土状態	446
図版 5-8	IIISB-09 出土状態	446

図版 6-1	IIIF-19 検出	447
図版 6-2	IIIF-19 断面	447
図版 6-3	IIIF-20 検出	447
図版 6-4	IIIF-20 断面	447
図版 6-5	IIIAS-02 検出	447
図版 6-6	IIIAS-02 骨鏝出土状態	447
図版 6-7	骨鏝出土状態拡大	447
図版 6-8	IIIAS-03 検出	447
図版 7-1	IIIAS-03 上位 IIIb 堆積状態	448
図版 7-2	IIIAS-03 断面	448
図版 7-3	IIISB-05 出土状態	448
図版 7-4	IIIBB-01 検出	448
図版 7-5	建物跡 1 完掘状態	448
図版 8-1	IIIGP-01 完掘全景	449
図版 8-2	IIIGP-01 長軸断面	449
図版 8-3	IIIGP-01 短軸断面	449
図版 8-4	IIIGP-01 斜面部 造成土流出部分断面	449
図版 8-5	IIIGP-01 造成切土部分断面	449
図版 9-1	IIIGP-01 検出(1)	450
図版 9-2	IIIGP-01 検出(2)	450
図版 9-3	IIIGP-01 完掘墓坑部分	450
図版 10-1	IIIGP-01 副葬品出土状態	451
図版 10-2	封土上面ガラス玉出土状態	451
図版 10-3	埋土中古銭出土状態	451
図版 10-4	古銭・鉄斧出土状態	451
図版 10-5	ガラス玉・鉄製品出土状態	451

図版 10-6	小刀・腕輪出土状態	451	図版 16-3	頭骨出土状態	457
図版 10-7	埋土中ガラス玉出土状態	451	図版 16-4	小刀・短刀・刀子出土状態	457
図版 11-1	鐔状銅製品・ガラス玉・古銭 出土状態	452	図版 16-5	短刀・刀子出土状態	457
図版 11-2	鐔状銅製品・小刀出土状態	452	図版 16-6	小刀出土状態	457
図版 11-3	鐔状銅製品表面 木片付着状態	452	図版 16-7	針出土状態	457
図版 11-4	鐔状銅製品表面 織緯製品付着状態	452	図版 17-1	集中区 1 検出	458
図版 11-5	墓坑南東隅ニンカリ出土状態	452	図版 17-2	ⅢF-46 検出	458
図版 11-6	墓坑北壁側ニンカリ出土状態	452	図版 17-3	ⅢF-46 断面	458
図版 11-7	漆器血塗膜出土状態	452	図版 17-4	ⅢSB-10 出土状態(1)	458
図版 11-8	墓標穴断面	452	図版 17-5	ⅢSB-10 出土状態(2)	458
図版 12-1	ⅢGP-02 完掘	453	図版 18-1	集中区 2 検出	459
図版 12-2	ⅢGP-02 検出	453	図版 18-2	ⅢF-56 検出	459
図版 12-3	ⅢGP-02 完掘	453	図版 18-3	ⅢF-56 断面	459
図版 13-1	ⅢGP-02 人骨・副葬品出土状態	454	図版 18-4	ⅢSB-11 出土状態	459
図版 13-2	ⅢGP-02 長軸断面	454	図版 18-5	ⅢSB-12 出土状態	459
図版 13-3	周溝部分断面	454	図版 19-1	ⅢF-01 検出	460
図版 13-4	頭骨出土状態	454	図版 19-2	ⅢF-01 断面	460
図版 13-5	北西側刀出土状態	454	図版 19-3	ⅢF-02 検出	460
図版 13-6	南東側刀出土状態	454	図版 19-4	ⅢF-02 断面	460
図版 13-7	周溝内墓標穴脇刀子出土状態	454	図版 19-5	ⅢF-03 検出	460
図版 14-1	ⅢGP-03 完掘	455	図版 19-6	ⅢF-03 断面	460
図版 14-2	ⅢGP-03 人骨・副葬品 出土状態	455	図版 19-7	ⅢF-06 検出	460
図版 14-3	ⅢGP-03 検出	455	図版 19-8	ⅢF-06 断面	460
図版 14-4	ⅢGP-03 短軸断面	455	図版 20-1	ⅢF-07 検出	461
図版 15-1	ⅢGP-03 長軸断面	456	図版 20-2	ⅢF-07 断面	461
図版 15-2	墓標穴断面	456	図版 20-3	ⅢF-16 検出	461
図版 15-3	刀剣類・矢筒出土状態	456	図版 20-4	ⅢF-16 断面	461
図版 15-4	鉄鍋出土状態	456	図版 20-5	ⅢF-18 検出	461
図版 15-5	頭骨出土状態	456	図版 20-6	ⅢF-18 断面	461
図版 15-6	ニンカリ出土状態	456	図版 20-7	ⅢF-38 検出	461
図版 15-7	銀象嵌刀子取上状況	456	図版 20-8	ⅢF-38 断面	461
図版 15-8	矢筒応急保存処理状況	456	図版 21-1	ⅢH-02 完掘(1)	462
図版 16-1	ⅢGP-04 完掘	457	図版 21-2	ⅢH-02 完掘(2)	462
図版 16-2	ⅢGP-04 長軸断面	457	図版 22-1	ⅢH-02 東西軸断面	463
			図版 22-2	ⅢH-02 南北軸断面	463
			図版 22-3	南壁際断面	463
			図版 22-4	南壁際 B-Tm 検出状態	463
			図版 22-5	カマド部分上位堆積状態	463

図版 22-6	南側周提帯断面	463	図版 28-6	ⅢPB-15 出土状態	469
図版 23-1	HP01 断面	464	図版 29-1	集中区 5 検出	470
図版 23-2	HP10 断面	464	図版 29-2	集中区 5 検出位置	470
図版 23-3	HP03 断面	464	図版 29-3	ⅢF-86 検出	470
図版 23-4	HP05 断面	464	図版 29-4	ⅢF-86 断面	470
図版 23-5	HP02 断面	464	図版 30-1	ⅢF-90 検出	471
図版 23-6	HP06 断面	464	図版 30-2	ⅢF-90 断面	471
図版 23-7	HP11 断面	464	図版 30-3	ⅢF-91 検出	471
図版 23-8	SP01 完掘	464	図版 30-4	ⅢF-93 検出	471
図版 24-1	カマド裏検出	465	図版 30-5	ⅢF-93 断面	471
図版 24-2	煙道部裏出土状態	465	図版 30-6	ⅢF-94 検出	471
図版 24-3	煙道袖部板状裏出土状態	465	図版 30-7	ⅢSB-21 出土状態(1)	471
図版 25-1	煙出口白色粘土検出	466	図版 30-8	ⅢSB-21 出土状態(2)	471
図版 25-2	煙道部上位推積断面	466	図版 31-1	ⅢP-02 完掘	472
図版 25-3	煙出口付近断面	466	図版 31-2	ⅢP-02 断面	472
図版 25-4	カマド焚口焼土検出	466	図版 31-3	ⅢP-04 完掘	472
図版 25-5	カマド焚口焼土断面	466	図版 31-4	ⅢP-04 断面	472
図版 25-6	カマド脇焼土粒集中検出	466	図版 31-5	ⅢF-08 検出	472
図版 25-7	カマド袖石上面土器出土状態	466	図版 31-6	ⅢF-08 断面	472
図版 25-8	床面集石出土状態	466	図版 31-7	ⅢF-09 検出	472
図版 26-1	ⅢP-01 完掘	467	図版 31-8	ⅢF-09 断面	472
図版 26-2	ⅢP-01 断面	467	図版 32-1	ⅢF-11 検出	473
図版 26-3	ⅢF-33 検出	467	図版 32-2	ⅢF-11 断面	473
図版 26-4	ⅢF-33 断面	467	図版 32-3	ⅢF-13 検出	473
図版 26-5	ⅢP-03 断面	467	図版 32-4	ⅢF-13 断面	473
図版 26-6	ⅢP-03 完掘	467	図版 32-5	ⅢF-14 検出	473
図版 26-7	ⅢPB-01・ⅢSB-02 出土状態	467	図版 32-6	ⅢF-14 断面	473
図版 26-8	ⅢPB-02 出土状態	467	図版 32-7	ⅢF-21 検出	473
図版 27-1	集中区 4 検出	468	図版 32-8	ⅢF-21 断面	473
図版 27-2	ⅢF-58 検出	468	図版 33-1	ⅢF-28 検出	474
図版 27-3	ⅢF-58 断面	468	図版 33-2	ⅢF-28 断面	474
図版 27-4	ⅢF-59 検出	468	図版 33-3	ⅢF-30 検出	474
図版 27-5	ⅢF-59 断面	468	図版 33-4	ⅢF-30 断面	474
図版 28-1	ⅢF-62 検出	469	図版 33-5	ⅢF-32 検出	474
図版 28-2	ⅢF-62 断面(1)	469	図版 33-6	ⅢF-32 断面	474
図版 28-3	ⅢF-62 断面(2)	469	図版 33-7	ⅢF-35 検出	474
図版 28-4	ⅢPB-05 出土状態	469	図版 33-8	ⅢF-35 断面	474
図版 28-5	ⅢPB-08 出土状態	469	図版 34-1	ⅢF-39 検出	475

図版 34-2	ⅢF-39 断面	475	図版 38-8	ⅢF-66 断面	479
図版 34-3	ⅢF-40 検出	475	図版 39-1	ⅢF-67 検出	480
図版 34-4	ⅢF-40 断面	475	図版 39-2	ⅢF-67 断面	480
図版 34-5	ⅢF-41 検出	475	図版 39-3	ⅢF-82 検出	480
図版 34-6	ⅢF-41 断面	475	図版 39-4	ⅢF-82 断面	480
図版 34-7	ⅢF-42 検出	475	図版 39-5	ⅢF-83 検出	480
図版 34-8	ⅢF-41 断面	475	図版 39-6	ⅢF-83 断面	480
図版 35-1	ⅢF-43 検出	476	図版 39-7	ⅢF-84 検出	480
図版 35-2	ⅢF-44 検出	476	図版 39-8	ⅢF-84 断面	480
図版 35-3	ⅢF-45 検出	476	図版 40-1	ⅢF-87-88 検出	481
図版 35-4	ⅢF-45 断面	476	図版 40-2	ⅢF-87-88 断面	481
図版 35-5	ⅢF-47 断面	476	図版 40-3	ⅢF-92 検出	481
図版 35-6	ⅢF-47 検出	476	図版 40-4	ⅢF-92 断面	481
図版 35-7	ⅢF-47 焼土面検出	476	図版 40-5	ⅢF-95 検出	481
図版 35-8	ⅢF-48 検出	476	図版 40-6	ⅢF-95 断面	481
図版 36-1	ⅢF-48 焼土面遺物出土状態	477	図版 40-7	ⅢF-96 検出	481
図版 36-2	ⅢF-48 断面	477	図版 40-8	ⅢF-96 断面	481
図版 36-3	ⅢF-49 検出	477	図版 41-1	ⅢPB-03 出土状態	482
図版 36-4	ⅢF-49 断面	477	図版 41-2	ⅢPB-28 出土状態	482
図版 36-5	ⅢF-50 検出	477	図版 41-3	ⅢPB-28 頸部片拡大	481
図版 36-6	ⅢF-50 断面	477	図版 41-4	ⅢPB-28 底部片拡大	482
図版 36-7	ⅢF-51 検出	477	図版 41-5	ⅢPB-29 出土状態	482
図版 36-8	ⅢF-51 断面	477	図版 41-6	ⅢPB-29 出土状態拡大	482
図版 37-1	ⅢF-52 検出	478	図版 41-7	ⅢPB-48 出土状態	482
図版 37-2	ⅢF-52 断面	478	図版 41-8	ⅢPB-50 出土状態	482
図版 37-3	ⅢF-54 周辺遺物出土状態	478	図版 42-1	ⅢSB-03 出土状態	483
図版 37-4	ⅢF-54 検出	478	図版 42-2	ⅢSB-06 出土状態	483
図版 37-5	ⅢF-55 検出	478	図版 42-3	ⅢSB-07 出土状態	483
図版 37-6	ⅢF-55 断面	478	図版 42-4	ⅢSB-13 出土状態	483
図版 37-7	ⅢF-57 検出	478	図版 42-5	ⅢSB-15 出土状態	483
図版 37-8	ⅢF-57 断面	478	図版 42-6	ⅢSB-20 出土状態	483
図版 38-1	ⅢF-63 検出	479	図版 43-1	ⅢP-10 断面	484
図版 38-2	ⅢF-63 断面	479	図版 43-2	ⅢP-13 検出	484
図版 38-3	ⅢF-64 検出	479	図版 43-3	ⅢP-13 断面	484
図版 38-4	ⅢF-64 断面	479	図版 43-4	ⅢPB-55 出土状態	484
図版 38-5	ⅢF-65 検出	479	図版 43-5	ⅢF-97 検出	484
図版 38-6	ⅢF-65 断面	479	図版 43-6	ⅢF-97 断面	484
図版 38-7	ⅢF-66 検出	479	図版 43-7	ⅢF-98 検出	484

图版 43-8	ⅢF-98 断面	484	图版 49-1	ⅢF-70 检出	490
图版 44-1	ⅢF-99 检出	485	图版 49-2	ⅢF-70 断面	490
图版 44-2	ⅢF-99 断面	485	图版 43-3	ⅢF-71 检出	490
图版 44-3	ⅢF-100 检出	485	图版 49-4	ⅢF-71 断面	490
图版 44-4	ⅢF-100 断面	485	图版 49-5	ⅢF-72 检出	490
图版 44-5	ⅢF-101 检出	485	图版 49-6	ⅢF-72 断面	490
图版 44-6	ⅢF-101 断面	485	图版 49-7	ⅢF-74·ⅢPB-35 检出	490
图版 44-7	ⅢF-102 检出	485	图版 49-8	ⅢF-74 断面	490
图版 44-8	ⅢF-102 断面	485	图版 50-1	ⅢF-76 检出	491
图版 45-1	集中区 7	486	图版 50-2	ⅢF-76 断面	491
图版 45-2	ⅢF-85 检出	486	图版 50-3	ⅢF-78 检出	491
图版 45-3	ⅢF-85 断面	486	图版 50-4	ⅢF-78 断面	491
图版 45-4	ⅢF-89 检出	486	图版 50-5	ⅢF-79 检出	491
图版 45-5	ⅢF-89 断面	486	图版 50-6	ⅢF-79 断面	491
图版 46-1	ⅢP-11 完掘	487	图版 50-7	ⅢF-80 检出	491
图版 46-2	ⅢF-81 检出	487	图版 50-8	ⅢF-80 断面	491
图版 46-3	ⅢF-81 灰層检出	487	图版 51-1	集中区 12	492
图版 46-4	ⅢF-81 断面	487	图版 51-2	ⅢP-05 完掘	492
图版 46-5	ⅢF-81 检出	487	图版 51-3	ⅢP-05 断面	492
图版 46-6	ⅢF-81 断面	487	图版 51-4	ⅢF-73 检出	492
图版 46-7	ⅢF-82 检出	487	图版 51-5	ⅢF-73 断面	492
图版 46-8	ⅢF-82 断面	487	图版 52-1	ⅢF-75 检出	493
图版 47-1	ⅢP-06 完掘	488	图版 52-2	ⅢF-77 检出	493
图版 47-2	ⅢP-06 遺物出土状态	488	图版 52-3	ⅢF-77 断面	493
图版 47-3	ⅢP-06 遺物出土状态	488	图版 52-4	ⅢPB-21 出土状态	493
图版 47-4	ⅢP-06 断面	488	图版 52-5	ⅢPB-30 出土状态	493
图版 47-5	ⅢP-07 完掘	488	图版 52-6	ⅢPB-32 出土状态	493
图版 47-6	ⅢP-07 断面	488	图版 53-1	集中区 13	494
图版 47-7	ⅢP-08 完掘	488	图版 53-2	ⅢSB-14 检出	494
图版 47-8	ⅢP-09 完掘	488	图版 53-3	ⅢSB-14 检出	494
图版 48-1	ⅢP-12 完掘	489	图版 53-4	ⅢSB-14 被覆黑色土	494
图版 48-2	ⅢP-12 覆土中位烧土检出	489	图版 53-5	ⅢSB-14 出土状态	494
图版 48-3	ⅢP-12 断面	489	图版 54-1	集中区 14	495
图版 48-4	ⅢPB-36·37 出土状况	489	图版 54-2	集中区 15	495
图版 48-5	ⅢF-68 检出	489	图版 55-1	ⅢF-60 检出	496
图版 48-6	ⅢF-68 断面	489	图版 55-2	ⅢF-60 断面	496
图版 48-7	ⅢF-69 检出	489	图版 55-3	ⅢPB-46 出土状态	496
图版 48-8	ⅢF-69 断面	489	图版 55-4	ⅢPB-54 出土状态	496

図版 55-5	ⅢPB-09 出土状態	496	図版 61-3	平成 20 年度 A 地区発掘状態	502
図版 56-1	TP-01 完掘	497	図版 62-1	ⅢH-01 出土遺物	503
図版 56-2	TP-01 断面	497	図版 62-2	ⅢH-01 出土礫(ⅢSB-08)	503
図版 56-3	TP-02 完掘	497	図版 62-3	ⅢH-01 出土遺物(ⅢSB-09)	503
図版 56-4	TP-02 断面	497	図版 63-1	ⅢH-01 周辺遺構出土遺物	504
図版 56-5	TP-03 完掘	497	図版 63-2	ⅢH-01 周辺遺構出土礫 (ⅢSB-05)	504
図版 56-6	TP-03 断面	497	図版 64-1	ⅢGP-01 出土遺物(1)	505
図版 57-1	TP-04・05 完掘	498	図版 65-1	ⅢGP-01 出土遺物(2)	506
図版 57-2	TP-05 断面	498	図版 66-1	ⅢGP-01 出土遺物(3)	507
図版 57-3	TP-04 断面	498	図版 67-1	ⅢGP-01 出土遺物(4)	508
図版 57-4	TP-06 完掘	498	図版 68-1	ⅢGP-01 出土遺物(5)	509
図版 57-5	TP-06 断面	498	図版 69-1	ⅢGP-01 出土遺物(6)	510
図版 57-6	TP-06 工具痕	498	図版 70-1	ⅢGP-02 出土遺物	511
図版 58-1	TP-07 完掘	499	図版 71-1	ⅢGP-03 出土遺物(1)	512
図版 58-2	TP-07 断面	499	図版 72-1	ⅢGP-03 出土遺物(2)	513
図版 58-3	TP-08 完掘	499	図版 73-1	ⅢGP-03 出土遺物(3)	514
図版 58-4	TP-08 断面	499	図版 74-1	ⅢGP-03 出土遺物(4)	515
図版 58-5	TP-09 完掘	499	図版 74-2	ⅢGP-04 出土遺物	515
図版 58-6	TP-10 完掘	499	図版 75-1	集中区 1 出土遺物	516
図版 58-7	TP-10 断面	499	図版 76-1	集中区 1 出土礫(1)(ⅢSB-10)	517
図版 59-1	TP-11 完掘	500	図版 77-1	集中区 1 出土礫(2)(ⅢSB-10)	518
図版 59-2	TP-11 断面	500	図版 77-2	集中区 2 出土礫(ⅢSB-11)	518
図版 59-3	TP-12 完掘	500	図版 78-1	集中区 2 出土礫(ⅢSB-12)	519
図版 59-4	TP-12 断面	500	図版 79-1	集中区 2 出土遺物	520
図版 59-5	VSB-01 検出	500	図版 79-2	アイヌ文化期包含層出土遺物	520
図版 59-6	VSB-01 礫 2 段目検出	500	図版 80-1	ⅢH-02 出土遺物	521
図版 59-7	VSB-01 断面	500	図版 81-2	ⅢH-02 出土礫	522
図版 59-8	VSB-01 完掘	500	図版 81-2	集中区 3 出土遺物(1)	522
図版 60-1	VP-01 完掘	501	図版 82-1	集中区 3 出土遺物(2)	523
図版 60-2	VP-01 断面	501	図版 83-1	集中区 3 出土礫(ⅢSB-02)	524
図版 60-3	VP-02 完掘	501	図版 83-2	集中区 4 出土遺物(1)	524
図版 60-4	VP-02 断面	501	図版 84-1	集中区 4 出土遺物(2)	525
図版 60-5	VP-03 完掘	501	図版 85-1	集中区 5 出土遺物(1)	526
図版 60-6	VP-03 断面	501	図版 86-1	集中区 5 出土遺物(2)	527
図版 60-7	VF-01 検出	501	図版 87-1	集中区 5 出土遺物(3)	528
図版 60-8	VF-01 断面	501	図版 88-1	集中区 5 出土遺物(4)	529
図版 61-1	平成 19 年度 B 地区発掘状態	502	図版 89-1	集中区 5 出土遺物(5)	530
図版 61-2	平成 19 年度 A 地区発掘状態	502			

図版 90-1	集中区 5 出土遺物(6)……………	531	図版 108-1	集中区 13 出土礫(ⅢSB-14) ……	549
図版 91-1	集中区 5 出土礫(ⅢSB-21)……………	532	図版 109-1	集中区 15 出土遺物……………	550
図版 92-1	擦文文化期焼土出土遺物……………	533	図版 109-2	集中区 16 出土遺物……………	550
図版 93-1	擦文文化期集中出土遺物(1) ……	534	図版 110-1	土器集中出土土器(1) ……	551
図版 94-1	擦文文化期集中出土遺物(2)……………	535	図版 111-1	土器集中出土土器(2)……………	552
図版 95-1	擦文文化期集中出土遺物(3)……………	536	図版 111-2	フイク・チップ 集中出土石器……………	552
図版 96-1	擦文文化期包含層 出土遺物(1)……………	537	図版 112-1	縄縄文文化期包含層出土土器……………	553
図版 97-1	擦文文化期包含層 出土遺物(2)……………	538	図版 113-1	縄縄文文化期包含層出土 剥片石器(1)……………	554
図版 98-1	集中区 6 出土遺物……………	539	図版 114-1	縄縄文文化期包含層出土 剥片石器(2)……………	555
図版 99-1	集中区 7 出土遺物……………	540	図版 115-1	縄縄文文化期包含層出土 礫石器……………	556
図版 99-2	集中区 8 出土遺物……………	540	図版 116-1	集石畑出土遺物……………	557
図版 100	集中区 9 出土遺物(1)……………	541	図版 117-1	縄文時代土器集中出土土器……………	558
図版 101-1	集中区 9 出土遺物(2)……………	542	図版 118-1	縄文時代包含層出土土器(1) ……	559
図版 101-2	集中区 10 出土遺物……………	542	図版 119-1	縄文時代包含層出土土器(2) ……	560
図版 102-1	集中区 11 出土遺物(1)……………	543	図版 120-1	縄文時代包含層出土土器(3) ……	561
図版 103-1	集中区 11 出土遺物(2)……………	544	図版 121-1	縄文時代包含層出土 剥片石器(1)……………	562
図版 104-1	集中区 12 出土遺物(1)……………	545	図版 122-1	縄文時代包含層出土 剥片石器(2)……………	563
図版 105-1	集中区 12 出土遺物(2)……………	546	図版 123-1	縄文時代包含層出土 礫石器……………	564
図版 106-1	集中区 12 出土遺物(3)……………	547			
図版 106-2	集中区 13 出土遺物(1)……………	547			
図版 107-1	集中区 13 出土遺物(2)……………	548			
図版 107-2	集中区 14 出土遺物……………	548			

第1章 調査の概要

第1節 調査要項と体制

1. 調査要項

事業名：厚幌ダム建設事業に係わる埋蔵文化財発掘調査

委託者：北海道室蘭建設管理部（旧北海道室蘭土木現業所）

受託者：厚真町教育委員会

遺跡名：オニキシベ2遺跡（J-13-77）

所在地：勇払郡厚真町字幌内112, 114-1・2

調査面積：平成19年度 3,689㎡ 平成20年度 1,899㎡ 合計 5,588㎡

受託期間：平成19年4月1日～平成20年3月31日

平成20年4月1日～平成21年3月31日

調査期間：（発掘）平成19年7月17日～平成19年10月31日

（整理）平成19年11月1日～平成20年3月14日

（発掘）平成20年5月14日～平成20年7月7日

（整理）平成20年11月1日～平成21年3月18日

2. 調査体制

平成19年度

厚真町教育委員会	教育長	兵頭 利彦			
生涯学習課	参事	當田 昭則	主幹	中田 守	主査 森田 正樹
	学芸員	乾 哲也（調査担当者）			
	嘱託職員	小野 哲也（調査担当者）			
	〃	天方 博章（調査員）			
	〃	佐々木 都（事務員）			
	臨時職員	宮崎美奈子・渡辺 博道（測量技能作業員）			
		小林 輝男（整備技能作業員）			
		発掘作業員 39名 整理作業員 3名			

平成20年度

厚真町教育委員会	教育長	兵頭 利彦			
生涯学習課	参事	佐藤 照美	主査	森田 正樹	
	学芸員	乾 哲也（調査担当者）			
	嘱託職員	小野 哲也（調査担当者）			
	〃	天方 博章（調査員）			
	〃	佐々木 都（事務員）			
	臨時職員	宮崎美奈子・渡辺 博道・畑嶋朝江（測量技能作業員）			
		小林 輝男・松本 稔（整備技能作業員）			
		発掘作業員 39名 整理作業員 27名			

第2節 調査に至る経緯

1. 厚幌ダム建設事業

町内を縦貫する厚真川中下流域には約3,000haもの水田地帯が広がっている。このため、春の灌漑用水の確保は勿論のこと、融雪や豪雨による洪水への治水対策が開拓期以来の課題とされていた。

昭和45(1970)年に現河口より38km地点に、農業用ダムである「厚真ダム」が完成した。しかし、このダムは洪水調整機能が不十分で、昭和45年には洪水と濁水、昭和48・50・56年にも洪水が発生し、近年においても、平成12年春の融雪期と平成13年秋に家屋や農地に被害を及ぼす洪水、平成18・22年にも一部がオーバーフローする被害が発生している。また、昭和59・60・63年には深刻な水不足にも見舞われており、平成19年は、幼穂形成期の水不足により深水灌漑が行えなかったため低温障害を受け、作況指数が極端に低い年でもあった。特に田植え時期における農業用水の確保は農業者にとっては勿論、厚真町民にとっても関心事であり、厚真町の基幹産業である農業、豊かな穀倉地帯を築くうえで、治水や農業灌漑などを目的とする新たなダム建設が陳情されていた。また、市街地への人口集中の進行や苫小牧東港入港船舶への上水道用水の需要が急増し、取水可能量は限界に達していることから、新たな上水道水源の確保も急務となっている。

これらの状況の抜本的な改善策として、昭和52年に北海道土木現業所に厚幌ダム建設事業の予備調査が着手されている。その後、昭和61年に実施設計である「厚真川総合開発事業計画調査」の着手が決まり、平成7(1995)年に北海道と厚真町との間で「厚真川総合開発事業厚幌ダム建設工事に関する基本協定」が結ばれ、洪水調整、灌漑用水、水道水の確保、流水の正常な機能維持の多目的ダムとして、現厚真ダム下流に「厚幌ダム」の建設着工が決定された。また、同年には地元厚真町内に厚幌ダム建設事務所が開設され、その後、沿岸漁業団体への説明会や環境アセスメントも実施されている。近年ではダム事業に関連して、道道切替工事や町内各地区の農業経営体育成基盤整備事業、農業用水路再編対策事業(厚幌導水路建設)が展開され、営農の効率化が促進されている。厚幌ダムの本格着工として、平成14年度からの水没地域内用地買収とともに、一般道道上幌内早來停車場線の切替工事に着手し、北進平取線としてむかわ町穂別まで延長開通の計画である。厚幌ダム本体(堤体)は、平成19年に建設費節減のため最新工法での設計変更がなされた堤体長516m、高さ47.2m、台形CSGダムで、オニキシベ2遺跡より約490m西方に堤体を建設する計画である。貯水は常時湛水面標高85.4m、最深湛水面標高88.1mであり、総貯水量は47,400,000㎡、現在の厚真ダムのおおよそ4.7倍の貯水量となり、多方面にわたって絶大な効果波及が想定され、早期完成が望まれていた。

しかし、北海道内の複数のダム事業との関係からダム堤体着手の予算確保に困難な状況が続き、当初計画の平成24年完成から平成27年秋に試験湛水、28年に春に供用を開始する計画となり工期が延長された。その後、平成20年11月に公共事業再評価を受け、多目的ダムの必要においてA評価を受け事業継続となっていた。ところが、平成20年7月の政府政権交代によって、全国の公共事業、とりわけダム事業の否定的見直しが進められ、厚幌ダムもその対象となっている(苫小牧民報社2009.10.7)。その後、北海道知事や国土交通省政務次官が現地視察に訪れ、平成22年度の事業再検証のダムとなっている。なお、厚幌ダムは国費54%、道費44.6%等のいわゆる「補助ダム」と称されるダムである。

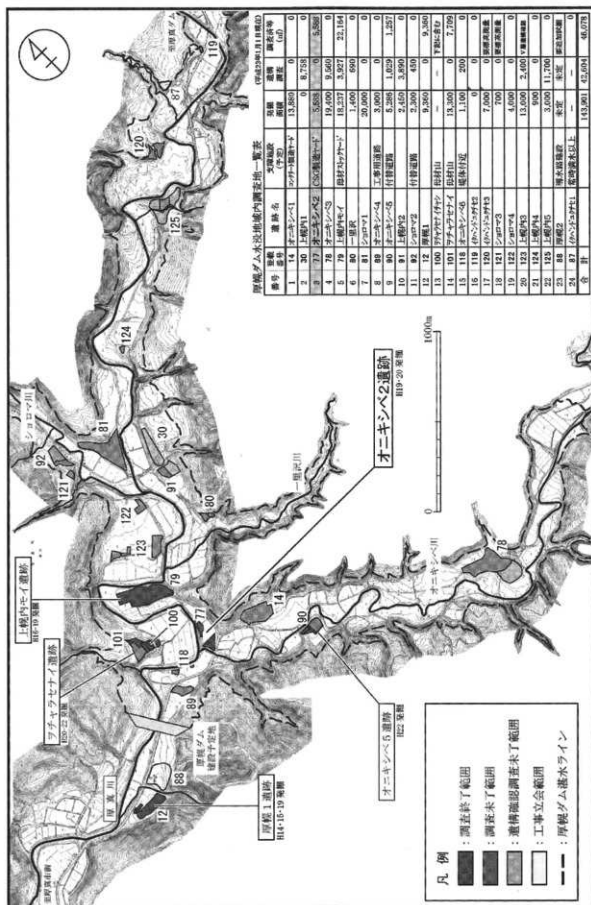


図1-1 厚鏡ダム建設事業関連遺跡文化財包蔵地位置図

2. 発掘調査までの経緯

A 厚幌ダム建設事業の埋蔵文化財事前調査(図 I-1)

厚幌ダム建設事業の本格化を踏まえて、平成 12 年 7 月 6 日に北海道室蘭土木現業所厚幌ダム建設事務所(以下、ダム事務所)より、ダム事業全体に係わる埋蔵文化財事前協議書(室土厚幌第 158 号)が厚真町教育委員会(以下、町教委)を経て北海道教育委員会(以下、道教委)へ提出された。協議区域は最深湛水面標高 88.1m 以下の区域と道道上幌内早来停車場線(以下、道道)切替路線幅の合計約 235,500 m²に及ぶ。まず、平成 13 年 6 月に道教委により試掘調査が行われ、約 8,250 m²の「要発掘調査」面積となり、厚幌 1 遺跡(J-13-25)として新規登録された(平成 13 年 7 月 18 日付教文第 4265 号)。これを受け、厚幌ダム関連の埋蔵文化財発掘調査について道教委と町教委で協議した結果、ダム関連の試掘調査までは道教委が行い、発掘調査は厚幌ダム建設に係わる受益者が厚真町 1 町であることから、町教委と北海道室蘭土木現業所で委託契約を結び、町教委が行うこととなった。翌平成 14・15 年度の 2 カ年で厚幌 1 遺跡の発掘調査を行った(厚真町教育委員会 2004)。

湛水地域内は平成 13 年 10 月に所在確認調査(A 調査)が行われ、周知の遺跡(オニキシベ 1 遺跡、上幌内 1 遺跡)を含め 16 カ所、面積 235,500 m²の要試掘調査の回答がされた(平成 13 年 11 月 16 日付け教文第 4532 号)。以後、追加箇所や範囲拡張も含め平成 19 年度までに 8 回、18 地点の試掘調査が実施され、14 遺跡、約 143,000 m²の要発掘・要遺構確認調査地点が確認されていた。

しかし、これまでの発掘調査成果から河岸段丘の低位面にも埋蔵文化財包蔵地が広がること等、この地区における遺跡の立地パターンが判明してきており、建設中工事の発見を避けるため新たな視点での再試掘調査の必要性が生じていた。これを受け道教委は平成 21 年 5 月に湛水地域内の所在確認踏査を行い、要試掘調査地点 10 カ所を回答した(平成 21 年 6 月 11 日付け教文第 928 号)。これらの試掘調査は平成 22 年 11 月を最後に一連の所在・範囲確認調査は終了した。既に発掘調査が終了した面積と残面積を含め、平成 23 年 1 月現在の要発掘調査地点は 21 カ所に及び、うち発掘調査終了面積が 46,078 m²、残る要発掘面積及び要遺構確認調査面積は 140,427 m²となっている。発掘調査終了面積を含めると 186,505 m²の埋蔵文化財包蔵地が所在している(図 I-1)。

B オニキシベ 2 遺跡の発見経緯(図 I-2)

オニキシベ 2 遺跡は、今回の厚幌ダム建設事業によって新規登録された包蔵地である。その経緯は平成 14 年 8 月にダム事務所より道道切替に伴うオニキシベ川橋脚建設工事で迂回路造成のため当段丘の一部の掘削工事を行うとの連絡があり、合わせて地域住民からの情報で昭和 40 年代に行った道道改良工事の際にオニキシベ川右岸の河岸段丘切土造成で遺物が出土していた事が判明した。町教委はこの旨を道教委へ連絡し、試掘調査未了の可能性地であることと工事安全面からの緊急性によって「工事立会」または遺物回収を伴う「遺構確認調査」との指示を受けた。

立会は現地における掘削施工範囲の測量が終了した 9 月 27 日に行った。重機による遺物包含層のⅢ層とⅤ層の黒色土をバックホーで掘削し、隣接地に仮置きした土砂から人力による遺物回収を行った。調査面積は 339 m²で、Ⅴ層上面での遺構は検出されなかったが、94 点の遺物を回収した。

正式な範囲確認調査は、同年 11 月中旬に南北約 290m、東西の最大幅で約 100m の河岸段丘全面を対象として、道教委によって行われた。この結果、段丘中部は水田造成時に削平されておりその東西に遺物包含層となる黒色土の堆積が確認され、オニキシベ川と厚真川との合流点側の南部に

て良好な遺物包含層を確認した。北部は黒色土の堆積が認められるものの出土遺物の点数は数点に留まったことから、補足トレンチの掘開を検討し、「要再試掘調査」の回答となった（平成15年1月9日付け教文第4579号）。平成15年10月の再試掘調査の結果、南部2,940㎡、北部1,430㎡の計4,370㎡の要発掘調査の回答がされた（平成15年11月14日付け教文第4692号）。

なお、第1次の試掘調査で確認されていた南部の調査区を「A地区」、第2次試掘調査で範囲が確定した北部の調査区を「B地区」とした。



図 I-2 年度別調査区及び試掘穴位置図

C 調査に至る経緯と範囲の拡張(図 I-2)

発掘調査地点選定は、ダム事務所との協議でダム建設工事関連ヤードの計画地点を優先した結果による。平成16年度より継続調査していた上幌内モイ遺跡の調査が終了する平成19年9月に一期間を並行し、調査を開始した。調査中にB地区南端で焼土群がさらに広がること、北部で遺物集中区の縁辺を確認するため、ダム事務所、道教委と協議し調査範囲の拡張を行っている。

平成20年度は厚真川とオニキシベ川との合流点に張り出したA地区の調査を行った。当所、道教委からの要発掘調査回答の範囲で表土・火山灰除去中にA地区北側の調査区外に一部差し掛かる状態で、竪穴住居跡(ⅢH-02)の窪みと周囲に掘り上げ土を検出した。また、調査区西端の段丘先端部の低位面においても、Ⅲ層上面にて遺物が調査区外へ広がる状況を確認した。このため、調査開始前に道教委、ダム事務所へ報告、協議のうえ調査区の拡張を行った。拡張範囲は調査区北側は、試掘調査データを参考にⅢ層が削平遺失するまでの範囲とし、調査区西端部の段丘低位面について

は地形上の区分とした。なお、低位面については、包含層調査において遺物がさらに広がったことから、部分的に人力による表土除去も行っている。拡張した範囲はⅢ層上面の人力清掃の後、トレンチを掘削し遺物出土状況に応じて調査深度の段階を設けた。拡張の結果、堅穴住居跡周辺では住居の掘り上げ土の範囲を記録した他に、1号土坑墓の検出といった大きな成果につながった。

なお、厚真川及びオニキシベ川浸食崖に面する部分は、河川への土砂流出や調査中の崩落の危険性から、作業等の安全面を優先し土坑墓部分以外は1m程度のクリアランスを確保している。

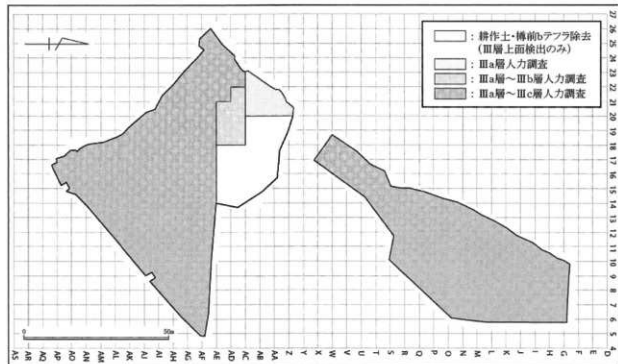


図 I-3 Ⅲ層調査方法区分図

第3節 調査の方法

1. グリッド設定 (図 I-4-5)

調査区内のグリッドは公共座標 (世界測地系 平成 15 年十勝沖地震対応) に従い、遺物包含層の堆積が想定される段丘面のほぼ全面を含む 220m×150m で設定し、5m 四方のメッシュで区分した。グリッド網の起点 (A-1 区: X=-136770.000 Y=-20425.000) は北東コーナーとし、南北の X 軸を A・B・C・・・のアルファベット列で、東西の Y 軸ラインを 1・2・3・・・のアラビア数字列とした。各グリッドの呼称も北東コーナーの杭とし、A-1 区、A-2 区・・・とした。なお、V 層の調査では 2.5m 四方の中グリッドを設定して 4 分割し、層位毎の遺物の取り上げを行っている。中グリッドの配列は北東を基点とし、東西の Y 軸方向に向け 1、2、南北の X 軸方向へ折り返し、3、4 としている。

現地での設定方法は、平成 19 年度にグリッド設定基準杭 4 点の設置を (有) 幅田測量に委託し、測量技能作業員が光波式トータルステーションを用いて調査区全面のグリッド杭を設置した。

絶対高は、平成 19 年度に B 地区の北東コーナーより北東へ 13.8m の位置に設けた仮杭「T-3」より各グリッド杭へ移設した。絶対高算出の基準杭は、道道上幌内早来停車場線沿いに南西方向へ約 1,150m、厚幌ダム堤体建設予定地に所在する「3 級基準杭 厚幌ダム H8 BMNo.3-45 北海道室蘭土木現業所」である。

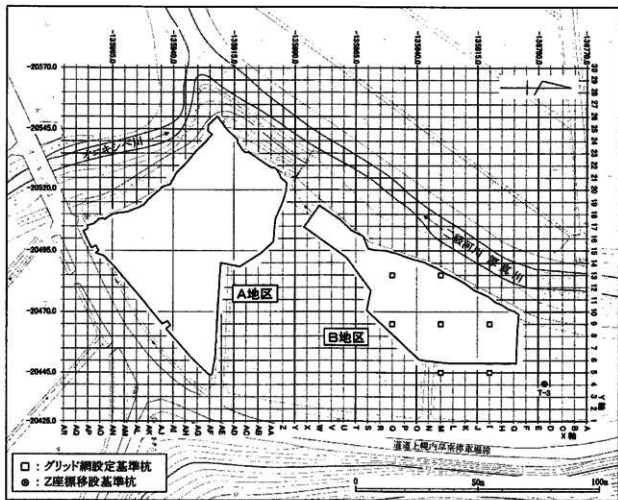


図 I-4 グリッド網設定図

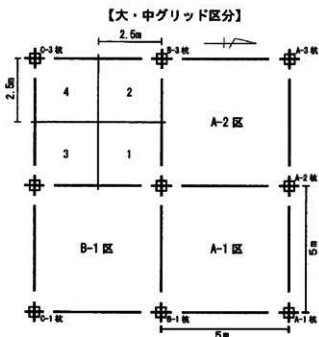


図 I-5 グリッド区分図

グリッド記載例

A-2-4

大グリッド 中

※ 本書の遺構・遺物一覧表は原則、大グリッドを表記している。

表 I-1 グリッド設定基準杭 座標値一覧表

杭名	X座標	Y座標	Z座標
I-5	-136850.000	-20465.000	-
I-9	-136850.000	-20485.000	-
M-5	-136830.000	-20445.000	-
M-9	-136830.000	-20465.000	-
Q-9	-136810.000	-20465.000	-
Q-13	-136810.000	-20445.000	-
T-3	-136854.682	-20422.175	61.117m

2. 包含層および遺構調査の方法(図1-3-5)

調査の準備段階として、調査員立会のもとバックホーによる表土や耕作土、盛土と樽前b火山灰の除去を行った。Ⅲ層上面でアイヌ文化期の遺構、遺物が検出されることから火山灰は3cm前後残し、Ⅲ層上面まではジョレンを用いて人力による清掃作業を行った。

調査方法に関しては、これまでの町内の調査結果からⅢ層については、基本的にⅢa層からⅢb層下位にかけては移植ゴテを用いて1~2cm程度ずつ掘り下げた。面的な遺物出土状態などから時期を把握し、新しい時期のアイヌ文化期(Ⅲb層上位・Ⅲbu)、古い時期のアイヌ文化期(Ⅲb層中位・Ⅲbm)、擦文文化期(Ⅲb層下位・Ⅲbl)の3面を考慮したうえで調査を開始した。続縄文文化期の遺物包含層に相当するⅢc層も移植ゴテで調査を進めたが、一部は遺物の出土状況に応じてジョレンを用い、合わせてⅢ層における土坑等の遺構確認面の清掃検出作業を行った。

無遺物層のⅣ層(Ta-c)はバックホーとジョレンで除去した。Ⅴ層は先行して調査区の25%を移植ゴテで調査を行い、Ⅵ層までの遺物出土頻度を確認したうえで、バックホーでⅤ層黒色土を除去している。Ⅴ層における遺構確認面はⅥ層中位で清掃検出作業を行っている(図V-1)。

なお、旧石器時代の遺物包含層確認のため平成19年度にB地区において、縄文時代の遺物包含層であるⅤ層調査終了後にトレンチを掘開したが、樽前dテフラ直下が河川堆積層であった。より低位のA地区では樽前dテフラ降下以降の離水過程が確認できたことから旧石器確認トレンチの掘開は行っていない。

遺構は、住居跡など包含層上面から上位で窪みとして確認できたものは、先行トレンチや土層観察用のベルトを設定し、できるだけ遺構構築面の把握や構築面での調査を考慮した。焼土や遺物集中区、炭化物集中区等については、燃焼面や形成面のほぼ全量をフローテーションサンプルとして採取し、平成19・20年度の土壌サンプル量は合計1,650ℓ以上に及ぶ。処理は作業用水の井戸を掘削し、調査期間中にフローテーション処理を行った。記録図化については光波式トータルステーションを用いて平面形およびエレベーションを記録し、堆積状態については調査担当者が分層と土層注記を行い、測量技能作業員が堆積図作成の実測を行った。各調査経過は35mm一眼レフカメラでデジタル画像とモノクロリバーサルで写真記録し、一部は6×7中盤カメラでも撮影を行った。

遺物については、Ⅲ層は全点に遺物番号を付した。取り上げについては調査員による層位確認と段丘堆積物中の自然薬とを認定区分したうえで、光波式トータルステーションによるXYZ座標(公共座標世界測地系)をデジタル記録している。この時、手簿(日付・グリッド・層位・遺物名等)の記載も行い、データ入力ミスの補完を行っている。Ⅴ層では個々の位置記録を行わず、層位を記録しながら5mグリッドを4分割した中グリッド単位で取り上げを行っている。

なお、調査終了後の現地については、旧石器確認トレンチやTピットなどの深い遺構のみ埋め戻し作業を行ったが、他はそのままの裸地状態で発掘調査を終了している。

3. 整理作業

整理作業は平成19年度は一次整理のみ、20年度は報告書図版作成と編集作業まで行った。報告書の刊行は当初、平成21年度の前年度であったが、予算の都合上先送りとなり平成22年度となった。

一次整理は、一部現場段階から水洗、注記作業を行い、整理業務に入ってから各担当の調査員が調査区遺構名や層位、種別、細分類、分類等の台帳確認作業を行った。また並行してフローテーション作

業と処理後の選別作業も行っている。金属製品の保存処理は殆どを(財)岩手県埋蔵文化財事業団へ外部委託し、3号墓出土の銀象眼を有する矢筒や小刀は(財)元興寺文化財研究所へ委託した。

二次整理は、各種遺物の接合・復元・実測・拓本等の作業を行い、復元土器の一部や剥片石器の実測を(株)シン技術コンサルへ委託した。実測遺構図等の第二原因の作成やトレース作業・編集は、パソコン(0s Windows Adobe IllustratorCS)で行った。なお金属製品などの脆弱遺物については、パソコン上での写真実測を行った。遺物の写真撮影は35mm一眼レフデジタルカメラで行い、パソコン(0s Windows Adobe Photoshop CS)でのコントラスト補正等を行っている。報告書掲載図や写真図版、一覧表の編集・版組みも上記のソフトで行い、本文のWord文書と合わせて印刷所へデジタル入稿した。

遺物の保管は、報告書掲載のものは図版毎に行い、それ以外のものは、分類及び調査区毎にコンテナに収納し町内の廃校舎に収蔵している。なお、金属製品、ガラス玉については整理事務所内の防湿庫にて保管している。(乾)

第4節 遺物の分類

1. 土器

縄文時代早期から弥文文化期までの土器をローマ数字に群別し、アルファベットで型式、時期等の細分をした。

第I群土器 縄文時代早期に属する土器。

A類 貝殻文・条痕文土器。

B類 早期後半の東釧路式土器群。絡条体疋痕文、組紐疋痕文などを施すもの。

B1類 東釧路Ⅱ式に相当するもの。

B2類 東釧路Ⅲ式、コックロ式に相当するもの。

B3類 中茶路式に相当するもの。

B4類 東釧路Ⅳ式に相当するもの。

第II群土器 縄文時代前期に属する土器。

A類 縄文丸底・尖底土器群。

A1類 美沢3式、縄文式土器に相当するもの。

A2類 トビノ式、静内中野式に相当するもの。

B類 円筒下層式系土器群。

B1類 円筒下層a式ないしはb式、虎杖浜2遺跡2群土器(白老町教育委員会1978)に相当するもの。

B2類 円筒下層c式ないしはd式、植苗式、大麻V式に相当するもの。

第III群土器 縄文時代中期に属する土器。

A類 中期前半の円筒上層式系土器群。

A1類 円筒上層a式またはb式に相当するもの。

A2類 円筒上層c式またはd式、厚真1式に相当するもの。

B類 中期後半から末葉の土器群。

B1類 萩ヶ岡1・2式、天神山式に相当するもの。

B2類 柏木川式に相当するもの。

B3類 a 北筒式に相当するもの。

B3類 b 煉瓦台式に相当するもの。

第IV群土器 縄文時代後期に属する土器。

A類 後期初頭の土器群。

A1類 a 古手の余市式土器。円形削突文の有無に関わらず、貼付帯や地文縄文が多段の羽状構成の土器。

A1類 b IV群A1類a土器に併存する沈線文系の土器。非在地系。

A1類 c 天祐寺式に相当するもの。IV群A1類a土器に併存する。非在地系。

A2類 新しい段階の余市式。古手のタブコブ式。階段状の器表面や斜め下方からの削突文や縄端疋痕文が施される土器。

B類 後期前葉の土器群。

B1類 新木のタブコブ式。縦位の棒状貼付帯縄

線文または地文縄文のみが施されているもの。

- B2類 手稲砂山式に相当するもの。
 B3類 入江式、大津7群、白坂3式土器。
 C類 後期中葉の土器群。
 C1類 ウサクマイC式に相当するもの。
 C2類 手稲式に相当するもの。
 C3類 ホッケマ式に相当するもの。
 D類 後期後葉の土器群。
 D1類 堂林式、御殿山式に相当するもの。

第V群 縄文時代晩期に属する土器群。

- A類 晩期前葉の土器群。
 A1類 爪形文や刺突文を施すもの。
 A2類 大洞B・BC式土器に相当するもの。
 B類 晩期中葉の土器群。
 B1類 縄線文や円弧文を施すもの。美々3式、
 ママチI・II群に相当するもの。
 B2類 大洞C1・C2式土器に相当するもの。
 C類 晩期後葉の土器群。
 C1類 ママチIII・IV・V群に相当するもの。
 C2類 大洞A・A'式土器に相当するもの。

第VII群土器 縄文文化期に属する土器群。

- A 北大Ⅲ式相当。
 B 壺形
 B1: 線文「前期」に相当するもの。
 主として胴部上半に横走沈線のみを施す一群
 B1a: 軽い段により頸部を形成した無文もしくは数条の横走沈線を廻らすもの。
 B1b: 多条の横走沈線を施すもの。
 B2: 線文「中期」に相当するもの。
 主として口縁部文様帯が未形成もしくは単調な刻みのみの一群。
 B2a: 横走沈線を地文とし、刻文を重ねるもの。
 B2b: 刻文のみのもの。
 B2c: 無文のもの。
 B3: 線文「後期」に相当するもの。
 主として口縁部文様帯を形成した一群。
 B3a: 横走沈線を地文とするもの。

第VI群土器 縄文文化期に属する土器群。

- A1類 砂沢式・二枚橋式に並存する在地の土器。
 a: 札幌市H37遺跡 丘珠空港地点相当のもの。
 b: いわゆる沙見式相当。縄線文が施され、地文に帯縄文発達以前の土器。
 A2類 砂沢式・二枚橋式に並存する搬入系土器。
 a: 砂沢式土器。 b: 二枚橋式土器。
 B1類 Aヨロ2類土器並行の土器。
 a: Aヨロ2類 a 相当の土器。
 b: Aヨロ2類 b 相当の土器。
 B2類 Aヨロ3類相当の土器。
 C1類 江別太1~3式土器。
 C2類 後北B式土器。
 C3類 後北C₁式土器。
 C4類 後北C₂-D式土器。
 D1類 宇津内IIa式土器。
 D2類 宇津内IIb式土器。
 E1類 北大I式土器。
 E2類 北大II式土器。

(天方)

- B3b: 綾杉文主体のもの。
 B3c: 斜位、あるいは縦位の沈線で歯状文、「X」字状文等を施すもの。
 B3d: 胴部文様帯を3段以上に区画した上でVII B3a~cの文様要素を施したものの。
 B3e: 無文のもの。
 B3f: 口縁部文様帯に数条の沈線を廻らせたもの。
 C 坏形
 C1: 台部を有さないもの。
 C2: 平底の低い台部を有するもの。
 C3: 平底の高台部を有するもの。
 C4: 上げ底の高台部を有するもの。
 C4a: 口縁部に沈線を有するもの。
 C4b: 体部に刻文を施すもの。
 D 鉢形・壺形
 E ロクロ成形土器

E1: 壺形

E2: 壺形

E3: 鉢形

E4a: 軟質で内面黒色処理を施さないもの。

E4: 坏形

E4b: 軟質で内面黒色処理を施すもの。

E4c: 硬質で酸化炎焼成のもの。

E4d: 硬質で還元炎焼成のもの。

2. 剥片石器

ポイント類

長軸4cmを境に石鏃と石槍・石銚とを区分した。

A 「石鏃」

- 1 細身に薄手のもの。
- 2 無茎のもの。
- 3 明瞭な茎部をもつもの。
- 4 不明瞭な茎部を持つもの。
- 5 片岩製で周縁のみに調整加工を施すもの。
縄文時代に特徴的なもの。

B 「石槍」・「石銚」

- 1 明瞭な茎部をもつもの。
a 茎部端が平ら。 b 茎部端が尖る。
- 2 不明瞭な茎部をもつもの。

C 欠損品・未製品

石鏃

- A 剥片の一部に機能部を作出したもの。
- B 柄と機能部の区別が明瞭なもの。
- C 柄と機能部の区別が不明瞭で幅広なもの。
- D 柄と機能部の区別が不明瞭で棒状のもの。
- E 他石器からの転用品と思われるもの。

ナイフ・スクレイパー類

縁辺に刃部が作出されたものうち、素材の1辺に対し半分以上の範囲で刃部が形成されているもの。

- A 「つまみ付きナイフ」

3. 礫石器

石斧

A 磨製石斧

B 未製品1

: 剥離敲打により完成品に近い大きさまで整形されているもの。

1 素材の周縁にのみ加工を施したものの。

2 素材の片面全体に加工を施したものの。

3 素材の両面全体に加工を施したものの。

B 素材端部に刃部が形成されているもの。

1 「ラウンド・スクレイパー」

2 「エンド・スクレイパー」

C 素材端部に刃部が形成されていないもの。

1 「サイド・スクレイパー」

a 原石・転石面無。 b 原石・転石面有。

2 「コンケイブ・スクレイパー」

a 原石・転石面無。 b 原石・転石面有。

3 「挿入石器」

D 縄文時代に伴う「ナイフ状石器」

E 欠損品

a 原石・転石面無。 b 原石・転石面有。

RF・UF

縁辺部に刃部が作出されたもののうち、素材の1辺に対し半分未満の連続的剥離のあるものをRF、使用によると思われる微細剥離のあるものをUFとして扱っている。

ピエス・エスキュー

石核

火打石 メノウ、チャート、石英（水晶）を石材とし縁辺部等に微細剥離が観察できるもの。

C 未製品2

: 礫皮を残すが、擦り切り・剥離・敲打調整により素材礫形状が不明瞭なもの。

D 未製品3

: 剥離・敲打調整が部分的に施され、素材礫の形状を大きく残すもの。

たたき石

敲打痕が面状に形成されるもので、素材礫の形状で細分類を行った。

- I 平面形が縦長のもの。
- A 扁平のもの。
- 1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。
 - 2 素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。
 - 3 1・2を並存するもの。
- B 棒状または角柱状のもの。
- 1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。
 - 2 素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。
 - 3 1・2が並存するもの。
- II 平面形が方形～不整形で幅広のもの。
- A 扁平のもの。
- 1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。
 - 2 素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。
 - 3 1・2を並存するもの。
- B 棒状または角柱状のもの。
- 1 素材礫の平坦面に敲打痕を有するもの。
 - 2 素材礫の側縁稜あるいは端部に敲打痕を有するもの。
 - 3 1・2が並存するもの。
- III 平面形が円～楕円形のもの。
- A 扁平のもの。
- B 球形または棒状のもの。
- IV 破片のため上記に分類不可のもの。

擦石

- A 断面三角形の礫の稜に擦り面のあるもの。
- B 断面楕円形の礫の側縁に擦り面のあるもの。

4. 鉄器

鉄器の内、刀剣類については以下の基準に基づき分類を行った。

- | | | | |
|----|-----------------|----|-------------------------|
| 刀子 | 目釘穴のないもの。 | 小刀 | 刀身長 20cm 以上 40cm 未満のもの。 |
| 刀 | 刀身長 40cm 以上のもの。 | 短刀 | 刀身長 20cm 未満のもの。 |

- C 扁平礫の側縁にすり面があるもの。
- D 北海道式石冠
- E その他

砥石

素材礫の形状が変形する研磨面を有するもの。

滑沢面のある礫

素材礫の形状を変えず、平滑な面を有するもの。線条痕はほとんど観察できない。(Ⅲ層のみ)

線条痕のある礫

肉眼観察において、明瞭な線条痕があるもの。

石皿・台石

便宜的に素材礫の重量が 900g 以上で、素材礫の平坦面に擦痕・敲打痕があるもの。

滑沢面と敲打痕のある大型礫

- I 表裏面にそれぞれが単独で認められるもの。
- II 一面に両方の痕跡が認められるもの。

加工痕のある礫

加工目的の剥離があるもので、剥離加圧（打点）部分に潰打面が形成されず、側面観が破壊状となるもの。

自然礫

加工痕や明瞭な使用痕が認められないもの。

- I 平面形が縦長のもの。
- A：扁平のもの。
- B：棒状または角柱状のもの。
- II 平面形が方形～不整形で幅広のもの。
- A：扁平のもの。
- B：棒状または角柱状のもの。
- III 平面形が円～楕円形のもの。
- A：扁平のもの。
- B：球形または棒状のもの。

5. 土器一覧表について

続縄文文化期土器一覧表

続縄文文化期の土器は大半が後北式土器である。後北式土器 B 式～C 式の変遷を捉える目的で一覧表を作成している。一覧表は器種・器形、突起、口唇部断面形および刻み、底部断面形、文様要素、文様構成、刺突文、地文、胎土の 9 つの属性毎に記号で表記している。各記号は下記を参照していただきたい。

〔器種・器形〕 完形、略完形の復元個体はアルファベットの大字で器種を、土器片はアルファベットの小文字で残存部を表記する。深鉢のものは器形が倒鐘形とそれ以外のものとで分けている。また、ミニチュアのものはいくつかの器高が 12 cm 以下のものとし、各記号の後に「¹」を付す。

A: 深鉢 (倒鐘形のもの) B: 深鉢 (それ以外のもの) C: 鉢 D: 壺 E: 片口 F: 注口

A: 口縁部 B: 胴部 C: 底部 A~B: 口縁~胴部 B~C: 胴部~底部

〔突起〕 突起の有無、突起の数と配置で 4 つに区分し、アルファベットの大字で表記する。

A: 平縁で、突起がないもの。 B: 1 か所のみ突起を有するもの。

C: 4 か所に突起を有するもの。 D: 6 か所に突起を有するもの。(内 2 個 1 対のものが 2 か所)

E: 8 か所に突起を有するもの。(全て 2 個 1 対)

〔口唇部断面形および刻み〕 突起以外の部分の断面形状をアルファベットの大字で、刻みについて数字で表記する。断面形状は突起部以外の部分で分類している。

A: 丸 B: 尖 C: 隅丸角 D: 外削ぎ隅丸切り出し E: 内削ぎ隅丸切り出し F: その他

1: 丸い棒状の工具で口唇にほぼ直行して刻みを付けたもの。

2: ヘラ状の鋭い工具で口唇にほぼ直行して刻みを付けたもの。

3: 口唇と平行する方向から刺突し、爪形の刻みを付けているもの。

4: 1~3 以外

〔底部断面形〕 底部側面の形状をアルファベットの大字で、上底の有無を数字で表記する。

A: 張り出すもの。 B: 直線的なもの。 C: 外傾するもの。

1: 上底のもの。 2: 平底のもの。

〔文様構成〕 文様帯 (擬縄貼付文、隆起線文が施されている部分) の範囲をアルファベットの大字で、文様について数字で表記する。突起下の擬縄貼付文、隆起線文が 1 本底部付近まで垂下しているものがあるが、これについては文様帯に含めていない。

A: 口縁部付近に限られるもの。 B: 胴部中央付近よりも上位のもの。 C: 胴部中央付近のもの。

D: 胴部中央よりも下位のもの。 E: 全面に及ぶもの。 F: A~E 以外のもの

G: 擬縄貼付文、隆起線文が施されていないもの。

1: 直線的に施された三角形や台形で文様を構成するもの。

2: 1 のものの内、方形や円形文等有るもの。

3: 曲線的に施された三角形や台形 (円弧) で文様を構成するもの。

4: 3 のものの内、方形や円形文等有るもの。

5: その他のもの。

〔文様要素〕擬縄貼付文をA、隆起線文をB、貼付文の刻みが部分的なものをC、隆起線文に部分的に刻みのあるものをD、貼付文をEで表記し、それ以外の文様の組み合わせを数字で表記する。

1：刺突文。 2：沈線文。 3：刺突文、沈線文。 4：刺突文、短沈線文。

5：刺突文、沈線文、短沈線文。 6：沈線文、短沈線文。

〔刺突文〕擬縄貼付文以外の刺突文の形状をアルファベットの大きくて、器面に対する刺突方向を数字で表記する。

A：爪形文 B：点状 C：線状 D：三角形状 E：その他

1：横方向 2：斜め下方向（概ね45°） 3：2よりもさらに下方向 4：下方向 5：垂直

〔地文〕地文の組み合わせ等をアルファベットの大きくて表記する。但し、胴部上半は帯状になっているか文様帯と重なって不明なものが多いことから、分類していない。

A：胴部上半が横走し、胴部下半が縦走するもの。

B：胴部上半が横走し、胴部下半が縦走する帯縄文のもの。

C：Bの内、胴部下半の縦走する帯縄文に横走する帯縄文が施されているもの。

D：無文のもの。

E：それ以外のもの。

〔胎土〕当期土器の内眼観察による相対的な比較から分類し、アルファベットの大きくて表記する。

A：砂粒を微量含む。 B：砂粒を少量含む。 C：砂粒・小石を微量含む。

D：砂粒の他にφ1～3mmの石英粒を含む。（縄文時代の土器で富良野盆地系土器としているものと非常に類似する。）

縄文時代土器一覧表

縄文時代の土器一覧表の属性表記載において、下記の認識のもと行っている。〔部位〕・〔器形〕・〔胎土〕については、相対比較によるもので観察者の主観による。

〔個体名称〕同一個体にアラビア数字、破片資料にアルファベットを付番した。

〔器形等・文様〕各部位毎の形態を示した。「口縁」は口縁部器表面、「底部側面」は底部器表面、「変換点」は底側面と底面の状態を記載した。

〔文様〕以下の認識で記載した。

記号：+は文様要素の重複、・は文様要素の複合ないしは充填構成。

文様要素

縄刻文：貼付帯や口唇等の面に対し、直交あるいは斜位に縄を圧痕するもの。

刻み：貼付帯や口唇等の面に対し、直交あるいは斜位に工具で刻みを付けたもの。

押し文：器面に対し施文工具が斜め方向から突き刺され、水平方向に連続して動く。

突引文：器面に対し施文工具が垂直方向から突き刺され、水平方向に連続して動く。

貼付帯 1A・B：口唇直下の幅の広い貼付帯がA、幅の狭いものをBとしている。

貼付帯 2：貼付帯 1以外の胴部に横環する貼付帯。

2段異原体羽状縄文：撚りの異なる2段の原体による羽状縄文。

重複縄文：撚りの異なる原体を新旧重複して施文するもの。

(天方)

第5節 調査結果の概要

平成19年度、20年度の2か年にわたって発掘調査を行ったオニキシベ2遺跡では、縄文時代早期後葉から中世アイヌ文化期に至る時期の遺構遺物を検出した(表I-2)。これらの調査結果について時期毎に概要を記す。

表I-2 オニキシベ2遺跡 層位年度別概要一覧表

項目	工事立会	Ⅲ層			Ⅴ層		
		縄文晩期・続縄文・線文・アイヌ文化期			縄文時代早・中・後・晩期		
		平成14年度	平成19年度	平成20年度	合計	平成19年度	平成20年度
発掘調査面積(m ²)	0	3,689	1,883	5,572	771	1,076	1,847
遺構確認面積(m ²)	0	0	0	0	2,284	299	2,583
調査面積合計(m ²)	399	3,689	1,883	5,572	3,055	1,375	4,430
堅穴住居跡	0	0	1	1	0	0	0
平地式住居跡	0	1	0	1	0	0	0
建物跡	0	0	1	1	0	0	0
墓墳	0	0	4	4	0	0	0
Tピット	0	0	0	0	8	4	12
土坑	0	4	8	12	2	1	3
焼土	0	47	36	83	0	1	1
灰集中	0	3	0	3	0	0	0
土器集中	0	6	28	34	0	1	1
礫集中	0	4	6	10	0	0	0
剥片集中	0	14	22	36	0	2	2
獣骨集中	0	22	47	69	0	0	0
遺物点数	94	21,266	40,604	61,870	2,076	11,731	13,807
表採等遺物点数							279
遺物総点数							76,050

1. アイヌ文化期

樽前bテフラよりⅢ層黒色土を2回前後掘り下げてから検出した当該期の遺構遺物は、アイヌ文化期でも層位的に確実な中世段階のものである。

オニキシベ川と厚真川との合流に面するA地区では土坑墓4基と覆土から判断した建物跡1軒が検出された。土坑墓は層位や位置関係、刀剣類刀身の形態等から時間差を置かないものと判断している。このうち、1号墓からは鎌倉市佐助ヶ谷遺跡出土の13世紀中葉から14世紀初頭の年代観で報告されている上下向い鶴のスタンプ文を施した漆器皿(鎌倉市佐助ヶ谷遺跡調査団1993)が出土している。この1号墓からは、樋を有する刀剣類やガラス玉や古銭、和鏡を再加工した鍔状銅製品をセット関係とする「タマサイ」と思われるもの、鉄製の腕輪、鉄斧などの多量の副葬品が出土し、木棺の一部と思われる板材片も出土している。また3号墓からも日本刀や丸矚文構成の飾り矢筒(イコヨビコロ)の裝飾部分、内耳鉄鍋などが副葬されている。これら1号墓、3号墓は、遺物出土状態等から木棺墓と思われ、他の2号墓、4号墓と比較しても厚葬墓と言える。

B地区では8.0m×6.4mの長方形プランの平地式住居跡1軒(ⅢH-01)と検出層位から判断した灰集中3カ所や礫集中3カ所、層位と灰層土壌化の進行状況から当該期に判断した焼土2カ所、獣骨集中1カ所がある。これらのうち、住居跡周辺では層位や位置関係から同時期の所産と思われる灰集中や礫集中を検出した。灰集中からは鯨骨製の骨織1点が出土している。また、やや離れた地点では住居跡との同時期性は不明なものの焼土の周辺に礫集中等を検出し、集中区1・2を設定した。

2. 縄文文化期

当該期はA地区、B地区ともに焼土や礫集中等多数検出し、A地区では白頭山苔小牧火山灰降下以前のカマドを有する方形の竪穴式住居跡1軒と焼土を中心とした集中区2カ所を検出している。なお、カマド付きの竪穴式住居跡の検出は町内で初例である。これらのうち、集中区4からは町内では初例となる8世紀代と思われるやや低平な丸底の坏と同時期の甕が出土している。また、これらの遺構群から離れた地点において五所川原産の広口壺1個体が出土している。

B地区では焼土33カ所を検出したが、多くは遺物を伴わない焼土であった。これらは検出層位や灰層の土壌化から当該期に形成された焼土と判断した。このうち調査区の南西部の焼土III F-93周辺にのみ土器集中や礫集中が認められ、集中区5として報告した。

これらA・B地区より出土した土器には高坏は見られず、低い高台を有する坏を主体としている。甕の器形や文様からも近位置にある上幌内モイ遺跡（厚真町教育委員会 2007・2009a）よりやや古い段階を主体としている。

3. 縄縄文文化期

当該期の資料はA地区のみからの出土で、後北B式・C₁式土器が多量に出土している。これらは、A地区の中でも局所的に検出しており焼土を中心に土器集中や焼骨片集中、黒曜石や片岩のフレイク・チップ集中を検出した。このため一部は重複し、ほぼ連続した期間に残された資料群と思われる。焼土燃焼面や焼骨片集中は、シカと思われる陸棲哺乳類を圧倒的主体とする被熱した動物遺存体で構成され、シカ糞を積極的に行っていたと思われる。また、フレイク・チップ集中に伴って、刻線状の敲打痕を有するたたき石や台石と共に製作過程に遺棄されたと思われる不整形な石鏃や先端部等を欠損した石鏃が出土しており、黒曜石製や片岩製の石鏃製作を行っていたと考えられる。このような出土状態は近位置にある上幌内モイ遺跡（厚真町教育委員会 2009a）でも確認されており、当該期のこの地区において一般的な活動様式であったと思われる。なお、多数の復元個体が得られた後北B式からC₁式土器の変遷過程についてはⅦ章にて詳述している。

なお、後北B式・C₁式土器以外にも縄縄文文化期前葉の汐見式土器や後葉の後北C₂式土器も極少量出土している。

4. 縄文時代

縄文時代の遺物は樽前cテフラの上下層から出土し、早期後葉の中茶路式から晩期末葉までの前期を除く各時期のものが少量ずつ出土している。中茶路式はA・B地区で散在しており、他はA地区のみからの出土であった。これらの中でも中期の萩ヶ岡式土器群（Ⅲ群B1類）と晩期前葉の東三川I式土器（V群A1類）がやや多い。遺物点数としてはやや多いものの、多くは黒曜石のチップで出土範囲や層位より中期のものと思われる。遺構もTピット12基のほか土坑3基、焼土と集石炉が各1カ所と土器集中4カ所、フレイク・チップ集中2カ所の検出に留まっている。

検出遺構数や種類、遺物出土量からみて各時期ともキャンプサイトとして一時的に利用された地点と思われる。

第6節 遺跡の位置

1. 厚真町の概要

A 地理的環境

厚真町は、石狩低地帯南部の東縁、北海道胆振支庁の東部に位置し、夕張山地南部から太平洋に注ぐ二級河川厚真川流域に水田地帯が広がる人口4,892人(平成23年1月末日現在)の農業の町である。町域の総面積は404.56千㎡で、流路52.3kmの二級河川厚真川流域に広がり南北32.5km、東西17.3kmと細長く、南部は約6.5kmにわたって太平洋に面し、勇払平野の東端に位置している。北海道の空の玄関口である新千歳空港から車で35分、海上物流の拠点である苫小牧港からは40分と現代社会において利便性に恵まれた位置でもある。町域を縦貫する厚真川は源流部から河口までの1河川流域を厚真町域のみで流下し、全国においても1河川流域を有する自治体は数少ない。行政区域の北部は夕張市や由仁町と接し、夕張山地南部の標高200～600mの山地が続き、総面積の約70%を山林が占めている。東は夕張山地から続く低い山地を挟んで、むかわ町と接し、北西は標高100m前後の山地性丘陵を挟んで安平町、西は厚真町域を含む苫小牧東部工業地帯(以下、苫東地区)内で苫小牧市と接している。厚真の語源は3説ほどあるが、最も有力な説として「アットマム」(at-to-mam「向こうの湿地帯」)で、南部に広がる湿地帯に付けられたものが転訛したという(厚真村1956)。

町内は、大きく4つの地区に分かれ、厚真川沿いに下流域の浜厚真・上厚真地区、中流域の厚真市街地周辺、中流から上流域の幌内地区、むかわ町と接する入鹿別川流域の鹿沼地区がある。ここでは厚真川流域を中心に概略を述べる。

南部は砂浜が続き、明治期以前より地引網での鱈漁が盛んであったが、現在では苫小牧沿岸にかけてホッキ貝(ウバガイ)の全国一の漁場となっている。かつては標高10m前後の砂丘列が発達し、背後には勇払原野の湿地帯が広がっていたが、現在は苫東地区の一部で、苫小牧東港や道内最大の火力発電所、石油備蓄タンク群等の工業用地となっている。また国道や高規格道路、鉄道があり、札幌圏から日高方面への主要幹線路ともなっている。地形的には、苫東地区の静川・源武台地と同じ様相を示し、樹枝状に開折された標高10～20m前後の支笏火山・樽前山の火山灰で構成される低平な台地と縄文海進期の海跡湖群、湿地が見られる。特に厚真川左岸から入鹿別川右岸にかけての厚和地区は静川台地と全く同じ地形・地質様相を呈している(仮称厚和台地・鯉沼台地)。中部には厚真町の中心市街があり、鶴川、平取・穂別、早来、浜厚真方面への道道交差部に官公署や住宅地が形成されている。かつては、町内の石油資源や林産資源、農産物の集散地として発展していた。地形的には厚真川本流と比較的大きな支流である知伏辺川、ウクル川などの合流点に形成された平野部に位置し、夕張山地系と馬追山地南端部の山地性丘陵に挟まれた地域となる。中部以北では、厚真川は頗美字川との合流点付近において流路方向を変え、左岸には河岸段丘が発達する。北部の幌内地区は、厚真川流域沿いの沖積地の最奥部で、本流とシュルク川、幌内川の3河川の合流点でもある。この地区は上流域の山間部より産出される豊富な林産資源の集積地として発展し、昭和5年から24年まで早来駅とを結ぶガソリン機関車軌道が敷設されていた。これより上流域は、新第三紀の堆積岩を基盤とする山地が続く(松野・石田1960)。標高400m以上の頂部は少ないが、小河川の浸食により比較的急峻な山稜を呈している。厚真川は夕張市、由仁町との1市2町の境界線付近、標高500m付近の夕張山地南端に源流部がある。

B 歴史的環境

(1) 埋蔵文化財包蔵地の概要

厚真町内には平成23年1月1日現在で133カ所の埋蔵文化財包蔵地が確認されており、後期旧石器時代から近世アイヌ文化期に至るまでである(図I-6、表I-3~5)。遺跡の分布傾向として、開発行為の多寡に左右されるが、南部の苫東地区や厚真川下流域左岸から入鹿別川流域右岸にかけての仮称厚和台地や仮称鯉沼台地、厚真川中流域の支流河川沿い、北部の高丘地区及び幌内地区にやや集中する傾向がある。遺跡の立地は、南部において湿地と隣接する台地縁辺部や湧水地付近、中部では厚真川沿いや小河川との合流点付近の河岸段丘縁辺部に多い。北部の山間部では、頗美宇(はびう)川流域の高丘地区や厚幌ダム水没地域内に多く分布する。これらは安平町安平地区や夕張市滝之上地区、むかわ町穂別・豊田地区へ抜ける山越えのルート上の遺跡と考えられる。

時期的には、町内最古の遺跡として上幌内モイ遺跡で礼滑型細石刃核を伴う石器集中が1カ所検出されており、AMS法炭素年代測定の結果、補正年代3点の平均で14,591.69±60yrB.P.が得られている(厚真町教育委員会2006b)。縄文時代の最も古いものでは豊沢4遺跡の試掘調査で早期前半の物見台系貝殻土器片1点が出土し、時期が下って浜厚真3遺跡で東銅路Ⅱ式土器がややまとまって出土している(北海道埋蔵文化財センター2003)。遺跡数の増加や規模の拡大は縄文時代前期前半の縄文尖底土器群の時期と考えられ、多量の被熱礫や哺乳綱の焼骨片が出土する遺跡が厚真町南部から北部に至るまで多数確認されている。これ以降、漸移的に遺跡数が増加し、中期末葉から後期初頭の北箭・余市式期の遺跡数でピークを迎える。縄文時代後期中葉から後葉にかけて遺跡数が激減し、晩期前葉以降、続縄文文化期に再び増加し、擦文文化期前期は遺跡数が再び減少する傾向にある。この様な各時期における遺跡数の偏りは苫小牧市の傾向と概ね一致している。苫小牧市との差異として擦文文化期中期から中世アイヌ文化期にかけては遺跡数が増加する傾向がある。

(2) 町内における埋蔵文化財調査の概要

町内における埋蔵文化財の調査・研究は、最初の記録として、大正5(1916)年に現在の朝日遺跡から出土した縄文土器を教材として、学校に保管する許可書が発行されたことである(厚真村郷土研究会1956)。遺物の多くは縄文晩期初頭の土器片と思われ、数点の土偶片も出土している(厚真村郷土研究会1956、亀井1956、北海道大学附属図書館HP北方資料データベース)。以後、厚真町での埋蔵文化財に係る流れは大きく3期に分けることが可能である。

a. 厚真村郷土史研究会・埋蔵文化財の地域自主的研究(昭和20年代後半から40年代中頃)

元厚真村長で名誉町民の亀井喜久太郎氏の熱心な働きかけで昭和27年に八幡一郎氏、30年に大場利夫氏等が来村し、町内の遺跡・遺物を実見している。また、亀井氏は昭和28年に厚真村郷土研究会を発足させ、遺物の収集や会報『郷土研究』で遺物の紹介を行い、昭和31年には『厚真村古代史』を刊行している(厚真村郷土研究会1956)。現在、埋蔵文化財保護の基礎資料である埋蔵文化財包蔵地カードの「調査・文献」には「昭和31年7月 厚真村郷土研究会『厚真村古代史』」や「昭和47年12月 厚真町郷土史研究会 踏査」の記載で始まるものが32遺跡もあり、厚真町の文化財保護・研究に大きな功績を残し、礎となっている。町内で初めての組織的な発掘調査は、昭和37年に厚真村郷土史研究会によって朝日遺跡と共和遺跡で行われた。調査に関する詳細は不明だが、縄文時代晩期初頭の土器片を中心とした出土遺物がコンテナにして5箱分、厚真町教育委員会に保管されている。また、昭和34年に宇陸地区公民館建設工事現場からの遺物出土の連絡を受け、道内

で初めての出土となる愛知県常滑産と推定される12世紀中葉の広口壺を回収している。当初は、須恵器と判断されていたが、平成23年に常滑市民俗資料館 中野晴久氏によって確認された。

b. 苫小牧市埋蔵文化財調査センター・大規模な行政発掘「苫東調査」(昭和48年から昭和54年)

昭和48年から苫小牧市埋蔵文化財調査センターによる苫東地区の試掘・発掘調査が開始され、昭和59年までの12年間で厚真町域にかかるもので新規登録14遺跡、調査着手11遺跡があり、縄文時代早期～擦文文化期までの資料が得られている。調査成果として、昭和51年調査の厚真1遺跡(苫小牧市教育委員会1986)では、この地域で初めてのTピットが確認され、縄文時代中期中葉の「厚真1式土器」(赤石1999)の標識遺跡でもある。厚真7遺跡では縄文時代中期末葉と後期前葉の住居跡8軒の検出と、石狩川中流域で数多く出土する「丸のみ形石斧」も出土している(苫小牧市教育委員会1987)。また、共和遺跡では苫東地区区内唯一の擦文文化期前期の竪穴式住居跡2軒が調査されている(苫小牧市教育委員会1987)。これらの成果は苫小牧市教育委員会により『苫小牧東部工業地帯の遺跡群』として報告書が刊行されている(苫小牧市教育委員会1986・1987・1990・1992)。整理・報告後の出土遺物等は平成13年度に町教委へ返却・保管されている。

なお、厚真町域における町教委による「埋蔵文化財包蔵地資料整備の一般分布調査」は、昭和54年9月行われ、52遺跡の包蔵地カードが作成されている。

c. 開発に伴う調査の増加と厚幌ダム・厚幌導水路事業の開始(平成10年以降)

近年は火山灰採取などの開発に伴う試掘調査や工事立会調査が増加し、町教委による豊川1遺跡(厚真町教育委員会2001b)、鯉沼2遺跡(厚真町教育委員会2001a)、鯉沼3遺跡(厚真町教育委員会2005・2006a・2008)などの調査が行われた。高規格道路日高自動車道の建設に伴う(財)北海道埋蔵文化財センターによる浜厚真3遺跡の調査では、187基のTピットが検出されている(北海道埋蔵文化財センター2003)。これらの調査結果では、縄文時代中期後葉以前にTピットが数多く構築されていることが分かり、周囲には比較的規模の大きい集落跡の存在が想定できる。

平成12年には北海道室蘭土木現業所より厚幌ダム建設事業に係る埋蔵文化財保護の事前協議書が提出され所在踏査や試掘調査が開始された。発掘調査は平成14年から町教委により継続的に行われ、厚幌1遺跡(厚真町教育委員会2004)、上幌内モイ遺跡(厚真町教育委員会2006b・2007・2009a)、オニキシベ2遺跡(本書)、ヲチャラセナイ遺跡・ヲチャラセナイチャシ跡が調査を行い、平成22年度までの9年間の調査終了面積は約46,078㎡である。

平成15年には総延長24.5kmに及ぶ厚幌導水路建設事業の事前協議書が提出され、所在確認踏査や試掘調査が行われている。試掘調査等は未了の箇所があるものの、現在11遺跡で要発掘・工事立会調査地点が確認され、平成19年度には厚真川中流域富里地区のニタツナイ遺跡(厚真町教育委員会2009b)、20年度は厚幌1遺跡と幌内7遺跡(厚真町教育委員会2010a)、21年度は幌内5遺跡と富里2遺跡の発掘調査を行った(厚真町教育委員会2010b)。これらの大規模開発に伴う埋蔵文化財発掘調査は、平成27年度まで継続される予定であったが、現在は、厚幌ダム事業の再検証中であり当初計画からのずれ込みが危惧されている。

これらの厚幌ダム、導水路事業以外にも平成22年度には厚真川中流域において道道上幌内早来停車場線改良事業に伴うライカルマイ遺跡や町宅地造成事業での豊沢6遺跡、民間業者の火山灰採取に伴う東和3遺跡の発掘調査が実施された。近年の傾向として全町的に埋蔵文化財の発掘調査が進みつつあり、先史時代における厚真川流域の様相がわかり始めてきている。

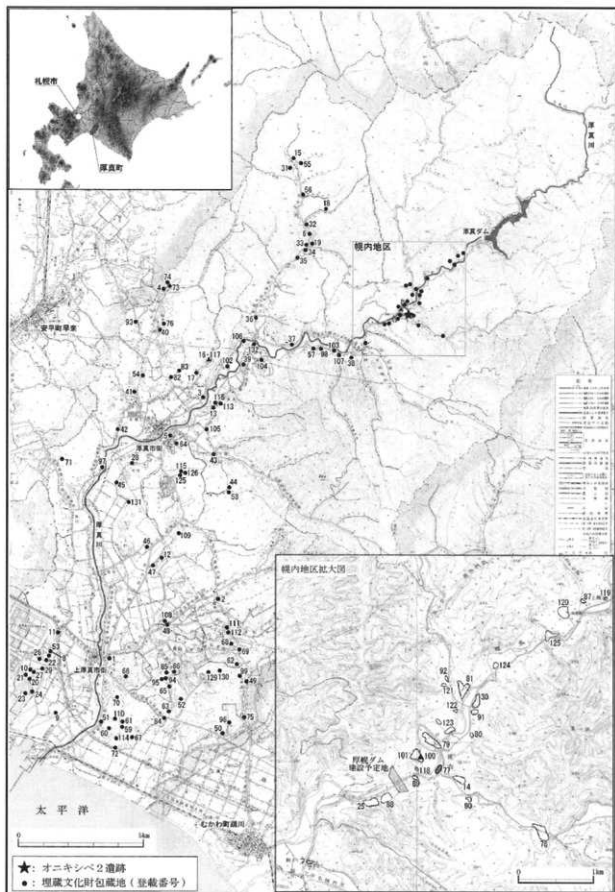


図 I-6 厚真町内遺跡分布図 (平成 23 年 1 月 1 日現在)

表 I-3 厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(1)

発掘番号	種別	名称	時代	文献等
1	遺物包含地	上厚真遺跡	縄文中～後期・統縄文・縄文	1
2	遺物包含地	軽無遺跡	縄文中期・統縄文	1
3	遺物包含地	朝日遺跡(文献1:飯老)	縄文後～晩期・統縄文・縄文	1,2,31
4	遺物包含地	幌里1遺跡(文献1:仁達磯)	縄文中・晩期・統縄文	1
5	遺物包含地	新町遺跡(文献1:上郷内)	縄文中期・統縄文・縄文・アイヌ期	1,4,6
6	遺物包含地	高丘1遺跡(文献1:原美字)	縄文中期・統縄文	1
7	遺物包含地	幌内1遺跡	縄文中期・統縄文	1
8	集落跡	共和遺跡(文献1:西岡文)	縄文晩期・縄文	1,8
9	遺物包含地	浜厚真遺跡	縄文?	
10	溝穴遺構	厚真10遺跡	縄文中・晩期	3,8
11	遺物包含地	厚真11遺跡	縄文晩期	
12	遺物包含地	豊沢1遺跡(文献1:当麻内)	統縄文	1
13	遺物包含地	東和遺跡(文献1:東老軽舞)	縄文・統縄文	1
14	集落跡	オニキシベ1遺跡(文献1:オニキシベ)	縄文中～後期・アイヌ期?	1
15	遺物包含地	高丘3遺跡	縄文中期	
16	チャシ跡	桜丘チャシ跡	中世アイヌ期	4,6
17	遺物包含地	桜丘1遺跡	縄文晩期	
18	遺物包含地	高丘2遺跡	縄文?	
19	集落跡	高丘10遺跡	縄文?	
20	集落跡	厚真1遺跡	縄文中期	8,13
21	溝穴遺構	厚真2遺跡	縄文中期?	8
22	溝穴遺構	厚真3遺跡	縄文早・中～晩期・統縄文	10
23	集落跡	厚真4遺跡	縄文	
24	遺物包含地	厚真5遺跡	縄文前～晩期・統縄文・縄文	
25	集落跡	厚真6遺跡	縄文早～晩期・統縄文・縄文・アイヌ期	18
26	集落跡	厚真7遺跡	縄文早・中～晩期・統縄文・縄文	9
27	集落跡	厚真8遺跡	縄文中～晩期	8
28	遺物包含地	美里2遺跡	縄文早・中期	
29	墳墓	厚真12遺跡	縄文中・晩期・縄文	10
30	遺物包含地	上郷内1遺跡(旧幌内3遺跡)	縄文中期	
31	遺物包含地	高丘4遺跡	縄文	
32	遺物包含地	高丘5遺跡	縄文?	
33	遺物包含地	高丘6遺跡	縄文?	
34	遺物包含地	高丘7遺跡	縄文?	
35	遺物包含地	高丘8遺跡	縄文?	
36	遺物包含地	高丘9遺跡	統縄文	
37	遺物包含地	高里1遺跡(文献1:備山)	縄文中～晩期	1
38	遺物包含地	幌内4遺跡	縄文中期?	
39	遺物包含地	チコマナイ遺跡	縄文?	
40	遺物包含地	幌里2遺跡	縄文中期	
41	遺物包含地	本郷1遺跡	縄文中・晩期	
42	遺物包含地	本郷2遺跡	縄文後期	
43	遺物包含地	宇陸1遺跡	縄文・中世アイヌ期	16
44	遺物包含地	宇陸2遺跡	統縄文	
45	遺物包含地	美里1遺跡(文献1:飯内)	縄文中期	1
46	遺物包含地	豊沢2遺跡	縄文	
47	遺物包含地	豊沢3遺跡	統縄文	
48	遺物包含地	曙沼1遺跡(文献1:上岡文?)	縄文	1
49	遺物包含地	鹿沼2遺跡(文献5:鹿沼B)	縄文中期	5
50	遺物包含地	鹿沼1遺跡(文献5:鹿沼A)	縄文	5
51	遺物包含地	厚和1遺跡(文献5:岡文)	縄文中期・アイヌ期	1,4,6
52	遺物包含地	鹿沼3遺跡	縄文中・晩期	
53	溝穴遺構	厚真13遺跡	縄文早～中・晩期・統縄文・縄文	10
54	遺物包含地	本郷3遺跡	縄文?	
55	遺物包含地	高丘11遺跡	縄文晩期	
56	遺物包含地	高丘12遺跡	縄文	
57	墳墓	幌内5遺跡	縄文前・後期・アイヌ期	32
58	溝穴遺構	豊沢4遺跡	縄文早・中～後期	
59	遺物包含地	厚和2遺跡	縄文中期	
60	遺物包含地	厚和3遺跡	縄文後期	

表 I-4 厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(2)

登録番号	種別	名称	時代	文献等
61	遺物包含地	厚和4遺跡	縄文中期	
62	遺物包含地	鹿沼4遺跡	縄文	
63	遺物包含地	厚和5遺跡	縄文	
64	遺物包含地	新町2遺跡	縄文中期	
65	遺物包含地	鹿沼5遺跡	縄文後期	
66	遺物包含地	厚和6遺跡	縄文前期	
67	遺物包含地	浜厚真2遺跡	縄文早期	
68	溝穴遺構	鯉沼2遺跡	縄文中期	14
69	遺物包含地	豊丘遺跡	縄文中期	
70	集落跡	厚和7遺跡	縄文後期	
71	集落跡	豊川1遺跡	縄文前・後～晩期	15
72	遺物包含地	浜厚真3遺跡	縄文早・後期	17
73	遺物包含地	ニタツポロ沢遺跡	縄文後・晩期	
74	遺物包含地	幌里神社遺跡	縄文早・後期	
75	溝穴遺構	入鹿別沼遺跡	縄文中期?	
76	溝穴遺構	幌里3遺跡	縄文	
77	集落跡・墳墓	オニキシベ2遺跡	縄文早・中期～晩期・統縄文・縄文・中世アイヌ	
78	遺物包含地	オニキシベ3遺跡	縄文後期	
79	集落跡・墳墓	上幌内モイ遺跡	旧石器・縄文早・中～後期・統縄文・縄文・中近世アイヌ	19,21,22,24,26,27,28
80	遺物包含地	一里沢遺跡	縄文前～中期・アイヌ期	4,5,21
81	集落跡	シヨロマ1遺跡	縄文前・晩期	
82	遺物包含地	東ニタツポロ1遺跡	縄文中・晩期	
83	遺物包含地	東ニタツポロ2遺跡	縄文中・晩期	
84	遺物包含地	浜厚真4遺跡	縄文中期	
85	溝穴遺構	鯉沼3遺跡	縄文前～後期	20,23,25
86	溝穴遺構	鯉沼4遺跡	縄文後期	
87	遺物包含地	イクバンドユクチセ遺跡	縄文後期	
88	遺物包含地	厚幌2遺跡	縄文前期	
89	遺物包含地	オニキシベ4遺跡	縄文	
90	遺物包含地	オニキシベ5遺跡	縄文中期	
91	溝穴遺構	上幌内2遺跡	縄文・アイヌ期	
92	遺物包含地	シヨロマ2遺跡	縄文中期	
93	溝穴遺構	幌里4遺跡	縄文	
94	集落跡	厚和8遺跡	縄文中～後期	
95	遺物包含地	厚和9遺跡	縄文中期	
96	遺物包含地	鹿沼6遺跡	縄文	
97	遺物包含地	豊川2遺跡	統縄文・縄文	
98	遺物包含地	幌内6遺跡	縄文後期	
99	溝穴遺構	鹿沼7遺跡	縄文早～晩期	
100	チャシ跡	ラチャラセナイチャシ跡	中世アイヌ期	
101	遺物包含地	ラチャラセナイ遺跡	縄文早～後期・統縄文・縄文・中世アイヌ期	
102	遺物包含地	吉野1遺跡	縄文中・晩期	
103	遺物包含地	幌内7遺跡	縄文晩期・縄文	
104	集落跡	ニタツポロナイ遺跡	縄文前～後期・統縄文・縄文・近世アイヌ期	29,32
105	遺物包含地	宇隆3遺跡	縄文中期	
106	遺物包含地	富里2遺跡	縄文後・晩期・統縄文・縄文・中近世アイヌ期	32
107	遺物包含地	オコッコ1遺跡	縄文前・中・後期・縄文	
108	遺物包含地	軽舞2遺跡	縄文前期・統縄文	
109	遺物包含地	豊丘5遺跡	縄文後期	
110	溝穴遺構	厚和10遺跡	縄文早・中・後期	
111	遺物包含地	豊丘2遺跡	縄文早期	
112	遺物包含地	豊丘3遺跡	縄文中期	
113	遺物包含地	東和2遺跡	縄文晩期	
114	遺物包含地	浜厚真5遺跡	縄文後期	
115	遺物包含地	豊沢6遺跡	縄文早・中・後期	
116	遺物包含地	東和3遺跡	縄文早期	
117	遺物包含地	桜丘2遺跡	縄文中・後期	
118	遺物包含地	オニキシベ6遺跡	縄文後期	
119	溝穴遺構	イクバンドユクチセ2遺跡	縄文後期	

表1-5 厚真町内埋蔵文化財包蔵地一覧表(3)

登録番号	種別	名称	時代	文献等
120	遺物包蔵地	イクバンドユクテセ3遺跡	縄文中・後期・続縄文	
121	遺物包蔵地	シヨロマ3遺跡	続縄文	
122	遺物包蔵地	シヨロマ4遺跡	縄文	
123	遺物包蔵地	上幌内3遺跡	縄文中・後期	
124	遺物包蔵地	上幌内4遺跡	縄文中期	
125	溝穴遺構	上幌内5遺跡	縄文	
126	遺物包蔵地	豊沢7遺跡	縄文中・後期	
127	遺物包蔵地	豊沢8遺跡	縄文後期	
128	遺物包蔵地	ブイカルマイ遺跡	江戸時代(幕末～明治)	
129	遺物包蔵地	長沼1遺跡	縄文早期	
130	溝穴遺構	長沼2遺跡	縄文	
131	遺物包蔵地	高丘13遺跡	縄文前期・縄文	
132	遺物包蔵地	上野1遺跡	縄文中期	
133	遺物包蔵地	富里3遺跡	縄文中・晩期	

関連文献

- 1: 厚真村郷土研究会 1956『厚真村古代史』 2: 亀井喜久太郎 1957『厚真出土の土偶』『先史時代3』 3: 苫小牧市教育委員会 1974『苫小牧東部工業地帯内埋蔵文化財分布調査報告書』 4: 亀井喜久太郎・池田実 1976『厚真の旧地名を尋ねて』 5: 鶴川町教育委員会 1977『鶴川町遺跡分布報告』 6: 亀井喜久太郎・池田実 1978『続厚真の旧地名を尋ねて』 7: 松浦武四郎(高倉新一郎校訂) 1985『戊午東蝦夷山川地理取調日誌』 8: 苫小牧市教育委員会 1986『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅰ』 9: 苫小牧市教育委員会 1987『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅱ』 10: 苫小牧市教育委員会 1990『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅲ』
- 11: 苫小牧市教育委員会 1992『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅳ』 12: 苫小牧市教育委員会 1995『苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅴ』 13: 赤石慎三 1999『苫小牧地方の円筒土層式について』『苫小牧市埋蔵文化財調査センター所報1』 14: 厚真町教育委員会 2001『豊沼2遺跡』 15: 厚真町教育委員会 2001『豊川1遺跡』 16: 鈴木信 2001『IV-4 北海道の中世海路器』『千歳市ユネスコIC15遺跡(4)(附)北海道埋蔵文化財センター-159』 17: (附)北海道埋蔵文化財センター 2003『厚真町厚真3遺跡』 18: 厚真町教育委員会 2004『厚幌1遺跡』 19: 厚真町教育委員会 2005『上幌内モイ遺跡発掘調査報告書』 20: 厚真町教育委員会 2005『豊沼3遺跡』
- 21: 藪島栄記 2005『松浦武四郎の探検からみた胆振東部・日高西部の古交通路』『前近代アイヌ民族における交通路の研究(胆振・日高1)』 22: 厚真町教育委員会 2006『上幌内モイ遺跡(1)』 23: 厚真町教育委員会 2006『豊沼3遺跡(2)』 24: 厚真町教育委員会 2007『上幌内モイ遺跡(2)』 25: 厚真町教育委員会 2008『豊沼3遺跡(3)』 26: 出穂雅英他 2008『論集忍路子Ⅱ』 27: 関根達人 2008『平泉文化と北方交易2-継文期の銅鏡をめぐって-』『平泉文化研究年報8』 28: 厚真町教育委員会 2009『上幌内モイ遺跡』『発掘調査報告書(3)』 29: 厚真町教育委員会 2009『ニクツナイ遺跡(1)』 30: 厚真町教育委員会 2010『厚幌1遺跡(2)』 幌内7遺跡』
- 31: 北海道大学附属図書館HP北方資料データベース 32: 厚真町教育委員会 2010『幌内5遺跡(1)』 富里2遺跡・ニクツナイ遺跡(2)』

(2) 歴史時代

厚真周辺の記録として、1643年に編纂された北海道最古の文書とされる『新羅之記録』(松前1643)によると、「松前以东は蝦川西は與依地迄人間往古する事、右大将頼朝卿遊発して奥州の泰衡を追討し御ひし節、糠部津軽より人多く此国に逃げ渡って居住す。」とあり12世紀末葉には東北北部の和人が厚真周辺域まで進出していた可能性がある。厚真町とほぼ特定できる最初の記述は1692年に書かれた『蝦夷記』(野澤1692)で、シャクシャインの戦い(1669年)に関連し「於多久見具印住處阿津摩ニテ討取ル」とある。厚真町中部に位置する桜丘チャシ跡との関連性が想定されていたが、平成21年度のトレンチ調査で樽前bテフラより1~2cm程度黒色土を被覆しており、より古い中世アイヌ文化期のチャシ跡であることが判明している。この時期の遺跡は厚真川上中流域のダムや導水路建設関連の発掘調査で多数の遺跡が確認されており、今後も増加するものと思われる。

これ以降の記録として、1700年の『松前家臣支配所持名前帳』には鳥屋支配所として「志古津ノ阿津満」と記され、2カ所の鷹打場が設けられている。シャクシャインの戦いに係わる『津軽一統志』(相坂兵右衛門1731)の中で、「あつまへつ〜川有、戸田義兵衛 商場」と記されているが、産物

や周辺のコタンについてなどの記述は見られない。1739年頃に成立した『蝦夷商賣聞書』には義経伝説を交えた記述の中に「右之山奥ニアツマト申所ニ城跡ト申而松柏之古木沢山ニ繁リテアリ〜」や1785年の「三国通覧図説蝦夷国全図」に「アツマ」と記載があり、注記に「鬼ヒノ出処」と記されている（林子平1785）。しかし、寛政から文化年間（18世紀末〜19世紀初）の『東蝦夷地道中記』（1791）や『蝦夷記行』（谷元旦1799）、『拾遺北日本地図全図蝦夷地出産交通略図』などの紀行文や古地図では僅かな記述にすぎず、1800年に八王子千人同心等、数名の和人が町内に移り住むが定住することはない。近世アツマ場所の産物として干鮭や椎茸、シナ縄、鹿皮が挙げられているが詳述はなく、以降の紀行文や測量日誌にも交通路であった勇払と鷯川間の厚真川河口周辺の簡単な記述に留まっている。なお本町の和人定住者としては明治3（1870）年に新潟県人の青木与八が厚真川河口に渡船場を開業したことが始めとされている（厚真村1956）。

内陸部までの詳述は、松浦武四郎による『戊午安都麻日誌』（松浦・吉田1962、松浦・秋葉他1985）で、1857（安政5）年6月に苫小牧市勇払から厚真川河口を経てトンニカ（現富里）にて2泊している。蝦夷地探検の6回目で、町内には6カ所のコタンが記録されている。この中で比較的規模の大きいコタンでは、粟、稗、隠元、蕪などの畑作が盛んに行われているが、直前に襲った厚真川の洪水によって畑地のほとんどが流出したことも記され、かつてより氾濫の多い河川であったことが伺える。宿泊したトンニカコタンのイカシユ（乙名板蔵）の家中について「西間所の土人等とは大に違ひ、凡行器の三十も有、耳盪の七ツ八ツ、篁の式ツ計、蝦夷太刀の二十五六振も懸、また此余短刀の七八本も有よし語りけるなり。」（松浦・秋葉他1985）とあり漆器や刀剣類の宝物が多く、その裕福さに驚いている。上流域に関しては聞き取りによる記述で、3穴の吊耳鉄鍋の残置伝承があるカニシユウ（現幌内・一里沢遺跡）も記述されている。苫小牧駒澤大学 養島栄紀氏は、これらの松浦武四郎の記録から古交通路について論じており、トンニカコタンの記述や上幌内モイ遺跡の搬入系遺物の出土量から鷯川水系や夕張水系へのルートの存在について述べている（養島2005）。

これらの記録以前のアイヌ文化期については、厚幌ダム建設に係わる発掘調査で確認された厚幌1遺跡（厚真町教育委員会2004）、上幌内モイ遺跡（厚真町教育委員会2007a・2009a）、オニキシベ2遺跡の他、試掘調査でも上幌内2遺跡、一里沢遺跡がり、厚幌導水路建設事業関連でのニタツナイ遺跡（厚真町教育委員会2009b）や幌内7遺跡（厚真町教育委員会2010a）、富里2遺跡（厚真町教育委員会2010b）がある。その他、試掘調査で層位的確認がされた新町遺跡のほか、厚和1遺跡、幌内5遺跡では近世アイヌ墓が単独で発見されている。近年、発掘調査によってアイヌ文化期の遺跡が新たに発見されており、今後も資料の増加が期待される。

明治維新後、廃藩置県までは高知藩所管の時代があり、1873（明治6）年以降に開拓使苫小牧出張所や勇払郡役所の所管となる。現在の厚真町が行政単位として始まったのは1897（明治30）年に苫小牧外6カ村から分離独立し、厚真村戸長役場が桜丘地区に設置されたことによる。内陸部の和人開拓は明治10年代からで、ほぼ同時期に手掘りによる石油掘削も始められ、明治21年には開拓使から農事指導員が派遣され西老軽舞（現吉野）へ集住させられたアイヌ民族への勸農政策も実施されている。1892（明治25）年には鉄道室蘭線が開通し、近隣である厚真の内陸部も開拓移住者が増加した。これは明治19年の国有未開地の開放で北海道開拓の促進を図る「北海道土地払下規則」が制定されたことによる。以後、開拓移住者の増加が続き現在の農業の町厚真の礎が確立されていく。

（乾）

2. 遺跡の位置と周辺の環境

A 自然地理的環境

オニキシベ2遺跡の周辺地域を厚幌ダム堤体建設予定地から厚真ダムまでの厚真川本流域とその支流域としたい。この地域は標高約150~400mの山地に囲まれ、その多くは200~300mの浸食が進んだ山稜を呈している。厚真川及び支流域は浸食開折した谷状の地形を呈し、“線状”の地域となっている。遺跡群はこれらの流域に形成された河岸段丘上に立地している。急峻な山稜や河岸段丘の発達は、この地域の基盤層が新第三紀に形成された砂岩泥岩層（松野・石田1960）の比較的軟弱な岩相であることに起因すると思われる。

遺跡周辺の地形は上幌内モイ遺跡やヲチャラセナイ遺跡が立地する河岸段丘と合わせ厚真川がS字状に大きく蛇行し、南東方向から流路延長9kmのオニキシベ川が合流している。遺跡はこの合流点に面した標高60m前後の河岸段丘上に立地している。この特徴的な地形は、本地域の最初の地形図である明治29年製版の「ライカルマイ」にも明瞭に記載されている（図I-9）。厚真川本流沿いの沖積低地の殆どは水田として利用されていたが、平成15年以降、厚幌ダム建設に伴う移転補償のため廃耕田となっており、ヤナギやセイタカアワダチソウが密生している。

本遺跡の上流側へ直線距離にして約900mの地点には北から流れ込む流路延長11.2kmのショロマ川がある。またその間の厚真川左岸には流路延長4kmの一里沢があり、比較的大きな支流が厚真川に流入している地域でもある。支流合流点付近は上流域の中でも開折が進み、広い河岸段丘面が形成され、盆地状の地形となっている。これらの河岸段丘は現河川面T0面から標高80-100mまでのT5面まで細分でき、オニキシベ2遺跡の立地する河岸段丘面はT2面とT1面に相当する（出穂2006）。なお周辺に発達した河岸段丘面の多くには埋蔵文化財包蔵地が立地しており、厚幌ダム建設工事に伴う発掘調査の対象となっている。また、本遺跡の南東には標高150mの山体が厚真川とオニキシベ川の合流部に突出しており、この地区のランドマーク的な存在でもある。昭和40年代頃まではこの山頂に竜神を祀る神社があり、身近な信仰として古くまで遡る可能性もある。

比較的大きな支流であるオニキシベ川は、分水嶺を介して東方の鶴川水系キナウス川のむかわ町豊田地区へ、ショロマ川は北方の石狩川水系夕張川の夕張市滝之上地区へのルートが想定される。この他、本遺跡より約5km上流、厚真ダム左岸の支流メルクンナイ沢川も分水嶺を越えた鶴川水系オピラルカ川筋に下るとむかわ町穂別地区へ辿りつく。これらのルートの合流点がオニキシベ2遺跡の地点でもある。

遺跡の立地環境として、西側は厚真川本流の沿いの低地、南東側はオニキシベ川が解析する広い谷状地形を呈しており、日照条件は良好である。しかし、北西側が開けているので冬期間には強い季節風の影響を受ける悪条件もある。

周辺の動植物相としては、厚真川本流沿いの沖積低地の殆どは水田として利用されていたが、平成15年以降、厚幌ダム建設に伴う移転補償のため廃耕田となっており、ヤナギやセイタカアワダチソウが密生し、河岸段丘も含む山地の多くはカラマツを中心とする植林が進んでいる。ただし、山頂付近や沢合いの急傾斜地にはミズナラやイタヤカエデ、カツラなどの広葉樹がみられる。この地区での野生動物では、エゾシカが多数棲息しており、夜間や休憩時間における発掘調査現場への進入による被害が極めて多い。特筆すべき野生動物としては、冬期にオオワシやオジロワシが飛来している。

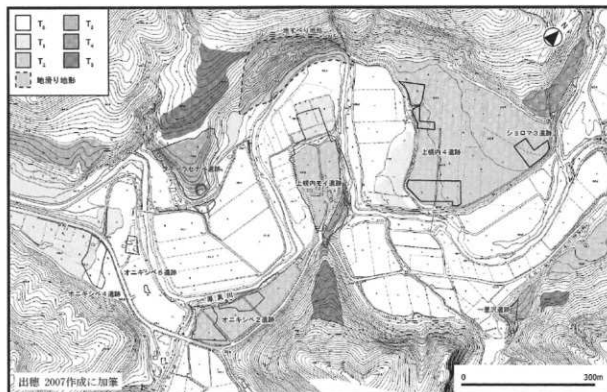


図 I-7 遺跡周辺の地形面区分図

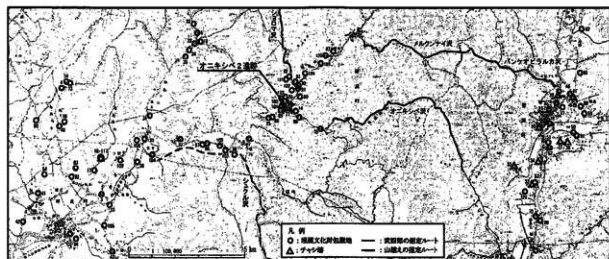
表 I-6 厚真川流域の河岸段丘面区分

段丘面	標高	段丘面	標高
T0面	現河底面	T3面	71~77m
T1面	54m	T4面	—
T2面	58~60m	T5面	85~87m

B 歴史的環境

この地区には、後期旧石器時代から中近世アイヌ文化期までの時期にわたる 22 遺跡が存在する。最上流のイクバンドクチセ 2 遺跡 (J-13-119) は厚真川河口より約 37km の地点にあるが、地域住民の聞き取り調査から現在の厚真ダム堤体付近にも埋蔵文化財包蔵地が存在していたようである。遺跡群の時期的な特徴としては、縄文時代後期初頭の余市式土器群が各遺跡から出土しており、時期の偏りも見受けられる。比較的規模の大きい遺跡は上幌内モイ・ヲチャラセナイ・ショロマ 1・オニキシベ 1 遺跡で、試掘調査で住居跡などが検出されている。いずれも厚真川本流と規模の大きい支流との合流点付近で、河岸段丘面も比較的広い。

土器型式単位で本遺跡とほぼ同時期と考えられる遺跡は、縄文時代中期天神山式期の厚幌 1 遺跡、晩期初頭の東三川 I 式はこの地区では初の出土例となっている。続縄文文化期後北 B~C1 式にかけては上幌内モイ遺跡で焼土群等が多数検出されているほか、ヲチャラセナイ・ショロマ 2 遺跡においても出土している。据文文化期は上幌内モイ・ヲチャラセナイ遺跡。中近世アイヌ文化期は厚幌 1 遺跡と上幌内モイ・ヲチャラセナイ・同チャシ跡・一里沢・上幌内 2 遺跡である。発掘調査が行われた遺跡は厚幌 1 遺跡と上幌内モイ遺跡、本遺跡、ヲチャラセナイ遺跡のため、この地区における先史時代については未だ不明な点が多く、今後の発掘調査に期待される。



厚真町厚真文化財調査地

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
3	高目川遺跡	53	高目川遺跡	64	新田川遺跡
4	高目川遺跡	54	高目川遺跡	65	オニキシベ川遺跡
5	高目川遺跡	55	高目川遺跡	66	オニキシベ川遺跡
6	高目川遺跡	56	高目川遺跡	67	オニキシベ川遺跡
7	高目川遺跡	57	高目川遺跡	68	高目川遺跡
8	高目川遺跡	58	高目川遺跡	69	オニキシベ川遺跡
9	高目川遺跡	59	高目川遺跡	70	オニキシベ川遺跡
10	高目川遺跡	60	高目川遺跡	71	オニキシベ川遺跡
11	高目川遺跡	61	高目川遺跡	72	オニキシベ川遺跡
12	高目川遺跡	62	高目川遺跡	73	オニキシベ川遺跡
13	高目川遺跡	63	高目川遺跡	74	オニキシベ川遺跡
14	オニキシベ川遺跡	64	オニキシベ川遺跡	75	オニキシベ川遺跡
15	高目川遺跡	65	高目川遺跡	76	高目川遺跡
16	高目川遺跡	66	高目川遺跡	77	高目川遺跡
17	高目川遺跡	67	高目川遺跡	78	高目川遺跡
18	高目川遺跡	68	高目川遺跡	79	高目川遺跡
19	高目川遺跡	69	高目川遺跡	80	高目川遺跡
20	高目川遺跡	70	高目川遺跡	81	高目川遺跡
21	高目川遺跡	71	高目川遺跡	82	高目川遺跡
22	高目川遺跡	72	高目川遺跡	83	高目川遺跡
23	高目川遺跡	73	高目川遺跡	84	高目川遺跡
24	高目川遺跡	74	高目川遺跡	85	高目川遺跡
25	高目川遺跡	75	高目川遺跡	86	高目川遺跡
26	高目川遺跡	76	高目川遺跡	87	高目川遺跡
27	高目川遺跡	77	高目川遺跡	88	高目川遺跡
28	高目川遺跡	78	高目川遺跡	89	高目川遺跡
29	高目川遺跡	79	高目川遺跡	90	高目川遺跡
30	高目川遺跡	80	高目川遺跡	91	高目川遺跡

Tsuru川厚真文化財調査地

No.	遺跡名	No.	遺跡名
4	高目川遺跡	50	高目川遺跡
11	高目川遺跡	51	高目川遺跡
18	高目川遺跡	52	高目川遺跡
22	高目川遺跡	53	高目川遺跡
23	高目川遺跡	54	高目川遺跡
24	高目川遺跡	55	高目川遺跡
25	高目川遺跡	56	高目川遺跡
26	高目川遺跡	57	高目川遺跡
27	高目川遺跡	58	高目川遺跡
28	高目川遺跡	59	高目川遺跡
29	高目川遺跡	60	高目川遺跡
30	高目川遺跡	61	高目川遺跡
31	高目川遺跡	62	高目川遺跡
32	高目川遺跡	63	高目川遺跡
33	高目川遺跡	64	高目川遺跡
34	高目川遺跡	65	高目川遺跡
35	高目川遺跡	66	高目川遺跡
36	高目川遺跡	67	高目川遺跡
37	高目川遺跡	68	高目川遺跡
38	高目川遺跡	69	高目川遺跡
39	高目川遺跡	70	高目川遺跡
40	高目川遺跡	71	高目川遺跡
41	高目川遺跡	72	高目川遺跡
42	高目川遺跡	73	高目川遺跡
43	高目川遺跡	74	高目川遺跡
44	高目川遺跡	75	高目川遺跡
45	高目川遺跡	76	高目川遺跡
46	高目川遺跡	77	高目川遺跡
47	高目川遺跡	78	高目川遺跡
48	高目川遺跡	79	高目川遺跡
49	高目川遺跡	80	高目川遺跡

図 I-8 厚真川上流域と鶴川中流域遺跡分布図

C 松浦武四郎の記録と周辺のアイヌ語地名

この地区でのアイヌ文化に係る記録としては、江戸時代末期の安政 5 (1857) 年に厚真を訪れた松浦武四郎の『戊午東西蝦夷山川地理取調日誌』(松浦・吉田 1962、松浦・高倉・秋葉 1985) が最も古い記録である。ヲチャラセナイやカニシユウ (現一里沢遺跡)、ヲニケレベ (現オニキシベ)、シヨウロマ (現シヨロマ) などが記載されている。このうちカニシユウ (カニ・ス=金属・鍋) では、鉄鍋の残地伝承として「其処に木幣を立てて祭り有る也。」と聞き取りにより記され、3 穴の吊耳鉄鍋のスケッチも書き残されている (松浦・高倉・秋葉 1985)。

オニキシベの語源として「入口で・木を・削り・つけている・もの」とあり、「シナの木 (オヒョウニレ) より樹皮を剥き採る場所」を意味するという (厚真村 1956)。本遺跡対岸のヲチャラセナイは「小川にして高山の間に滝川に成りて落るより号し也。ヲチャラセは滝川に成て有ると云儀のよし也。」(松浦・高倉・秋葉 1985) と記され、ヲチャラセナイ遺跡の北西部に標高 200~230m の山地を開析する小沢に相当する。現在も厚真川との合流点に高さ 3m 前後の滝を見ることができる。

厚真川右岸の支流シヨロマ川についてはやや詳細に記述され、この川筋で「マタヤツチセ」、「ソウ」、「ペンケヤツチセ」の 3 ヲ所の地名が記されている。シヨロマ川も「急流峨々たる山の間より落来るとかや。是滝川に成るより号るとかや。」とあり、現在の河床は滝瀬が続いている。高齢の方からは、かつて河床の滝瀬の中を馬車道として、木炭や木材を運搬していたとのことである。また「マタヤツチセ」については「是冬分鷺、熊等を取に来りし時の小屋なり」と記され、鷺羽を目的とした狩猟場であった可能性が高い。このシヨロマ川についての「是より上高山はなけれども簇々と小山のみつづき、其うしろはユウハリのソウホコマナイのうしろに当たるとかや。」の記述から、夕張川筋へのルートであった可能性もある。厚真川右岸の沢の記述には他にも「ユウハリ」の語句

がみられ、分水嶺を越えて夕張川筋への複数のルートがあった可能性がある。なお、厚真川中流域の現富里地区のトンニカからは「冬日雪野の頃にはトンニカよりユウハリの川すじえ、凡二日半にて上るによろし。」との記述もあり、熊狩り等の目的で山越えをする機会もあったものと思われる。

D アイヌ語地名と山越えのルート

先述のショロマ川に関する夕張川水系へのルートの他、本遺跡の所在するオニキシベ川を通り分水嶺を越えると鷗川水系のキナウス川筋（むかわ町豊田地区）に入る。この支流の1つに良樹ノ沢川がある。これは明治29年の地形図では「ルマキナウシ」（道・入る・キナウシ・藩・群生する・ところ）に相当する。この沢口となる豊田地区の鷗川対岸和泉地区にはルベシベ川（道・～沿って下る・もの）があり、分水嶺を越えると沙流川流域の平取町荷負地区に至る。ここは、沙流川流域で最大の支流である額平川との合流点で、さらには日高中部の静内へのルートへと続く可能性がある。

この他、大正年間に作成された「厚真村村道計画路線図」（図I-9）には厚真ダム左岸の支流メルクンナイ川よりむかわ町穂別市街の北側へ続く計画路線が記され、大正5年測図の地形図にはこのルートに幅1m以下の道も記載されている。厚真側のメルクンナイの語源は「水路をもつ沢」（厚真村1956）とされ、筆者の踏査でも沢水の流れの中を歩いていくルートであったことから名づけられた地名と思われる。また、分水嶺を越えて鷗川水系穂別地区はパンケオビラルカ沢で、オビラルカは「川尻が・崖・路・の上」で、パンケオビラルカは「川下の・オビラルカ」と解されている（扇谷2003）。分水嶺は地形図から読み取っても低平な鞍部でもあり、厚真川水系、鷗川水系に「ル」（路）の付く地名がセットとなっていることから、古来からの山越えのルートの可能性がある。現在は室蘭開発建設部苫小牧道路事務所により早来—平取間を結ぶ「道道北進平取線」の敷設工事が進められ、分水嶺には「オビラルカトンネル」（未開通）が建設されている。なお、ペンケオビラルカは穂別川のさらに上流に位置するむかわ町穂別稲里地区に所在し、厚真ダムから抜ける「炭鉱厚真川林道」と「中穂別林道」で結ばれている。

さらに、厚幌地区内のショロマ（現ショロマ川）も厚真村史では「草ソテツの群生するところ」とあるが、ソ（滝）・ル（路）・マ（泳ぎ渡る）とも読み取れる。明治29年発行の地形図には「ショルマ」と記載されており、かつては滝瀬の中を馬車道として利用していたことや明治・大正期の夕張山地への熊狩の記録（厚真村史1956）から、夕張川水系滝ノ上地区於兎牛（おそうし）へのルートが想定される。現在は入林ゲートがあるものの「厚真川林道」で通り抜ける事が可能である。

これらのルートは厚真川本流とオニキシベ川との合流点付近で1本となり、対岸に位置するヲチヤラセナイチャシ跡は早来方面と穂別方面、夕張方面への全てのルートが把握できる地点でもある。先述のオニキシベの語源の「入口で」とはこれらの山越えのルートを指す可能性があり、ヒトやモノの流れにおいてこの地区が重要な位置にあったことも容易に想定される。

松浦武四郎よりも約50年ほど前の1798（寛政10）年には近藤重蔵らの一行が当時のシコツを拠点に厚真や鷗川、沙流川流域の調査を行っており、吾嬭沌仁？写（現富里地区）に宿泊しており、源義経が残したという兜について詳細な記録が残されている。近藤重蔵らの一行は、厚幌地区を通らず、幌内市街地付近からシュルク沢に入り、似沢沢へ抜けている（木村・山崎1798）。

これらより、近世18世紀に入ると厚真川流域から鷗川流域への山越えのルートは厚真川上流域を通らず、中流域のシュルク沢から鷗川流域へのルートが主流となっていたことが伺える。

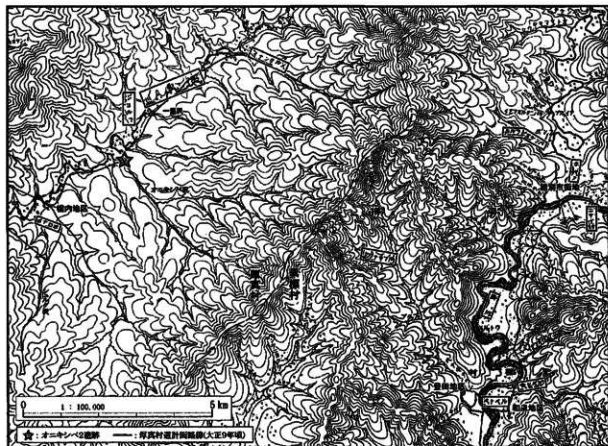


図 I-9 厚真川上流域と鷲川中流域の地形図 (明治20年発行 5万分の1「ライオンズ」と「ルベリ」の複合を50%縮小)

3. 調査区内の地形と地質

発掘調査区は南部のA地区と北部のB地区に分かれているが、発掘区内の現在の地形は昭和40年前後に水田造成のため高位部分の削平と低位部分への盛土造成が行われ、標高60m前後の平坦面であり、当初は1面の河岸段丘面と想定していた。本来の地形面は調査過程において遺物包含層となるⅢ層上面で作成した地形図が示しているものと思われる。この地形図を基に発掘区内の微地形(図 I-10-①~⑩)と堆積状況について記述する。堆積状態についてはA地区で南北方向の18ライン、B地区は東西方向のLラインで包含層の堆積状態を参考に記載する(図 I-10)。

A 段丘面全体の概要

本遺跡が所在する河岸段丘面はA地区西端部の厚真川とオニキンベ川との合流点付近の標高55.2mからB地区南端部における標高60.7mまでの高低差がある。ほぼ全面に樽前cテフラやV層黒色土が15cm以上堆積していることから、縄文時代中期以前には地形面が離水形成されていた。

A・B地区それぞれに分かれた調査区設定の根拠となった中間部分は、試掘調査の結果、樽前d2テフラや河岸段丘堆積物層まで削平され、遺物包含層が完全に遺失していたことから調査対象外となった。この様な堆積状態から本段丘面の西側に隣接する山体から厚真川本流に向かって舌状に張り出した高位段丘面が存在していたことがわかる(図 I-10-①)。この遺失した段丘面は樽前d2テフラが堆積しており、周辺地域における段丘面区分のT3面以上が推定でき、標高から推察するとT3面に相当する可能性がある。この段丘面は上幌内モイ遺跡でのT2面とT3面との段丘面比高差から比較検討するとB地区より6mほど高い標高66m前後が想定できる。中央の高位段丘面を境界として北部のB地区は標高60m前後の安定的な平坦面であるのに対し、南部のA地区は起伏に富む地

形となっており、堆積・浸食環境が全く異なった経緯であることが容易に判断できる。これは厚真川本流に対する堆積環境とオニキシベ川に関わる堆積環境との差異によるものと考えられる。

B地区の微地形と堆積状態

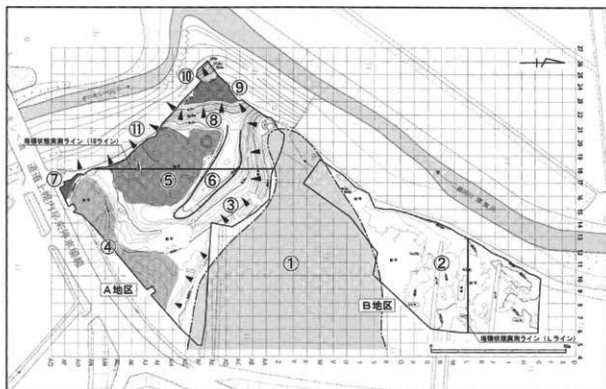
遺跡北部のB地区は標高約60mのほぼ平坦な地形面(図I-10-②)で、南端部のみが高位段丘面の段丘崖裾の微高地を形成している(既に削平)。堆積状態も安定しており、調査区の全面にⅦ層とした再堆積の樽前d2テフラが堆積している。この堆積層は風化により軟質のシルト質化70cm前後しており、部分的に不明瞭な砂質層がほぼ水平に挟する互層堆積を確認することができる。この下層にはフォールユニットの樽前d1・d2テフラが堆積し、直下に基盤層となる河岸段丘堆積物の青灰色水成堆積シルト層・礫層が堆積している。このような堆積状況と標高から本段丘面の主体はT2面に相当する。なお、上幌内モイ遺跡のT2面は標高62mである。

この安定的な堆積状態は上層の堆積物にも及び、Lラインにおいて縄文時代の遺物包含層であるⅤ層黒色土の平均層厚が約30cm、擦文・アイヌ文化期の遺物包含層であるⅢ層黒色土も25cm前後の層厚で堆積している(図I-12)。黒色腐植土のこのような層厚は、この地区では比較的良好な堆積状態と言えるが、Ⅴ層からの出土遺物は皆無に近い。

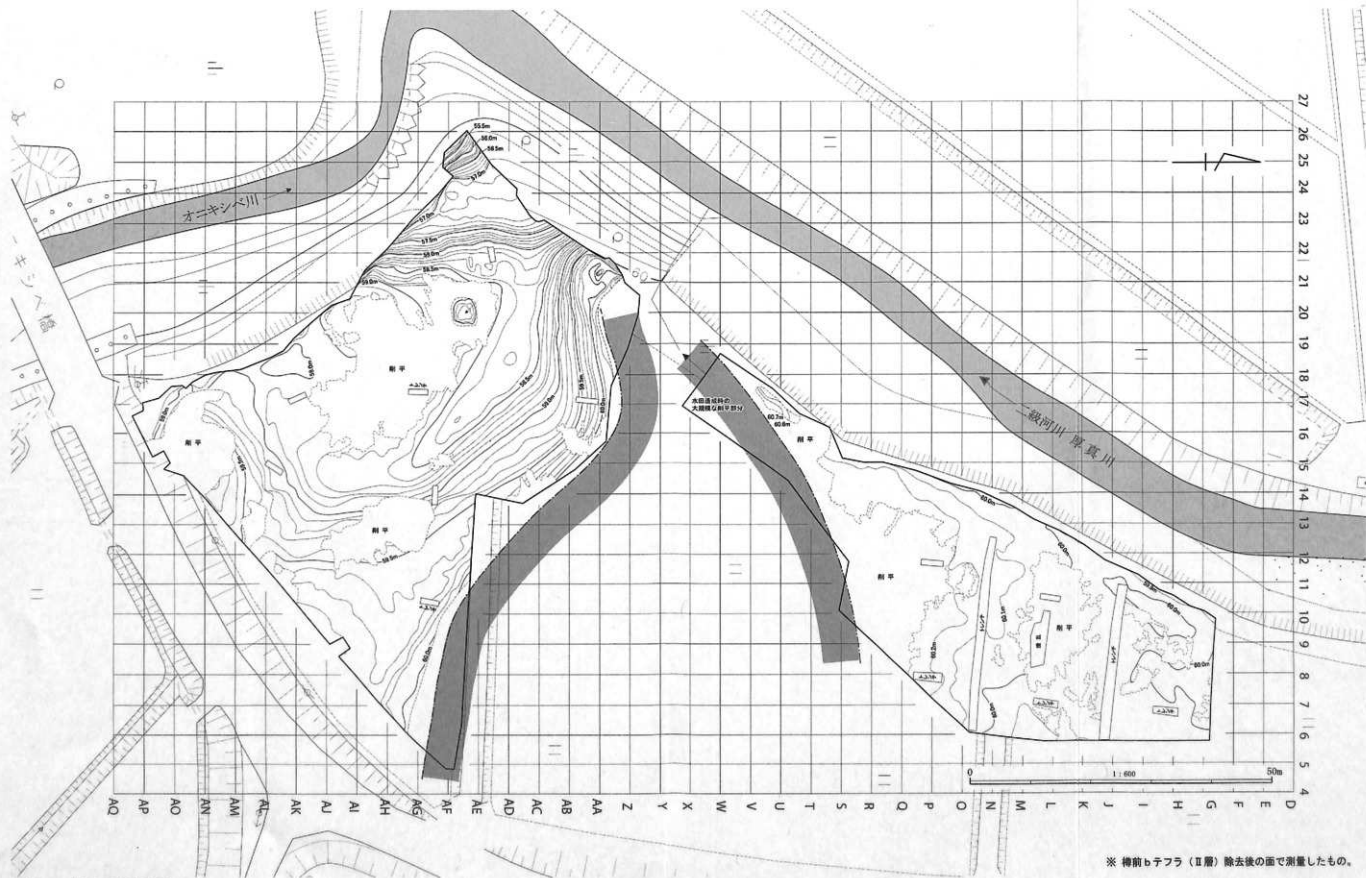
C A地区の微地形と堆積状態

前述のB地区と異なり標高55.2~60.2mの標高差が5mほどある起伏に富む地形で、微地形や標高、堆積状態から③~⑩面に区分した(図I-10)。各特徴について下記に記す。

- ③: 本遺跡の形成域における高位段丘(①)からの段丘崖。概ね東西方向に走り、西側ほど段丘崖の比高差が高くなる。崖面は南を向き、部分的に南南西方向に湾入している。基盤堆積物として灰褐色シルト層と細粒砂との不明瞭な互層堆積が確認できる。一部は高位段丘(①)に起因する再堆積の樽前dテフラが斜面堆積物として被覆しており、傾斜角は緩い。



図I-10 調査区内の微地形区分図



※ 得られたテラ（Ⅱ層）除去後の面で測量したものを。

図 I-11 調査区内地形図

- ④：標高 59.5m 前後のマウンド状の微高地。段丘堆積物の最上層はシルト層で、以下礫層が堆積している。南西部と北東部に区分できる可能性もあるが、堆積状態より一括した。
- ⑤：標高 59.0m 前後の低平なマウンド状の微高地と思われる。段丘堆積物の最上層は淘汰の悪い礫層で、樽前 d テフラに起因すると思われる赤褐色土壌をマトリクスとしている。下層は部分的に砂層やシルト層を挟在する。遺物包含層である V 層黒色土中にも多量の礫が混在している。V 層の層厚は平均 20～25cm 程度で、黒褐色土の Vc 層は確認できない。
- ⑥：標高 58.4～58.7m の浅い溝状の地形面。緩く南南西に湾入する弓状の地形。段丘堆積物の最上層は淘汰の良い灰褐色粘土質シルト層で、水の浸透性が低い。
- ⑦：標高 58.8m のほぼ平坦な面で、灰褐色シルト層が安定的に堆積している。調査区内では狭小な範囲であるが、安定的な水平面と堆積状態であることから区分した。
- ⑧：⑤・⑥面からの段丘崖。概ね南北方向に走り、崖面は西を向く。傾斜角は段丘崖③と比較して急角度を呈する。段丘崖裾には⑤面に起因する礫混じりの黒色土が浸食崖を三角堆積状に厚く被覆している。
- ⑨：標高 57.0m の平坦面。段丘堆積物最上層は灰褐色粘土質シルト層。V 層黒色土も粘性が強く、上位に灰黄褐色の洪水堆積層を挟在する。フォールユニットの樽前 c テフラが堆積している。
- ⑩：⑨面からの段丘崖で階段状に形成されている。V 層黒色土は薄く樽前 c テフラは二次堆積。
- ⑪：オニキシベ川による現在の浸食攻撃面ではほぼ垂直な浸食崖。南西方向に緩い弓状に湾曲し、比高差は約 5m を測る。崖面には砂岩が露出している。

D 調査区の微地形と厚真川上流域の自然災害イベント

上記の地形面標高や堆積状態などの特徴から、標高 58.4～60.0m の区分面②・④～⑦と標高 57.0m の区分面⑨とは離水時期に開きがあることが判る。

下位段丘の区分面⑨は、周辺域における段丘面区分 T1 面に相当する。樽前 c テフラ降下と同時にまたはその直後に離水した可能性がある。また、V 層黒色土上位の灰褐色粘土質シルト層は、層位と土質から上幌内モイ遺跡の T1 面で確認された洪水堆積シルト層と同一イベントによる堆積物と思われる。この時期には、厚幌 1 遺跡で地震による地滑り堆積物が確認されており、これに起因する洪水堆積層と思われる（厚真町教育委員会 2004・2009a・2010a）。

上位の段丘区分面④～⑦は周辺域における段丘面区分 T2 面に相当する。最も古い地形面区分である段丘崖③がオニキシベ川と平行する位置関係にあり、この間に形成されている。本段丘面はオニキシベ川の河川作用によって形成された微地形と思われる。なお、⑤は上方粗粒化の典型的な自然堤防堆積を示し、⑥面は旧河道とするより、自然堤防⑤の形成によって古い段丘崖③との間に残された地形と思われる。

この地形面が離水した時期は、堆積状態から樽前 d テフラ降下以降であることが判明している。発掘調査での出土遺物では最も古い時期として縄文時代早期後葉の中茶路式土器で、少量であるものの標高 58m 以上の④～⑦面から出土している（図 V-18）。これらの土器は磨滅していないことから A 地区における最初の活動の痕跡と考えられ、離水時期がさらに限定できる。

離水状況は自然堤防⑤を形成した堆積物が淘汰されていない混礫層であること、長軸 5cm 以上の礫をも押し上げる水圧、水量のオーバーフローが発生したものと思われる。また基質が樽前 d テフラ起因の土壌であることから樽前 d テフラ降下間もない時期の可能性があり、B 地区における再堆

積の樽前dテフラと同時期との可能性がある。なお、同様な樽前dテフラの再堆積層は上幌内モイ遺跡のT2面や厚幌1遺跡でも広い範囲にわたって数十cm堆積しており、厚真川本流においても大規模な洪水が発生していたことが伺える。この地区全体に及ぶ大規模イベントとして約1mの堆積に及ぶ樽前dテフラの降灰が、厚真川やオニキシベ川に大規模な洪水あるいは土石流を発生させる原因があったものと思われる。約8,000年前の樽前dテフラは単なる火山灰の降灰に留まらず、厚真川上流域一帯に大規模洪水、土石流を引き起こしたと同時に、浸食と再堆積による段丘面の急激な離水過程が生じた可能性があるのではないだろうか。

なお、本遺跡に隣接する厚真川の浸食作用は中世アイヌ文化期の1号土坑墓(ⅢGP-01)の調査結果から、厚真川への侵食崖に樽前bテフラやⅢ層黒色土が堆積しており、構築時期以降の浸食は確認できなかった。オニキシベ川の浸食作用は、現在でも進行中で、区分面④がこれに当たる。

E 調査区基本土層

先述のとおりA地区とB地区で堆積状態もやや異なるが、厚真町幌内地区の基本的な層序を記す。

Ⅱ層の樽前山等を噴出起源とする近世火山噴出物は、昭和40年前後の耕作地造成時に削平された範囲が多く、調査区内の堆積状態は不明な点が多い。

Ⅲ層の黒色腐植土はA地区、B地区共に安定した堆積状態である。これまでの厚真町内の発掘調査と同様にa～cに細分でき、Ⅲa層は赤みを帯び、Ⅱ層の樽前bテフラ(1667年降下)を斑状に含む。時期は近世アイヌ文化期初頭の遺物包含層で、厚幌ダム建設関連の発掘調査では本層からの遺構遺物は殆ど検出されていない。Ⅲb層は深黒の腐食土層で、Ⅲ層の主体を成す土壌である。大まかに上位(Ⅲbu)、中位(Ⅲbm)、下位(Ⅲbl)に区分した調査を行い、おおよそ上位は中世アイヌ文化期新段階、中位は中世アイヌ文化期の古段階にあたり、包含層中より未発熱の獣骨を検出することもある。下位は擦文文化期後期に相当する。

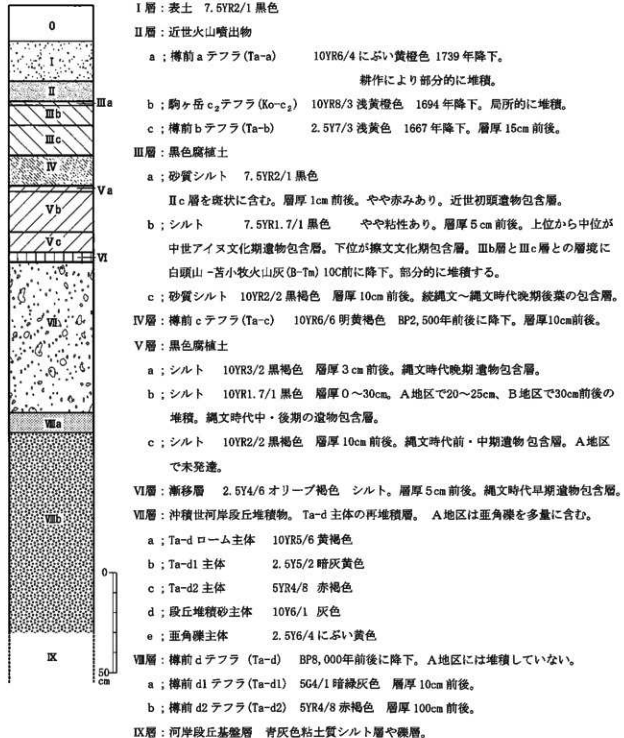
Ⅲb層とⅢc層との層境には苫小牧白頭山テフラ(9世紀前半降下)が部分的に堆積している。本調査で検出したカマドを有する擦文文化期の竪穴式住居跡は、Ⅲc層上位を構築面としており、覆土中の下位に本テフラが堆積していた。Ⅲc層も大きく上位、中位、下位に分かれ、上位は擦文文化期前期、中位は続縄文文化期、下位は縄文時代晩期後葉の土器が出土する傾向にある。

Ⅳ層の樽前cテフラは細粒のパミスで、1層のフォールユニットのみで形成されている。

V層黒色腐植土層は、A地区において安定した土壌堆積であるのに対し、B地区ではⅦ層より浮き上がるシルト岩の混雑土層が部分的に見られた。

なお、Ⅶ層については、樽前dテフラを基質とする段丘堆積物で、本遺跡の他、厚幌1遺跡、上幌内モイ遺跡の河岸段丘面区分のT2面に存在する。本層は、周囲の遺跡でもより高位の段丘面や厚幌導水路建設事業に伴う厚真川中流域の河岸段丘上の発掘調査では確認されておらず、上流域の河岸段丘面T2面に堆積する。

〔基本土層〕



図I-12 基本土層柱状図

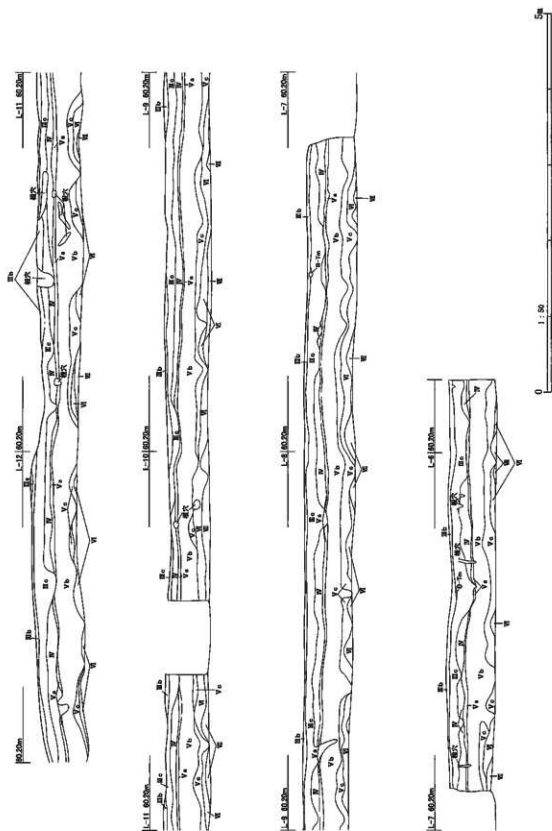
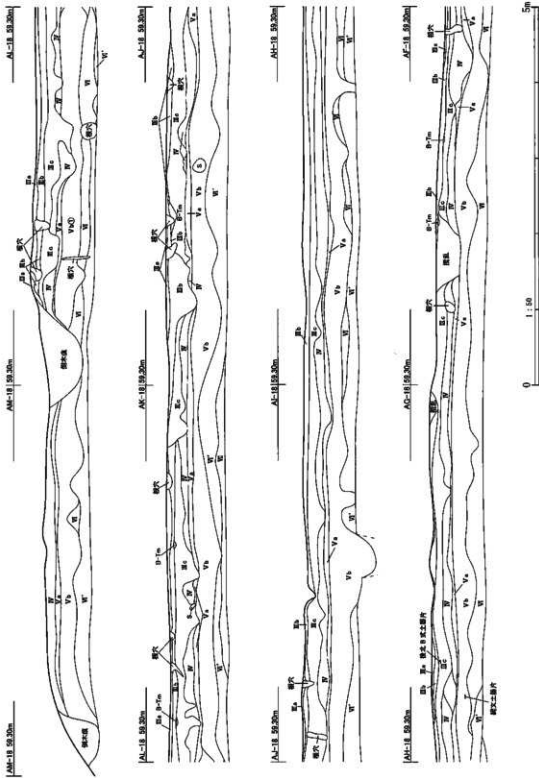


図 I-13 Lライン土層断面図



図I-14 18ライン土層断面図(1)

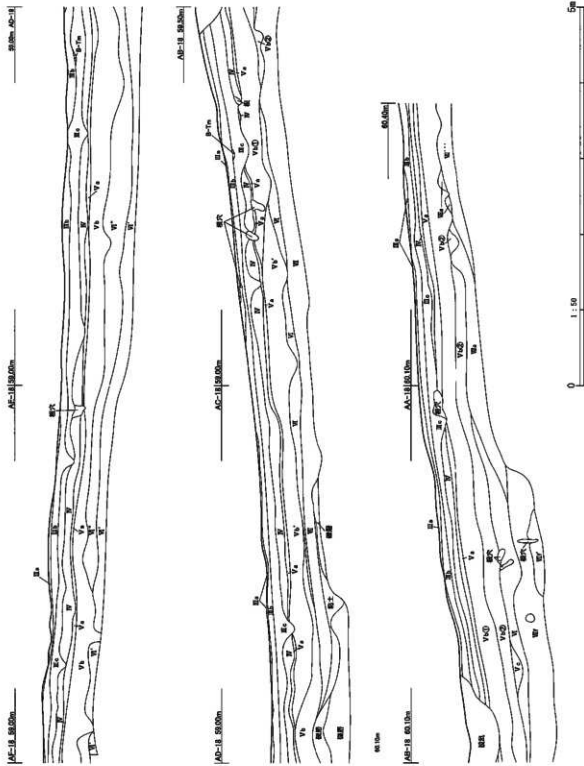


図-15 18ライン土層断面図(2)

第II章 アイヌ文化期の調査

オニキシベ2遺跡におけるアイヌ文化期の調査では、主な遺構として平地式住居跡1軒、土坑墓4基、集中区2ヵ所、灰集中3ヵ所、シカの獣骨集中1ヵ所等を検出している。調査にあたっては遺構・遺物の検出層位確認を重視し、アイヌ文化期における時期差の把握に努めた。その結果、これらは樽前bテフラ降下以前に堆積したⅢb層中で検出した遺構群であるが、いずれもⅢb層を数cm掘削した時点で確認しているため、アイヌ文化期の中でも比較的古い時期に属すると考えている。

表Ⅱ-1 アイヌ文化期遺構群一覧表

遺構名	規模 (cm)		グリッド	層位	長軸 方向	付属遺構			関連遺構	備考
	長軸	短軸				焼土等	礫集中	獣骨集中		
ⅢH-01	798	642	L-9・10・11, M-9・10	ⅢbM	N-78°E	ⅢF-17-29-53	ⅢSB-08-09	-	ⅢF-19-20, ⅢAS-02-03, ⅢSB-05,ⅢBB-01	
集中区1	960	840	H-1-6-7-8	ⅢbM	-	ⅢF-46	ⅢSB-10	-	-	
集中区2	840	480	R-5-14-15	ⅢbM	-	ⅢF-56	ⅢSB-11-12	-	-	

第1節 平地式住居跡と関連遺構

1号平地式住居跡周辺の概況(図Ⅱ-2)

1号平地式住居跡はB地区調査範囲のほぼ中央で検出した。付属炉の検出面がⅢbMであったことから、アイヌ文化期の中でも古い時期の住居跡と考えられる。このことはⅥ章第1節の年代測定結果からも追認できる。周辺では南側で焼土2ヵ所(ⅢF-19・20)、灰集中1ヵ所(ⅢAS-02)、礫集中1ヵ所(ⅢSB-05)を、西側で灰集中1ヵ所(ⅢAS-03)、東側で獣骨集中1ヵ所(ⅢBB-01)を検出した。これらもⅢb層を数cm掘削した後に検出したことから、住居跡に関連する遺構の可能性が高いため、ここで合わせて記載する。

1号平地式住居跡〔ⅢH-01〕 (図Ⅱ-2～7 図版4-1)

位置:L・M-9～11区

規模:798×642cm

長軸方向:N-78°E

付属遺構:炉跡ⅢF-17-29-53

礫集中ⅢSB-08-09

確認・調査(図Ⅱ-3):M-10区のⅢb上面において楕円形に広がる焼骨片の分布を確認した。下位に焼土が形成されていることを想定し、土層堆積状態観察用のベルトを焼骨片範囲に合わせて設定した。Ⅲb層掘削を進めたところ、東西に斑状に広がる焼土範囲を検出したことからⅢF-17とした。また東側に隣接して別の焼土範囲を確認したため、ⅢF-29とした。これら焼土の周囲では棒状礫の集中(ⅢSB-08-09)も検出したことから、平地式住居跡に伴う炉跡の可能性が高いと判断し、住居跡としての調査に切り替えた。礫集中の撮影・実測後取り上げを行い、付属炉周辺のみ台状に残し、Ⅲc上面まで周囲の掘削を進めて柱穴確認を行った。柱穴は炉跡を囲む配置で長方形に並ぶ13本と、その長方形プラン内部で4本の合計17本を検出した。柱穴断面の記録後、完掘状態の撮影を行い調査終了した。なおⅢF-29の東側を掘削した際、小規模な焼土ⅢF-53を検出しており、当初糠文文化

期の遺構と考えていた。しかしⅢF-17・29 と同一軸線上に位置し、これらと共に住居跡プラン内部で均等に配置されていたため、報告書作成段階において住居跡付属炉と判断した。

付属炉(図Ⅱ-4)：住居跡長軸線上において西側からⅢF-17・29・53の順に並ぶ配置で検出した。ⅢF-17は長軸長98cm、被熱層の厚さ6cmの規模を測る。ⅢF-29は長軸長92cm、被熱層の厚さ8cmの規模を測る。共に上位に焼骨片を伴い、ⅢF-29では小規模な灰層も確認できた。ⅢF-53は長軸長46cm、被熱層の厚さ4cmで、ⅢF-17・29に比べ小規模な焼土である。焼骨片も伴わず、検出層位もやや低かったため、灰の掻き出し行為により掘り込まれた可能性が高い。フローテーションの結果ではⅢF-17、29でブドウ科とクルミ属の種子が得られたが、栽培種子は含まれていなかった。

柱穴(図Ⅱ-4)：検出した柱穴は17本で、内13本が主体部プランを構成している。いずれも打込みによりほぼ垂直に立てられ、確認面からの深さはプランから外れたⅢKP-06を除き20cm以上に達している。「前小屋(セム)」の柱穴列は確認できなかった。

表Ⅱ-2 ⅢH-01属性表

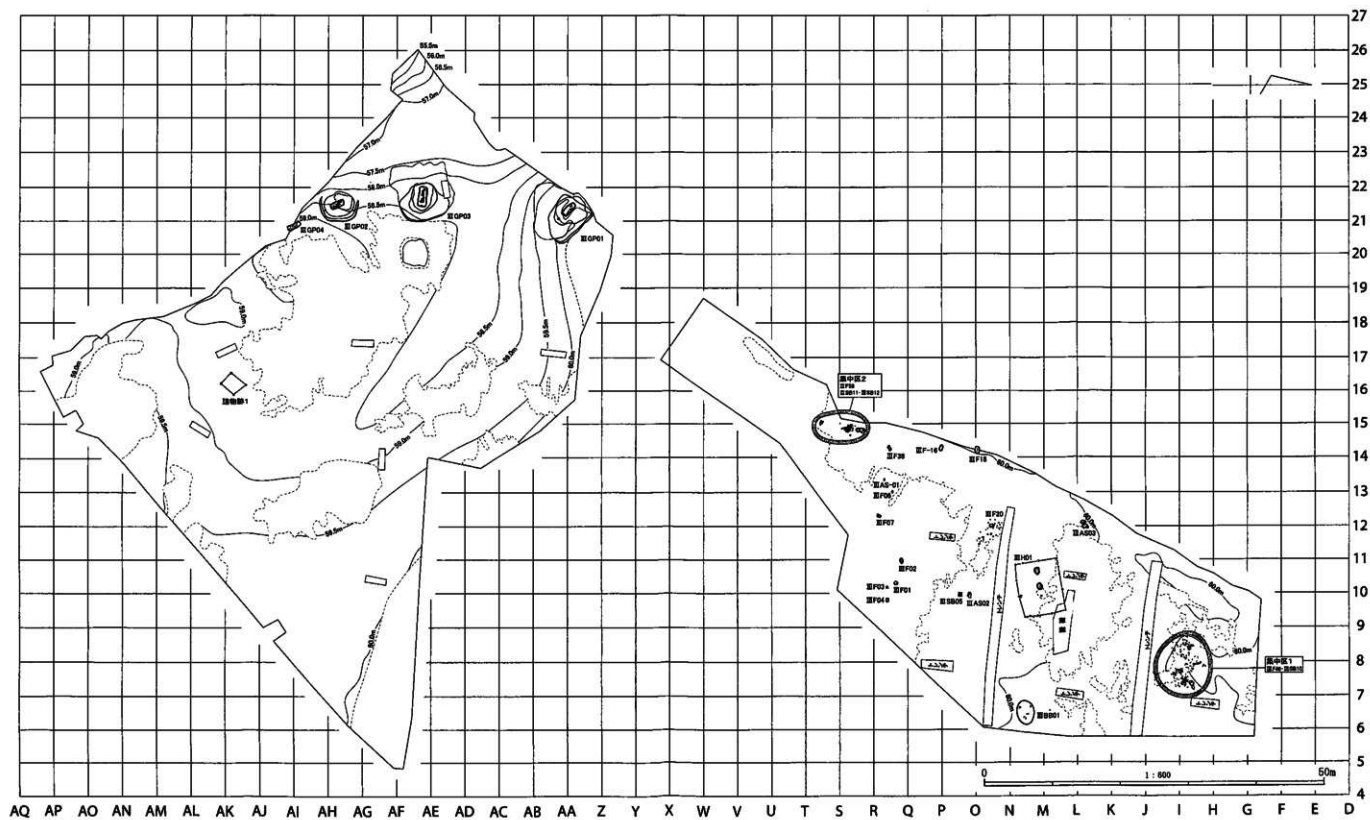
挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	規模(cm)				柱穴		付属遺構
						主体部		付属部		本数	他	
						長軸	短軸	長軸	短軸			
Ⅱ-3	4-1	ⅢH-01	L-9~11, M-9-10	ⅢbM	N-78°E	798	642	-	-	17	-	焼土3・ 濃集中2

表Ⅱ-3 ⅢH-01付属炉属性表

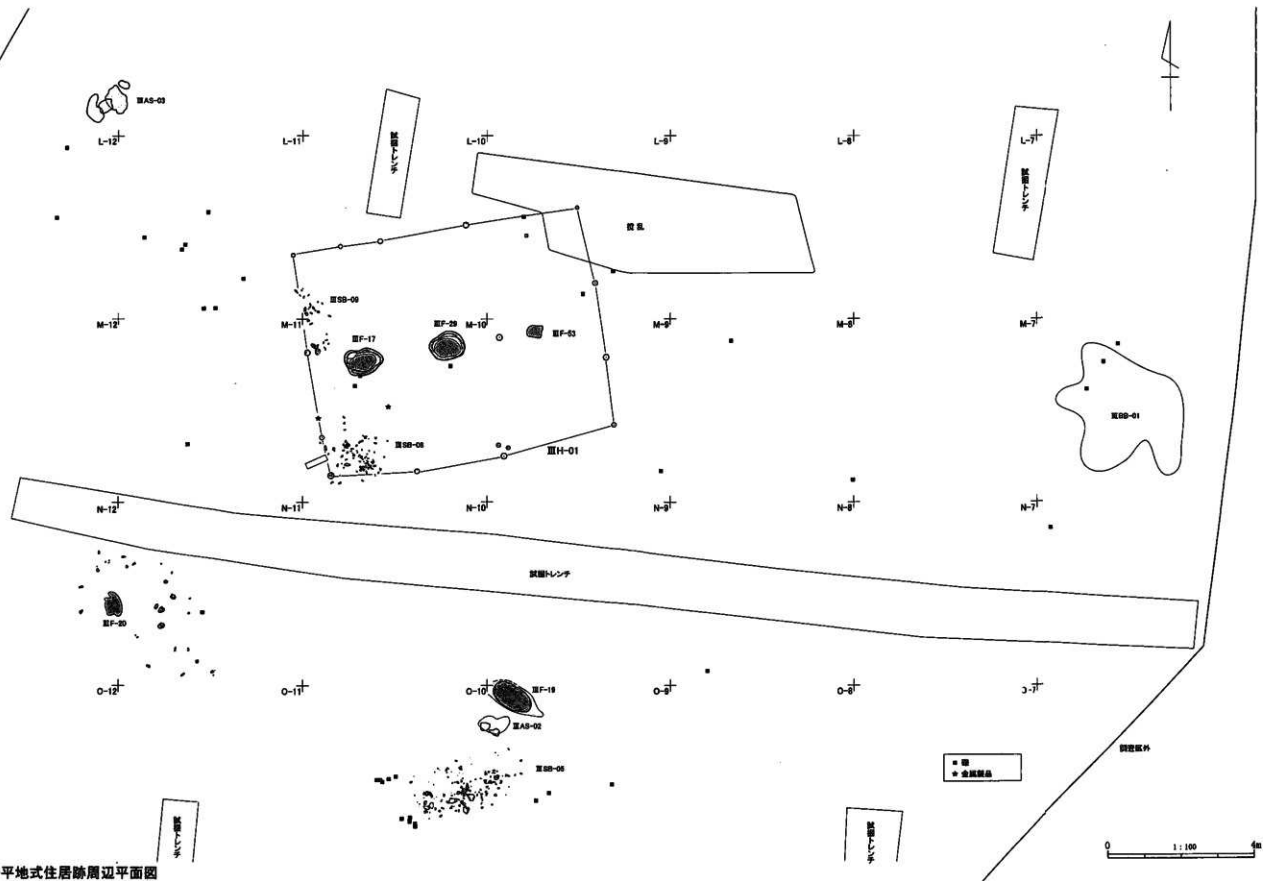
挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅱ-4	5-2	ⅢF-17	M-10	ⅢbM	楕円形	98	65	8	骨	
Ⅱ-4	5-4	ⅢF-29	M-10	ⅢbM	楕円形	92	72	8	灰・骨	
Ⅱ-4	5-6	ⅢF-53	M-9	ⅢbL	不整形	46	44	4	-	

表Ⅱ-4 ⅢH-01柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅱ-4	-	ⅢKP-03	10	2	54	5°	打込み	
Ⅱ-4	-	ⅢKP-04	12	1	48	7°	打込み	
Ⅱ-4	4-2	ⅢKP-05	13	2	49	5°	打込み	
-	-	ⅢKP-06	9	-	-	-	打込み	
Ⅱ-4	4-3	ⅢKP-07	17	1	52	1°	打込み	
Ⅱ-4	4-4	ⅢKP-08	12	3	42	5°	打込み	
Ⅱ-4	4-5	ⅢKP-09	15	5	51	6°	打込み	
Ⅱ-4	-	ⅢKP-10	12	5	61	0.5°	打込み	
Ⅱ-4	4-6	ⅢKP-11	14	3	66	0.5°	打込み	
Ⅱ-4	-	ⅢKP-12	14	1	60	0°	打込み	
Ⅱ-4	-	ⅢKP-13	13	1	54	3°	打込み	
Ⅱ-4	4-7	ⅢKP-14	10	3	36	4°	打込み	
Ⅱ-4	4-8	ⅢKP-15	11	1	23	0°	打込み	
Ⅱ-4	-	ⅢKP-16	11	2	69	1°	打込み	
Ⅱ-4	4-9	ⅢKP-17	8	2	31	0°	打込み	
Ⅱ-4	-	ⅢKP-20	9	3	30	0°	打込み	
Ⅱ-4	-	ⅢKP-21	10	3	38	1°	打込み	



図II-1 アイヌ文化期遺構配置図



図II-2 1号平地式住居跡周辺平面図

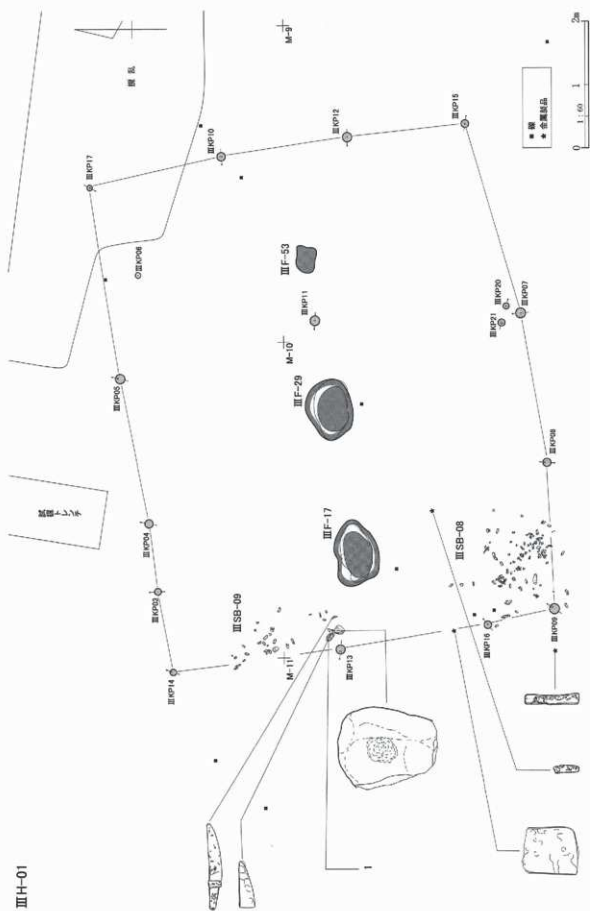
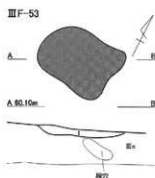
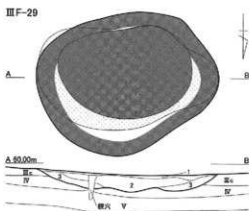
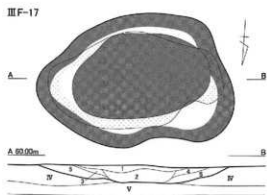


図 II-3 1号平地式住居跡(III-H-01)平面図



III F-17

- 1 7.SYR4/9 褐色 Ⅲb = 焼骨片 = 焼土粒・炭化物
- 2 7.SYR6/9 棕色 焼土(Ⅲc~Ⅳ地山被熱層)
- 3 7.SYR4/3 棕色 焼土(Ⅲc・Ⅲe地山被熱層)
- 4 7.SYR4/3 棕色 焼土(Ⅲc・Ⅲe地山被熱層)
- 5 7.SYI2/1 黒色 付着黒色層

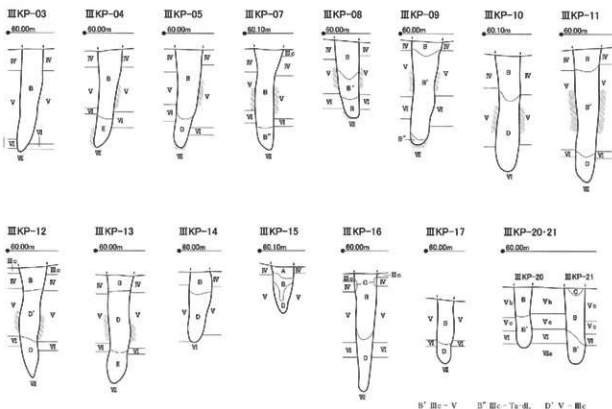


III F-29

- 1 7.SYR6/3 Ⅲb・Ⅲc・Ⅲe 褐色 Ⅲb = 炭(炭灰) = 焼骨片(6.1.1)
- 2 7.SYR6/6 棕色 焼土(Ⅲc・Ⅲe地山被熱層)
- 3 7.SYR3/1 黒褐色 付着黒色層

III F-53

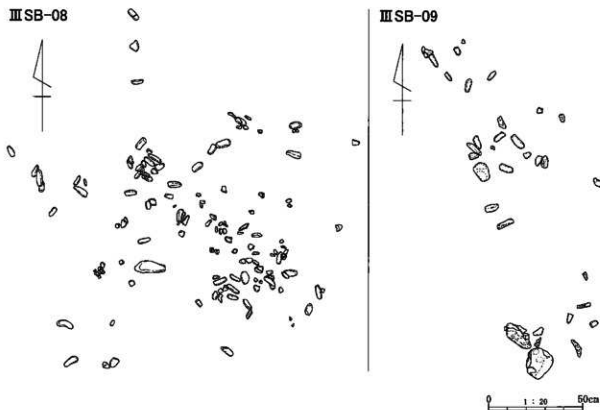
- 1 SYR6/9 棕色 焼土(Ⅲc・Ⅲe地山被熱層)



b' Ⅲc-V d' Ⅲc-Ts-II d' V = Ⅲc



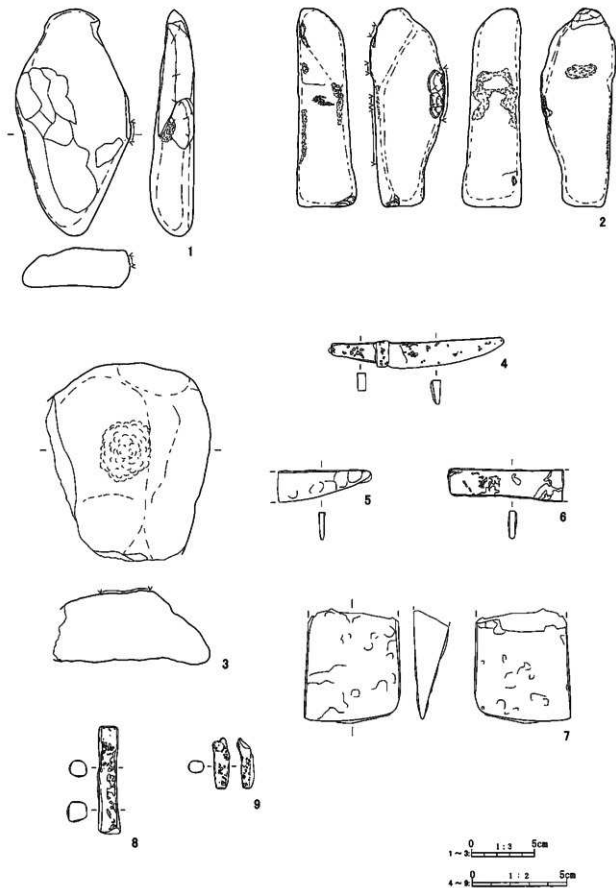
図Ⅱ-4 1号平地式住居跡関連遺構(1)



図II-5 1号平地式住居跡関連遺構(2)

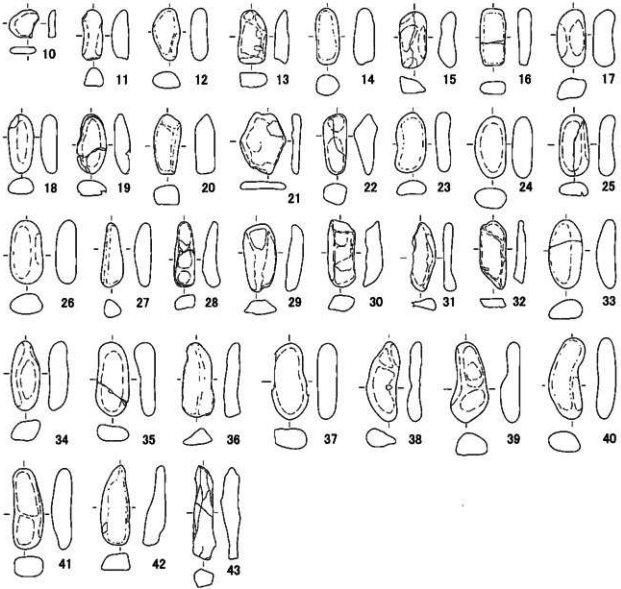
遺物出土状態(図II-3)：住居跡に伴う遺物の主体はⅢSB-08・09で、分布は住居跡プラン内の西側に偏っている。ⅢSB-08はプラン南西隅に位置し、棒状礫を中心に構成され、やや散逸した出土状態であった。周囲で鉄斧や刀子といった鉄製品も出土している。ⅢSB-09はプラン北西隅近くに位置し、ⅢSB-08と同様棒状礫を中心に構成されているが、より散逸した状態で出土した。

出土遺物(図II-6・7)：1・2はたたき石で、1は扁平礫、2は角柱状礫の主として縁辺を使用している。1は全体が被熱により変色し、ハジケも見られる。3はⅢSB-09で出土した台石の破片である。表面のやや平坦な面に浅く窪んだ敲打痕がある。4は刀子で茎部に帯金具が認められる。5は刀子切先、6は茎である。7は鉄斧の刃部で、縁辺の稜が明瞭に角をもつため、断面「コ」字形基部によるソケットタイプの鉄斧と考えられる。8・9は棒状鉄片でいずれも断面は方形である。10～43はⅢSB-08の構成礫である。長軸平均が68mmの比較的小ぶりの棒状礫でまとまっている。44～55はⅢSB-09の構成礫で、ⅢSB-08同様小ぶりの棒状礫で構成されていた。共に若干の被熱礫を含んでいる。

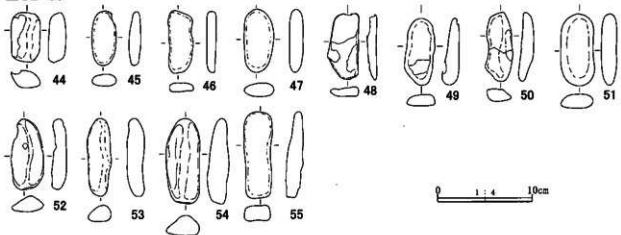


図Ⅱ-6 1号平地式住居跡出土遺物(1)

III SB-08



III SB-09



図II-7 1号平地式住居跡出土遺物(2)

表Ⅱ-5 ⅢH-01出土遺物属性表

押図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-6-1	62-1-1	-	1438	たたき石	I A2	ⅢbL	ⅢSB-09	J-8	179.0	90.0	31.0	685.0	Sa.	被熱
Ⅱ-6-2	62-1-2	-	1481	たたき石	I B3	ⅢbL	ⅢSB-08	M-10	158.0	69.0	48.0	575.0	Sa.	-
Ⅱ-6-3	62-1-3	-	1447	台石	-	ⅢbL	ⅢSB-09	J-8	158.0	130.0	56.0	1480.0	Sa.	-
Ⅱ-6-4	62-1-4	-	1475	刀子	-	ⅢbM	ⅢSB-09	J-8	92.6	13.2	4.8	14.0	lrn.	-
Ⅱ-6-5	62-1-5	-	1474	刀子切先片	-	ⅢbM	ⅢSB-09	J-8	50.4	16.4	3.1	5.6	lrn.	-
Ⅱ-6-6	62-1-6	-	1632	刀子茎片	-	ⅢbM	-	L-9	60.9	16.7	4.6	14.2	lrn.	-
Ⅱ-6-7	62-1-9	-	958	鉄斧刃部	-	ⅢbM	ⅢSB-08	N-12	62.1	49.3	20.1	235.0	lrn.	-
Ⅱ-6-8	62-1-7	-	48	棒状鉄片	-	ⅢbU	-	M-10	56.5	10.6	9.9	20.3	lrn.	-
Ⅱ-6-9	62-1-8	-	47	棒状鉄片	-	ⅢbU	-	M-10	27.2	7.6	5.8	2.7	lrn.	-

表Ⅱ-6 ⅢSB-08属性表

押図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	備考		
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ							標準 偏差	
Ⅱ-7-10	-	1575	ⅢbM	完形	31.5	-36.6	27.0	-2.8	7.8	-9.1	1.2	-1.1	8.9	-	Sa.	-		
Ⅱ-7-11	-	1499	ⅢbM	略劣形	52.0	-16.1	20.7	-9.1	18.0	1.1	2.5	0.2	27.0	-	Sa.	-		
Ⅱ-7-12	-	1503	ⅢbM	完形	55.0	-13.1	27.8	-2.0	17.1	0.2	2.0	-0.3	35.4	-	Sa.	-		
Ⅱ-7-13	-	1539	ⅢbM	完形	56.1	-12.0	28.6	-1.2	14.4	-2.5	2.0	-0.3	38.9	-	Sa.	-		
Ⅱ-7-14	-	1593	ⅢbM	完形	58.7	-9.4	24.7	-5.1	20.7	3.8	2.4	0.1	43.1	○	Sa.	-		
Ⅱ-7-15	ⅢS018	1501	ⅢbM	完形	58.7	-9.4	30.8	1.0	17.8	0.9	1.9	-0.4	41.7	○	Sa.	-		
Ⅱ-7-16	-	1604	ⅢbM	完形	59.4	-8.7	27.1	-2.7	13.2	-3.7	2.2	-0.1	36.4	-	Sa.	-		
Ⅱ-7-17	-	1589	ⅢbM	完形	60.1	-8.0	32.0	2.2	19.0	2.1	1.9	-0.4	58.6	○	Sa.	-		
Ⅱ-7-18	-	1498	ⅢbM	略劣形	60.8	-7.3	25.7	-4.1	16.8	-0.1	2.4	0.1	37.0	○	Sa.	-		
Ⅱ-7-19	ⅢS017	1505	ⅢbM	略劣形	61.9	-6.2	30.3	0.5	16.4	-0.5	2.0	-0.3	30.2	○	Sa.	-		
Ⅱ-7-20	-	1508	ⅢbM	完形	62.1	-6.0	26.3	-3.5	18.5	1.6	2.4	0.1	50.4	○	Sa.	-		
Ⅱ-7-21	-	1588	ⅢbM	完形	62.2	-5.9	47.1	17.3	7.8	-9.1	1.3	-1.0	34.3	○	Sa.	-		
Ⅱ-7-22	ⅢS029	1511	ⅢbM	完形	62.8	-5.3	25.5	-4.3	21.2	4.3	2.5	0.2	40.2	-	Mud.	-		
Ⅱ-7-23	-	1538	ⅢbM	完形	63.0	-5.1	31.8	2.0	14.0	-2.9	2.0	-0.3	43.1	○	Sa.	-		
Ⅱ-7-24	-	1611	ⅢbM	完形	64.2	-3.9	32.7	2.9	21.0	4.1	2.0	-0.3	63.3	○	Sa.	-		
Ⅱ-7-25	-	1571	ⅢbM	完形	64.5	-3.6	30.8	1.0	17.7	0.8	2.1	-0.2	46.3	-	Sa.	-		
Ⅱ-7-26	-	1518	ⅢbM	完形	66.2	-1.9	33.2	3.4	21.6	4.7	2.0	-0.3	66.8	-	Sa.	-		
Ⅱ-7-27	-	1497	ⅢbM	完形	66.7	-1.4	23.3	-6.5	17.6	0.7	2.9	0.6	31.6	-	Sa.	-		
Ⅱ-7-28	ⅢS021	1572	ⅢbM	完形	67.9	-0.2	22.1	-7.7	14.2	-2.7	3.1	0.8	32.3	○	Sa.	-		
Ⅱ-7-29	-	1530	ⅢbM	完形	70.2	2.1	32.9	3.1	15.5	-1.4	2.1	-0.2	44.6	○	Sa.	-		
Ⅱ-7-30	-	1513	ⅢbM	完形	70.6	2.5	28.5	-1.3	16.8	-0.1	2.5	0.2	37.1	○	Mud.	-		
Ⅱ-7-31	-	1563	ⅢbM	完形	71.2	3.1	21.3	-8.5	11.7	-5.2	3.3	1.0	27.3	○	Sa.	-		
Ⅱ-7-32	-	1601	ⅢbM	完形	71.3	3.2	27.0	-2.8	11.2	-5.7	2.6	0.3	27.4	-	Sa.	-		
Ⅱ-7-33	ⅢS031	1521	ⅢbM	完形	71.6	3.5	35.5	5.7	19.6	2.7	2.0	-0.3	62.8	-	Sa.	-		
Ⅱ-7-34	-	1592	ⅢbM	完形	73.3	5.2	33.8	4.0	18.8	1.9	2.2	-0.1	60.8	○	Sa.	-		
Ⅱ-7-35	-	1568	ⅢbM	完形	77.1	9.0	34.1	4.3	17.9	1.0	2.3	0.0	76.4	-	Sa.	-		
Ⅱ-7-36	-	1614	ⅢbM	完形	78.3	10.2	32.3	2.5	15.0	-1.9	2.4	0.1	48.2	○	Sa.	-		
Ⅱ-7-37	-	1540	ⅢbM	略劣形	78.9	10.8	38.1	8.3	21.0	4.1	2.1	-0.2	81.6	○	Sa.	-		
Ⅱ-7-38	-	1480	ⅢbM	完形	82.3	14.2	31.2	1.4	16.5	-0.4	2.6	0.3	58.1	-	Sa.	-		
Ⅱ-7-39	-	1493	ⅢbM	完形	83.0	14.9	37.3	7.5	20.5	3.6	2.2	-0.1	78.8	-	Sa.	-		
Ⅱ-7-40	-	1492	ⅢbM	完形	84.0	15.9	32.7	2.9	20.1	3.2	2.6	0.3	79.8	-	Sa.	-		
Ⅱ-7-41	-	1496	ⅢbM	完形	84.8	16.7	31.0	1.2	20.5	3.6	2.7	0.4	83.5	○	Sa.	-		
Ⅱ-7-42	ⅢS024	1500	ⅢbM	完形	85.0	16.9	30.7	0.9	20.6	3.7	2.8	0.5	68.7	-	Sa.	-		
Ⅱ-7-43	ⅢS030	1599	ⅢbM	完形	98.7	30.6	25.1	-4.7	15.7	-1.2	3.9	1.6	40.5	-	Mud.	-		
						68.1	30.0	16.9	2.3	48.2								
													総点数	148点	※完形	34点		

表II-7 III SB-09属性表

標図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備 考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差					
II-7-44	-	1452	IIIbM	略完形	52.6	-19.7	32.2	3.0	17.4	2.6	1.6	-0.9	41.1	-	Sa	-
II-7-45	-	1465	IIIbM	完形	57.4	-14.9	24.7	-4.5	12.4	-2.4	2.3	-0.2	24.5	-	Sa	-
II-7-46	-	1456	IIIbM	完形	66.3	-6.0	24.9	-4.3	8.6	-6.2	2.7	0.1	26.4	-	Sa	-
II-7-47	-	1466	IIIbM	完形	66.3	-6.0	30.7	1.5	15.1	0.3	2.2	-0.4	41.5	○	Sa	-
II-7-48	-	1457	IIIbM	略完形	69.5	-2.8	31.9	2.7	8.7	-6.1	2.2	-0.3	29.1	○	Sa	-
II-7-49	-	1454	IIIbM	略完形	70.2	-2.1	29.7	0.5	13.6	-1.2	2.4	-0.2	41.0	-	Sa	-
II-7-50	II-11	1462	IIIbM	完形	72.0	-0.3	26.2	-3.0	14.2	-0.6	2.7	0.2	33.8	○	Sa	-
II-7-51	-	1451	IIIbM	完形	74.9	2.6	32.9	3.7	15.4	0.6	2.3	-0.2	63.4	-	Sa	-
II-7-52	-	1449	IIIbM	完形	74.3	2.0	32.4	3.2	17.5	2.7	2.3	-0.2	40.4	-	Mud	-
II-7-53	-	1453	IIIbM	完形	82.6	10.3	22.1	-7.1	15.7	0.9	3.7	1.2	47.9	-	Sa	-
II-7-54	-	1458	IIIbM	完形	88.9	16.6	34.8	5.6	21.5	6.7	2.6	0.0	89.3	○	Sa	-
II-7-55	-	1448	IIIbM	略完形	92.3	20.0	27.9	-1.3	17.4	2.6	3.3	0.8	70.4	○	Sa	-
						72.3		29.2		14.8		2.52	45.7			
												総点数 34点	素完形 12点			

III F-19 (図II-8)

位置: 0-9区 規模: 112×60×12cm

確認・調査: IIIb 調査時に 0-9 区において斑状の灰の拡がりを確認した。ベルトを設定し掘削を進めたところ、下位に 112×60 cm の長大な長楕円形プランを呈する焼土を検出した。平面形の記録後、トレンチを設定し断面の観察を行った結果、厚さ 12 cm の良好な被熱層が形成されていた。断面の撮影、実測を行い、土壌サンプルを採取して調査終了した。

III F-20 (図II-8)

位置: N-11・12区 規模: 68×44×10cm

確認・調査: IIIb 調査時に N-11・12 区において不整形プランの焼土を検出した。周囲から比較的多く出土したため、出土状態を記録した。焼土は平面形の記録後、トレンチを設定し、断面の観察を行った。その結果、焼土下底面が平らで明瞭な層境が認められたことから、投棄された焼土と判断した。断面の撮影、実測を行い、土壌サンプルを採取して調査終了した。

出土遺物(図II-10): 5 は他の礫と共に III F-20 周囲で出土した滑沢面のある礫である。大型礫の一面に滑沢面が形成されている他、幅 1 mm 程の線条痕が数条並行して残されている。礫縁辺には敲打痕も認められた。

灰集中 2(III AS-02) (図II-9 図版 6-5~7)

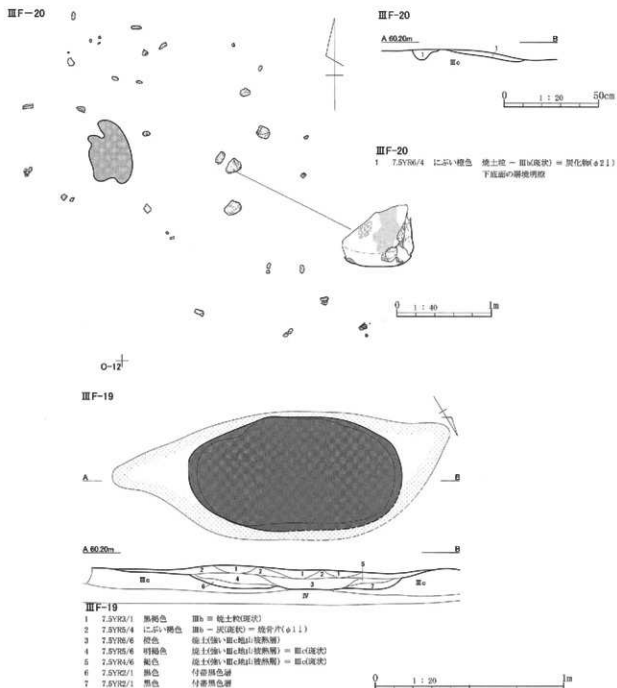
位置: 0-9・10区 規模: 80×50×4cm

確認・調査: 0-9・10 区の III a 層を掘削した際、斑状に広がる少量の灰と焼骨片の分布を確認した。焼土の可能性を想定し、ベルトを設定した上で III F-22 として調査を進めた。掘削を進めた結果、下位で長軸長 25 cm 程の小規模な灰集中を 2 ヲ所検出した。堆積状態の記録後、北側の灰集中を掘削したところ、灰層中から骨髄 1 点が出土したため出土状態の撮影を行った。灰は土壌サンプルを採取しフローテーションにかけている。

堆積状態(図II-9): 灰集中は 2 ヲ所のブロックに分かれて形成されていたが、断面を記録した北側ブロックでの灰層の厚さは 4 cm 程であった。いずれのブロックも均質で良好な灰によって構成され、灰層上位には灰と焼骨片が散逸した III b が堆積していた。灰の下底面は浅く窪んでいたが、堆

積層4層に示される不自然な灰の落込みが認められたため、根による後世の攪乱を受けた可能性が高い。

出土遺物(図II-10): IIIAS-02に直接伴う遺物は10の骨織である。鯨骨を素材とし(高橋理氏のご教示による)、基部において丸く作り出した断面は、機能部へ向けて次第に扁平に形成している。機能部は両側縁を面取りすることで鋭利な縁辺を作り出している。灰層中で出土したためか、遺存状態が極めて良好な中で、基部のみ表面がやや劣化している。矢柄等に括りつけた際の使用による劣化の可能性はある。



図II-8 1号平地式住居跡周辺遺構(1)

灰集中 3〔ⅢAS-03〕 (図Ⅱ-9 図版 6-8, 7-1・2)

位置: K-11・12区 規模: 142×70×10cm

確認・調査: 重機による火山灰除去が終了した際、K-11・12区において比較的広範囲に広がった斑状の灰の分布を確認した。Ⅲ層の調査開始後すぐに周囲の清掃を行い、灰分布範囲を把握した上でベルトを設定した。当初焼土に伴う灰と想定したためⅢF-31として調査を進めた。周囲は火山灰除去の際すでにⅢa層を削平し、Ⅲb層が露出していたが、このⅢb層を2cm程掘削した段階で良好な灰の堆積を検出した。ベルトを残しながら灰分布範囲全体の検出に努めたところ、灰集中の他に東側と北西側で焼土粒の拡がりを検出した。ベルトに合わせトレンチを設定し、堆積状態の記録を行い、灰と焼土粒は土壌サンプルを全量採取しフローテーションにかけた。

堆積状態(図Ⅱ-9): ⅢAS-03は灰集中1ヵ所、焼土粒集中3ヵ所といった複数のブロックで構成される。灰集中は長軸長78cmの規模で形成され、厚さは最大で約10cmを測る。均質な灰の中に多量の焼骨片を含む。下底面は大きく窪み、下位基本層との層境は明瞭であった。焼土粒集中は3ヵ所のブロックに分かれるが、いずれも厚さ2cm程で、下底面はほぼ水平である。1ヵ所は一部が灰集中の上に堆積していた。

出土遺物: ⅢAS-03に伴う遺物は出土していない。しかし土壌サンプルのフローテーションを行った結果、ヒエ属の種子を得た他、ブドウ科、クルミ属の種子も得られた。

礫集中 5〔ⅢSB-05〕 (図Ⅱ-9・10 図版 7-3)

位置: 0-9・10区 層位: ⅢbM

確認・調査: 0-9・10区のⅢb調査時に検出した。308×170cmの範囲で232点の礫が出土している。棒状礫を主体とするが、大型の礫も多く含まれている。散逸した出土状態を呈し、住居跡に伴う礫集中と比べまとまりが悪い。完形個体は46点で、欠損率の極めて高い礫集中である。

出土遺物(図Ⅱ-10): 1~4はたたき石で、棒状、角柱状礫の面を使用している。6・7は刀子茎で、6は断面の厚さが上下で異なり、7はほぼ長方形である。8は大観通寶で、銭孔の縁は磨滅し丸く変形している。9は青緑色透明のガラス玉で、被熱による変形で孔が塞がっている。

獣骨集中 1〔ⅢBB-01〕 (図Ⅱ-11 図版 7-4)

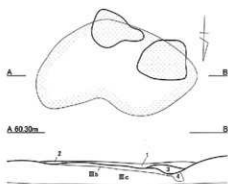
位置: M-6区 主体検出層位: ⅢbM

規模: 412×332cm 主要動物/部位: シカ四肢骨

確認・調査: Ⅲb層の調査中、ⅢH-01東側約13mの位置で未被熱の獣骨が散逸した状態で出土した。遺存状態が悪かったため、獣骨番号を付番して個々の写真撮影を行った後は、状態の良いもののみを取り上げ、他は廃棄した。

出土状態(図Ⅱ-11): 獣骨は412×332cmの範囲で出土しているが、中でも150×100cmの範囲で特に密度が高かった。主たる獣骨分布範囲の外側にも少数だが獣骨の出土が認められたため、遺跡形成過程で広く散逸したものと考えられる。獣骨の特徴: 出土した獣骨は遺存状態が悪く、取り上げの対象としたものは極めて少なかった。現場所見では付番した53点の資料中、すべてが臼歯、もしくは歯列であったため、頭蓋骨部分の特定部位に偏る集中であった可能性が高い。

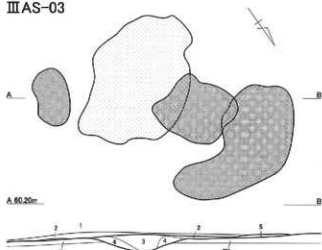
ⅢAS-02



ⅢAS-02

- | | | | |
|---|----------|-------|----------------------|
| 1 | 7.5YR5/1 | 褐灰色 | Ⅲb = 灰(均一) = 焼骨片 珪性強 |
| 2 | 7.5YR5/3 | にぶみ褐色 | 焼土粒 = Ⅲ(均一) |
| 3 | 2.5YR/1 | 灰白色 | 灰 = 燻(腐炭)・焼骨片(φ31) |
| 4 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Ⅲc = 灰(均一) |

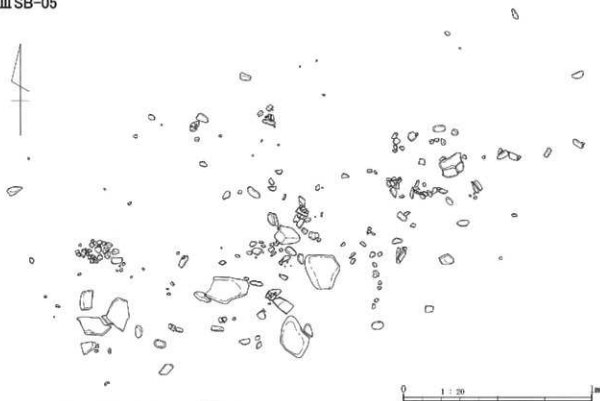
ⅢAS-03



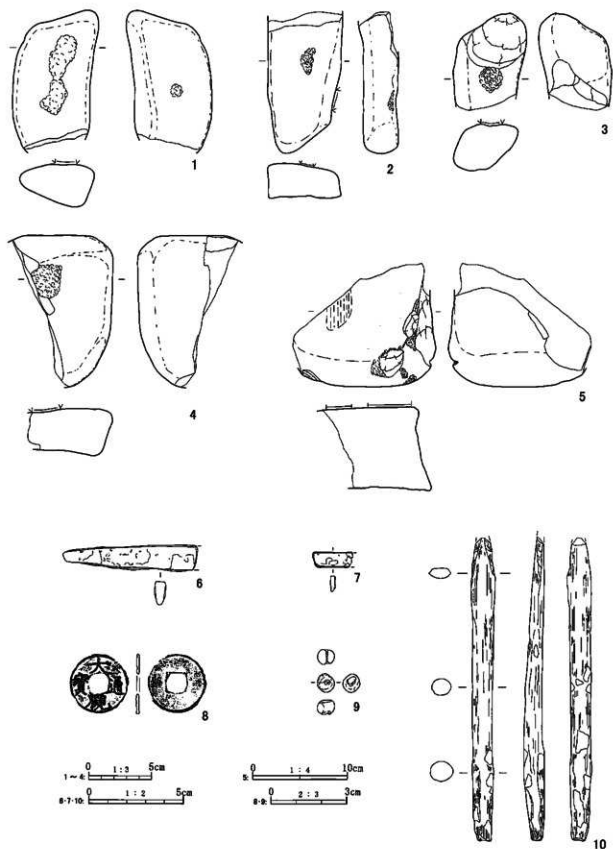
ⅢAS-03

- | | | | |
|---|----------|--------|------------------------------|
| 1 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Ⅲb = 灰(均一)・焼骨片(φ11)・炭化物(φ51) |
| 2 | 7.5YR5/3 | にぶみ褐色 | Ⅳ = 焼土粒(腐炭) |
| 3 | 10YR6/1 | 灰白色 | 灰 = 焼骨片(φ51) |
| 4 | 10YR6/1 | 褐灰色 | 灰 = 焼骨片(φ51) = Ⅲ(均一) |
| 5 | 8YR4/4 | にぶみ赤褐色 | 焼土粒 = 焼骨片(φ11) |

ⅢSB-05

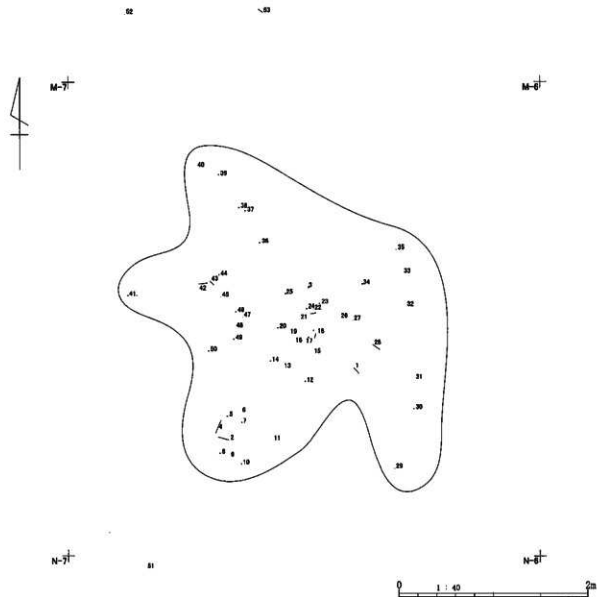


図Ⅱ-9 1号平地式住居跡周辺遺構(2)



図II-10 1号平地式住居跡周辺遺構出土遺物

ⅢBB-01



図Ⅱ-11 1号平地式住居跡周辺遺構(3)

表Ⅱ-8 ⅢH-01周辺焼土属性表

押図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅱ-8	6-3・4	ⅢF-20	N-11・12	ⅢbM	不整形	68	44	6	骨	
Ⅱ-8	6-1・2	ⅢF-19	N・O-9	ⅢbM	長楕円形	112	60	12	骨	

表Ⅱ-9 ⅢH-01周辺灰集中属性表

押図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅱ-9	6-5・6	ⅢAS-02	O-9・10	ⅢbM	不整形	80	50	4	灰・骨	
Ⅱ-9	6-8	ⅢAS-03	K-11・12	ⅢbM	不整形	142	70	10	灰・骨	

表II-10 IIIH-01周辺遺構出土遺物属性表

探函番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
II-10-1	63-1-1	-	3009	たたき石	IA1	IIIbM	III SB-05	O-10	(98.0)	67.0	32.0	320.0	Sa.	-
II-10-2	63-1-2	-	3118	たたき石	IV	IIIbM	III SB-05	O-10	(105.0)	57.0	26.0	265.0	Sa.	-
II-10-3	63-1-3	-	3154	たたき石	IV	IIIbM	III SB-05	O-9	(70.0)	54.0	36.0	150.0	Sa.	-
II-10-4	63-1-4	-	3013	たたき石	IV	IIIbM	III SB-05	O-10	121.0	(75.0)	37.0	405.0	Sa.	-
II-10-5	63-1-5	-	695	沖浜面のホウコ	-	IIIbL	III F-20	-	(132.0)	(151.0)	88.0	189.0	Sa.	-
II-10-6	63-1-6	-	70	刀子葉片	-	IIIbL	III F-20	N-12	71.2	14.3	5.3	7.3	Irn.	-
II-10-7	63-1-7	-	40	刀子葉片	-	IIIbU	-	O-9	27.1	10.5	4.2	2.6	Irn.	-
II-10-8	63-1-8	-	41	大櫛通宝	-	IIIbU	-	O-10	23.9	24.0	1.2	2.1	Cu.	-
II-10-9	63-1-9	-	42	ガラス玉	-	IIIbU	-	O-10	7.4	6.5	5.7	0.6	-	-
II-10-10	63-1-10	-	882	青磁	-	-	III AS-02	-	(160.0)	9.9	8.5	7.2	BHP.	-

表II-11 III SB-05属性表

探函番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)				長短比	重量(g)	被熱	材質	備考			
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差						厚さ	標準偏差	
-	-	-	3151	IIIbM	完形	24.7	-45.8	9.9	-28.0	5.1	-12.4	2.5	0.5	1.5	○	Mud.	-
-	-	-	972	IIIbM	完形	26.0	-44.5	15.6	-22.3	11.0	-6.5	1.7	-0.3	5.1	-	Mud.	-
-	-	-	971	IIIbM	完形	30.4	-40.1	28.5	-9.4	9.3	-8.2	1.1	-0.9	11.4	○	Sa.	-
-	-	-	3050	IIIbM	略完形	34.9	-35.6	24.4	-13.5	11.5	-6.0	1.4	-0.6	12.7	-	Sa.	-
-	-	-	3216	IIIbM	完形	49.7	-20.8	34.0	-3.9	8.6	-8.9	1.5	-0.5	22.3	-	Sa.	-
-	-	-	966	IIIbM	完形	50.3	-20.2	32.8	-5.1	15.9	-1.6	1.5	-0.5	36.2	-	Sa.	-
-	-	-	3062	IIIbM	完形	52.0	-18.5	30.6	-7.3	7.1	-10.4	1.7	-0.3	12.5	-	Mud.	-
-	-	-	3207	IIIbM	完形	54.1	-16.4	22.1	-15.8	24.9	7.4	2.4	0.4	37.0	-	Sa.	-
-	-	-	969	IIIbM	完形	55.3	-15.2	39.9	2.0	11.7	-5.8	1.4	-0.6	31.7	-	Sa.	-
-	-	-	3210	IIIbM	完形	55.4	-15.1	27.7	-10.2	15.2	-2.3	2.0	0.0	30.5	○	Sa.	-
-	-	-	3124	IIIbM	略完形	55.5	-15.0	25.6	-12.3	15.8	-1.7	2.2	0.2	26.5	○	Sa.	-
-	-	-	3009	IIIbM	完形	56.6	-13.9	26.3	-11.6	19.6	2.1	2.2	0.2	44.2	○	Sa.	-
-	-	-	3156	IIIbM	完形	57.4	-13.1	27.5	-10.4	13.9	-3.6	2.1	0.1	33.5	-	Sa.	-
-	-	-	3176	IIIbM	完形	57.6	-12.9	23.4	-14.5	16.6	-0.9	2.5	0.5	27.1	-	Mud.	-
-	-	-	3213	IIIbM	完形	57.7	-12.8	43.8	5.9	18.4	0.9	1.3	-0.7	55.1	-	Sa.	-
-	-	-	3056	IIIbM	完形	58.4	-12.1	32.4	-5.5	12.0	-5.5	1.8	-0.2	27.3	○	Sa.	-
-	-	-	3001	IIIbM	完形	59.2	-11.3	26.7	-11.2	19.0	1.5	2.2	0.2	45.7	○	Sa.	-
-	-	-	3211	IIIbL	完形	60.2	-10.3	26.6	-11.3	14.2	-3.3	2.3	0.3	29.1	○	Sa.	-
-	-	-	3041	IIIbL	略完形	61.2	-9.3	32.7	-5.2	13.5	-4.0	1.9	-0.1	39.5	○	Sa.	-
-	-	-	3131	IIIbL	完形	61.9	-8.6	38.5	0.6	18.5	1.0	1.6	-0.4	60.9	○	Sa.	-
-	-	-	3088	IIIbL	完形	62.3	-8.2	24.9	-13.0	18.6	1.1	2.5	0.5	35.7	○	Sa.	-
-	-	-	3085	IIIbL	完形	63.2	-7.3	31.5	-6.4	13.8	-3.7	2.0	0.0	33.0	○	Sa.	-
-	-	-	3015	IIIbL	完形	63.2	-7.3	40.3	2.4	15.8	-1.7	1.6	0.4	52.0	○	Sa.	-
-	63-2-11	-	3016	IIIbL	完形	64.6	-5.9	35.7	-2.2	21.3	3.8	1.8	-0.2	63.1	-	Sa.	-
-	-	-	3087	IIIbL	完形	65.2	-5.3	34.0	-3.9	18.6	1.1	1.9	-0.1	54.2	○	Sa.	-
-	-	-	3121	IIIbL	完形	65.3	-5.2	24.5	-13.4	19.6	2.1	2.7	0.7	41.5	○	Sa.	-
-	-	-	3218	IIIbL	完形	65.6	-4.9	32.2	-5.7	26.2	8.7	2.0	0.0	85.1	-	Sa.	-
-	-	-	3051	IIIbL	完形	65.9	-4.6	37.5	-0.4	13.0	-4.5	1.8	-0.2	45.5	○	Sa.	-
-	-	-	3186	IIIbL	完形	67.4	-3.1	30.6	-7.3	11.2	-6.3	2.2	0.2	35.4	○	Sa.	-
-	-	-	3060	IIIbL	完形	68.4	-2.1	23.2	-14.7	12.5	-5.0	2.9	0.9	34.1	-	Sa.	-
-	-	-	3081	IIIbL	完形	69.2	-1.3	32.8	-5.1	11.1	-6.4	2.1	0.1	30.3	-	Mud.	-
-	-	-	3204	IIIbL	完形	69.4	-1.1	34.6	-3.3	21.7	4.2	2.0	0.0	55.9	○	Sa.	-
-	-	-	3070	IIIbL	完形	70.4	-0.1	31.5	-6.4	17.2	-0.3	2.2	0.2	37.8	○	Mud.	-
-	-	-	3108	IIIbL	完形	70.6	0.1	26.5	-11.4	11.5	-6.0	2.7	0.7	21.3	○	Mud.	-
-	-	-	3205	IIIbL	完形	71.3	0.8	31.7	-6.2	11.3	-6.2	2.2	0.2	26.2	-	Mud.	-
-	-	-	3082	IIIbL	完形	71.6	1.1	28.1	-9.8	16.9	-0.6	2.5	0.5	53.3	○	Sa.	-
-	-	-	3099	IIIbL	完形	72.4	1.9	30.9	-7.0	15.9	-1.6	2.3	0.3	47.4	-	Sa.	-
-	-	-	3177	IIIbL	完形	72.6	2.1	32.0	-5.9	11.6	-5.9	2.3	0.3	35.9	-	Mud.	-
-	-	-	3212	IIIbL	完形	77.8	7.3	45.6	7.7	19.7	2.2	1.7	-0.3	110.7	-	Sa.	-
-	-	-	3064	IIIbL	完形	78.5	8.0	34.4	-3.5	11.8	-5.7	2.3	0.3	52.0	○	Sa.	-
-	-	-	III S044	IIIbL	完形	80.2	9.7	39.6	1.7	19.1	1.6	2.0	0.0	102.8	-	Sa.	-
-	-	-	3149	IIIbL	完形	81.2	10.7	30.7	-7.2	18.0	0.5	2.6	0.6	48.8	-	Mud.	-
-	-	-	III S043	IIIbL	完形	91.4	20.9	43.7	5.8	24.4	6.9	2.1	0.1	116.4	-	Sa.	-
-	-	-	3106	IIIbL	完形	92.9	22.4	53.0	15.1	23.4	5.9	1.8	-0.2	147.5	-	Sa.	-
-	-	-	974	IIIbL	欠損	136.6	66.1	115.4	77.5	33.1	15.6	1.2	-0.8	86.0	-	Sa.	-
-	-	-	3128	IIIbL	完形	215.0	144.5	155.0	117.1	43.6	26.1	1.4	-0.6	1860.0	-	Sa.	-
-	-	-	3107	IIIbL	略完形	223.0	152.5	132.0	94.1	60.7	43.2	1.7	-0.3	2420.0	-	Sa.	-

70.5 37.9 17.5 2.0 134.5

総点数 232点 ※完形 47点

表Ⅱ-12 ⅢBB-01属性表

押図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		主体部位	被熱の 有無	関連 遺構	備 考
						長軸	短軸				
Ⅱ-11	7-4	ⅢBB-01	M-6	ⅢbM	不整形	412	332	シカ歯	-	ⅢH-01	

第2節 建物跡

方形プラン等の規格的な配置で並んだ柱穴列を建物跡とした。オニキシベ2遺跡では、A地区調査範囲において4本の柱穴で構成される建物跡を1軒検出している。

建物跡1 (図Ⅱ-12 図版7-5)

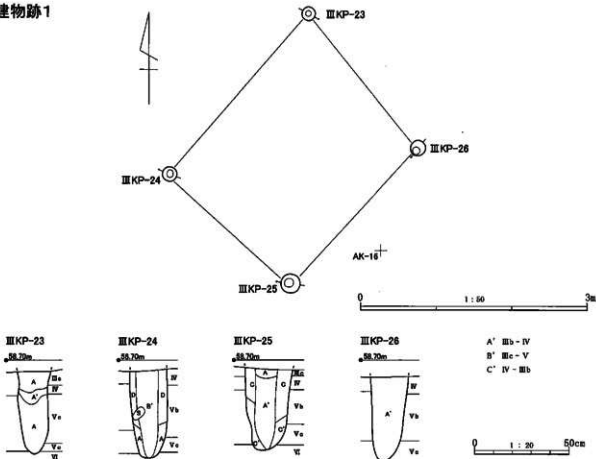
位置: AJ・AK-15・16区 規模: 265×225cm

構成: 4本柱 (ⅢKP-23~26)

確認・調査: 平成20年度のA地区調査範囲をⅢc上面まで掘削した際、AJ・AK-15・16区で円形のⅢb層落ち込みを4カ所確認した。半載して断面を確認した結果、いずれも杭跡であることがわかった。配置が正方形に構成されていたため建物跡の柱穴と判断し、建物跡1として認定した。

柱穴: ⅢKP-23~26はいずれも掘立による柱穴と考えられ、断面の先端部は丸味を帯びている。またⅢKP-24・25では掘り方と柱痕を示す堆積状態が観察できた。いずれも確認面からの深さが約50cmの深い柱穴である。ⅢKP-23・25・26の覆土がⅢb主体であったことから、アイヌ文化期に属する遺構として判断した。

建物跡1



図Ⅱ-12 建物跡1

表II-13 建物跡I属性表

押図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	規模(cm)				柱穴			付属遺構
						主体部		付属部		本敷			
						長軸	短軸	長軸	短軸	主体	付属	地	
II-12	7-5	建物跡I	AJ-15・16 AK-16	IIIbM?	N-42°E	265	225	-	-	4	-	-	-

表II-14 建物跡I柱穴属性表

押図 番号	図版 番号	遺構名	規模(cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
II-12	-	IIIKP-23	18	4	44	0°	掘立	
II-12	-	IIIKP-24	20	6	46	0°	掘立	
II-12	-	IIIKP-25	26	8	44	4°	掘立	
II-12	-	IIIKP-26	20	4	44	5°	掘立	

第3節 土坑墓

1号土坑墓〔III GP-01〕 (図II-13~21 図版8-1~11-8)

位置：Z-AA-20・21区

規模：〔造成部〕660×534cm 〔主体部〕228×96×16cm

〔封土〕498×414×10cm

遺構の用語：〔土坑墓〕 遺構全体の総称 〔主体部〕 遺体を埋葬した土坑部分

〔封土〕 主体部を覆うマウンド 〔造成部〕 造成して構築された主体部構築面

〔掘上げ土〕 造成時に墓坑周囲へ排出された土

主体部平面形：長方形 長軸方向：N-45° W 頭位：南東

確認・調査：第三章1節で記載する竪穴住居跡検出に伴い調査区の拡張を行ったが、拡張範囲でIII層上面を清掃した際、Z-21区において方形プランの浅い窪みを確認した。遺構の可能性を想定しトレンチ設定したところ、掘削してすぐにガラス玉3点が出土したことから、この窪みが土坑墓であると判断し、III GP-01とした。窪みの範囲が当初上げた調査区の外側に広がっていたため、重機を用いて調査範囲をさらに拡張した。重機での拡張は段丘崖自然地形が明瞭に確認できる範囲まで行った。プラン全体を把握した後、土坑墓周辺の地形を広範囲に測量し、立地状態の記録を行った。測量後、十字に設定したベルトに合わせトレンチを掘削したところ、土坑墓周囲に基本土層III~V層が堆積していないことを確認した。不自然な堆積状態を理解するためトレンチを延長して堆積状態の観察を行ったところ、土坑墓構築部分のみ人為的な造成が加えられ、V層下位のシルト層まで削平されていることを把握した。さらに観察を重ねた結果、主体部北側の斜面上方には傾斜地削平による造成面の立ち上がり、南側の斜面下方には造成時に排出された掘上げ土の分布を確認した。以上の観察内容より、本土坑墓は段丘崖の傾斜地を造成し、平坦面を形成した上で構築されているとの認識に至った。主体部の調査はベルトで分割された区画ごとに進めた。堆積土中より多数のガラス玉、古銭が出土したため出土位置を柱状に残しながら掘削を進めた。坑底面では主体部北壁際を中心に小刀をはじめとする多数の副葬品が出土したことから、堆積状態の記録後ベルトを外し、ガラス玉、古銭と共に出土状態の記録を行った。副葬品は記録後、取り上げを行ったが、ガラス玉と坑底面が出土したニンカリ2点は劣化が著しく、崩壊する資料が多かったため、5%に希釈したパラロイドB72を滴下し、補強した上で取り上げを行った。また漆器塗膜は全体形状を検出した後に土ごと取り上げを行っている。主体部調査終了後、墓標穴確認のため主体部東側を中心に精査を行

った。その結果、主体部から約90cm離れた位置で径12cmを測る円形のⅢb落ち込みを確認したため半截し、墓標穴として判断した。完撮写真を撮影し、調査を終了した。

造成部(図Ⅱ-13)：造成部は段丘崖を掘削し、660×534cmの範囲で平坦面を構築したものである。段丘崖高位側はV層下位のシルト層、もしくはVII層面まで削平されている。その際の掘削土は一部を段丘崖低位側に盛って平坦面造成に、また灰黄褐色のシルト主体土は封土に利用されている。残った残土は南側段丘崖下方に排出している。段丘崖高位側で確認できる削平による壁は、ほぼ垂直気味に立ち上がり、平面形は直線的である。造成部全体の平面形は隅丸方形に近い。

主体部形態(図Ⅱ-15)：主体部は長方形プランを呈する。深さは16cmで浅く、壁面は南東側を除き急角度で立ち上がっていた。南東-北西方向に長軸を向け、頭位方向は墓標穴が位置する南東側と推定される。

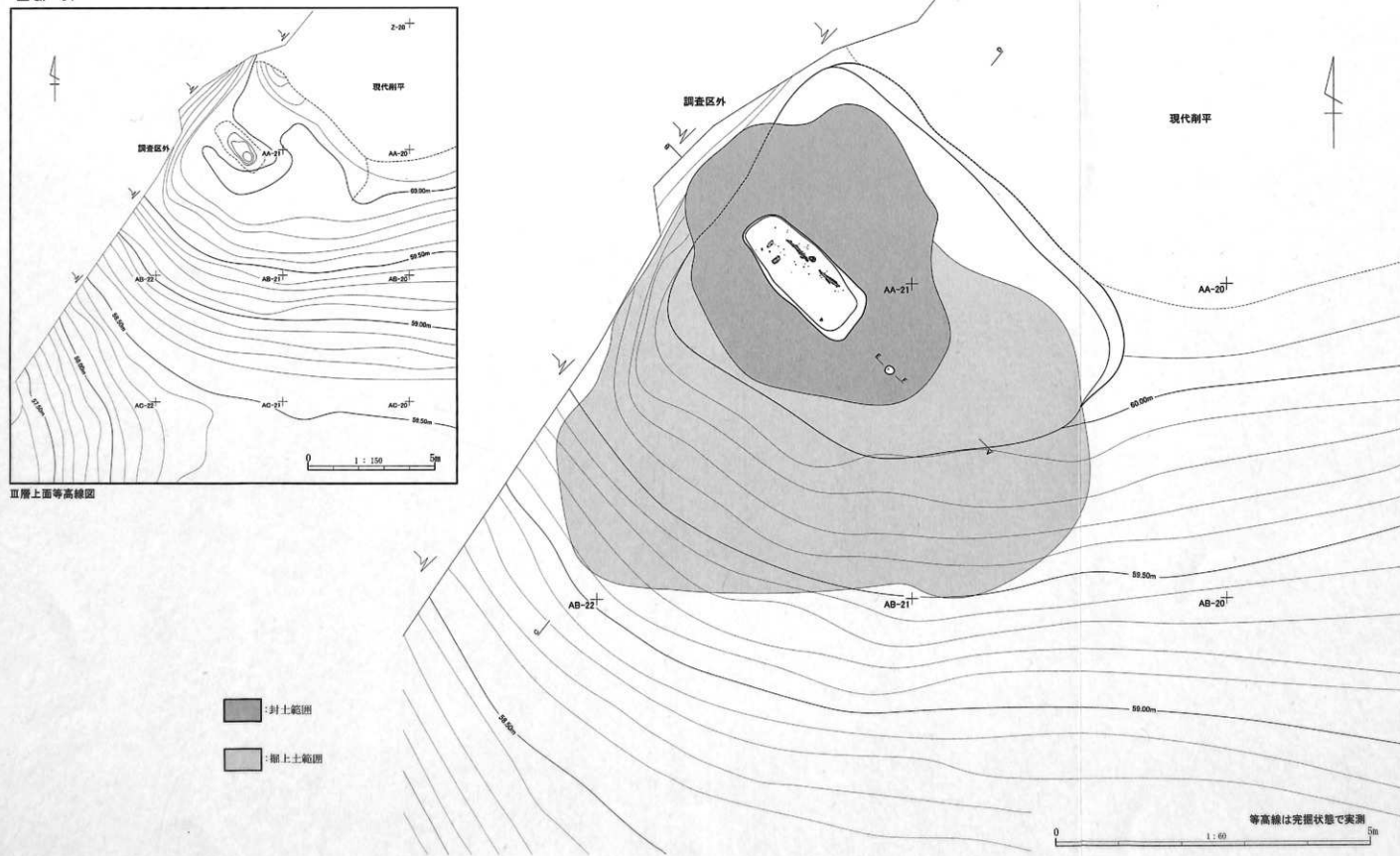
堆積状態(図Ⅱ-14)：主体部内の堆積土はV層黒色土とVII層灰黄褐色シルトが主体で、同質の土は主体部外にも堆積している。壁面の崩れによる堆積は認められず、主体部上位は隅丸長方形に窪んでいた。こうした堆積状態により、主体部内に堆積したV層とVII層シルト主体土は、主体部上部を覆った封土の落込みと判断した。また後述する遺物出土状態により本土坑墓は木棺を使用した土坑墓であると考えた。以下では主体部外も含めた堆積土の解釈について記載する。A-Bライン1~7とC-Dライン8~12は主体部と木棺との間隙埋土と封土の落込み。A-Bライン8-9とC-Dライン13~15は封土。A-Bライン10~17は造成整地土。C-Dライン16-17は造成時排土。A-Bライン1~7は造成部平坦面への斜面上方からの流れ込み。

墓標穴：主体部の東側90cmの位置で検出した。確認面からの深さは約40cmで、周囲の基本土層V・VI層を引き込む状態で打ち込まれていた。堆積土はしよりの弱いV層、およびV層下位シルト層主体土である。

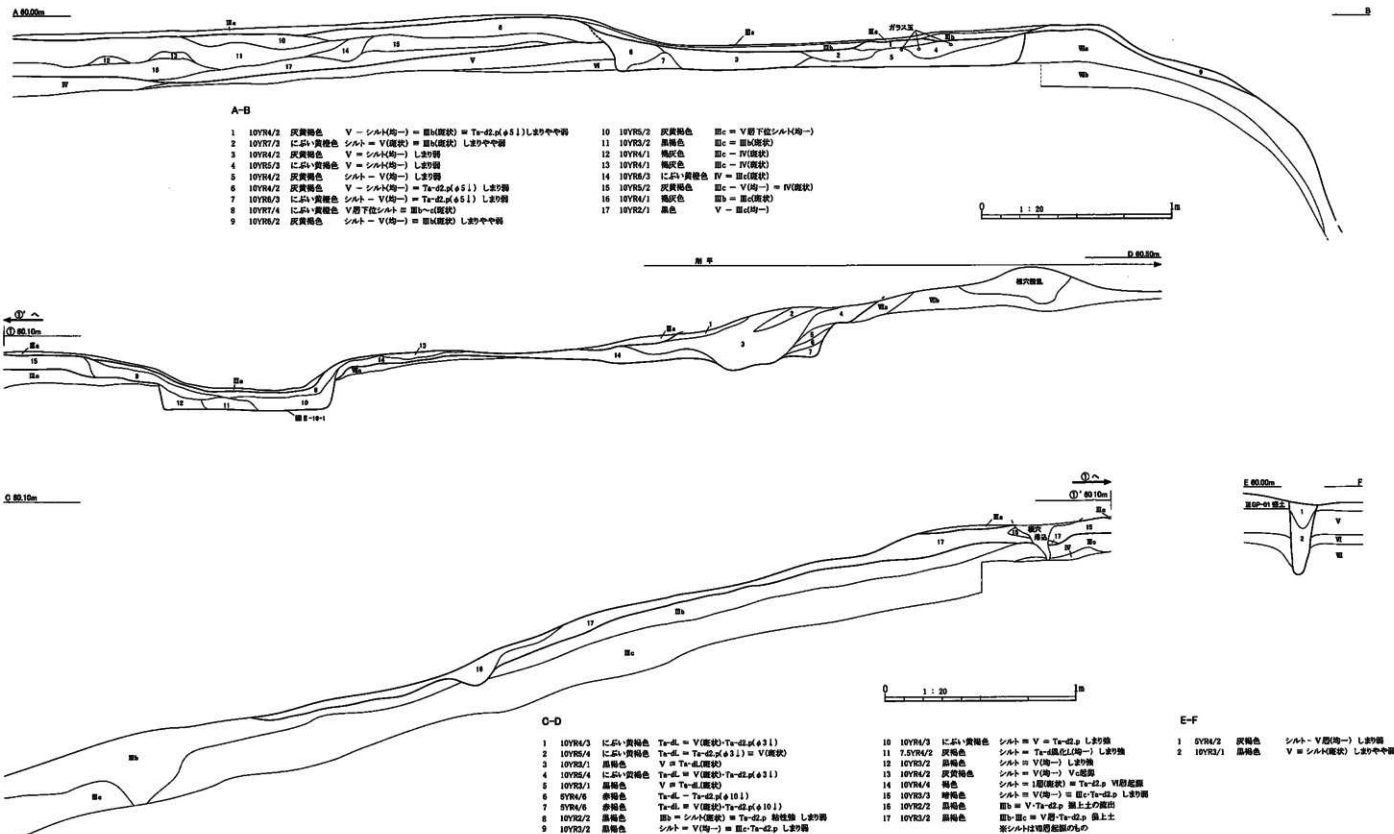
副葬品出土状態(図Ⅱ-15)：副葬品は、金属製品の多くが主体部北壁際で直列した配置で出土している。これらは大きく主体部北よりにまとまるものと、南よりにまとまるものに分かれ、北よりでは小刀1、刀子1、鈎状製品1、環状装飾品2の他、ニンカリが1点出土した。南よりでは小刀1、刀子1の他、鈎状銅製品と錫製と思われる白色の金属板が直立した状態で出土し、それに連なる配置でガラス玉と古銭の一部が出土している。この出土状態より、鈎状銅製品がタマサイのシトキとして使用されていたことが推定できる。またガラス玉、古銭の大半と鉄斧、漆器皿塗膜は主体部埋土中において広範囲に及び垂直・平面分布で出土していた。この出土状態から、ガラス玉、古銭が土坑墓構築時にすべてがタマサイとして連結していたのではないことが想定できる。以上の出土状態の内、特に注意したい点として鈎状銅製品の状態がある。この鈎状銅製品は直立した配置の不自然な状態で出土した。さらに鈎状銅製品の表裏面の内、主体部外側の面には繊維製品が、内側の面には白色金属板を挟んで木片が付着していた。

出土遺物(図Ⅱ-16~21)：1は刀身長396mm、庵棟平造の小刀で、幅6mmの樋が入っている。刀身には部分的に鞘の木質が残されている。錆で埋もれているが目釘穴が1ヵ所確認できた。2は刀身長300mmで、1と同様庵棟平造の樋をもつ小刀である。花卉を象った銅製の目釘が残されている。切先付近を中心に、鞘材の一部と考えられる樹皮、もしくは革紐巻の痕跡が残存し、いずれも幅1mmを測る。3は平棟平造の短刀で、目釘穴が1ヵ所認められる。4は刀子で、茎は短く断面が方形である。5は鉄斧で、基部断面が「コ」字形を呈し、刃部がやや広くなる。6は鈎状製品で、先端部を除

III GP-01

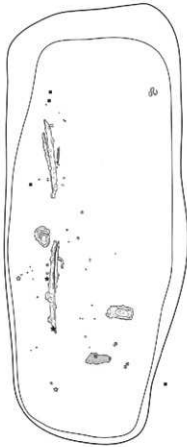


図II-13 1号土坑墓(III GP-01)

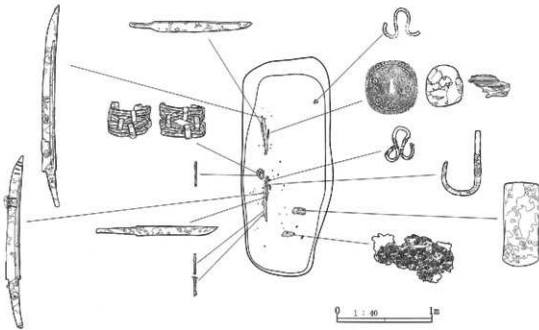


図II-14 1号土坑基断面図

III GP-01



- : ガラス玉白色系-?
- ▣: ガラス玉白色系-赤色系
- : ガラス玉白色系-緑色系
- : ガラス玉白色系-黄色系
- △: ガラス玉青・緑色系
- ▲: メノウ製玉
- : 古銭
- ★: シトキ
- ★: 針



図II-15 1号土坑墓副葬品出土状態

き断面は方形である。基部に紐巻き痕が認められる。錆化している状態での紐の幅は約2mmを測る。7~9は針であるが、錆化が著しく、本来の長さ、太さ及び針孔等を把握することはできなかった。図はX線写真を基に復元図化している。10・11は腕輪と推定される環状装飾品である。共に太さ約5mmある「C」字形のワイヤー計8本を、2本一対に帯金具を用いて束ねることで構成されている。間に入る計4本分のワイヤーは波状に束ねられている。いずれも環状に束ねた全体の内径は最大62mm程であり、装飾品として身につける場合、女性の腕のように細い部位への装着が予想される。類例は恵庭市ユカンボシE7遺跡の包含層出土資料にある(恵庭市教育委員会1995)。こちらは計6本のワイヤーで構成され、内径も約48mmで、やや小ぶりだが、1本のワイヤーの太さは本遺跡出土のものと同じである。ユカンボシE7遺跡の調査を担当した松谷純一氏によると、E7遺跡のものは出土時の遺存状態が良好で、鉄環の構造を把握できる状態であったという。また、ワイヤーは太さ約2~3mm程の針金状鉄線数本を捻り撚って1本に束ねたワイヤー状の構造も観察し得たとのことである。本遺跡出土例は錆化し現状で捻れの状態は把握し難いが、X線による観察の結果、ワイヤーに捻れによると考えられる影が把握できたため(図版66)、E7遺跡と同様の構造であったと考えられる。12・13・65・66は重なった状態で直立して出土した。

12は銅製の鐔状製品で、後述するガラス玉、古銭と共にタマサイを構成し、シトキとして使用されたと考えられる。長さ86mmの隅丸形状で、厚さは1.5mmを測る。中央に茎孔が開き、上位縁辺には径4mmある円形の孔が2ヵ所並列して開けられている。紐通しの孔の可能性があるが、明瞭な紐ずれ痕は認められなかった。背面には花卉文様が浮き出している。各文様の輪郭は浮き出しが浅く、丸みを帯びている。彫金による施文の明瞭さはないため、鋳型製作時に付された文様が踏み返しによる可能性がある。鏡面には繊維製品の一部が付着して残っている。この製品は和鏡の再加工品で中心部の鈕や縁部を削り取った後に茎状の孔が穿たれている(関根達人氏のご教示による)。鈕を削り取った部分には刻線が残っている。同様の鐔形製品は伊達市有珠オヤコツ遺跡の方形配石墓I号から1点、II号から2点(伊達市教育委員会1993)出土し、恵庭市ユカンボシE4遺跡7号土坑(恵庭市教育委員会1997)、北見市ライトコロ川口遺跡12号竪穴内墓壇(東京大学文学部考古学研究室1980)から各1点が出土している。なお、せたな町南川2遺跡第7号墓で木製の素板に白銅板を被せた鐔形製品が出土している。鐔に関するアイヌ民俗例でも、特別な霊力をもつものとされており、再加工の目的もこれに類する可能性がある。

13は白色の金属円板で、径4mmの孔が1ヵ所開いている。風化が著しく、取り上げ直後に崩壊した。現状はパラロイドB72で補強した破片を接合して復元した状態である。長さ66mm、厚さ9mmを測る。出土状態から鐔状銅製品と共にタマサイのシトキとして使用されたものと考えられる。

14~29は古銭で、計16枚出土した内、15枚が北宋銭(14~28)、1枚が南宋銭(29)である。いずれも銭孔が丸く拡がっている。30~61は合計76点出土した玉類の内、遺存状態の良好な32点を図示したものである。

30~56はガラス製、57~61はメノウ製で、形態には丸玉、ミカン玉、切子状瘻玉、管玉、滴形の玉の5種が認められる。丸玉の大半は文様の施されたトンボ玉(30~45)で、白濁色の下地に赤、緑、黄のいずれかの色ガラスで3ヵ所に入組文を施している。同じ入組文をもつガラス玉の類例は、管見の限り恵庭市ユカンボシE4遺跡の包含層出土2点(恵庭市教育委員会1997)、北見市ライトコロ川口遺跡12号竪穴内墓壇の1点(東京大学文学部1980)がある。また、実測図化されていないも

の類似資料と思われるものが伊達市有珠オヤコツ遺跡で数点出土している（伊達市教育委員会 1993）。本土坑墓では可能性のある資料も含めるとこうしたトンボ玉が計 26 点出土している。風化の状態は表面が剥離する状態で碎けていく。緑色系ガラスを用いたものは成分の違いによるものか風化の進行が著しい。47 は滴形の玉で、全体が白色と暗褐色に風化している。この形態のものは 1 点のみの出土であるため、意図的なものか、製作段階で生じたものかは不明であるが、同形態のものが根室市穂香堅穴 H-11 床面直上から出土している（北海道埋蔵文化財センター 2002）。その他、丸玉の中には大小の青色系統無文不透明のものが 4 点（51～54）、透明のものが 1 点（55）、風化した小玉が 3 点（48～50）、メノウ製のものが 1 点（57）ある。みかん玉（56）は青色系統不透明のものである。表面は風化による白色化が著しい。切子状霰玉は 2 点あり（58・59）、いずれもメノウ製である。管玉は 2 点あり（60・61）、全体が残る 61 では、上下両端から穿孔されていることが確認できた。

63・64 は「Q」形のニンカリ（耳飾り）で、風化が著しく、図は土ごと固めて取り上げたものを基に復元図化したものである。成分分析の結果は掲載していないが、錫製であったと田口氏よりご教示いただいている。やや大形であるものの町内富里 2 遺跡からも同タイプのもので出土している（厚真町教育委員会 2010）。

62 は漆器の塗膜で、木胎は残っていない。文様は現存する部分で 95×56 mm の範囲に施されている。口縁及び底部は確認できず器種は明らかではないが、下記類例より皿の可能性が考えられる。色調は黒色系漆を基調とし、赤色系漆による文様を加えられている。文様はスタンプ技法により入組向鶴文を押捺されている。類例は神奈川県鎌倉市佐助ヶ谷遺跡にあり、皿形漆器の内面全体に上下入組の向鶴文を押捺した資料が 3 点出土している（鎌倉市佐助ヶ谷遺跡調査団 1993）。

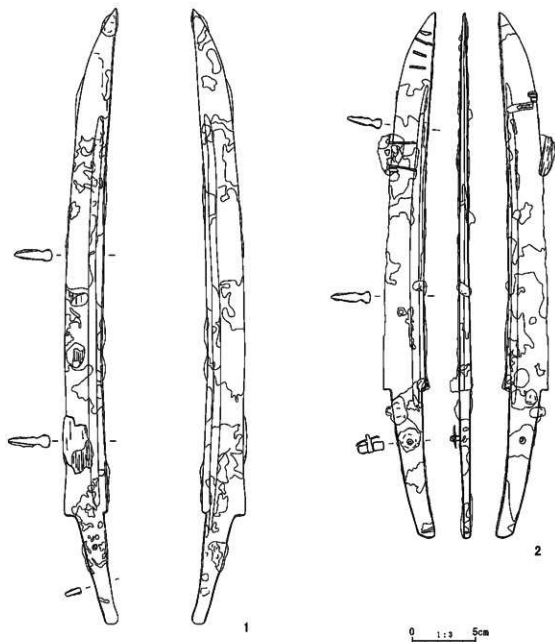
65 は鍔状銅製品に付着して出土した繊維製品で、電子顕微鏡による観察で、絹製品という結果が得られている（VI 章第 5 節参照）。鍔状銅製品に繊維製品が付着した事例は中世アイヌ文化期で伊達市有珠オヤコツ遺跡の方形配石墓Ⅰ号とⅡ号から各 1 例がある（伊達市教育委員会 1993）。また近世アイヌ文化期のシトキに付着した事例で有珠 4 遺跡 GP008 がある（伊達市教育委員会 2009）。民俗資料にはタマサイに赤い布を結びつける例があるため、本土坑墓の繊維製品も同じ性格の可能性がある。

66 は白色金属円板に付着して出土した木片で、厚さ約 2 mm の平坦面を有する。腐食が進行しているため明瞭な加工痕は観察できないが、出土状態からも木棺側板の一部と考えられる。伊達市オヤコツ遺跡方形配石Ⅱ号（伊達市教育委員会 1993）には木棺の痕跡が図化されている。

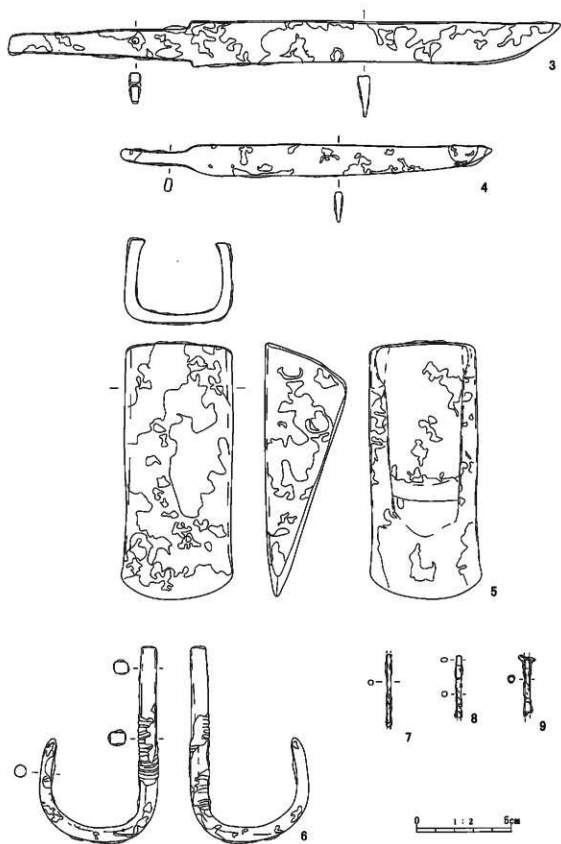
土坑墓の構造：本土坑墓の構造を想定する上で以下の 4 項目が注意される。1) 堆積状態において主体部上部が長方形に近いプランで落ち込んでいたこと。2) 副葬品出土状態においてガラス玉、古銭の垂直分布が大きかったこと。3) 副葬品の大半が主体部北壁際に直列して配置されていたこと。4) シトキとして使用されたと考えられる鍔状銅製品が直立し、主体部内側の面に木片が付着して出土したこと。以上の項目により、本土坑墓は木棺を使用した墓であった可能性が高い。全体の構築過程としては、段丘崖の傾斜地を削平し、排出された土の一部を平坦面の整地に利用する。それ以外の土は封土に使用する分を残して斜面下方に流す。作出した平坦面中央に主体部の土坑を掘削する。主体部内に遺体を収めた木棺を設置し、木棺と土坑との間隙に副葬品を置く。主体部内の間隙と上位に封土を盛る。埋土中に散逸して出土したガラス玉、古銭、鉄斧、漆器皿塗膜は、木棺直上か封土上かは不明だが、木棺より上位に副葬された可能性が高い。

土坑墓の時期：土坑墓の時期を推定する資料として、副葬品の漆器皿塗膜、ガラス玉、メノウ玉、古銭、鉄斧がある。漆器皿塗膜に認められたスタンプ技法による施文は、本州では鎌倉～南北朝期までが生産・流通の主な時期とされ（四柳 1995）、類例の出土している鎌倉市佐助ヶ谷遺跡（鎌倉市佐助ヶ谷遺跡調査団 1993）の年代も13世紀中葉～15世紀前葉までが主体である。塗膜のAMS年代測定結果では14世紀代とする結果を得ているため、その頃に生産されたものと推定できる。

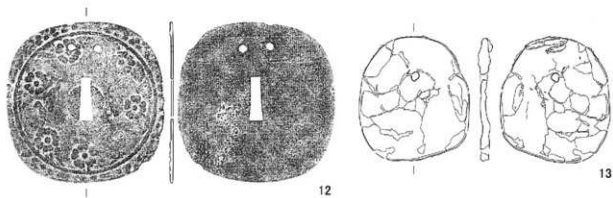
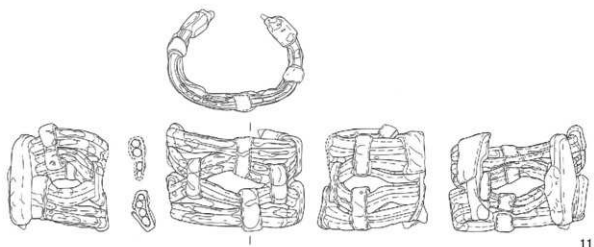
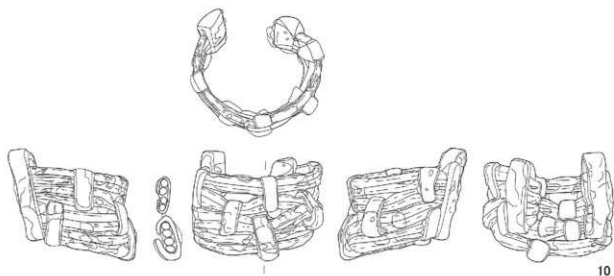
入組文を伴うガラス玉は道内他遺跡出土のガラス玉と同様大陸からの搬入品と考えられる。しかし道内各地の15世紀以降に位置付けられるアイヌ文化期土坑墓副葬品では青色系統無文の丸玉やミカン玉が主流（余市町教育委員会 2000、恵庭市教育委員会 2000、千歳市教育委員会 1982、瀬棚町教育委員会 1985）で、入組文を施文したガラス玉は確認できない。一方根室市穂香穴群で出



図Ⅱ-16 1号土坑墓出土遺物(1)



図II-17 1号土坑墓出土遺物(2)



図Ⅱ-18 1号土坑墓出土遺物(3)

0 1:2 5cm



至道元寶 (995年初鑄)



祥符元寶 (1008年初鑄)

祥符通寶 (1008年初鑄)



天聖元寶 (1023年初鑄)

嘉祐元寶 (1056年初鑄)



熙寧元寶 (1068年初鑄)



元豐通寶 (1078年初鑄)



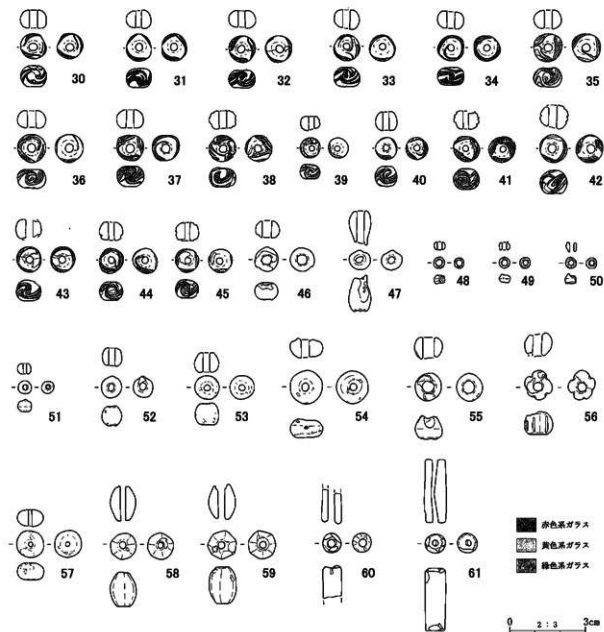
景定元寶 (1260年初鑄)



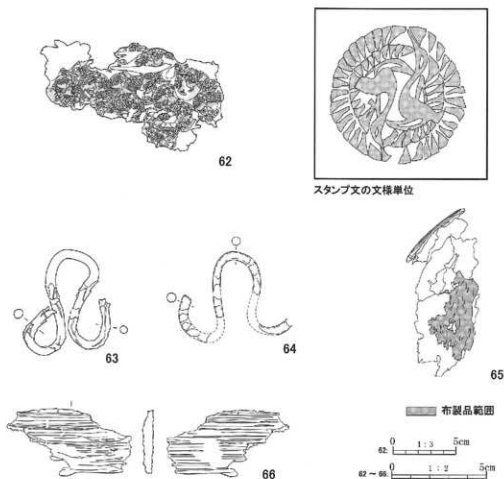
図II-19 1号土坑墓出土遺物(4)

土した擦文文化期後期のガラス玉は、入組文は含まれていないが、風化の状態がオニキシペ2遺跡とよく類似し、表面が剥がれるように砕ける状態であった。こうした状況から、入組文ガラス玉は、擦文後期から14世紀頃までの間に道内に搬入された玉である可能性が高い。さらにガラス玉と共に出土したメノウ製の丸玉、切子玉、管玉は、金時代の沿海地方シャイガ城郭跡やアムール川流域バクロフカ文化のルダンニコウヴァ墓群において同色メノウを素材とした同形態の玉が出土している(北海道開拓記念館 1994)。いずれの遺跡も13世紀以前に位置付けられている。

古銭は全部で16枚が副葬されているが、初鑄年代の最も新しいものは1260年初鑄の景定元寶(南宋)で、洪武通寶、永楽通寶といった明銭は含まれていない。わずかに16枚の中での組合せであるが、土坑墓の古さを示す1つの目安となるであろう。



図II-20 1号土坑墓出土遺物(5)



図II-21 1号土坑墓出土遺物(6)

本州では基部断面「コ」字形の鉄斧は平安後期の遺跡から多く出土し、15世紀代には鉞形鉄斧に置き換わるという(笹田 2009)。上幌内モイ遺跡で検出したアイヌ文化期の9号平地式住居跡では同形態の鉄斧2点が、オニキシベ2遺跡1号平地式住居跡では同形態と推定される鉄斧刃部1点を伴っており、いずれも住居跡炉跡採取の炭化種子AMS年代測定では14世紀代とする結果を得ている(第VI章第2節)。こうした出土傾向から、断面「コ」字形基部の鉄斧は平安後期～南北朝期頃まで生産、流通した可能性が高い。

以上のように副葬品の中で生産、流通時期を推定しえる4種いずれもが14世紀よりも古い時期を示す。この内、漆器血塗膜の年代測定を積極的に考慮すれば、14世紀代に構築された土坑墓と考えられるであろう。なお本土坑墓主体部の北西側延長上には、厚真川対岸の段丘上に形成されたヲチャラセナイチャシ跡を正面にしている。以下に記載するⅢGP-02～04と異なり、段丘崖途中を造成した上での選地を考慮すると、構築に際しチャシ跡を意識した可能性が高く、この場合本土坑墓はチャシ跡の使用年代より新しい時期の形成となる。

表Ⅱ-15 ⅢGP-01属性表

押図 番号	図版 番号	層位	グリッド	計測 対象	平面形		調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		長さ (cm)	長軸 方向	備考
					調査面/ 坑底面	調査面/ 坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸			
Ⅱ-13	9-2	ⅢbM	Z-AA- 21-21	造成部	隅丸方形/ -	660	534	-	-	-	-		
Ⅱ-15	9-3			主体部	長方形/ 長方形	228	96	210	84	16	N-45°W		

表Ⅱ-16 ⅢGP-01墓標穴属性表

押図 番号	図版 番号	遺構名	規模(cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅱ-14	11-8	ⅢGP-01	14	4	38	4	打込み	

表Ⅱ-17 ⅢGP-01出土遺物属性表

押図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-16-1	64-1-1	-	18901	小刀	-	2	ⅢGP-01	Z-21	485.0	35.1	10.9	340.0	Ir.	
Ⅱ-16-2	64-1-2	-	18900	小刀	-	2	ⅢGP-01	Z-21	425.0	34.6	10.1	320.0	Ir.	
Ⅱ-17-3	65-1-3	-	18902	短刀	-	2	ⅢGP-01	Z-21	291.5	21.9	5.7	96.7	Ir.	
Ⅱ-17-4	65-1-4	-	18896	刀子	-	2	ⅢGP-01	Z-21	197.0	16.3	4.2	32.9	Ir.	
Ⅱ-17-5	65-1-5	-	18903	鉄斧	-	1	ⅢGP-01	Z-21	137.1	60.3	47.8	615.0	Ir.	
Ⅱ-17-6	65-1-6	-	18899	鉤状製品	-	2	ⅢGP-01	Z-21	107.2	61.9	9.9	47.7	Ir.	
Ⅱ-17-7	65-1-7	-	18897-2	針	-	2	ⅢGP-01	Z-21	38.5	2.9	2.1	0.6	Ir.	
Ⅱ-17-8	65-1-8	-	18898	針	-	2	ⅢGP-01	Z-21	32.7	2.9	2.6	0.7	Ir.	
Ⅱ-17-9	65-1-9	-	18905	針	-	2	ⅢGP-01	Z-21	32.3	3.0	2.7	0.9	Ir.	
Ⅱ-18-10	67-1-10	-	18897-1	胸輪	-	2	ⅢGP-01	Z-21	71.8	47.4	55.6	101.2	Ir.	
Ⅱ-18-11	67-1-11	-	18897-3	胸輪	-	2	ⅢGP-01	Z-21	74.2	55.2	51.6	98.3	Ir.	
Ⅱ-18-12	66-1-12	-	18922-1	筒状銅製品	-	2	ⅢGP-01	Z-21	86.5	84.2	1.5	57.2	Cu.	
Ⅱ-18-13	66-1-13	-	18922-2	白色金属円盤	-	2	ⅢGP-01	Z-21	66.8	56.6	9.1	36.6	Cu?	
Ⅱ-21-62	69-1-62	-	-	漆喰塗膜片	-	2	ⅢGP-01	Z-21	206.0	101.0	-	-	JP.	
Ⅱ-21-63	69-1-63	-	20102	ニンカリ	-	2	ⅢGP-01	AA-21	66.0	45.0	3.0	-	Tl.	
Ⅱ-21-64	69-1-64	-	20103	ニンカリ	-	2	ⅢGP-01	Z-21	55.0	47.0	4.0	9.0	Tl.	
Ⅱ-21-65	69-1-65	-	18922-3	織維片	-	2	ⅢGP-01	Z-21	-	-	-	-	-	絹
Ⅱ-21-66	69-1-66	-	18922-4	木棺片	-	2	ⅢGP-01	Z-21	66.1	35.2	5.6	1.5	W.	

表Ⅱ-18 ⅢGP-01出土古銭属性表

押図 番号	図版 番号	遺物 番号	個体 名称	遺物名	初鋳 年	層位	計測値(mm)			重量	材質	Z座標	備考
							長軸	短軸	厚さ				
Ⅱ-19-14	67-1-14	18866	-	至道元寶	995	1	24.6	(20.8)	1.1	1.5	Cu.	59.880	
Ⅱ-19-15	67-1-15	18870	-	至道元寶	995	1	24.5	24.5	1.2	2.7	Cu.	59.895	
Ⅱ-19-16	67-1-16	18864	-	祥符通寶	1008	1	24.8	24.8	1.1	3.0	Cu.	59.855	
Ⅱ-19-17	67-1-17	18884	-	祥符通寶	1008	2	24.7	24.5	0.9	1.8	Cu.	59.725	
Ⅱ-19-18	67-1-18	18869	-	天聖元寶	1023	1	24.1	23.1	1.4	2.7	Cu.	59.895	
Ⅱ-19-19	67-1-19	18869	-	嘉祐元寶	1056	1	24.5	25.2	1.2	1.8	Cu.	59.809	
Ⅱ-19-20	67-1-20	18861	-	熙寧元寶	1068	1	22.9	22.7	1.4	2.3	Cu.	59.805	
Ⅱ-19-21	67-1-21	18862	-	熙寧元寶	1068	1	22.1	22.1	1.2	1.7	Cu.	59.823	
Ⅱ-19-22	67-1-22	18867	-	熙寧元寶	1068	1	23.7	23.7	1.2	1.9	Cu.	59.838	
Ⅱ-19-23	67-1-23	18907	-	熙寧元寶	1068	2	24.7	24.8	1.0	2.6	Cu.	59.741	
Ⅱ-19-24	67-1-24	18859	-	元豐通寶	1078	1	23.6	23.7	1.3	2.7	Cu.	59.822	
Ⅱ-19-25	67-1-25	18865	-	元豐通寶	1078	1	24.5	24.6	1.2	2.3	Cu.	59.828	
Ⅱ-19-26	67-1-26	18868	-	元豐通寶	1078	1	23.1	23.9	1.3	2.4	Cu.	59.810	
Ⅱ-19-27	67-1-27	18889	-	元豐通寶	1078	1	23.7	23.7	1.7	4.2	Cu.	59.793	
Ⅱ-19-28	67-1-28	18890	-	元豐通寶	1078	1	25.0	25.1	1.2	2.9	Cu.	59.788	
Ⅱ-19-29	67-1-29	18863	-	景定元寶	1260	1	22.7	23.0	1.4	1.9	Cu.	59.862	

表Ⅱ-19 ⅢGP-01出土ガラス玉属性表

神宮 番号	図版 番号	遺物 番号	形態	材質	基本色	文様色	文様種	透過状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	Z線標	分析
Ⅱ-20-30	68-1-30	10009	丸玉	ガラス	白系	赤系	入組	不透明	9.3	9.1	8.0	0.97	59.822	
Ⅱ-20-31	68-1-31	18836	丸玉	ガラス	白系	赤系	入組	不透明	8.9	9.8	7.2	1.04	59.808	●
Ⅱ-20-32	68-1-32	18824	丸玉	ガラス	白系	赤系	入組	不透明	9.5	9.6	6.6	1.01	59.761	
Ⅱ-20-33	68-1-33	18838	丸玉	ガラス	白系	赤系	入組	不透明	9.6	9.5	7.4	1.09	59.808	
Ⅱ-20-34	68-1-34	18893	丸玉	ガラス	白系	赤系	入組	不透明	9.7	9.3	6.5	1.06	59.724	
Ⅱ-20-35	68-1-35	18822	丸玉	ガラス	白系	黄系	入組	不透明	10.2	9.8	7.1	1.15	59.800	
Ⅱ-20-36	68-1-36	10007	丸玉	ガラス	白系	黄系	入組	不透明	9.7	10.0	6.4	1.10	59.842	●
Ⅱ-20-37	68-1-37	18917	丸玉	ガラス	白系	緑系	入組	不透明	10.1	9.2	6.8	1.03	59.727	
Ⅱ-20-38	68-1-38	18845	丸玉	ガラス	緑系	緑系	入組	不透明	9.1	9.4	6.4	0.91	59.922	
Ⅱ-20-39	68-1-39	18835	丸玉	ガラス	白系	緑系	入組	不透明	7.1	7.2	4.9	0.44	59.819	
Ⅱ-20-40	68-1-40	18853	丸玉	ガラス	白系	緑系	入組	不透明	7.4	7.6	6.8	0.72	59.728	
Ⅱ-20-41	68-1-41	18850	丸玉	ガラス	白系	緑系	入組	不透明	9.3	8.7	7.2	1.00	59.763	
Ⅱ-20-42	68-1-42	18853	丸玉	ガラス	白系	緑系	入組	不透明	9.8	8.8	8.5	1.15	59.719	●
Ⅱ-20-43	68-1-43	18861	丸玉	ガラス	白系	緑系	入組	不透明	8.9	8.8	7.6	0.91	59.811	
Ⅱ-20-44	68-1-44	18879	丸玉	ガラス	白系	緑系	入組	不透明	8.4	8.1	6.9	0.82	59.805	
Ⅱ-20-45	68-1-45	18826	丸玉	ガラス	白系	緑系	入組	不透明	8.6	8.4	6.7	0.72	59.804	
Ⅱ-20-46	68-1-46	18915	丸玉	ガラス	白系?	?	?	不透明	7.0	9.0	7.0	0.31	59.730	
Ⅱ-20-47	68-1-47	18909	しずく玉	ガラス	白系?	-	-	不透明	13.0	8.5	13.0	1.16	59.738	●
Ⅱ-20-48	68-1-48	18921	丸玉	ガラス	淡青系?	-	-	不透明	3.5	3.4	2.7	0.04	59.718	
Ⅱ-20-49	68-1-49	18886	丸玉	ガラス	淡青系?	-	-	不透明	3.8	3.7	2.7	0.04	59.783	
Ⅱ-20-50	68-1-50	18877	丸玉	ガラス	淡青系?	-	-	不透明	3.8	3.7	2.8	0.03	59.792	●
Ⅱ-20-51	68-1-51	18920	丸玉	ガラス	青系	-	-	不透明	4.9	4.4	4.0	0.22	59.724	●
Ⅱ-20-52	68-1-52	18823	丸玉	ガラス	青系	-	-	不透明	8.0	8.0	7.0	0.61	59.767	
Ⅱ-20-53	68-1-53	18914	丸玉	ガラス	青系	-	-	不透明	8.6	8.3	8.0	0.91	59.732	
Ⅱ-20-54	68-1-54	10008	丸玉	ガラス	青系	-	-	不透明	12.0	12.1	6.7	1.64	59.815	●
Ⅱ-20-55	68-1-55	18828	丸玉	ガラス	青系	-	-	透明	10.7	10.6	9.1	1.28	59.814	●
Ⅱ-20-56	68-1-56	18833	ミカン玉	ガラス	青系	-	-	不透明	10.5	10.9	9.4	1.37	59.814	●
Ⅱ-20-57	68-1-57	18825	丸玉	メノウ	-	-	-	不透明	9.7	9.4	6.5	1.10	59.786	●
Ⅱ-20-58	68-1-58	18840	切子玉	メノウ	-	-	-	不透明	10.2	10.3	13.3	2.10	59.818	
Ⅱ-20-59	68-1-59	18849	切子玉	メノウ	-	-	-	不透明	10.5	11.3	15.0	2.47	59.736	
Ⅱ-20-60	68-1-60	18848	管玉	メノウ	-	-	-	不透明	7.5	7.8	13.0	3.25	59.745	
Ⅱ-20-61	68-1-61	18872	管玉	メノウ	-	-	-	不透明	11.5	7.0	7.5	1.21	59.797	
-	-	18827	丸玉	ガラス	白系	?	?	不透明	-	-	-	0.91	59.792	
-	-	18829	丸玉	ガラス	白系	緑系	入組	不透明	-	-	-	0.82	59.810	
-	-	18830	丸玉	ガラス	白系	?	?	不透明	-	-	-	1.17	59.807	
-	-	18831	丸玉?	ガラス	白系	?	?	不透明	-	-	-	0.23	59.783	
-	-	18832	丸玉	ガラス	白系	?	?	不透明	-	-	-	1.05	59.766	
-	-	18834	丸玉	ガラス	白系	緑系	入組	不透明	-	-	-	0.25	59.833	
-	-	18837	丸玉	ガラス	白系	緑系?	入組	不透明	-	-	-	0.48	59.818	
-	-	18839	丸玉?	ガラス	白系	?	?	不透明	-	-	-	0.13	59.874	
-	-	18841	丸玉	ガラス	白系	緑系	入組	不透明	-	-	-	0.49	59.821	
-	-	18842	丸玉	ガラス	白系	?	?	不透明	-	-	-	0.72	59.819	
-	-	18843	丸玉?	ガラス	白系	?	?	不透明	-	-	-	0.91	59.818	
-	-	18844	丸玉	ガラス	白系	?	?	不透明	-	-	-	0.42	59.818	
-	-	18846	?	ガラス	白系	?	?	不透明	-	-	-	1.48	59.952	
-	-	18847	丸玉?	ガラス	淡青系	?	?	不透明	-	-	-	0.21	59.756	
-	-	18851	丸玉	ガラス	白系	緑系	入組	不透明	-	-	-	0.95	59.751	
-	-	18852	丸玉	ガラス	淡青系?	?	?	不透明	-	-	-	1.21	59.729	
-	-	18854	丸玉	ガラス	白系	緑系	入組	不透明	-	-	-	0.52	59.738	
-	-	18855	?	ガラス	白系	?	?	不透明	-	-	-	0.22	59.763	
-	-	18856	丸玉	ガラス	白系	?	?	不透明	-	-	-	0.21	59.751	
-	-	18857	?	ガラス	淡青系	?	?	不透明	-	-	-	0.80	59.717	
-	-	18858	丸玉?	ガラス	白系	緑系	入組?	不透明	-	-	-	0.18	59.795	
-	-	18871	丸玉	ガラス	白系	?	?	不透明	-	-	-	1.94	59.771	
-	-	18873	丸玉	ガラス	青系	-	-	透明	-	-	-	0.46	59.797	
-	-	18874	丸玉	ガラス	白系	?	?	不透明	-	-	-	0.56	59.771	
-	-	18875	?	ガラス	青系	?	?	不透明	-	-	-	1.90	59.788	
-	-	18876	丸玉	ガラス	緑系	-	-	不透明	-	-	-	2.75	59.767	
-	-	18878	?	ガラス	白系?	?	?	不透明	-	-	-	1.42	59.800	
-	-	18880	丸玉	ガラス	白系	?	?	不透明	-	-	-	1.04	59.804	
-	-	18882	丸玉	ガラス	緑系	-	-	不透明	-	-	-	1.50	59.726	
-	-	18887	丸玉	ガラス	青系	-	-	透明	-	-	-	1.05	59.777	
-	-	18888	丸玉	ガラス	淡青系	-	-	不透明	-	-	-	0.58	59.766	
-	-	18891	丸玉?	ガラス	淡青系?	?	?	不透明	-	-	-	0.81	59.720	
-	-	18892	丸玉?	ガラス	白系	?	?	不透明	-	-	-	0.67	59.736	
-	-	18894	?	ガラス	白系?	?	?	不透明	-	-	-	1.57	59.715	
-	-	18895	丸玉	ガラス	白系	-	-	不透明	-	-	-	1.09	59.756	

表Ⅱ-19 ⅢGP-01出土ガラス玉属性表(続き)

検出 番号	図版 番号	遺物 番号	形態	材質	基本色	文様色	文様種	透過状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	Z線標	分析
-	-	18904	丸玉	ガラス	青系	-	-	透明	-	-	-	0.51	59.745	
-	-	18908	丸玉	ガラス	白系	?	?	不透明	-	-	-	0.88	59.735	
-	-	18910	丸玉	ガラス	映青系	?	?	不透明	-	-	-	0.99	59.733	
-	-	18911	丸玉?	ガラス	緑系	?	?	不透明	-	-	-	1.31	59.734	
-	-	18912	?	ガラス	青系	?	?	不透明	-	-	-	0.24	59.730	
-	-	18913	丸玉	ガラス	白系	赤系	入組	不透明	-	-	-	0.71	59.733	
-	-	18916	丸玉	ガラス	映青系	-	-	不透明	-	-	-	0.36	59.728	
-	-	18918	?	ガラス	青系	?	?	不透明	-	-	-	0.58	59.721	
-	-	18919	?	ガラス	白系?	?	?	不透明	-	-	-	0.10	59.718	

2号土坑墓〔ⅢGP-02〕 (図Ⅱ-22～25 図版12,13)

位置：AG-AH-21区

規模：〔造成部〕558×456cm 〔主体部〕204×90×40cm

〔封土〕390×324×12cm

遺構の用語：1号土坑墓の用語に順ずる。

主体部平面形：長方形

長軸方向：N-24° W

頭位：南南東

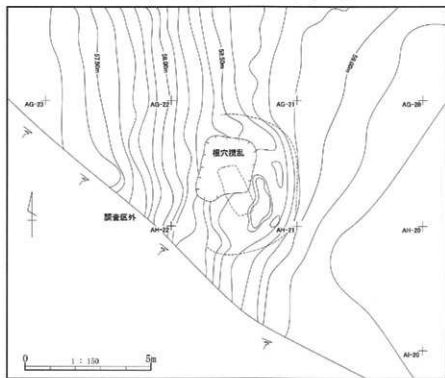
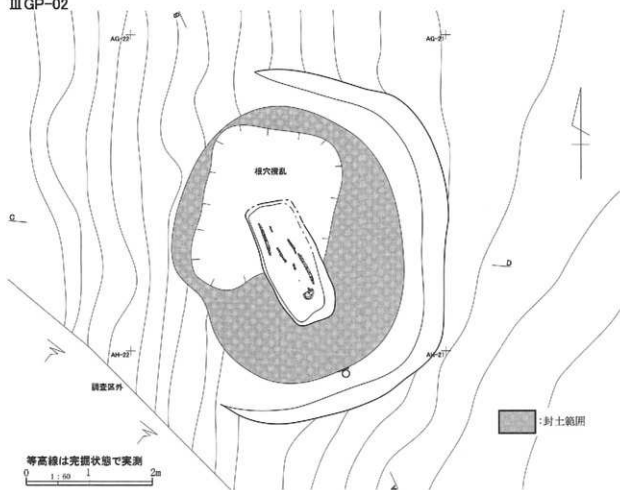
確認・調査：Ⅲ層上面を検出した際、AG-AH-21区の傾斜地で半円形の窪みを確認した。堅穴住居跡の可能性を想定し、堆積状態観察を目的にトレンチを掘削したところ、トレンチ内部から刀が出土したため土坑墓であることを把握した。周辺地形の測量を行った後、セクションラインを設定して主体部掘削を開始した。調査は足元側と想定した北半分を先行して進めたが、根の影響により坑底面、及び壁面が不明瞭であったため、掘り過ぎている。南半分については副葬品出土位置を基に坑底面の検出を行った。堆積状態を記録した後、設定したベルトの掘削を行ったところ、ベルト下位より脚部、頭蓋骨といった人骨が出土したため、バインダー溶液で補強しながら慎重に検出を進めた。主体部外では造成部と封土によって形成された溝状の窪みを構築時の面まで掘削した。また主体部長軸南側延長上で刀が出土し、その脇で円形のⅢb 落ち込みを確認したためトレンチで断面を観察し、墓穴であると判断した。人骨、副葬品、及び主体部壁面を検出した後、出土状態の記録を行い、取り上げを行った。副葬品の刀には木質が残存していたためパラロイドB72を滴下し、人骨にはバインダー溶液を繰り返し含浸させ補強した上で取り上げを行った。

造成部(図Ⅱ-22)：造成部は段丘縁を掘削して構築されている。攪乱を受けていたが、段丘崖低位への排出土がほとんど認められなかったため、掘削土のほとんどは平坦面の造成と封土に利用されたと考えられる。段丘崖高位側で認められる壁はなだらかに立ち上がり、造成部全体の平面形は不整形を呈する。

主体部形態(図Ⅱ-24)：北半分が根により大きく攪乱されていたが、204×90cmの規模を測る長方形プランの主体部を形成している。壁面は急角度に立ち上がり、最も深い位置で40cmであった。坑底面はⅤ層中に形成され、明確に把握し得た南半分ではほぼ水平に構築されていた。

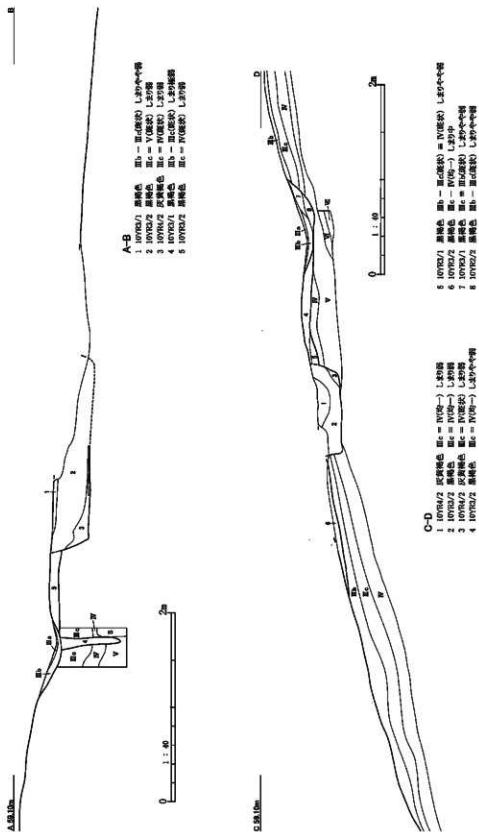
堆積状態(図Ⅱ-23)：主体部内にはⅢc、Ⅳ層主体土が堆積していた。壁面の崩れと判断される堆積、及び主体部上位のⅢb 層落ち込み状態は根穴攪乱の影響で不明瞭であった。主体部外では封土として盛られた堆積と、封土と造成部壁面との間にある溝中に斜面上方から流れ込んだ堆積土が確認できた。ⅢGP-01と異なり、土坑墓検出地点の斜面下方側には造成時の掘り上げ土は排出されていないことから、ほとんどが封土として再利用されたと考えられる。溝内部には斜面上方からの流入

ⅢGP-02



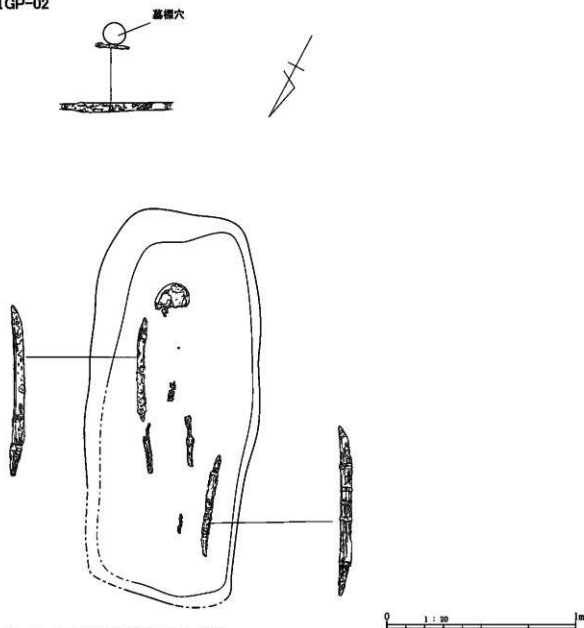
Ⅲ層上面等高線図

図Ⅱ-22 2号土坑墓(ⅢGP-02)



図Ⅱ-23 2号土坑墓断面

III GP-02

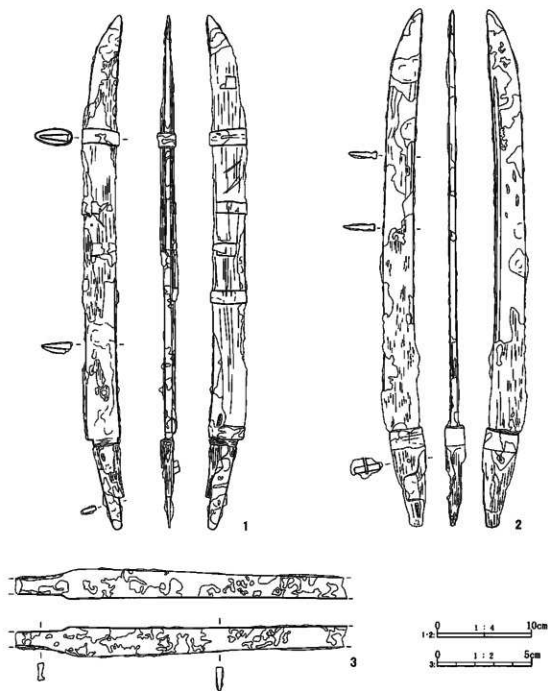


図II-24 2号土坑墓副葬品出土状態

土と、自然堆積のⅢb層が厚く堆積していた。各堆積土の解釈は以下のとおり。A-Bラインの1は主体部上位に堆積した自然堆積のⅢb。A-Bラインの2・3、C-Dラインの1~3は主体部内埋土。A-Bライン4は墓標穴覆土。A-Bライン5とC-Dライン4~6は封土。C-Dライン7・8は斜面上方から溝内部への流れ込み。

墓標穴：主体部長軸南側延長上の封土切れ目において直径14cmの規模を測る円形のⅢb落ち込みを確認した。半截して断面の観察を行った結果、先端部が尖る打ち込み杭痕であることを確認できたため、墓標穴と判断した。64cmの深さで打ち込まれ、先端部付近は大型の礫に接触している。

出土遺体：出土した遺体は遺存状態が悪く、頭蓋骨と椎骨、大腿骨及び脛骨の一部が残存する状態であった。主体部南東側に頭蓋骨が出土し、北西側で大腿骨と脛骨が直列して出土したことから、伸展葬で埋葬されたことが把握できた。



図Ⅱ-25 2号土坑墓出土遺物

副葬品出土状態(図Ⅱ-24)：副葬品は主体部内において、東壁際の遺体右腕脇にあたる位置と、西壁際の左脚脇にあたる位置でそれぞれ刀が1振りずつ出土した。また主体部外では墓標穴の脇で刀子が1点出土した。主体部内の刀は坑底面上に水平に置かれていた。

出土遺物(図Ⅱ-25)：1・2は平棟平造の刀で、1は刀身長448mm、2は刀身長440mmを測る。共に鞘、柄の木質が錆化して遺存し、錆で覆われているが刀身には樋が認められる。1の鞘には樹皮留めの痕と思われる所が6ヵ所認められ、茎には目釘が残る。2の茎には目釘は無いが、目釘穴は確認できた。3は刀子で主体部外の墓標穴脇で出土したため遺存状態が悪く、切先と茎尻が失われてい

る。茎の縁辺には成形時の潰れが確認できる。

土坑墓の構造：段丘縁に不整形平面プランの造成を加え平坦面を作出し、その中央に主体部を構築している。木棺構造の有無についてはその存在を想定するに足る痕跡を得ていないため不明である。ⅢGP-01と異なる点は、造成時掘削土のほぼ全量を封土として利用していることである。その結果、高さのある封土が形成され、構築時の見た目では造成部壁面との間に溝状の窪みが廻る状態となっている。墓標穴は封土を盛った後に打ち込まれている。立地の違いはあるが、こうした構築方法は上幌内モイ遺跡のⅢGP-01と共通している。

土坑墓の時期：副葬品に土坑墓の時期を推定し得る資料は含まれていない。ただし以下の2点が注意できる。1) 主体部内に副葬された刀剣類には錆化した状態であるが鞘、柄の木質が良好に遺存していた。2) 土坑墓の形成場所がⅢGP-01・03よりもオニキシベ川筋側に位置し、地形的に狭い範囲に形成されていた。以上より、ⅢGP-01・03よりは新しい土坑墓の可能性が高い。

表Ⅱ-20 ⅢGP-02属性表

押図 番号	図版 番号	層位	グリッド	計測 対象	平面形	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸 方向	備考
					調査面/ 坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸			
Ⅱ-22	12-2	Ⅲbm	AG-21 AH-21	造成部	不整形/ -	558	456	-	-	-	-	
Ⅱ-24	-			主体部	長方形/ 長方形	204	90	186	78	40	N-24°W	

表Ⅱ-21 ⅢGP-02墓標穴属性表

押図 番号	図版 番号	遺構名	規模(cm)			傾き (度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅱ-23	13-3	ⅢGP-02	14	4	64	6°	打込み	

表Ⅱ-22 ⅢGP-02出土物属性表

押図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-25-1	70-1-1	-	19681	刀	-	2	ⅢGP-02	AG-21	540.0	37.8	17.4	480.0	Iron	
Ⅱ-25-2	70-1-2	-	19682	刀	-	2	ⅢGP-02	AG-21	552.0	33.2	8.2	460.0	Iron	
Ⅱ-25-3	70-1-3	-	18337	刀	-	Ⅲbm	ⅢGP-02	AH-21	176.5	14.5	3.5	26.7	Iron	

3号土坑墓〔ⅢGP-03〕 (図Ⅱ-26～32 図版14, 15)

位置：AE・AF-21・22区

規模：〔造成部〕720×552cm 〔主体部〕288×120×32cm

〔封土〕416×272×12cm

遺構の用語：1号土坑墓の用語に順ずる。

主体部平面形：長方形 長軸方向：N-84°E 頭位：東

確認・調査：Ⅲ層上面の清掃後、AF-21区において東西方向に長い長楕円形の窪みを確認した。土坑墓の可能性を想定しトレンチを掘削したところ、内部から鉄製品が出土したため土坑墓と判断し、ⅢGP-03とした。周囲の地形測量を行った後、窪みに合わせて十字にベルトを設定した上で掘削を開始した。主体部外側のトレンチ内堆積状態を観察した結果、ⅢGP-01と同様主体部周囲を広く造成し、平坦面を作出していることが把握できた。主体部の調査は西半分側からはじめたが、坑底面

の認識を誤り深く掘り過ぎている。なおこの掘削時にベルト壁面で鉄鍋の底部が露出した。北半側の掘削時には刀1振と棒状鉄片が出土したため、出土位置に残しながら坑底面の検出に努めた。堆積状態の記録後ベルトを外したが、ベルト内部から刀剣類8本の他、板状の木製品が出土し、さらにこれら副葬品の下位に頭蓋骨、主体部西半分側で大腿骨が出土し、人骨も遺存していることを確認した。副葬品と人骨を慎重に検出した後、出土状態の記録を行った。

記録後、大腿骨と鉄鍋の他、刀剣類8本の内、板状木製品に接していない資料について取り上げを行った。取り上げに際して、刀剣類については資料表面に遺存する脆弱な木質を検出できるように極力下位の土壌も含めて取り上げ、室内で表面の土壌をクリーニングできるようにした。木製品の低位に位置する刀子2本と頭蓋骨は資料を破壊する恐れがあるためそのまま残し、取り上げ方法を慎重に協議した。協議の結果、取り上げに先立ち現場にて資料を補強する必要があると判断したため、パラロイドB72の5%溶液を繰り返し滴下して木製品と刀子の補強を行った。刀子については柄に金属製円盤の象嵌による装飾が確認できたことから柄部分への滴下を重点的に行った。ある程度資料の強度が上がった段階で資料下位の土壌を徐々に除去し土ごと取り上げを行った。木製品と刀子2本の取り上げ後、頭蓋骨周囲に残った土壌を除去した際、頭蓋骨脇で脆弱なニンカリ1点が出たためパラロイドB72で土壌ごと補強して取り上げた。

頭蓋骨はバインダー溶液で補強した上で取り上げている。人骨、副葬品の取り上げ後、主体部内の精査を行ったところ、坑底面東壁際に円形の黒色土落込みを確認した。トレンチを掘削して断面の観察を行った結果、僅かに傾いて打ち込まれた杭痕であることが確認できたため、墓塚穴と判断した。主体部の調査終了後周囲のトレンチを延長し造成部の構造把握に努めた。造成部プラン、掘上げ土プランの確認、記録を行い調査終了した。

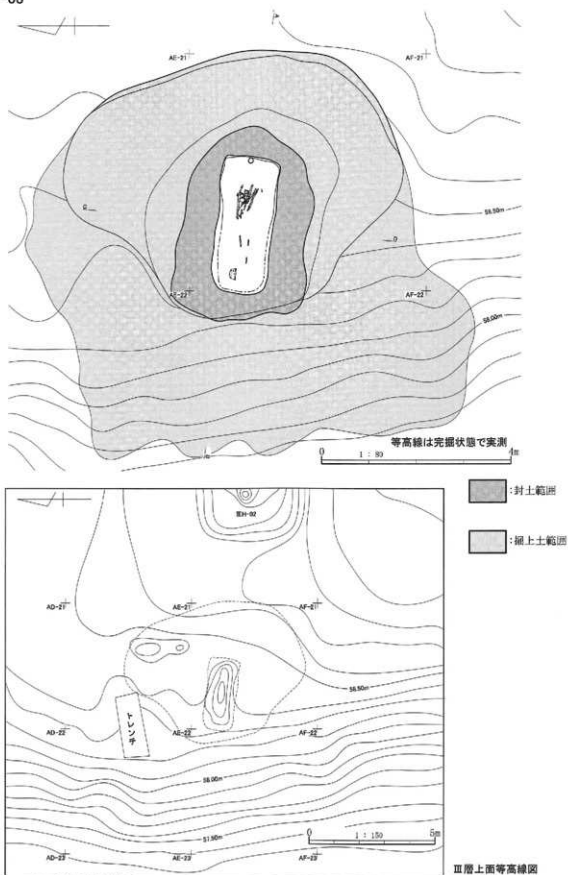
造成部(図Ⅱ-26)：造成部は段丘縁を掘削して構築している。掘削土は造成部平坦面造成時の盛土に利用されているが、その際低位側だけでなく造成部全体に敷いて整地している。残土は一部が封土として利用されている他は、段丘崖低位へと排出している。主体部周囲は円形の範囲で一段深く掘り込まれていた。段丘崖高位側の造成部壁面はゆるやかに立ち上がり、全体の形状は不整形に掘削されている。

主体部形態(図Ⅱ-28)：主体部は288×120cmの規模を測る長方形プランを呈し、掘り込み面からの深さは32cmである。坑底面は水平に形成され、壁面は垂直気味に立ち上がる。

堆積状態(図Ⅱ-27)：主体部内にはⅢc、Ⅴ層主体土が堆積していた。周囲の基本土層Ⅴ層に比べしよりの弱い堆積土である。主体部外にはⅤ層起源のシルト岩や円礫を含むⅢc主体土が広範囲に堆積し、土坑墓より下方の段丘崖まで広がっていた。造成時の掘削土と考えられ、一部を平坦面造成のための盛土と封土に、一部を段丘崖に排出したものと考えられる。以下では上記解釈の基での堆積土各層について記載する。A-Bラインの1・2、C-Dラインの1・2は封土。A-Bラインの3~9、C-Dラインの3~7は主体部埋土。A-Bライン10は墓塚穴覆土。A-Bライン11、C-Dライン8・9は造成整地土。A-Bライン12は造成整地土と段丘崖への排土。主体部埋土については封土の落込みと木棺周囲の埋土とを区別することはできなかった。

墓塚穴：墓塚穴は主体部坑底面の東壁際に検出した。確認時のプランは直径12cmの円形で、半截したところ深さ24cmの打込み杭痕であることがわかった。やや主体部内側に傾いている。

III GP-03



図II-26 3号土坑基全体図

III層上面等高線図

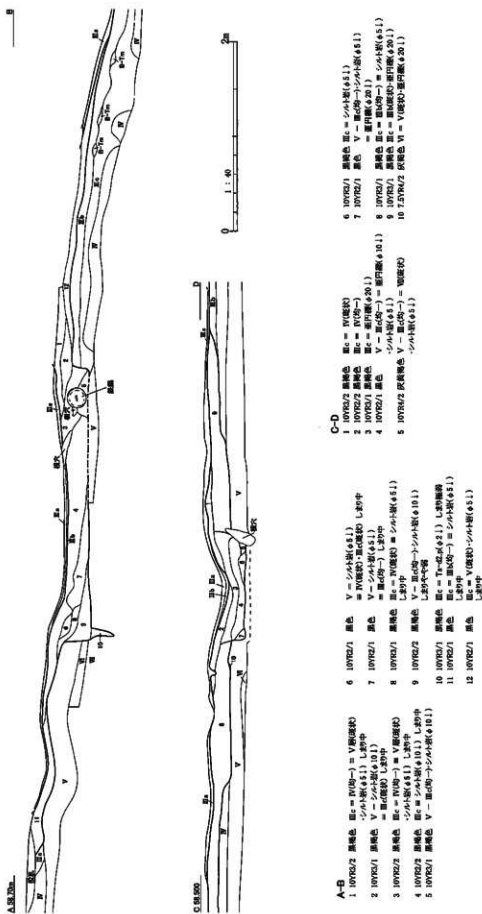


図 27 3号土坑墓断面図

出土遺体：遺体は頭蓋骨と大腿骨及び脛骨の一部が出土した。脚部の骨は遺存状態が悪く骨粉化が著しかったが、頭蓋骨は歯列も残され比較的狀態が良かった。頭蓋骨の直上に銀の金属板を象嵌した副葬品の矢筒が位置していたため、その防腐効果によるものと考えられる。主体部東側に頭蓋骨が出土し、西側で大腿骨と脛骨が直列して出土したことから、伸展葬で埋葬されたことが把握できた。

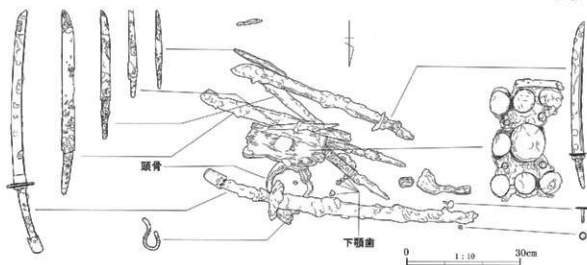
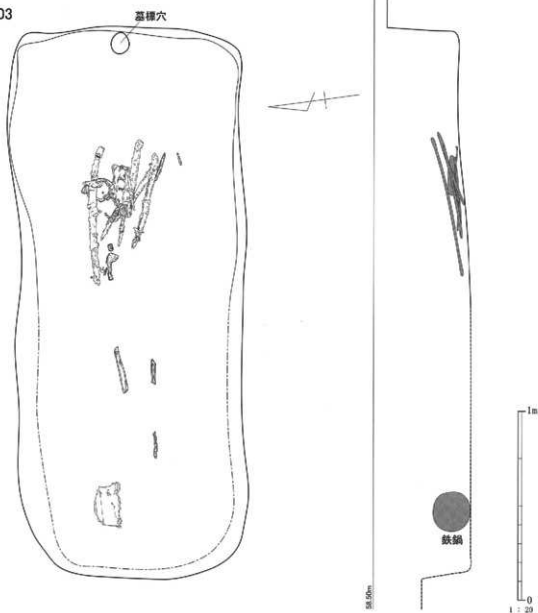
副葬品出土状態(図II-28)：副葬品は主体部中央からやや東よりの位置で刀剣類8振等がまとめて出土した他、西壁近くで鉄鍋が出土している。東側の遺物群は刀2、小刀2、刀子4、針2、矢筒装飾部片1で構成される。この内、刀1振は鏝、切羽、鏹と柄頭の刀装具を伴っていた。柄部脇で目釘と銅製の刀装具が出土したが、本来この刀に伴っていたと考えられる。刀子2本は柄の木質に金属板を象嵌し装飾されたものである。これら刀と刀子は切先を東に向け、小刀等他の5振は西に向けた状態で出土した。矢筒は装飾面を下に向けた状態で出土し、上には装飾のない刀子1本が、下には装飾柄の刀子2本と短刀1振が部分的に重なる配置で出土している。また矢筒の装飾に用いられている金属板の一部は、矢筒本体から外れ約30cm離れた位置で出土している。これら東側の遺物群はいずれも下位に埋土を挟み、傾いた状態で出土した。またこれらの下位には頭蓋骨も出土しているため、本来はより高い位置に置かれたものが落下し、調査時の出土位置に移動したと考えられる。一方鉄鍋は底面を北側に向け、横倒しの状態で出土した。周囲に支えがない限り、不自然な出土状態である。こうした一連の遺物出土状態より、本土坑墓は主体部に木棺が使用され、構築時は内部が空隙状態にあったことを想定できる。東側遺物群は当初木棺の上に置かれていたものが、後に封土と共に主体部内に落ち込み、頭蓋骨上へと落下したと考えられる。一方鉄鍋は木棺と主体部土坑との隙間に、木棺側板を支えに横倒しにして埋納されたと考えられる。

出土遺物(図II-29～32)：1は刀身長552mmの平棟平造の刀である。鏹、切羽、縁金、鏝、柄頭といった刀装具を伴っている。刀身は柄元で強く反る形態で、樋は形成されておらず、柄には目釘穴が1ヵ所確認できる。刀身の身幅と断面等から日本刀の範疇に入ると思われる。鏝は長さ88mm、幅84mmの鉄製のもので、装飾は施されていない。鏝を挟んで両面に組み合わされている切羽と縁金は銅製で、切羽の縁には刻みが入っている。柄頭には目釘穴が開いているが、柄にはこれに対応する穴は開いていなかった。刀装具の様式に統一性がなく、鏝と切羽、縁金を留める針金状の金具も確認できるため、刀装具は別々に集めたものを後から取り付けた可能性が高い。

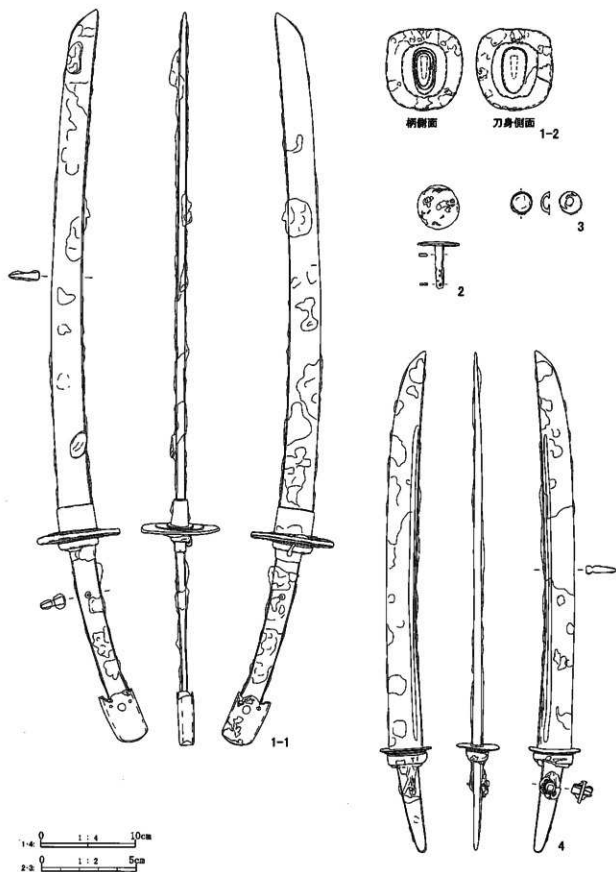
2・3は1の柄の脇で出土したもので、1に組合わされていた目釘と考えられる。銅製で装飾はない。4は刀身長420mmの刀で、刀身は平棟平造で樋が入っている。鏝、切羽、目釘を伴う。鏝は厚さ1mmの銅製で、装飾のない隅丸長方形を呈する。切羽は長さ42mm、幅24mmで、同じく装飾のない長楕円形のものである。目釘は花卉を象り、白銀色の金属を素材としている。柄元には樹皮巻が残されていた。5は刀身長333mmの小刀である。平棟平造で目釘穴は2ヵ所確認できた。6は刀身長188mmの短刀で、平棟平造、銅製の目釘が組合わさっている。

7・8は柄に銀製金属円盤が象嵌された刀子である。いずれも木製の柄が大きく湾曲しているが、本来の形状ではない。取上げ時は湾曲していなかったが、取上げ後に木質部の乾燥を防ぎ、鉄の錆化に影響を及ぼさないために、蒸留水ではなくエタノールで木質部を湿らせたことと、高温多湿であった真夏に発掘現場事務所でポリプロピレンのタッパに保管しただけの状態であったことが原因で湾曲したと考えられる。エタノールは木質部の急激な乾燥を引き起こし、不良な保管環

III GP-03



図II-28 3号土坑墓副葬品出土状態



図II-29 3号土坑墓出土遺物(1)

境がさらに悪化させてしまったためと思われる。今後は複合素材等の遺物が出土した場合、取り上げ後の保管方法について、直ちに文化財保存科学の専門家に相談し保管環境の改善に努めたい。

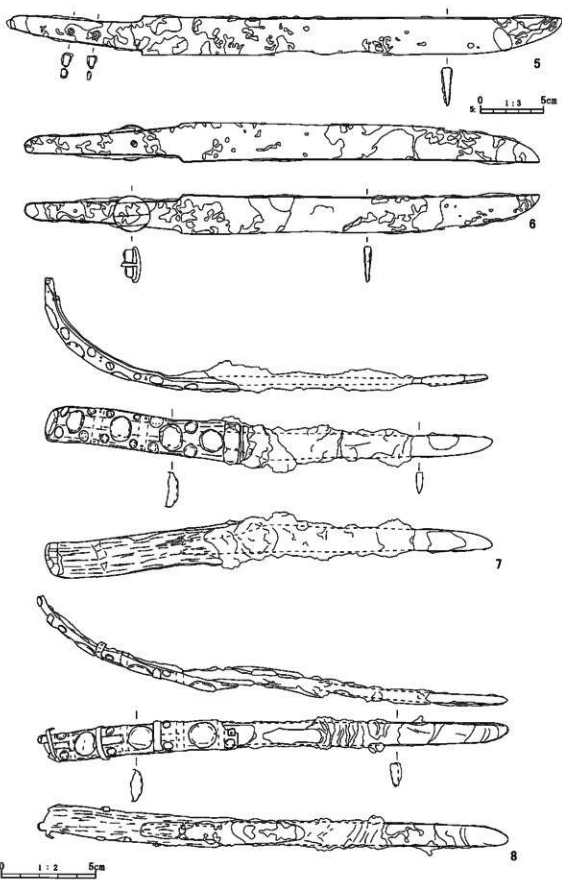
7は長さ236mmで、木質部が変形していなければ310mm程と考えられる。柄に大5個、小10個の円盤を象嵌している。また、2ヵ所に円形に木胎を浮き彫りにした部分があり、小の円盤が抜けた部分と考えられることから、小の円盤は計12個であったと思われる。他に銀製の板状金具1個が柄に直行して付けられている。やや不明瞭であるが、両端を鉄製の紙で留めている。これより柄尻側に2ヵ所木胎の色調が異なる部分があり、その両端にそれぞれ1~2ヵ所の紙の穴が見られることから同じく板状の金具が付けられていたものと思われる。また、X線写真を確認すると紙穴の位置に紙の先端が埋まっていることが判る箇所もある。柄頭は丸く、その縁に沿って紙穴が8ヵ所ある。(図版72-1-7) また、木胎の色調の違いから半円形の金具がつけられていたものと思われる。X線写真より紙穴の数ヵ所には紙の先端が残っている。X線写真等では目釘及び目釘穴は確認できないが、類似する8にはあることから、円盤と位置が重なっており確認できない可能性もある。木質の残存状態から片面のみ装飾されていたと思われるが、装飾していたと考えられる金具は出土していない。

8は柄と刀身は接合されていないが図上で復元を行っている。長さ250mmで木質部が変形していなければ258mmであるが、柄尻は欠損している。柄には大3個、小7個の円盤を象嵌している。大の円盤が抜けたと考えられる部分が1ヵ所ある。銀製の板状金具が柄に直行するもの3個、柄の中央に柄に平行するもの2個がある。それぞれ、木質部の色調の違いから板状の金具が外れたと考えられる部分がある。柄に直行するものは6個、柄に平行するものは1ヵ所である。確認できる部分では柄に平行する金具の上に直行する金具が重なっている。平行する金具に紙穴は見られないが、直行するものには紙穴が確認できるものがある。7と同様にX線写真から紙の先端が木胎に埋まっているものがある。茎には目釘穴がある。また、図示していないがこれに伴う金具が1点あり、紙のついた銀製の板状金具である。9は短刀で、錆で埋もれているが目釘穴があり、茎断面は刃部側に向けて薄くなっている。10は刀子で、茎の断面は方形である。11は出土時錆で覆われた棒状の鉄片であったが、X線撮影の結果、太さ1.5mm程ある棒状片2本が束ねられたものであることがわかった。大きさから考えて針束の可能性が高い。

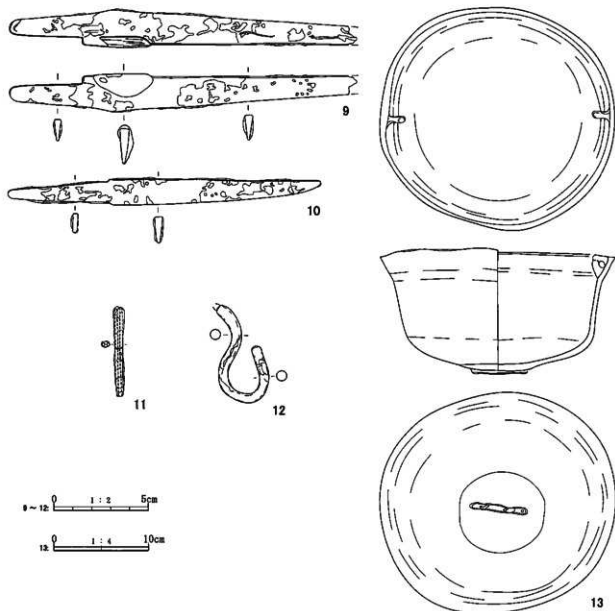
12はニンカリで、遺存状態は悪く土ごとに取り上げた。非鉄金属を素材とするもので、残存部の形状より1号墓の副葬品(図Ⅱ-21-63・64)と同様の「□」形のニンカリ(耳飾り)と考えられる。材質も同じく錫製と考えられる。

13は口径247mmの内耳鉄鍋である。相対する2ヵ所に内耳が形成されている。湯口跡は長さ62mmの一字形で、湯口跡周囲には鳥目跡が確認できる。胴部から底部にかけての屈曲は丸みを帯び、稜は不明瞭である。屈曲線から最底面までの深さは130mmで浅い造りをしている。口唇部は内側に僅かに張り出すが、場所によっては張り出しの無い所もあった。

14は矢筒の装飾部分である。銀製金属円盤の1つが外れ移動していたが、大1個、中8個、小4個の円盤を用い、大中の円盤を九羅文構成に配置している。各円盤は7・8と同様の手法で木胎に象嵌していると考えられる。当初、木胎の上から漆が塗られていると考えていたが、分析の結果樹皮であることが判った(第Ⅵ章第5節)。裏面の木胎の破損部の観察から、木胎と銀製円盤の間にも樹皮が見られる。木胎の上に後から樹皮を貼り付けたものか、もともとの樹皮を剥がさず素材とした



図II-30 3号土坑墓出土遺物(2)



図Ⅱ-31 3号土坑墓出土遺物(3)

ものかは判断できないが、象眼のための加工を行うときにはすでに樹皮があったことが判る。樹皮には横長の皮目が見られる。板状金具の上縁は直角に折り曲げられている部分が確認できる。また、長軸中央に鋳穴が5カ所並んでいるが、裏側の木胎にはこの鋳穴は確認できないことから短い鋳を使用したと考えられる。また、板状金具の破損部から見える樹皮に貫通孔があるが、位置的に鋳穴であるのか破損であるのかは判断できない。この板状の金具と上記の樹皮の間には別の樹皮がある。これは矢筒を巻き付けていたものと思われる。(図版74-1-1 拡大写真) この象嵌の技法は現存する矢筒の民具にも見られる。

土坑墓の構造：土坑墓の構築過程は次のとおり。段丘縁を不整形に掘削し、盛土し平坦面を造成する。造成部中央に長方形の墓坑を掘削し、内部に遺体を収めた木棺を設置する。木棺と墓坑との間隙に鉄鍋を副葬する。木棺周囲と上位に土を盛り、封土を形成する。刀剣類は木棺の直上か封土上

かは明確でないが、木棺より上位に副葬されたと考えられる。また墓標穴は土坑底面からさらに深く打ち込まれているため、封土を盛る前に設置した可能性が高い。

土坑墓の時期：土坑墓の時期を推定する資料として、副葬品の鉄鍋がある。鉄鍋は口唇内側への張り出しが僅かに認められることから14世紀中葉以降の生産と考えられる。また底部から胴部にかけての屈曲が丸みを帯び、屈曲点から最深部までが浅いという特徴が、14世紀後半の小樽市船浜遺跡（小樽市教育委員会 2003）出土例や14世紀～15世紀前半の泊村堀株1遺跡（泊村教育委員会 2004）出土例と共通する。底部形態の特徴は13世紀代以前の岩手県玉貫遺跡（岩手県埋蔵文化財センター 1986）、柳之御所跡出土（岩手県埋蔵文化財センター 1990）例等、中世前半の資料にも共通し、15世紀中葉以降の青森県浪岡城跡（浪岡町教育委員会 1984）出土資料とは異なる。以上の特徴より、本土坑墓の鉄鍋は14世紀中葉から15世紀中葉の年代を与えられる資料と判断した。この時、本土坑墓は副葬品の量・質、及び埋葬方法がⅢGP-01と類似するため、両土坑墓は近い時期に構築された可能性が高い。以上より、本土坑墓の構築時期は14世紀後半頃の可能性がある。

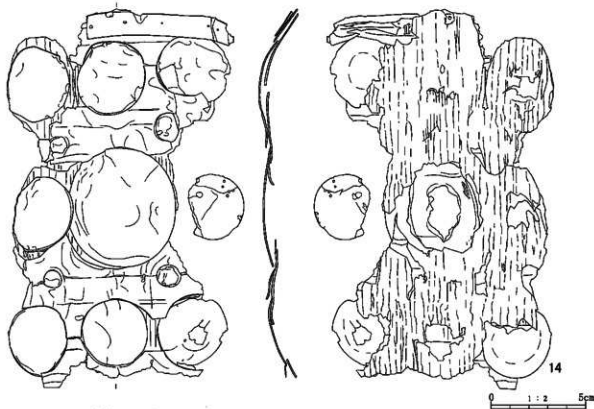


図 II-32 3号土坑墓出土遺物(4)

表 II-23 ⅢGP-03属性表

押図番号	図版番号	層位	グリッド	計測対象	平面形		調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ(cm)	長軸方向	備考
					調査面/坑底面	不整形/-	長軸	短軸	長軸	短軸			
Ⅱ-26	14-3	ⅢbM	AE-21・22	造成部	-	720	552	-	-	-	-	-	
Ⅱ-26	14-2		AF-21・22	主体部	長方形/長方形	288	120	282	102	32	N-84°W		

表 II-24 ⅢGP-03墓標穴属性表

押図番号	図版番号	遺構名	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅱ-27	15-2	ⅢGP-03	12	4	24	12°	打込み	

表Ⅱ-25 ⅢGP-03出土遺物属性表

押図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-29-1	71-1-1	-	19680	刀	-	1	ⅢGP-03	AE-21	775.0	88.1	25.0	1100.0	Im.	
Ⅱ-29-2	71-1-2	-	19678	刀装具	-	1	ⅢGP-03	AE-21	23.3	22.0	21.0	2.8	Cu.	
Ⅱ-29-3	71-1-3	-	19679	刀装具	-	1	ⅢGP-03	AE-21	11.5	10.9	4.0	0.9	Cu.	
Ⅱ-29-4	71-1-4	-	19675	刀子	-	1	ⅢGP-03	AE-21	540.0	58.0	46.8	440.0	Im.	
Ⅱ-30-5	72-1-5	-	19685	小刀	-	1	ⅢGP-03	AE-21	441.0	31.8	9.1	240.0	Im.	
Ⅱ-30-6	72-1-6	-	19684	短刀	-	1	ⅢGP-03	AE-21	269.5	18.9	4.5	49.3	Im.	
Ⅱ-30-7	72-1-7	-	26093	磨製鍔刀子	-	2	ⅢGP-03	AE-21	236.0	25.0	14.0	36.3	Im.	
Ⅱ-30-8	72-1-8	-	26094	磨製鍔刀子	-	3	ⅢGP-03	AE-21	(250.0)	17.0	12.0	36.8	Im.	
Ⅱ-31-9	73-1-9	-	19677	刀子	-	1	ⅢGP-03	AE-21	(183.0)	19.6	6.9	32.7	Im.	
Ⅱ-31-10	73-1-10	-	19676	刀子	-	1	ⅢGP-03	AE-21	166.0	13.8	5.0	16.7	Im.	
Ⅱ-31-11	73-1-11	-	19674	棒状鉄片	-	1	ⅢGP-03	AE-21	47.9	5.3	4.0	2.3	Im.	
Ⅱ-31-12	73-1-12	-	20081	ニソカリ	-	2	ⅢGP-03	AE-21	(55.0)	28.0	5.0	-	Tl.	
Ⅱ-31-13	73-1-13	-	19633	内耳鉄鋼	-	2	ⅢGP-03	AE-21	247.0	235.0	130.0	1780.0	Im.	
Ⅱ-32-14	74-1-1	-	26095	矢筈	-	1	ⅢGP-03	AE-21	(193.0)	(114.7)	8.6	37.5	W.	

4号土坑墓(ⅢGP-04) (図Ⅱ-33~35 図版16)

位置: AH・AI-20区 規模: [主体部] 202×70×38cm

主体部平面形: 長方形 長軸方向: N-31° W 頭位: 南南東

確認・調査: 本土坑墓はⅢ層調査時での確認ができず、Ⅴ層調査中に検出した。AI・AH-20区の調査区壁際でⅢc主体土の落ち込みを確認したためトレンチを設定したところ、中から金属製品が出土した。土坑墓と判断し周囲の精査を行った結果、南東-北西方向に長い長方形プランのⅢc落ち込み範囲を確認した。調査区周囲は約50cm幅で安全帯として残っていたが、落ち込みはその奥まで延びていた。そこで安全帯外側段丘崖面の精査を行ったところ、土坑墓断面がごく一部だけみえていたため、ほぼ安全帯の中で収まる配置に構築されていると判断し、ベルトの設定を行った。主体部掘削は当初調査区内から始め、その後安全帯内部へと進めた。Ⅴ層中での確認であったため、すぐに坑底面に達し、副葬品の刀2振と刀子1本を確認した。調査区壁面と設定したベルトで堆積状態の記録を行った後、ベルトを掘削したところ、下位から頭部と脚部の人骨が出土したため、慎重に検出を行った。副葬品には木質部が多く遺存していたため、出土状態の記録後にバラロイドB72で補強した上で取り上げを行った。人骨についてはバインダー溶液を繰り返して塗り布して補強した上で取り上げを行った。調査区外段丘崖が崩落していたため、墓標穴の有無を確認することはできなかった。

主体部形態(図Ⅱ-33): 主体部は202×70cmの長方形で、確認面からの深さは38cmであった。坑底面は水平で、壁面は急角度で立ち上がっている。

堆積状態(図Ⅱ-34): 主体部内の堆積土はしまりの弱いⅢc、Ⅳ、Ⅴ層主体土で構成される。同質の土が主体部外へと続いていたため、封土が形成されていたと考えられる。また調査区壁面で観察できた堆積状態では、Ⅳ層上面まで削平されていたため、他の土坑墓と同様整地行為が行われていた可能性が高い。周囲は根による攪乱が著しく、主体部上位でのⅢb落ち込み状態は明確に把握できなかった。

副葬品出土状態(図Ⅱ-33): 副葬品は東壁際で刀1、短刀1、刀子1と欠損した古銭が1点出土した。また左脚脇では針1点が出土している。刀は切先を足側に向け、短刀と刀子は頭側に向けている。いずれも坑底面に水平配置で出土した。古銭は長刀の柄部脇で出土している。出土位置からは刀装具としての利用が推定されるが、針も出土しているため針入れの留め紐の可能性も想定できる。なお主体部北西壁際付近で黒曜石転礫が出土したが、坑底面との間に間層を約3cm挟んでいた。

III GP-04

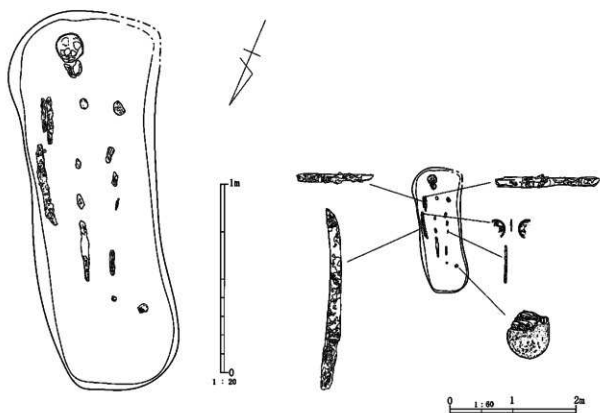
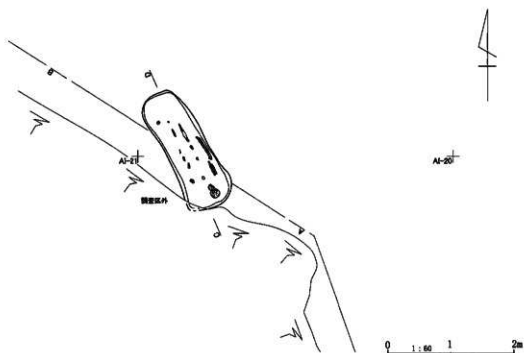
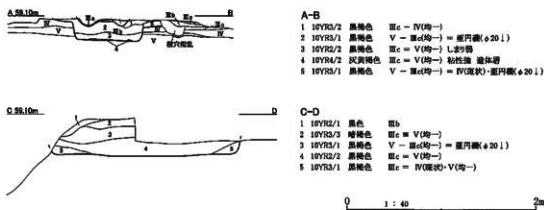


図 II-33 4号土坑墓(III GP-04)



図Ⅱ-34 4号土坑墓断面図

ことや、周囲から続縄文文化期の遺構・遺物も出土していることから、古い時代の遺物が紛れ込んだ可能性もある。

出土遺物(図Ⅱ-35)：1は刀身長320mmで平棟平造の小刀である。柄、及び鞘の木質、並びに目釘が残る。2は刀身長153mmの短刀で、柄は木質の上に樹皮巻の痕跡が認められ、樹皮と思われる鞘の一部が附着している。鞘片の附着位置から呑口式の拵えであったと推定される。X線写真では目釘穴が確認できるが、目釘は認められなかった。3は刀身長117mmの刀子である。柄は木質の上に樹皮を巻いている。また樹皮製と思われる鞘片も一部残存している。4は針で、X線写真でも針穴は確認できなかった。6は埋土中で出土した黒曜石転礫である。一方向からの剝離を重ねて調整し、最後に幅約3cmの剝片が取られている。

土坑墓の構造：確認がV層調査時であったため本来の構造は不明である。ただし調査区壁面で僅かに観察し得た堆積状態からは、本土坑墓もある程度の整地が行われていた可能性が想定される。

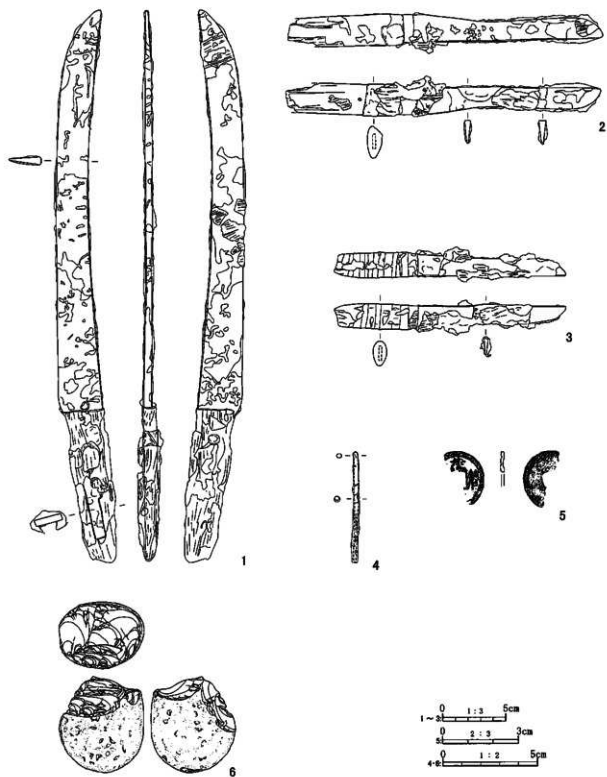
土坑墓の時期：本土坑墓では時期の特定できる副葬品は出土していない。しかしⅢGP-02と同様副葬品の刀剣類に比較的良好に木質が遺存していたこと、ⅢGP-02よりもさらにオニキシベ川に近い段丘縁に位置していることから、遷地段階において既にⅢGP-01～03の3基が存在していたと考えられる。以上によりオニキシベ2遺跡検出土坑墓の中で最も新しい構築の遺構である可能性がある。

表Ⅱ-26 ⅢGP-04属性表

押洞 番号	図版 番号	層位	グリッド	計測 対象	平面形	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸 方向	備考
					調査面/ 坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸			
-	-	-	-	造成部	-	-	-	-	-	-	-	-
II-33	16-1	ⅢbM	AH・AI-20	主体部	長方形/ 長方形	202	70	194	62	38	N-31°W	

表Ⅱ-27 ⅢGP-04出土遺物属性表

押洞 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
II-35-1	74-2-1	-	24155	小刀	-	2	ⅢGP-04	AH-20	439.0	34.0	9.3	300.0	Iron	
II-35-2	74-2-2	-	24154	短刀	-	2	ⅢGP-04	AI-20	252.0	24.9	11.4	86.0	Iron	
II-35-3	74-2-3	-	24153	刀子	-	2	ⅢGP-04	AI-20	185.0	19.9	11.1	41.0	Iron	
II-35-4	74-2-4	-	24151	針	-	2	ⅢGP-04	AH-20	60.1	3.3	3.1	1.4	Iron	
II-35-5	74-2-5	-	24155-2	元符通寶?	-	2	ⅢGP-04	-	23.1	(12.1)	1.2	1.2	Cu	
II-35-6	74-2-6	-	24150	黒曜石転礫	-	1	ⅢGP-04	-	(50.0)	44.0	35.0	91.4	Obs.	



図II-35 4号土坑墓出土遺物

第4節 集中区

焼土を中心とする遺構とそれに伴うと判断できる状態で出土した集中遺物が確認できた場合、その範囲を集中区として捉え(厚真町教育委員会 2007・2009a)、ここで記載する。アイヌ文化期に属する集中区は2ヵ所ある。いずれも1号平地式住居跡が出土したB地区で検出している。また、共にⅢbMでの検出であったため、1号平地式住居跡と同様にアイヌ文化期の中でも古い時期に属すると考えられる。

集中区1 (図Ⅱ-37 図版17-1)

位置: G~I-6~9区 規模: 960×840cm 層位: ⅢbM

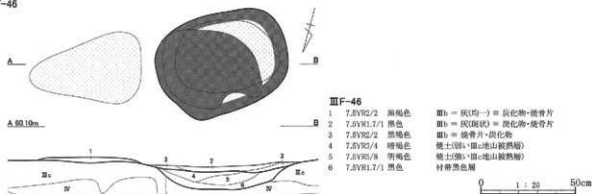
関連遺構: 焼土 ⅢF-46

確認・調査(図Ⅱ-37): G~I-6~9区のⅢb層を掘削した際、多数の礫が広範囲で出土した。全体をⅢSB-10とし、特に密集して出土していた4ヵ所について出土状態の図面を作成した。また礫を検出している際、H-7区で焼土を確認したためⅢF-46とし、平面、断面を記録した。調査段階で焼土と礫集中が関連するものと判断したため、検出状態の撮影を行った後、遺物の取り上げを行った。また、整理作業の段階で、この礫集中で取上げた遺物の中に礫石器が11点とまとまった点数が出土していることが判り、これらの礫石器を使用した作業場と想定している。出土している礫石器の器種はたたき石と滑沢面のある礫である。

焼土(図Ⅱ-36): ⅢF-46を集中区に関連する焼土として検出した。長軸は64cmで、被熱層の厚さは10cmを測る。上位には土壌化した灰が堆積している。また、焼土の東側には土壌化した灰のみが分布していることと、燃焼面が僅かであるが窪んでいることから、灰の掻き出しが行われたと考えられる。

出土遺物(図Ⅱ-38・39): 1~3はたたき石である。それぞれ異なる素材礫形状であり、石材も1・3は砂岩、2は石英片岩が使用されている。1・3は両面を、2は側縁を使用している。4~7は砂岩を素材とした滑沢面のある礫である。いずれも大形礫表面の平坦な面を利用している。また、その形状から受動的に使用されたものと考えられる。8・9は刀剣類の刀身部片で、共に平棟平造であるが、断面の厚さが異なるため別個体と判断した。10~14は棒状鉄片である。13はL字形に曲がり、14は断面「H」字形の潰れが認められる。

ⅢF-46



図Ⅱ-36 集中区1関連遺構

集中区1

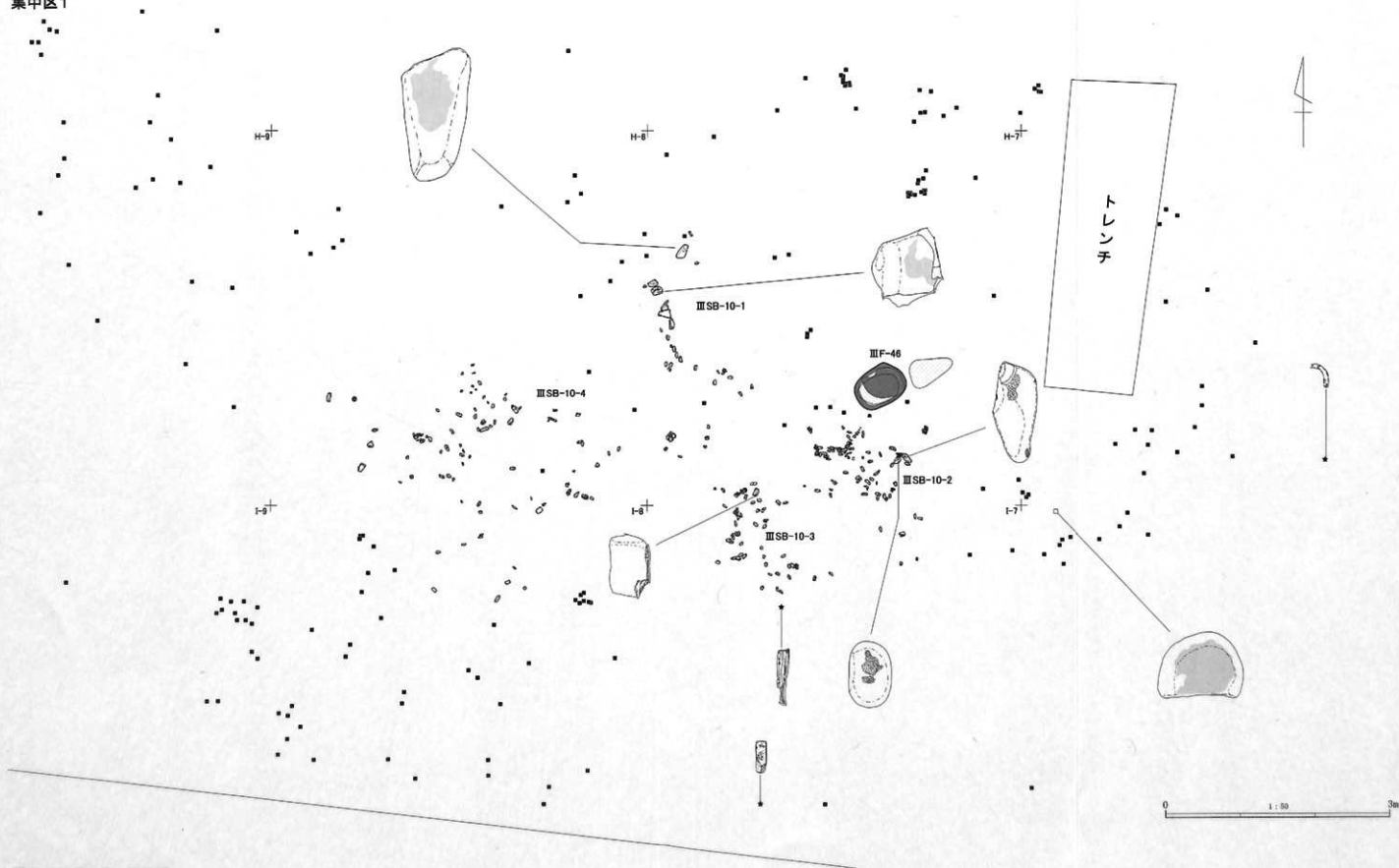
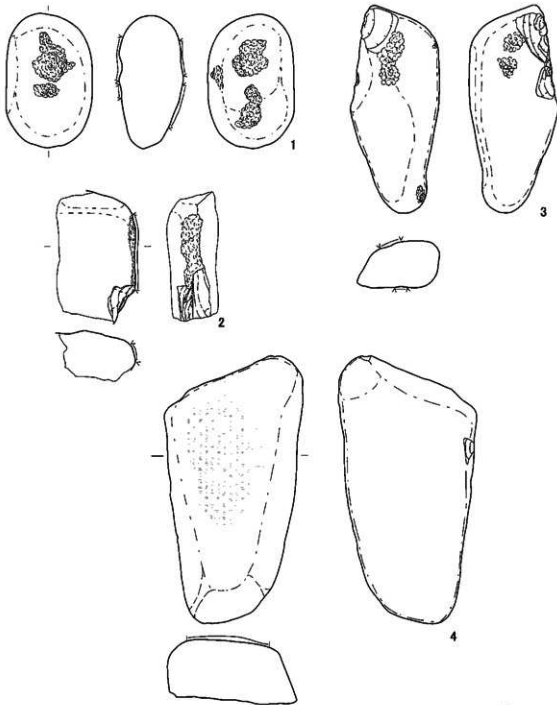


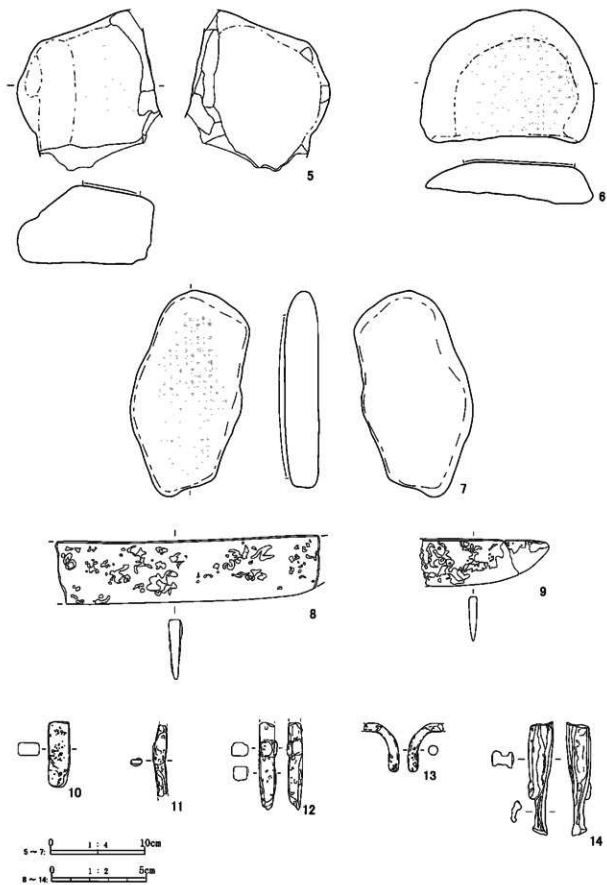
図 II-37 集中区1平面図

表II-28 集中区1焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片	備考
						長軸	短軸	厚さ		
II-36	17-2・3	III F-46	H-7	III bM	槽円形	64	50	10	骨	



図II-38 集中区1出土遺物(1)



図Ⅱ-39 集中区1出土遺物(2)

表II-29 集中区I出土遺物属性表

押図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
II-39-1	75-1-1	-	2183	たたま石	IA1	IIIbM	III SB-10	H-7	107.0	70.0	50.0	495.0	Sa.	-
II-39-2	75-1-2	-	2138	たたま石	IV	IIIbM	III SB-10	H-7	104.0	63.0	41.0	375.0	Qr-Sch	-
II-39-3	75-1-3	-	2185	たたま石	IA3	IIIbM	III SB-10	H-7	159.0	70.0	37.0	500.0	Sa.	-
II-39-4	75-1-4	-	2085	滑石製のあしこ	-	IIIbM	III SB-10	H-7	212.0	107.0	47.0	1640.0	Sa.	-
II-39-5	75-1-5	-	2081	滑石製のあしこ	-	IIIbM	III SB-10	H-7	(170.0)	150.0	82.0	2500.0	Sa.	-
II-39-6	75-1-6	-	2384	滑石製のあしこ	-	IIIbM	-	I-6	181.0	142.0	42.0	4040.0	Sa.	-
II-39-7	75-1-7	-	2385	滑石製のあしこ	-	IIIbM	-	H-6	219.0	139.0	39.0	1830.0	Sa.	-
II-39-8	75-1-8	-	1631	刀片	-	IIIbM	III SB-10	H-8	139.8	31.9	6.1	122.0	Irn.	-
II-39-9	75-1-9	-	1628	短刀切先	-	IIIbM	III SB-10	H-7	66.0	25.3	4.8	26.8	Irn.	-
II-39-10	75-1-10	-	46	棒状鉄片	-	IIIbU	-	I-7	34.1	11.1	6.8	7.4	Irn.	-
II-39-11	75-1-11	-	2455-1	棒状鉄片	-	IIIbM	-	I-7	(38.9)	7.0	3.6	1.5	Irn.	-
II-39-12	75-1-12	-	2455-2	棒状鉄片	-	IIIbM	-	I-7	(45.8)	8.8	7.5	8.7	Irn.	-
II-39-13	75-1-13	-	2387	棒状鉄片	-	IIIbM	-	H-6	29.9	(5.2)	5.7	2.1	Irn.	-
II-39-14	75-1-14	-	45	棒状鉄片	-	IIIbU	-	I-7	59.4	12.5	7.6	11.4	Irn.	-

表II-30 III SB-10属性表

押図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)			標準 偏差	長短比	長短比 偏差	重量 (g)	被 煎	材質	備考		
						長軸	標準 偏差	短軸								標準 偏差	厚さ
-	-	-	2323	IIIbM	完形	23.7	-44.7	20.2	-14.8	9.2	-9.9	1.2	-0.9	5.9	-	Sa.	-
-	-	-	2303	IIIbM	完形	25.2	-43.2	22.1	-12.9	5.4	-13.7	1.1	-0.9	4.6	-	Sa.	-
-	-	-	2150	IIIbM	完形	28.1	-40.3	25.1	-9.9	20.8	1.7	1.1	-0.9	19.4	-	Sa.	-
-	-	-	2370	IIIbM	完形	28.4	-40.0	13.3	-21.7	4.2	-14.9	2.1	0.1	2.2	-	Mud.	-
-	-	-	2374	IIIbM	完形	29.6	-38.8	14.9	-20.1	9.5	-9.6	2.0	-0.1	6.1	-	Sa.	-
-	-	-	2318	IIIbM	完形	30.7	-37.7	27.0	-8.0	10.9	-8.2	1.1	-0.9	10.9	-	Mud.	-
-	-	-	2315	IIIbM	完形	34.8	-33.6	26.9	-8.1	9.2	-9.9	1.3	-0.8	13.8	-	Sa.	-
-	-	-	1969	IIIbM	完形	34.7	-33.7	24.7	-10.3	15.2	-3.9	1.4	-0.6	38.9	-	Qu.	-
-	-	-	2320	IIIbM	完形	41.8	-26.6	33.4	-1.6	16.3	-2.8	1.3	-0.8	27.2	-	Sa.	-
-	-	-	2099	IIIbM	完形	45.1	-23.3	32.3	-2.7	19.0	-0.1	1.4	-0.7	39.3	-	Sa.	-
-	-	-	2032	IIIbM	完形	47.1	-21.3	38.4	3.4	12.1	-7.0	1.2	-0.8	27.5	-	Sa.	-
-	-	-	2076	IIIbM	完形	49.7	-18.7	25.4	-9.6	13.7	-5.4	2.0	-0.1	24.9	-	Sa.	-
-	-	-	2038	IIIbM	完形	50.3	-18.1	33.4	-1.6	16.6	-2.5	1.5	-0.5	39.1	-	Sa.	-
-	-	-	2141	IIIbM	完形	52.6	-15.8	30.9	-4.1	12.5	-6.6	1.7	-0.3	36.6	-	Sa.	-
-	-	-	2286	IIIbM	完形	53.0	-15.4	38.8	3.8	20.5	1.4	1.4	-0.7	51.3	-	Sa.	-
-	-	-	2035	IIIbM	完形	53.1	-15.3	28.7	-6.3	19.1	0.0	1.9	-0.2	40.1	-	Sa.	-
-	-	-	2012	IIIbM	完形	54.0	-14.4	31.3	-3.7	6.2	-12.9	1.7	-0.3	10.8	-	Mud.	-
-	-	-	2136	IIIbM	完形	47.1	-21.3	32.9	-2.1	23.8	4.7	1.4	-0.6	75.5	-	Sa.	-
-	-	-	1973	IIIbM	完形	52.8	-15.6	36.7	1.7	14.8	-4.3	1.4	-0.6	28.5	-	Ser.	-
-	-	-	2220	IIIbM	完形	52.9	-15.5	24.2	-10.8	15.0	-4.1	2.2	0.1	30.0	-	Sa.	-
-	-	-	2277	IIIbM	完形	54.3	-14.1	24.5	-10.5	15.0	-4.1	2.2	0.2	20.8	-	Sa.	-
-	-	-	2056	IIIbM	完形	55.9	-12.5	26.4	-8.6	12.8	-6.3	2.1	0.1	20.4	○	Sa.	-
-	-	-	1247	IIIbM	完形	55.6	-12.8	19.5	-15.5	13.2	-5.9	2.9	0.8	21.1	-	Sa.	-
-	75-1	-	2118	IIIbM	完形	56.3	-12.1	24.8	-10.2	20.1	1.0	2.3	0.2	41.6	-	Sa.	-
-	-	-	2087	IIIbM	完形	57.4	-11.0	25.7	-9.3	17.9	-1.2	2.2	0.2	35.9	-	Sa.	-
-	-	-	2013	IIIbM	完形	57.7	-10.7	26.9	-8.1	18.5	-0.6	2.1	0.1	39.4	-	Sa.	-
-	-	-	1489	IIIbM	完形	56.7	-11.7	35.6	0.6	23.1	4.0	1.6	-0.5	64.5	-	Sa.	-
-	-	-	2089	IIIbM	完形	55.2	-13.2	34.1	-0.9	17.1	-2.0	1.6	-0.4	44.5	-	Sa.	-
-	-	-	2096	IIIbM	完形	51.4	-17.0	26.8	-8.2	18.4	-0.7	1.9	-0.1	34.3	-	Sa.	-
-	-	-	2292	IIIbM	完形	53.4	-15.0	36.3	1.3	22.0	2.9	1.5	-0.6	58.6	-	Sa.	-
-	-	-	2125	IIIbM	完形	54.2	-14.2	31.6	-3.4	17.8	-1.3	1.7	-0.3	47.3	-	Sa.	-
-	-	-	2060	IIIbM	完形	56.7	-11.7	32.2	-2.8	18.5	-0.6	1.8	-0.3	39.3	-	Mud.	-
-	-	-	2098	IIIbM	完形	58.4	-10.0	38.7	3.7	19.0	-0.1	1.5	-0.5	64.2	-	Sa.	-
-	-	-	2140	IIIbM	完形	57.8	-10.6	28.5	-6.5	27.4	8.3	2.0	0.0	48.7	-	Mud.	-
-	-	-	2283	IIIbM	完形	57.4	-11.0	37.5	2.5	19.4	0.3	1.5	-0.5	58.4	-	Sa.	-
-	-	-	1986	IIIbM	完形	57.0	-11.4	37.6	2.6	15.7	-3.4	1.5	-0.5	41.1	-	Sa.	-
-	-	-	2102	IIIbM	完形	57.4	-11.0	38.9	3.9	14.5	-4.6	1.5	-0.6	41.8	-	Sa.	-
-	-	-	1966	IIIbM	完形	57.1	-11.3	28.8	-6.2	13.6	-5.5	2.0	-0.1	26.0	○	Sa.	-
-	-	-	2120	IIIbM	完形	57.4	-11.0	31.7	-3.3	19.1	0.0	1.8	-0.2	39.3	-	Sa.	-
-	-	-	2117	IIIbM	完形	58.3	-10.1	31.7	-3.3	23.7	4.6	1.8	-0.2	64.3	○	Sa.	-
-	-	-	2090	IIIbM	完形	56.2	-12.2	36.4	1.4	17.7	-1.4	1.5	-0.5	44.8	-	Mud.	-
-	-	-	2179	IIIbM	完形	57.9	-10.5	30.7	-4.3	21.9	2.8	1.9	-0.2	55.6	-	Sa.	-
-	-	-	2228	IIIbM	完形	57.8	-10.6	33.9	-1.1	14.8	-4.3	1.7	-0.3	35.2	-	Sa.	-
-	-	-	-	IIIbM	完形	58.4	-10.0	31.4	-3.6	16.4	-2.7	1.9	-0.2	46.4	-	Sa.	-
-	-	-	2106	IIIbM	完形	59.0	-9.4	32.8	-2.2	23.0	3.9	1.8	-0.3	47.6	-	Sa.	-
-	-	-	2202	IIIbM	完形	58.7	-9.7	32.3	-2.7	10.5	-8.6	1.8	-0.2	32.4	○	Sa.	-
-	-	-	2113	IIIbM	完形	59.3	-9.1	29.9	-5.1	19.8	0.7	2.0	-0.1	35.2	-	Sa.	-

表Ⅱ-30 ⅢSB-10属性表(続き)

押印 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)				長短比	重量 (g)	被 熱	材質	備考			
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差						厚さ	標準 偏差	
-	-	-	2027	ⅢbM	完形	57.6	-10.8	33.2	-1.8	19.4	0.5	1.7	-0.3	50.3	-	Sa	-
-	-	-	2068	ⅢbM	完形	59.8	-8.6	39.1	4.1	25.0	5.9	1.5	-0.5	73.0	-	Sa	-
-	-	-	2231	ⅢbM	完形	59.6	-8.8	23.2	-11.8	9.9	-9.2	2.6	0.5	20.7	-	Sa	-
-	-	-	2066	ⅢbM	完形	57.6	-10.8	37.0	2.0	21.8	2.7	1.6	-0.5	69.1	○	Sa	-
-	-	-	2172	ⅢbM	磨完形	61.3	-7.1	37.8	2.8	17.1	-2.0	1.6	-0.4	47.5	○	Sa	-
-	-	-	2093	ⅢbM	完形	60.0	-8.4	33.9	-1.1	18.7	-0.4	1.8	-0.3	30.6	-	Sa	-
-	-	-	2204	ⅢbM	完形	60.6	-7.8	25.8	-9.2	19.2	0.1	2.3	0.3	49.3	○	Sa	-
-	-	-	2161	ⅢbM	完形	60.9	-7.5	27.8	-7.2	13.2	-5.9	2.2	0.1	38.4	○	Sa	-
-	-	-	2232	ⅢbM	完形	60.4	-8.0	23.0	-12.0	9.9	-9.2	2.6	0.6	25.8	-	Sa	-
-	-	-	2109	ⅢbM	完形	61.2	-7.2	30.8	-4.2	12.1	-7.0	2.0	-0.1	29.8	-	Sa	-
-	-	-	2184	ⅢbM	完形	60.2	-8.2	36.6	1.6	21.3	2.2	1.6	-0.4	57.0	-	Sa	-
-	-	-	2199	ⅢbM	完形	60.0	-8.4	28.6	-6.4	16.2	-2.9	2.1	0.0	26.9	○	Sa	-
-	-	-	2215	ⅢbM	完形	61.0	-7.4	36.6	1.6	11.7	-7.4	1.7	-0.4	43.0	○	Sa	-
-	-	-	2200	ⅢbM	完形	58.9	-9.5	34.7	-0.3	9.2	-9.9	1.7	-0.4	35.9	-	Sa	-
-	-	-	2084	ⅢbM	完形	60.2	-8.2	37.6	2.6	28.1	9.0	1.6	-0.4	84.4	-	Sa	-
-	-	-	2178	ⅢbM	完形	62.4	-6.0	36.3	1.3	14.1	-5.0	1.7	-0.3	48.9	-	Sa	-
-	-	-	2097	ⅢbM	磨完形	62.7	-5.7	29.2	-5.8	14.6	-4.5	2.1	0.1	34.1	-	Sa	-
-	-	-	2176	ⅢbM	完形	62.4	-6.0	25.1	-9.9	10.0	-9.1	2.5	0.4	28.6	○	Sa	-
-	-	-	2020	ⅢbM	完形	63.5	-4.9	35.6	0.6	38.7	19.6	1.8	-0.3	114.5	-	Sa	-
-	-	-	2092	ⅢbM	磨完形	62.7	-5.7	33.0	-2.0	14.3	-4.8	1.9	-0.2	39.4	-	Sa	-
-	-	-	2216	ⅢbM	完形	61.7	-6.7	34.9	-0.1	8.5	-10.6	1.8	-0.3	27.2	-	Sa	-
-	-	-	2144	ⅢbM	完形	63.1	-5.3	24.1	-10.9	16.2	-2.9	2.6	0.6	35.5	-	Sa	-
-	-	-	2049	ⅢbM	完形	63.4	-5.0	37.2	2.2	18.9	-0.2	1.7	-0.3	60.8	○	Sa	-
-	-	-	2135	ⅢbM	完形	64.7	-3.7	32.0	-3.0	18.9	-0.2	2.0	0.0	69.8	-	Sa	-
-	-	-	2175	ⅢbM	完形	65.7	-2.7	24.7	-10.3	19.3	0.2	2.7	0.6	45.8	○	Sa	-
-	-	-	2275	ⅢbM	完形	65.7	-2.7	50.1	15.1	11.2	-7.9	1.3	-0.7	62.2	-	Sa	-
-	-	ⅢS057	2218	ⅢbM	完形	64.1	-4.3	27.0	-8.0	18.7	-0.4	2.4	0.3	48.3	○	Sa	-
-	-	-	2063	ⅢbM	完形	65.5	-2.9	36.0	1.0	17.4	-1.7	1.8	-0.2	53.9	-	Sa	-
-	-	-	2196	ⅢbM	完形	65.4	-3.0	33.6	-1.4	14.4	-4.7	1.9	-0.1	24.5	-	Mud.	-
-	-	-	2237	ⅢbM	完形	65.6	-2.8	27.3	-7.7	15.2	-3.9	2.4	0.4	36.7	-	Sa	-
-	-	-	2018	ⅢbM	完形	65.8	-2.6	42.5	7.5	23.6	4.5	1.5	-0.5	62.5	-	Sa	-
-	-	-	2179	ⅢbM	完形	65.4	-3.0	35.2	0.2	19.0	-0.1	1.9	-0.2	38.3	○	Sa	-
-	-	-	2070	ⅢbM	完形	62.0	-6.4	35.1	0.1	24.8	5.7	1.8	-0.3	74.4	-	Sa	-
-	-	-	1965	ⅢbM	完形	64.6	-3.8	40.3	5.3	20.8	1.7	1.6	-0.4	43.1	-	Sa	-
-	-	76-1	2007	ⅢbM	完形	64.7	-3.7	30.9	-4.1	25.9	6.8	2.1	0.0	70.9	○	Sa	-
-	-	-	2047	ⅢbM	完形	64.8	-3.6	33.4	-1.6	31.1	12.0	1.9	-0.1	89.4	-	Sa	-
-	-	ⅢS071	2280	ⅢbM	完形	65.0	-3.4	29.2	-5.8	18.9	-0.2	2.2	0.2	44.9	-	Mud.	-
-	-	-	2016	ⅢbM	完形	62.8	-5.6	24.3	-10.7	22.5	3.4	2.6	0.5	56.1	-	Mud.	-
-	-	-	2102	ⅢbM	完形	63.8	-4.6	39.3	4.3	25.3	6.2	1.6	-0.4	112.5	-	Sa	-
-	-	ⅢS070	1987	ⅢbM	完形	66.2	-2.2	27.7	-7.3	26.8	7.7	2.4	0.3	49.9	-	Mud.	-
-	-	-	2000	ⅢbM	完形	72.8	4.4	41.4	6.4	14.7	-4.4	1.8	-0.3	46.4	-	Mud.	-
-	-	-	2284	ⅢbM	完形	67.1	-1.3	32.7	-2.3	15.6	-3.5	2.1	0.0	52.0	-	Sa	-
-	-	-	2122	ⅢbM	完形	67.3	-1.1	28.7	-6.3	14.8	-4.3	2.3	0.3	44.2	-	Sa	-
-	-	-	2061	ⅢbM	完形	67.2	-1.2	29.4	-5.6	11.8	-7.3	2.3	0.2	38.4	-	Sa	-
-	-	-	2177	ⅢbM	完形	68.2	-0.2	24.9	-10.1	20.4	1.3	2.7	0.7	44.7	○	Sa	-
-	-	-	2155	ⅢbM	完形	69.6	1.2	33.7	-1.3	23.1	4.0	2.1	0.0	64.6	○	Sa	-
-	-	-	2153	ⅢbM	完形	70.4	2.0	30.0	-5.0	17.3	-1.8	2.5	0.3	53.8	○	Sa	-
-	-	-	2212	ⅢbM	完形	70.8	2.4	37.4	2.4	7.9	-11.2	1.9	-0.2	33.7	○	Sa	-
-	-	-	1964	ⅢbM	完形	67.9	-0.5	39.7	4.7	16.7	-2.4	1.7	-0.3	63.4	-	Sa	-
-	-	-	2210	ⅢbM	完形	70.4	2.0	28.7	-6.3	13.9	-5.2	2.5	0.4	41.0	○	Sa	-
-	-	-	2156	ⅢbM	完形	69.7	1.3	29.5	-5.5	15.0	-4.1	2.4	0.3	49.2	○	Sa	-
-	-	-	2037	ⅢbM	完形	69.7	1.3	35.2	0.2	25.3	6.2	2.0	-0.1	64.2	-	Mud.	-
-	-	-	2072	ⅢbM	完形	71.0	2.6	33.6	-1.4	25.5	6.4	2.1	0.1	68.0	-	Sa	-
-	-	-	2095	ⅢbM	完形	71.9	3.5	48.3	13.3	23.8	4.7	1.5	-0.6	82.2	○	Sa	-
-	-	-	2073	ⅢbM	完形	70.0	1.6	34.0	-1.0	17.3	-1.8	2.1	0.0	59.4	○	Sa	-
-	-	-	2181	ⅢbM	完形	71.1	2.7	30.7	-4.3	11.0	-8.1	2.3	0.3	34.5	-	Sa	-
-	-	-	2119	ⅢbM	完形	71.8	3.4	34.0	-1.0	32.6	13.5	2.1	0.1	75.6	-	Sa	-
-	-	-	2217	ⅢbM	完形	71.1	2.7	34.8	-0.2	9.8	-9.3	2.0	0.0	34.6	○	Sa	-
-	-	-	2225	ⅢbM	完形	72.8	4.4	13.8	-21.2	15.3	-3.8	5.3	3.2	16.8	○	Sa	-
-	-	ⅢS066	2111	ⅢbM	完形	74.5	6.1	32.3	-2.7	23.1	4.0	2.3	0.3	66.3	○	Sa	-
-	-	-	2115	ⅢbM	完形	72.4	4.0	39.8	4.8	25.7	6.6	1.8	-0.2	92.6	○	Sa	-
-	-	-	2173	ⅢbM	完形	73.8	5.4	33.2	-1.8	21.0	1.9	2.2	0.2	75.0	○	Sa	-
-	-	-	2071	ⅢbM	磨完形	74.9	6.5	39.8	4.8	22.0	2.9	1.9	-0.2	82.3	○	Sa	-
-	-	-	2103	ⅢbM	完形	73.8	5.4	43.9	8.9	22.8	3.7	1.7	-0.4	95.8	-	Sa	-
-	-	-	2143	ⅢbM	完形	73.7	5.3	40.5	5.5	14.0	-6.1	1.8	-0.2	77.6	-	Sa	-
-	-	-	2194	ⅢbM	完形	74.3	5.9	39.3	4.3	24.4	5.3	1.9	-0.2	91.1	-	Sa	-
-	-	-	2186	ⅢbM	完形	75.0	6.6	33.1	-1.9	22.5	3.4	2.3	0.2	61.6	○	Sa	-
-	-	-	2250	ⅢbM	完形	74.3	5.9	28.1	-6.9	24.3	5.2	2.6	0.6	73.2	○	Sa	-
-	-	-	2195	ⅢbM	完形	77.8	9.4	30.3	-4.7	23.0	3.9	2.6	0.5	62.0	○	Sa	-

表II-30 III SB-10属性表(続き)

押印 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	2229	IIIbM	完形	75.8	7.4	28.8	-6.2	24.3	5.2	2.6	0.6	50.9	○	Sa.	-	
-	-	1972	IIIbM	完形	77.4	9.0	24.7	-10.3	21.1	2.0	3.1	1.1	66.4	○	Sa.	-	
-	-	2152	IIIbM	完形	74.5	6.1	41.3	6.3	15.6	-3.5	1.8	-0.2	62.1	○	Sa.	-	
-	-	2180	IIIbM	完形	81.1	12.7	24.3	-10.7	21.6	2.5	3.3	1.3	42.6	-	Sa.	-	
-	-	2060	IIIbM	完形	82.8	14.4	34.3	-0.7	13.3	-5.8	2.4	0.4	60.8	-	Sa.	-	
-	-	2266	IIIbM	完形	84.5	16.1	34.9	-0.1	24.0	4.9	2.4	0.4	66.8	○	Sa.	-	
-	-	2164	IIIbM	完形	83.5	15.1	27.1	-7.9	22.7	3.6	3.1	1.0	78.0	○	Sa.	-	
-	76-1	2356	IIIbM	完形	82.3	13.9	30.5	-4.5	20.4	1.3	2.7	0.6	89.7	-	Sa.	-	
-	-	2048	IIIbM	完形	84.3	15.9	28.3	-6.7	21.3	2.2	3.0	0.9	51.8	-	Sa.	-	
-	-	2171	IIIbM	完形	84.8	16.4	26.0	-9.0	13.2	-5.9	3.3	1.2	45.9	○	Sa.	-	
-	-	III S063	2166	IIIbM	完形	84.6	16.2	33.6	-1.4	20.2	1.1	2.5	0.5	84.6	○	Sa.	-
-	-	2245	IIIbM	完形	88.2	19.8	28.5	-6.5	17.8	-1.3	3.1	1.0	43.7	-	Sa.	-	
-	-	2040	IIIbM	完形	90.3	21.9	42.4	7.4	10.3	-8.8	2.1	0.1	30.3	-	Sa.	-	
-	-	2322	IIIbM	略完形	92.1	23.7	32.7	-2.3	18.7	-0.4	2.8	0.8	82.3	-	Sa.	-	
-	-	2371	IIIbM	完形	94.9	26.5	34.2	-0.8	11.4	-7.7	2.8	0.7	47.9	-	Sa.	-	
-	-	2170	IIIbM	略完形	101.4	33.0	28.1	-6.9	24.1	5.0	3.6	1.6	81.5	○	Sa.	-	
-	-	2222	IIIbM	完形	102.5	34.1	37.6	2.6	24.2	5.1	2.7	0.7	100.7	-	Sa.	-	
-	-	III S061	2051	IIIbM	完形	106.1	36.7	29.1	-5.9	16.5	-2.6	3.6	1.6	65.3	-	Sa.	-
-	-	2201	IIIbM	完形	107.7	39.3	37.5	2.5	25.2	6.1	2.9	0.8	119.6	○	Sa.	-	
-	-	2063	IIIbM	略完形	116.3	47.9	53.2	18.2	34.1	15.0	2.2	0.1	220.0	-	Sa.	-	
-	-	1975	IIIbM	完形	85.7	17.3	67.1	32.1	32.8	13.7	1.3	-0.8	360.0	-	Sa.	-	
-	77-1	1976	IIIbM	略完形	104.1	35.7	74.7	39.7	29.9	10.8	1.4	-0.7	400.0	-	Sa.	-	
-	-	1980	IIIbM	完形	122.9	54.5	38.4	3.4	38.5	19.4	3.2	1.2	360.0	○	Sa.	-	
-	-	2077	IIIbM	完形	134.1	65.7	59.1	24.1	29.4	10.3	2.3	0.2	260.0	-	Sa.	-	
-	-	2078	IIIbM	完形	170.0	101.6	106.8	71.8	31.1	12.0	1.6	-0.5	735.0	-	Sa.	-	
-	-	2082	IIIbM	完形	193.0	124.6	104.3	69.3	48.3	29.2	1.9	-0.2	1038.0	○	Sa.	-	
-	-	2381	IIIbM	完形	225.0	156.6	200.0	165.0	66.7	47.6	1.1	-0.9	5046.0	-	Sa.	-	
						68.4		35.0		19.1		2.05		105.9			
						総点数 466点 炭完形 143点											

集中区2 (図II-40 図版18-1)

位置: R・S-14・15区 規模: 840×480cm 層位: IIIbM

関連遺構: 焼土 III F-56 礫集中: III SB-11・12

確認・調査(図II-40): R-14区のIIIb層を掘削した際、棒状礫の集中(III SB-12)と長大な焼土1カ所(III F-56)を検出した。検出位置は段丘面縁辺部にあたる。共に関連する遺構と考え、全体の検出後撮影、出土状態の記録を作成し取り上げを行った。南側へ約4m離れた位置でも礫集中1カ所(III SB-11)を検出したため、報告段階でこれらを合わせて集中区とした。

焼土(図II-41): III F-56は段丘崖等高線に沿う方向に長軸を向けた焼土である。長軸長142cm、被熱層の厚さ6cmの規模を測る。焼骨片はほとんど含まれていない。

礫集中(図II-40): III SB-11と12の2カ所を検出した。III SB-11は焼土からやや南に離れた場所に位置する。まとまりの良い礫集中で、総点数89点中完形個体は30点であった。III SB-12は焼土に隣接して出土した。III SB-11に比べやや散逸した出土状態である。総点数236点中完形個体65点であった。

出土遺物(図II-41): 1~3はたたき石である。素材形状はそれぞれ異なるが、いずれも礫の縁辺を使用している。

集中区2

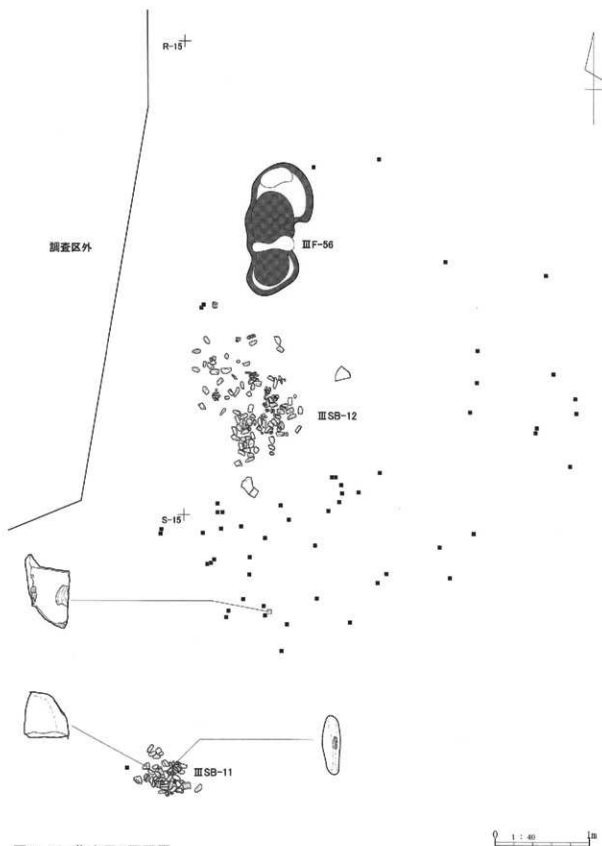


図 II-40 集中区2平面図

III F-56

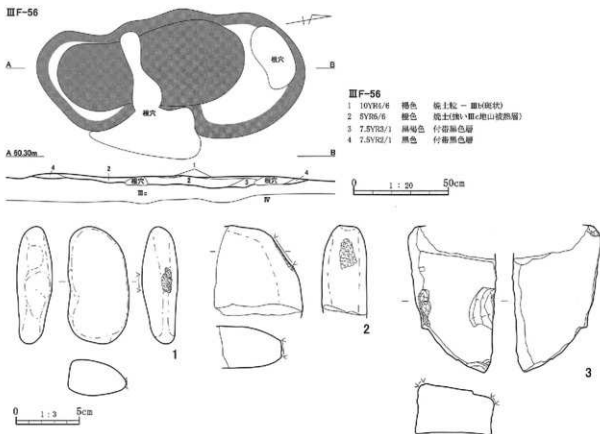


図 II-41 集中区2関連遺構及び出土遺物

表 II-31 集中区2焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片	備考
						長軸	短軸	厚さ		
II-40-41	18-2	III F-56	R-14	III bM	長楕円形	142	64	6	-	

表 II-32 集中区2関連遺構出土遺物属性表

挿図番号	図版番号	個体番号	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
II-41-1	79-1-1	-	2927	たたき石	I A2	III bM	III SB-11	S-15	92.0	48.0	28.0	145.0	Mud.	
II-41-2	79-1-2	-	2916	たたき石	IV	III bM	III SB-11	S-15	(71.0)	(70.0)	33.0	220.0	Sa.	
II-41-3	79-1-3	-	2835	たたき石	II A2	III bM	III SB-12	S-14	112.0	67.0	40.0	350.0	Sa.	

表 II-33 III SB-11属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)										重量(g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差	長短比	標準偏差	長短比	標準偏差				
-	-	-	2940	III bM	略丸形	68.6	-20.1	41.7	-2.4	30.4	2.1	1.6	-0.4	125.9	-	Sa.	-		
-	-	-	2917	III bM	完形	71.3	-17.4	41.7	-2.4	25.2	-3.1	1.7	-0.3	122.2	-	Sa.	-		
-	-	III S084	2950	III bM	完形	74.1	-14.6	43.3	-0.8	42.3	14.0	1.7	-0.3	166.9	○	Sa.	-		
-	-	-	2419	III bM	完形	73.0	-15.7	47.8	3.7	31.0	2.7	1.5	-0.5	153.9	-	Sa.	-		
-	-	-	2908	III bM	完形	75.4	-13.3	44.3	0.2	25.9	-2.4	1.7	-0.3	128.3	-	Sa.	-		
-	-	-	3298	III bM	完形	78.4	-10.3	48.3	4.2	32.9	4.6	1.6	-0.4	153.6	-	Sa.	-		
-	-	-	2893	III bM	完形	74.3	-14.4	52.3	8.2	36.2	7.9	1.4	-0.6	182.0	-	Sa.	-		
-	-	-	2903	III bM	完形	77.2	-11.5	42.7	-1.4	30.6	2.3	1.8	-0.2	157.5	-	Sa.	-		
-	-	-	2914	III bM	完形	80.7	-8.0	43.9	-0.2	30.6	2.3	1.8	-0.2	119.0	-	Sa.	-		
-	-	-	2894	III bM	完形	81.6	-7.1	45.4	1.3	26.3	-2.0	1.8	-0.3	119.9	-	Sa.	-		
-	-	-	2940	III bM	略丸形	81.6	-7.1	48.7	4.6	22.1	-6.2	1.7	-0.4	137.8	-	Sa.	-		
-	-	-	2938	III bM	略丸形	84.5	-4.2	41.5	-2.6	21.4	-6.9	2.0	0.0	115.6	-	Sa.	-		
-	-	-	2926	III bM	完形	86.3	-2.4	40.8	-3.3	26.0	-2.3	2.1	0.1	136.7	-	Sa.	-		
-	-	-	2896	III bM	完形	85.3	-3.4	55.0	10.9	24.6	-3.7	1.6	-0.5	168.8	-	Sa.	-		
-	-	-	2921	III bM	完形	89.0	0.3	44.3	0.2	21.8	-6.5	2.0	0.0	104.1	-	Sa.	-		
-	-	-	2897	III bM	完形	91.5	2.8	43.3	-0.8	24.2	-4.1	2.1	0.1	113.1	○	Sa.	-		
-	-	-	2947	III bM	完形	89.0	0.3	37.1	-7.0	23.4	-4.9	2.4	0.3	127.3	-	Sa.	-		
-	-	-	2895	III bM	完形	91.4	2.7	31.5	-12.6	28.0	-0.3	2.9	0.9	130.8	-	Sa.	-		

表Ⅱ-33 ⅢSB-11属性表(続)

押図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材 質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ							標準 偏差
-	-	-	2953	ⅢbM	壳形	92.6	3.9	56.8	12.7	24.0	-4.3	1.6	-0.4	155.4	-	Sa	-
-	-	-	2929	ⅢbM	壳形	95.0	6.3	32.4	-11.7	34.1	5.8	2.9	0.9	155.7	-	Sa	-
-	ⅢS08	-	2898	ⅢbM	略壳形	96.6	7.9	46.0	1.9	25.1	-3.2	2.1	0.1	139.1	-	Sa	-
-	-	-	2931	ⅢbM	壳形	95.6	6.9	34.6	-9.5	19.3	-9.0	2.8	0.7	93.9	-	Sa	-
-	-	-	2934	ⅢbM	壳形	96.0	7.3	41.2	-2.9	24.5	-3.8	2.3	0.3	135.4	-	Sa	-
-	-	-	2936	ⅢbM	略壳形	97.1	8.4	44.0	-0.1	19.3	-9.0	2.2	0.2	126.1	-	Sa	-
-	77-2	-	2930	ⅢbM	壳形	99.9	11.2	42.7	-1.4	25.2	-3.1	2.3	0.3	124.8	-	Sa	-
-	-	-	2918	ⅢbM	壳形	97.2	8.5	47.2	3.1	38.7	10.4	2.1	0.0	180.8	-	Sa	-
-	-	-	2945	ⅢbM	壳形	95.6	6.9	46.4	2.3	28.2	-0.1	2.1	0.0	183.4	-	Sa	-
-	-	-	2944	ⅢbM	壳形	96.1	7.4	51.4	7.3	41.8	13.5	1.9	-0.2	160.1	-	Sa	-
-	-	-	2933	ⅢbM	壳形	96.9	8.2	40.7	-3.4	30.9	2.6	2.4	0.3	165.1	-	Sa	-
-	ⅢS08	-	2794	ⅢbM	壳形	149.3	60.6	45.6	1.5	34.6	6.3	3.3	1.2	335.0	○	Sa	-
						88.7		44.1		28.3		2.05		147.3	総点数 89点 壳形形 30点		

表Ⅱ-34 ⅢSB-12属性表

押図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材 質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ							標準 偏差
-	-	-	2829	ⅢbM	壳形	30.3	-48.3	25.8	-19.3	13.5	-13.4	1.2	-0.6	10.8	-	Sa	-
-	-	-	2793	ⅢbM	壳形	37.1	-41.5	20.4	-24.7	18.3	-8.6	1.8	0.0	19.5	○	Sa	-
-	-	-	3295	ⅢbM	壳形	38.4	-40.2	28.8	-16.3	7.9	-19.0	1.3	-0.4	14.8	○	Sa	-
-	-	-	2840	ⅢbM	壳形	44.0	-34.6	35.1	-10.0	22.5	-4.4	1.3	-0.5	95.9	-	Con.	-
-	-	-	2976	ⅢbM	壳形	47.7	-30.9	41.6	-3.5	23.3	-3.6	1.1	-0.6	43.6	-	Sa	-
-	-	-	2795	ⅢbM	壳形	57.9	-20.7	27.4	-17.7	16.4	-10.5	2.1	0.3	35.6	-	Sa	-
-	-	-	2963	ⅢbM	壳形	56.9	-21.7	49.3	4.2	19.0	-7.9	1.2	-0.6	107.0	-	Sa	-
-	ⅢS104	-	2798	ⅢbM	壳形	62.4	-16.2	35.1	-10.0	8.7	-18.2	1.8	0.0	24.7	○	Sa	-
-	-	-	3229	ⅢbM	壳形	66.8	-11.8	47.4	2.3	40.3	13.4	1.4	-0.4	167.7	-	Sa	-
-	-	-	2971	ⅢbM	壳形	61.7	-16.9	43.2	-1.9	28.6	1.7	1.4	-0.3	121.1	-	Sa	-
-	-	-	2800	ⅢbM	壳形	64.9	-13.7	26.7	-18.4	17.5	-9.4	2.4	0.7	45.2	○	Sa	-
-	-	-	2833	ⅢbM	壳形	67.1	-11.5	35.8	-9.3	33.9	7.0	1.9	0.1	113.0	-	Sa	-
-	-	-	2803	ⅢbM	壳形	69.2	-9.4	50.6	5.5	39.8	12.9	1.4	-0.4	171.3	-	Sa	-
-	-	-	2968	ⅢbM	壳形	68.9	-9.7	26.7	-18.4	18.0	-8.9	2.6	0.8	30.4	-	Sa	-
-	ⅢS094	-	3258	ⅢbM	壳形	67.6	-11.0	40.7	-4.4	24.6	-2.3	1.7	-0.1	108.3	-	Mud.	-
-	-	-	2965	ⅢbM	壳形	68.4	-10.2	43.1	-2.0	22.5	-4.4	1.6	-0.2	97.8	-	Sa	-
-	-	-	2960	ⅢbM	壳形	69.4	-9.2	48.3	3.2	22.4	-4.5	1.4	-0.3	112.3	-	Sa	-
-	-	-	2978	ⅢbM	壳形	69.9	-8.7	39.0	-6.1	24.1	-2.8	1.8	0.0	79.1	-	Sa	-
-	-	-	3227	ⅢbM	壳形	72.2	-6.4	50.1	5.0	27.3	0.4	1.4	-0.3	136.4	-	Sa	-
-	-	-	2341	ⅢbM	壳形	74.6	-4.0	29.4	-15.7	24.2	-2.7	2.5	0.8	57.2	-	Sa	-
-	-	-	2806	ⅢbM	壳形	73.1	-5.5	44.9	-0.2	20.7	-6.2	1.6	-0.1	96.6	○	Con.	-
-	-	-	2973	ⅢbM	壳形	72.4	-6.2	44.3	-0.8	27.9	1.0	1.6	-0.1	114.9	-	Sa	-
-	78-1	-	2966	ⅢbM	壳形	75.0	-3.6	49.9	4.8	22.6	-4.3	1.5	-0.3	122.8	○	Sa	貝化石
-	-	-	2967	ⅢbM	壳形	67.7	-10.9	48.4	3.3	35.7	8.8	1.4	-0.4	170.6	-	Sa	-
-	ⅢS093	-	3239	ⅢbM	壳形	77.1	-1.5	39.2	-5.9	45.1	18.2	2.0	0.2	157.6	○	Sa	-
-	ⅢS097	-	2969	ⅢbM	略壳形	75.5	-3.1	31.2	-13.9	26.1	-0.8	2.4	0.6	78.3	-	Sa	-
-	-	-	2987	ⅢbM	壳形	78.1	-0.5	37.2	-7.9	33.8	6.9	2.1	0.3	136.4	○	Sa	-
-	-	-	2959	ⅢbM	壳形	77.4	-1.2	42.6	-2.5	19.5	-7.4	1.8	0.0	114.6	○	Sa	-
-	-	-	3254	ⅢbM	壳形	78.5	-0.1	54.1	9.0	32.0	5.1	1.5	-0.3	180.3	-	Sa	-
-	-	-	3000	ⅢbM	壳形	77.5	-1.1	53.4	8.3	29.6	2.7	1.5	-0.3	152.9	-	Sa	-
-	ⅢS105	-	2821	ⅢbM	略壳形	78.6	0.0	50.6	5.5	35.8	8.9	1.6	-0.2	142.0	-	Sa	-
-	-	-	2957	ⅢbM	壳形	79.8	1.2	44.5	-0.6	27.7	0.8	1.8	0.0	130.7	-	Sa	-
-	-	-	3259	ⅢbM	壳形	76.3	-2.3	41.8	-3.3	16.6	-10.3	1.8	0.0	109.0	-	Sa	-
-	-	-	3290	ⅢbM	壳形	80.3	1.7	48.5	3.4	19.3	-7.6	1.7	-0.1	124.1	-	Sa	-
-	-	-	2792	ⅢbM	壳形	82.0	3.4	51.2	6.1	27.6	0.7	1.6	-0.2	152.9	-	Sa	-
-	-	-	3272	ⅢbM	壳形	80.1	1.5	47.3	2.2	28.9	2.0	1.7	-0.1	112.9	-	Sa	-
-	-	-	3238	ⅢbM	壳形	84.9	6.3	52.7	7.6	22.4	-4.5	1.6	-0.2	144.8	-	Sa	-
-	ⅢS091	-	3241	ⅢbM	略壳形	85.6	7.0	44.7	-0.4	24.9	-2.0	1.9	0.1	125.4	-	Sa	-
-	-	-	3220	ⅢbM	壳形	79.3	0.7	37.9	-7.2	28.1	1.2	2.1	0.3	151.3	-	Sa	-
-	-	-	3271	ⅢbM	壳形	79.7	1.1	34.8	-10.3	35.2	8.3	2.3	0.5	105.9	-	Sa	-
-	-	-	3253	ⅢbM	壳形	83.1	4.5	48.7	3.6	17.4	-9.5	1.7	-0.1	113.9	-	Sa	-
-	-	-	3224	ⅢbM	壳形	84.5	5.9	45.9	0.8	32.9	6.0	1.8	0.1	142.1	-	Sa	-
-	-	-	2990	ⅢbM	壳形	83.7	5.1	53.5	8.4	29.6	2.7	1.6	-0.2	182.1	-	Sa	-
-	-	-	2804	ⅢbM	壳形	83.4	4.8	53.6	8.5	34.0	7.1	1.6	-0.2	180.0	-	Sa	-
-	-	-	3225	ⅢbM	壳形	86.9	8.3	47.9	2.8	33.0	6.1	1.8	0.0	184.9	-	Sa	-

表II-34 III SB-12属性表(続き)

押図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	備考		
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ							標準 偏差	
-	-	2983	IIIbM	略光形	83.9	5.3	50.6	5.5	30.2	3.3	1.7	-0.1	181.1	-	Sa	-		
-	-	3246	IIIbM	亮形	85.1	6.5	44.5	-0.6	21.2	-6.7	1.9	0.1	127.2	-	Sa	-		
-	-	3226	IIIbM	亮形	88.0	9.4	53.4	8.3	31.1	4.2	1.6	-0.1	172.2	-	Sa	-		
-	-	2958	IIIbM	亮形	87.7	9.1	43.6	-1.5	18.6	-8.3	2.0	0.2	88.9	-	Mud	-		
-	-	III S098	2979	IIIbM	亮形	89.1	10.5	43.6	-1.5	21.9	-5.0	2.0	0.3	83.9	-	Mud	-	
-	-	3245	IIIbM	亮形	88.9	10.3	54.7	9.6	28.2	1.3	1.6	-0.1	180.0	-	Sa	-		
-	-	2998	IIIbM	亮形	89.8	11.2	43.9	-1.2	23.6	-3.3	2.0	0.3	147.5	-	Sa	-		
-	-	3256	IIIbM	亮形	89.9	11.3	45.4	0.3	37.8	10.9	2.0	0.2	195.5	-	Sa	-		
-	-	2797	IIIbM	亮形	93.4	14.8	28.9	-16.2	19.1	-7.8	3.2	1.5	68.5	-	Mud	-		
-	-	3222	IIIbM	亮形	90.2	11.6	53.9	8.8	37.1	10.2	1.7	-0.1	280.0	-	Sa	-		
-	78-1	III S101	2814	IIIbM	亮形	89.3	10.7	30.7	-14.4	28.8	1.9	2.9	1.1	87.9	-	Mud	-	
-		-	3270	IIIbM	亮形	94.9	16.3	39.1	-6.0	26.4	-0.5	2.4	0.7	105.7	○	Sa	-	
-		-	2975	IIIbM	亮形	95.0	16.4	54.4	9.3	30.4	3.5	1.7	0.0	170.6	-	Sa	-	
-		-	2988	IIIbM	亮形	95.2	16.6	34.0	-11.1	31.5	4.5	2.8	1.0	170.2	-	Sa	-	
-		-	2817	IIIbM	亮形	97.4	18.8	54.4	9.3	24.5	-2.4	1.8	0.0	183.7	-	Sa	-	
-		-	3264	IIIbM	略光形	98.8	20.2	46.3	1.2	24.0	-2.9	2.1	0.4	143.2	○	Sa	-	
-		-	III S099	2987	IIIbM	亮形	94.8	16.2	49.5	4.4	36.6	9.7	1.9	0.1	235.0	-	Sa	-
-		-	3228	IIIbM	亮形	100.3	21.7	37.8	-7.3	33.6	6.7	2.7	0.9	142.0	-	Sa	-	
-		-	2839	IIIbM	欠損 (127.2)	-	79.8	34.7	68.0	41.1	(1.6)	-3.4	1034.0	-	Sa	-		
-		-	3278	IIIbM	亮形	200.7	122.1	148.4	103.3	19.3	-7.6	1.4	-0.4	730.0	-	Sa	-	
						78.6		45.1		26.9		1.77	145.8					
												総点数 236点	※亮形 65点					

第5節 焼土 (図II-42・43 図版19・20)

IIIbU~IIIbM で検出した焼土をアイヌ文化期に属するものとして扱う。オニキシベ2遺跡で検出したアイヌ文化期の焼土は、すべてB地区でみつかっている。B地区は耕作によりIII層上面が広範囲で削平されており、検出した焼土のほとんどが燃焼面を削られていた。

III F-01 (図II-42)

Q-10区で検出した。燃焼面は削平され残されていない。残存部分での規模は長さ48cm、厚さ2cmを測る円形プランの焼土である。

III F-02 (図II-42)

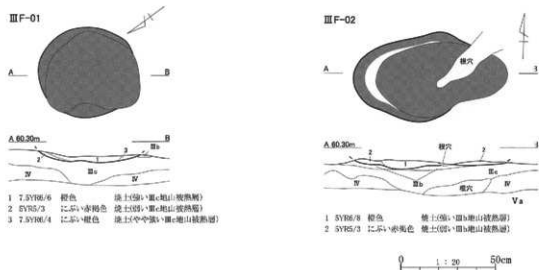
Q-10・11区で検出した。燃焼面は削平され残されていない。残存部分での規模は長さ78cm、厚さ4cmを測る長楕円形プランの焼土である。

III F-03 (図II-43)

Q-10区で検出した。燃焼面は削平され残されていない。残存部分での規模は長さ32cm、厚さ2cmを測る不整形プランの焼土である。

III F-04 (図II-43)

Q-9区で検出した。燃焼面は削平され残されていない。残存部分での規模は長さ44cm、厚さ3cmを測る不整形円形プランの焼土である。



図Ⅱ-42 アイヌ文化期焼土(1)

III F-06 (図Ⅱ-43)

Q-13 区で検出した。燃焼面は削平され残されていない。残存部分での規模は長さ 26 cm、厚さ 4 cm を測る。卵形プランで被熱層の赤色化が弱い焼土である。

III F-07 (図Ⅱ-43)

Q-12 区で検出した。燃焼面は削平され残されていない。残存部分での規模は長さ 50 cm、厚さ 3 cm を測る不整楕円形プランの焼土である。

III F-16 (図Ⅱ-43)

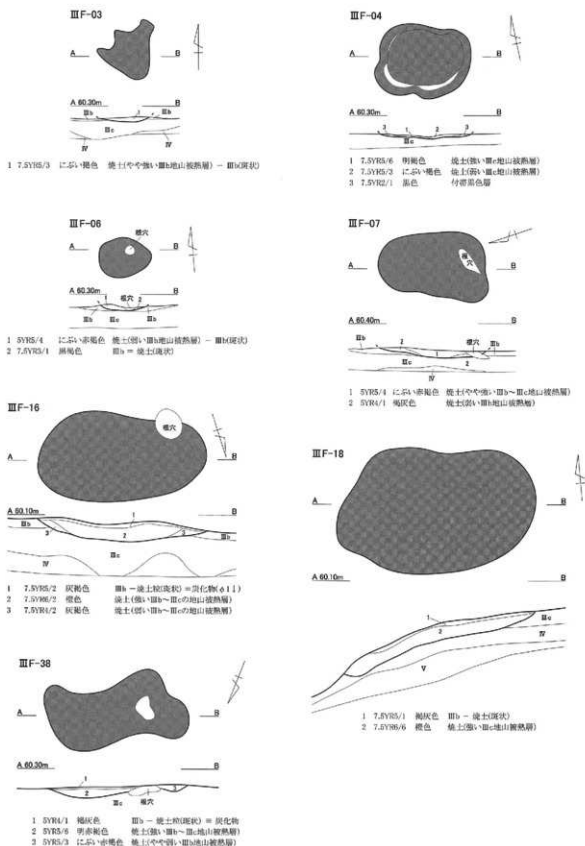
O・P-14 区で検出した。長さ 86 cm、厚さ 10 cm を測る長楕円形プランの焼土である。長大で被熱層も良好に形成されているが、焼骨片はほとんど含まれていない。

III F-18 (図Ⅱ-43)

N・O-13・14 区で検出した。段丘崖への落ち際に位置する。段丘崖等高線と直交する方向に長軸を向けて形成されている。長さ 102 cm で、被熱層は厚さ 10 cm で良好に形成されている。骨片はほとんど含まれていなかった。

III F-38 (図Ⅱ-43)

Q-14 区で検出した。長さ 74 cm、被熱層の厚さ 5 cm の規模を測る不整形プランの焼土である。上位に若干の炭化物が確認できたが、骨片は含まれていなかった。



0 1 : 20 50cm

図II-43 アイヌ文化期焼土(2)

表Ⅱ-35 アイヌ文化期焼土属性表

押図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅱ-42	19-1-2	ⅢF-01	Q-10	ⅢbM	楕円形	48	44	2	-	
Ⅱ-42	19-3-4	ⅢF-02	Q-10-11	ⅢbM	長楕円形	78	42	4	-	
Ⅱ-42	19-5-6	ⅢF-03	Q-10	ⅢbM	不整形	32	28	2	-	
Ⅱ-42	-	ⅢF-04	Q-9	ⅢbM	不整形楕円形	44	40	3	-	
Ⅱ-42	19-7-8	ⅢF-06	Q-12-13	ⅢbM	楕円形	26	20	4	-	
Ⅱ-42	20-1-2	ⅢF-07	Q-12	ⅢbM	不整形	50	30	3	-	
Ⅱ-42	20-3-4	ⅢF-16	O-P-14	ⅢbM	長楕円形	86	46	10	-	
Ⅱ-43	20-5-6	ⅢF-18	N-O-14	ⅢbM	長楕円形	102	46	10	-	
Ⅱ-43	20-7-8	ⅢF-38	Q-14	ⅢbM	不整形	74	32	5	-	

第6節 灰集中 (図Ⅱ-44)

単独で検出した灰集中はⅢAS-01の1ヵ所である。アイヌ文化期焼土と同様、B地区に位置する。

ⅢAS-01 (図Ⅱ-44)

Q-13区で検出した。26×12 cm、厚さ2 cmを測る。当初焼土と考えⅢF-10としていたが、断面を観察したところ焼土層の形成が認められなかったことから、報告段階に灰集中とし、ⅢAS-01の遺構名に変更した。検出面はⅢc層上面で低く、底面が窪んでいるため、浅い掘り込みの中に灰を投棄した可能性が想定される。

ⅢAS-01



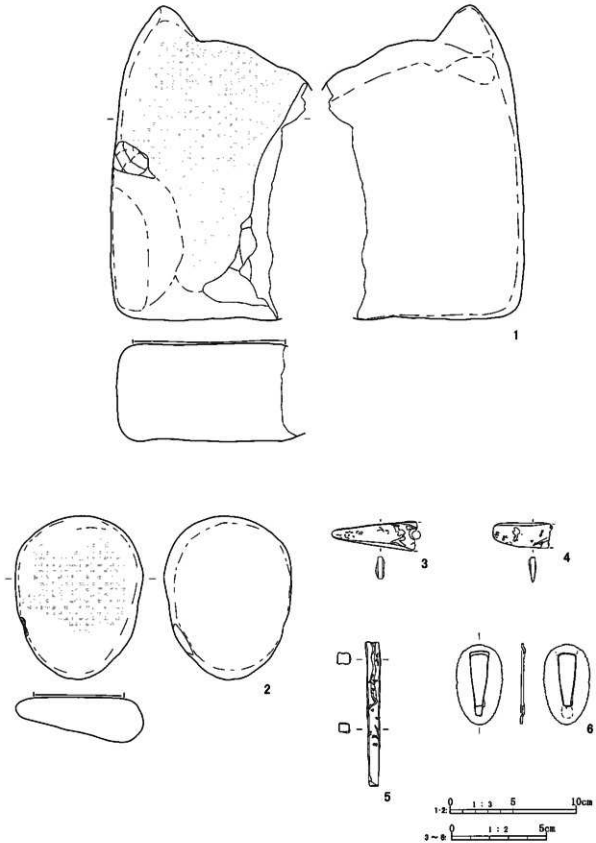
図Ⅱ-44 灰集中

表Ⅱ-36 アイヌ文化期灰集中属性表

押図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅱ-44	-	ⅢAS-01	Q-13	ⅢbM	不整形楕円形	26	12	2	灰・骨	

第7節 アイヌ文化期包含層出土遺物 (図Ⅱ-45 図版79-2)

礫石器及び金属製品はⅢa～ⅢbMから出土したものをアイヌ文化期包含層出土の遺物として扱っている。1・2は滑沢面のある礫である。共に集中区1に近接して出土した。集中区に含めていないが、集中区1からは礫石器が多く出土していること等から、これに関連するものであった可能性がある。1は大形の礫を素材とし、表面の平坦な面に広い滑沢面がある。2は小形の扁平礫を素材とし、表面の平坦な面を利用している。素材礫の形状等から1は受動的、2は能動的に利用されたと考えられる。3～5は鉄製品である。3は短刀茎で、目釘穴が認められる。4は刀子中茎。5は棒状鉄片で上端側の断面がやや「H」字形に潰れている。6は鋼製の切刃で、縁に刻みが入っている。



図II-45 アイヌ文化期包含層出土遺物

表Ⅱ-37 アイヌ文化期包含層出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅱ-45-1	79-2-1	-	1953	帯状面のある鏝	-	ⅢbM	-	G-9	248.0	(159.0)	76.0	4100.0	Sn	
Ⅱ-45-2	79-2-2	-	1950	帯状面のある鏝	-	ⅢbM	-	H-10	130.0	101.0	35.0	560.0	Sn	
Ⅱ-45-3	79-2-3	-	2456	小刀茎片	-	ⅢbM	-	G-6	46.8	15.8	4.4	5.3	Iron	
Ⅱ-45-4	79-2-4	-	1630	刀子茎片	-	ⅢbM	-	H-10	31.0	13.4	3.0	2.3	Iron	
Ⅱ-45-5	79-2-5	-	44	棒状鉄片	-	ⅢbU	-	N-13	76.0	6.8	4.8	11.2	Iron	
Ⅱ-45-6	79-2-6	-	43	切刃	-	ⅢbU	-	O-13	42.3	24.0	0.7	4.8	Cu	

第三章 擦文文化期の調査

擦文文化期の調査では、カマドを伴う竪穴住居跡 1 軒の他、3 基の土坑、47 ヶ所の焼土、土器・礫石器を中心とする多数の遺構・遺物が出土している。擦文文化期の竪穴住居跡は町内でも共和遺跡で例があるが、カマド付のものは今回が初めての事例となる。土坑、焼土についてはその一部が、集中遺物と共にある程度のまとまりをもって出土しており、特に遺物分布密度が高く、焼土との関連性が伺える状態で出土した場所を集中区として設定した。こうした集中区は合計 3 ヶ所で認められた。

表Ⅲ-1 擦文文化期遺構群一覧表

遺構名	規模(cm)		グリッド	層位	付属遺構						備考	
	長軸	短軸			土坑	焼土等	獣骨集中	炭化物集中	土器集中	礫集中		その他
ⅢH-02	456	448	AE-19・20	-	SP-01	カマド HF02	-	-	-	ⅢH-02.S	-	-
集中区3	1140	780	N・O- 12~14	-	ⅢP- 01・03	ⅢF-33	-	-	ⅢPB- 01・02	ⅢSB- 01・02	-	-
集中区4	1020	660	AL-16~18, AM-16~18, AN-16~17	-	-	ⅢF- 58・59・62	-	-	ⅢPB- 05・08・ 16	-	-	-
集中区5	1380	1140	AC-23・24, AD・AE・AF- 22~24	-	-	ⅢF-86・ 90・91・93	-	-	-	ⅢSB-21	-	-

第1節 竪穴住居跡

2号竪穴住居跡〔ⅢH-02〕 (図Ⅲ-2~7 図版 21~25, 80-1, 81-1)

位置：AD~AF-19・20 区

規模：〔周堤帯〕1152×1048×8cm 〔主体部〕456×448×46cm カマド方向：N-27° W

確認・調査：平成 20 年度 A 地区調査範囲のⅢ層上面を重機で検出中、AE-19・20 区で方形プランの窪みを確認した。窪み周囲にⅤ層起源の礫を含む周堤帯と考えられる土が堆積し、窪みの西側では白色粘土の堆積が認められたため、カマドを伴う擦文文化期の竪穴住居跡であると把握できた。掘上土が当初計画していた調査範囲の外側まで広がっていたため、調査範囲の拡張を行った。拡張は住居跡周辺の地形が捉えられるだけの範囲まで行った。Ⅲ層上面を清掃した後、等高線の測量を行い十字にベルトを設定した。すぐに掘削に入る計画でいたが、隣接してアイヌ文化期の土坑墓ⅢGP-03 を検出したため、土坑墓調査の目処が立った後、竪穴住居跡の掘削を開始した。調査はベルトに沿ってトレンチを掘削し、床面、壁面を把握した上で、ベルトで区切られた 4 つの区画を同時に掘削した。トレンチでの堆積状態観察の結果、床面はⅥ層漸移層中に形成されていることがわかった。覆土が薄かったため床面検出は速いペースで進んだ。壁際の掘削を行っていた際、B-Tm の比較的良好な堆積が観察できたため堆積状態の撮影を行った。壁際の床面検出を進めたとこ、南壁際で棒状礫の集中 1 ヶ所と大型礫 1 点が出土し、西側の壁面中央で板状礫の集積を確認した。板状礫についてはカマドの構築材と想定したことから、主体部内のみを検出し、煙道内の検出は後回しにした。他に、カマドの南脇で焼土粒の堆積を確認したためその範囲を記録した。カマドを除いた主体部の床面検出後、撮影、遺物出土状態を記録し取り上げを行った。遺物取り上げ後、Ⅶ層面ま

で掘削して柱穴確認に努めると同時に、カマドの調査を開始した。カマドの長軸を通るセクションラインと、それに直交する3本のラインを設定し、堆積状態の記録を作成しながら掘削を進めた。はじめにカマドを覆う周堤帯の土を除去し、下位に埋もれたカマド構築材の板状礫と白色粘土を検出した。出土状態の記録を行った後、礫を取り上げ、再び堆積状態の記録を作成しながら下に隠れた礫の検出を行った。その際、長軸方向のセクションライン記録を優先したため北側半分の掘削を先行した。煙道部縦断面撮影後、南半分も掘削し、煙道部坑底面の検出を行った。底面において強く赤色化した焼土を検出したため、平面形、断面の記録を行っている。柱穴は主体部壁際を中心に合計11本を検出した。その他カマド焚口東脇で小規模な土坑も検出している。

主体部形態(図Ⅲ-3)：主体部は1辺450cmの方形で、46cmの深さに掘り込まれ、壁面は急角度に立ち上がっている。床面はⅥ層中にほぼ水平に形成されているが、壁際では緩やかに傾斜していた。

周堤帯(図Ⅲ-2)：重機でのⅢ層上面検出時に西側の一部を削平しているが、周堤帯は1152×1048cmの規模で主体部全周に等範囲で広がっている。上面が耕作で削られているが、現存部分での厚さは8cmであった。Ⅴ層主体土で構成されるため、直径5~40mmのシルト岩や亜円礫を多く含んでいた。

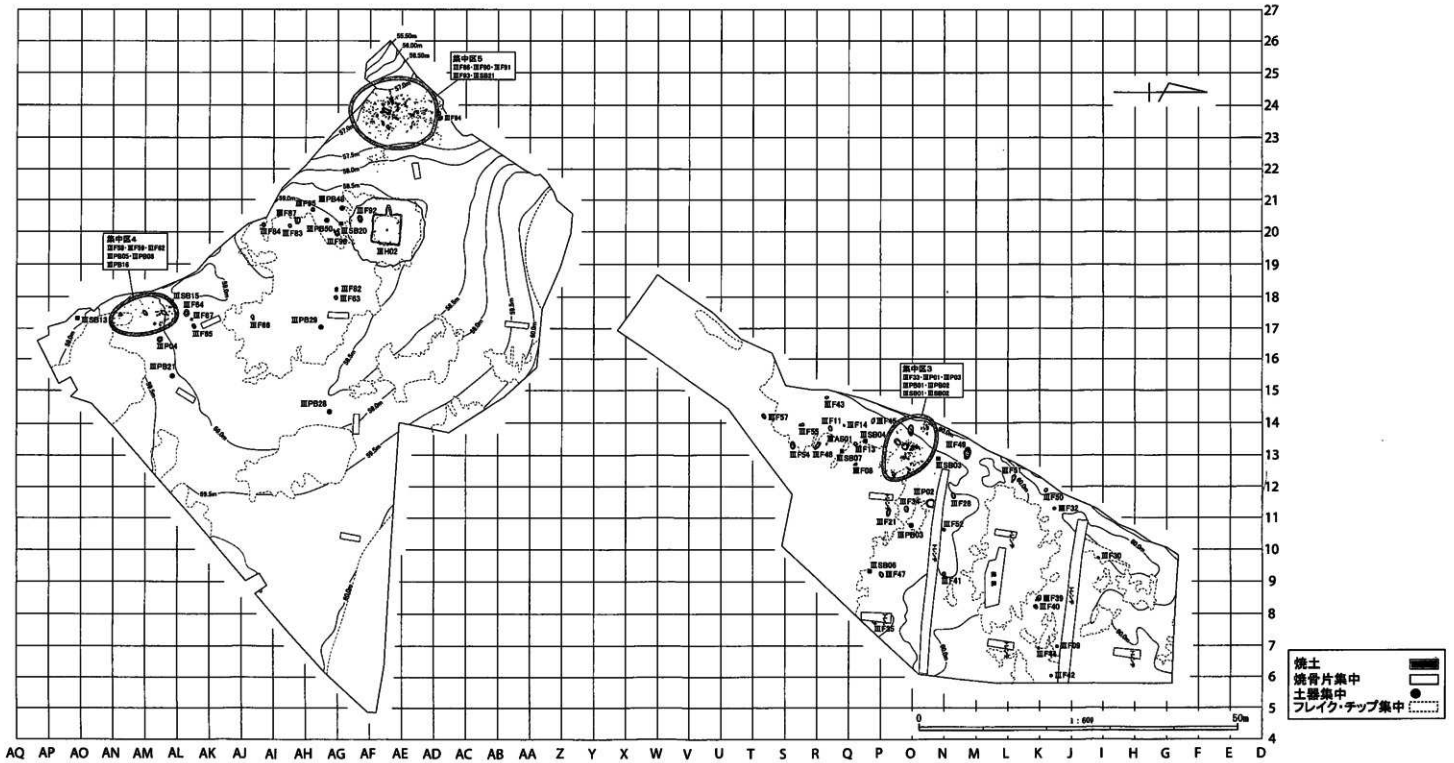
堆積状態(図Ⅲ-2)：主体部内の堆積は、中央付近では4~5cm程堆積したⅢb層直下に床面が形成され、壁際では壁面の崩れや周堤帯の流れ込みによりやや厚さが増していた。また壁面崩落土直上にはB-Tmが1~2cmの厚さで層として堆積していた。周堤帯はⅢc及びⅤ層主体土で構成され、直径40mm以下のシルト岩、亜円礫を多く含む。周堤帯下位には僅かにⅢb層の堆積が認められるが、B-Tmは確認できなかった。こうした堆積状態から、本住居跡はB-Tm降下以前に構築されたと判断できた。

カマド(図Ⅲ-4)：カマドは主体部西壁中央を長さ160cm、幅80cmの規模で開削し、底面をⅦ層まで掘り込んで構築している。開削した両側壁に沿って大型板状礫を縦列配置した上に、別の板状礫を渡して天板とし、天板礫間の間隙を白色粘土で埋めて煙道部を形成している。焚口の上部構造にも板状礫が用いられている。袖石は掘削した底面に板状礫を設置し、周囲を周堤帯と同質の土、及び白色粘土で埋めて固定している。天板も板状礫を渡して構築していたと考えられるが、掛口の構造を把握するには至らなかった。焼土(HF01)は主体部から煙道部にかけての位置に長さ84cmの規模で形成されていた。焼土の被熱層は土質の違いで2層に分層でき、上位の層はⅢc主体土で構成されていた。カマド構築時の底面掘削後、焚口部分を盛土して整地したと考えられる。

小土坑(図Ⅲ-3)：SP01はカマド焚口に隣接して形成された土坑である。カマド調査の際に設定したトレンチ壁面で黒色土の落込みとして確認した。残存範囲での平面形は38×26cmの楕円形で、深さは10cmを測る。坑底面の面積は狭いが水平に形成され、壁面は大きく直線的に開いて立ち上がっている。埋土中に炭化物等は認められなかったが、カマドに関連する施設の可能性がある。

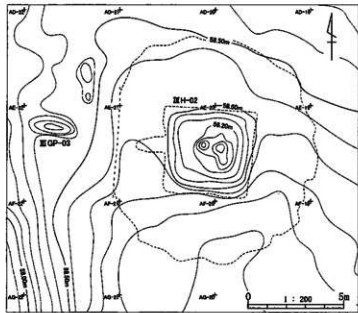
焼土粒集中(図Ⅲ-3)：HF02はカマドの南脇で検出した。62×24cmの不整楕円形で、下底面が水平であったことから投棄された焼土と判断した。焼骨片等は含まれていなかった。

柱穴(図Ⅲ-3)：柱穴は合計11本を確認した。この内10本(HP01~10)は主体部壁際に位置し、断面下端部が尖ることから打ち込みによる柱穴と考えられる。HP04・05・07・08・10は主体部床面から壁面にかけての屈曲点に位置し、外ふんばりの状態で打ち込まれていた。HP11は主体部中央に位置する柱穴で、下底面が水平であったため掘り方をもつ柱穴と考えられる。



図Ⅲ-1 縄文文化期遺構配置図

ⅢH-02



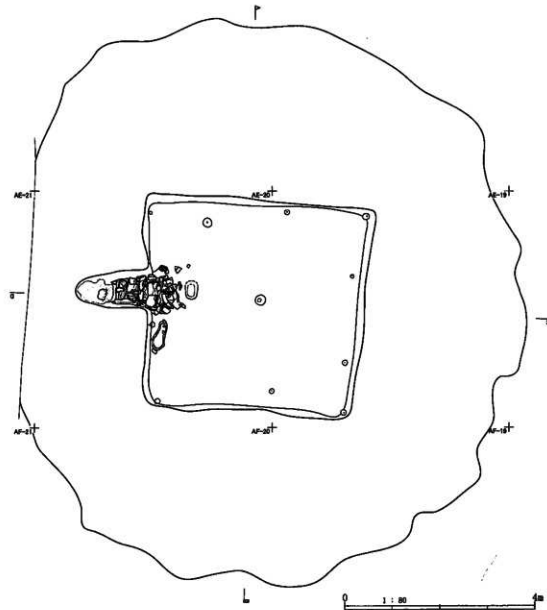
Ⅲ層上面での等高線

A-B

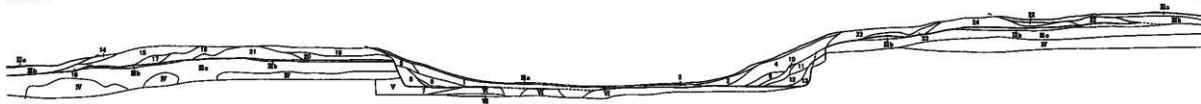
- | | | | |
|----|---------|--------|------------------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒褐色 | Ⅲc = IV(廃) = V(廃) |
| 2 | 10YR2/1 | 黒色 | Ⅲb = IV(廃) = V(廃) |
| 3 | 10YR6/3 | 灰褐色 | Ⅲc = Ⅲc(均) = Ⅲc(均) |
| 4 | 10YR6/3 | にがい黄褐色 | Ⅲc = IV(均) = V(廃)→シルト層(φ51) |
| 5 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Ⅲc = V(廃) |
| 6 | 10YR2/1 | 黒色 | Ⅲb = Ⅲc(均) |
| 7 | 10YR6/3 | にがい黄褐色 | B-Ⅱ = Ⅲc(均) |
| 8 | 10YR2/1 | 黒褐色 | Ⅲc = V(均) = シルト層(φ51) |
| 9 | 10YR2/1 | 黒色 | Ⅲb = V(均) |
| 10 | 10YR6/3 | にがい黄褐色 | B-Ⅱ = Ⅲc(均) |
| 11 | 10YR2/1 | 黒褐色 | V = Ⅲc(均)→シルト層(φ51) |
| 12 | 10YR2/3 | 黒褐色 | Ⅲc = V(均) = シルト層(φ51) |
| 13 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Ⅲc = Ⅲc(均) |
| 14 | 10YR2/1 | 黒色 | V = シルト層(φ201) |
| 15 | 10YR2/1 | 黒褐色 | V = シルト層(φ401) |
| 16 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Ⅲc = V(均) |
| 17 | 10YR6/3 | にがい黄褐色 | Ⅲc = IV(均) = V(廃)→シルト層(φ51) |
| 18 | 10YR2/1 | 黒褐色 | V = シルト層(φ201) = IV(均) |
| 19 | 10YR6/2 | 灰褐色 | Ⅲc = IV(均) |
| 20 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Ⅲc = IV(均) |
| 21 | 10YR2/1 | 黒褐色 | Ⅲc = IV(均)→シルト層(φ51) |
| 22 | 10YR2/1 | 黒褐色 | V = シルト層(φ201) = IV(均) |
| 23 | 10YR2/2 | 黒褐色 | V = IV(均)→シルト層(φ401) = Ⅲc(均) |
| 24 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Ⅲc = IV(均) |

C-D

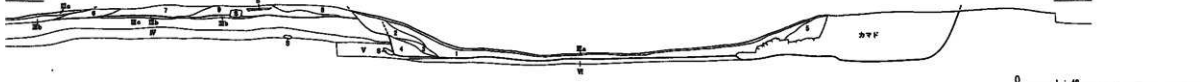
- | | | | |
|---|---------|-----|------------------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Ⅲb = シルト層(φ51) |
| 2 | 10YR2/1 | 黒褐色 | V = シルト層(φ101) |
| 3 | 10YR2/1 | 黒褐色 | Ⅲb = Ⅲc(均) |
| 4 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Ⅲc = シルト層(φ51) = IV(均) |
| 5 | 10YR2/2 | 黒褐色 | V = シルト層(φ51) = Ⅲc(均) |
| 6 | 10YR2/1 | 黒褐色 | V = シルト層(φ101) |
| 7 | 10YR2/2 | 黒褐色 | V = Ⅲc(均)→シルト層(φ201) = IV(均) |
| 8 | 10YR2/2 | 黒褐色 | V = Ⅲc(均) = IV(均)→シルト層(φ201) |
| 9 | 10YR2/1 | 黒褐色 | Ⅲc = V(均) |



A-B断面

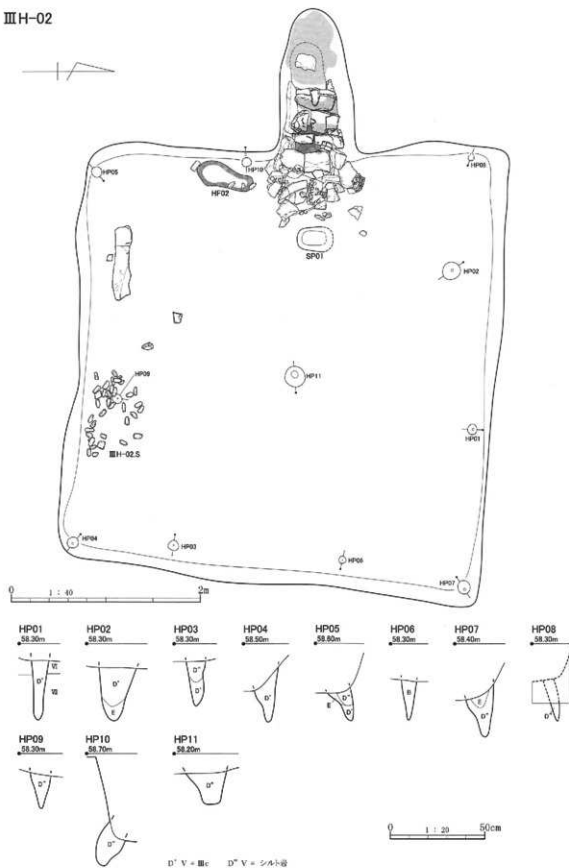


C-D断面



図Ⅲ-2 2号竪穴住居跡(ⅢH-02)

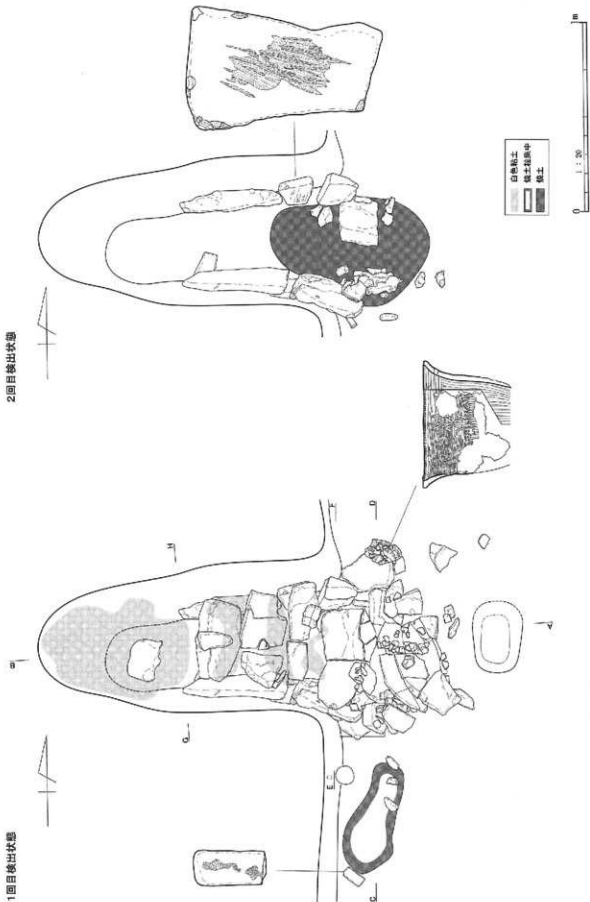
ⅢH-02



図Ⅲ-3 2号竪穴住居跡平面図及び柱穴断面図

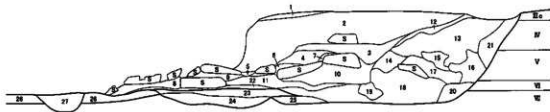
1回目検出状態

2回目検出状態

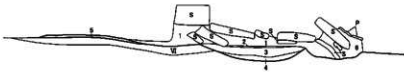


図Ⅲ-4 2号竪穴住居跡カマド平面図

A-B
A 33.60m



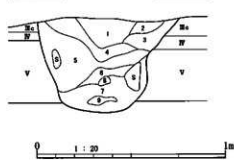
C-D
C 33.60m



E-F
E 50.60m



G-H
G 33.60m



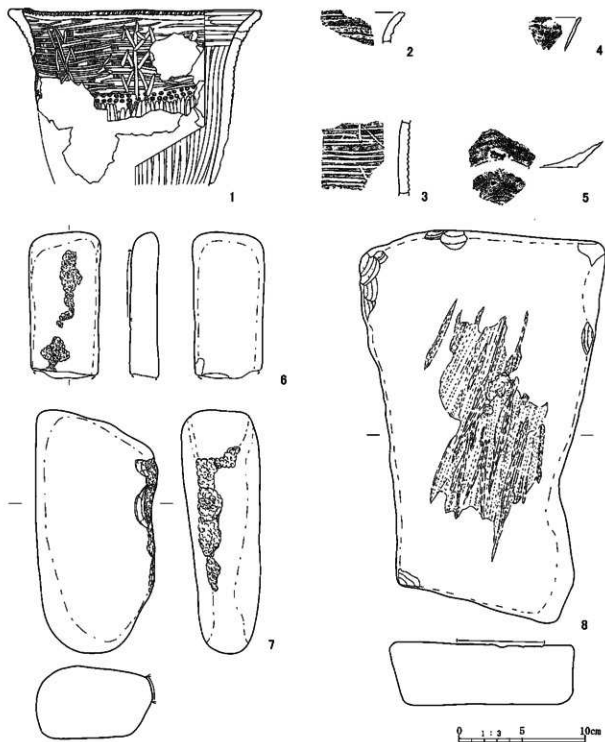
- A-B**
- | | | |
|-------------|--------|-------------------------------|
| 1 10YR4/2 | 灰黄褐色 | Ⅲc = IV(腐状) |
| 2 10YR3/1 | 黒褐色 | V = シルト層(φ30) = Ⅲc(均一) |
| 3 10YR2/1 | 黒色 | Ⅲc = シルト層(φ20) |
| 4 10YR2/2 | 黒褐色 | Ⅲc = IV(均一) |
| 5 10YR7/3 | にがい黄褐色 | 白色粘土 = Ⅲc(腐状) |
| 6 | 5土阿賀 | |
| 7 | 5土阿賀 | |
| 8 10YR2/1 | 黒色 | Ⅲb = B-Tm(腐状) = 炭化物(φ5) |
| 9 10YR3/2 | 黒褐色 | Ⅲc = 白色粘土(腐状)・シルト層(φ5) |
| 10 10YR3/1 | 黒褐色 | Ⅲc = シルト層(φ1)・V(腐状) |
| 11 10YR6/2 | 灰黄褐色 | 白色粘土 = V(均一)・シルト層(φ10)・Ⅲc(均一) |
| 12 10YR6/3 | 褐灰色 | 白色粘土 = V(均一)・シルト層(φ20) |
| 13 2.5YR/2 | 灰白色 | 白色粘土 |
| 14 10YR3/1 | 黒褐色 | Ⅲc = 白色粘土(腐状) |
| 15 10YR4/1 | 褐灰色 | Ⅲc = 白色粘土(均一) |
| 16 | 15土阿賀 | |
| 17 10YR3/1 | 黒褐色 | Ⅲc = 底円礫(φ10) |
| 18 10YR3/2 | 黒褐色 | Ⅲc = IV(腐状) |
| 19 10YR7/2 | にがい黄褐色 | 白色粘土 = V(腐状) |
| 20 10YR8/3 | 浅黄褐色 | 白色粘土 = Ⅲc(腐状) |
| 21 10YR3/1 | 黒褐色 | Ⅲc = IV(腐状) |
| 22 7.5YR4/1 | 褐灰色 | Ⅲc = 焼土(腐状) = 焼骨片(φ1) |
| 23 7.5YR7/6 | 褐色 | 焼土(底土主体土被熟層) |
| 24 2.5YR5/6 | 明赤褐色 | 焼土(窪地山被熟層) |
| 25 10YR2/2 | 黒褐色 | Ⅲc |
| 26 10YR4/2 | 灰黄褐色 | V = Te-d(均一)・底円礫(φ30) |
| 27 10YR2/1 | 黒色 | V = 底円礫(φ20)・シルト層(φ20) |

- C-D**
- | | | |
|------------|-------|------------------------|
| 1 10YR3/1 | 黒褐色 | Ⅲc = B-Tm(腐状)・シルト層 |
| 2 7.5YR4/1 | 褐灰色 | Ⅲc = 焼土(腐状)・焼骨片(φ2) |
| 3 7.5YR7/6 | 褐色 | 焼土(底土主体土被熟層) |
| 4 2.5YR5/6 | 明赤褐色 | 焼土(窪地山被熟層) |
| 5 7.5YR6/3 | にがい褐色 | 焼土 = V(腐状) |
| 6 10YR2/1 | 黒褐色 | V = 底円礫(φ20)・シルト層(φ20) |

- E-F**
- | | | |
|------------|--------|----------------------------|
| 1 10YR3/1 | 黒褐色 | Ⅲc = シルト層(φ2) = B-Tm(腐状) |
| 2 10YR2/1 | 黒色 | Ⅲc = V(腐状)・シルト層(φ2) = 白色粘土 |
| 3 10YR5/2 | 灰黄褐色 | 白色粘土 = V(均一) |
| 4 10YR7/2 | にがい黄褐色 | 白色粘土 = V(腐状) |
| 5 10YR3/1 | 黒褐色 | V = シルト層(φ10)・白色粘土(腐状) |
| 6 10YR2/1 | 黒色 | V = 底円礫(φ20)・シルト層(φ10) |
| 7 7.5YR4/1 | 褐灰色 | Ⅲc = 焼土(腐状)・焼骨片(φ2) |
| 8 7.5YR7/4 | 褐色 | 焼土(底土主体土被熟層) |
| 9 2.5YR5/6 | 明赤褐色 | 焼土(窪地山被熟層) |
| 10 10YR2/1 | 黒色 | V = 底円礫(φ20)・シルト層(φ10) |
| 11 10YR4/1 | 褐灰色 | Ⅲc = V(腐状)・シルト層(φ10) |

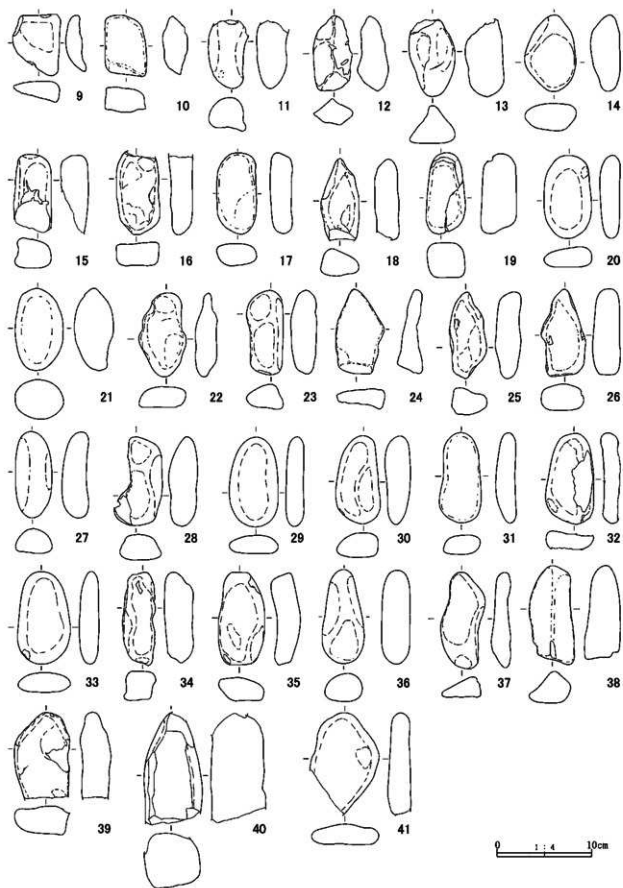
- G-H**
- | | | |
|-----------|--------|------------------------|
| 1 10YR3/1 | 黒褐色 | V = シルト層(φ30) |
| 2 10YR2/1 | 黒色 | Ⅲc = IV(腐状) |
| 3 10YR3/2 | 黒褐色 | Ⅲc = IV(腐状) |
| 4 10YR2/1 | 黒色 | Ⅲc = シルト層(φ1) |
| 5 10YR3/2 | 黒褐色 | Ⅲc = IV(腐状) = シルト層(φ1) |
| 6 10YR3/1 | 黒褐色 | Ⅲc = 白色粘土(腐状) |
| 7 10YR4/3 | にがい黄褐色 | Ⅲc = IV(腐状) |
| 8 10YR7/2 | にがい黄褐色 | 白色粘土 = Ⅲc(腐状) |
| 9 10YR7/2 | にがい黄褐色 | 白色粘土 = Ⅲc(腐状) |

図Ⅲ-5 2号竪穴住居跡カマド断面図



図Ⅲ-6 2号竪穴住居跡出土遺物(1)

遺物出土状態(図Ⅲ-3)：床面で出土し、本住居跡と直接関連する遺物は、南壁際で出土した棒状礫の集中と大型の柱状礫、カマド脇の焼土粒集中に伴う礫、及びカマド構築材の板状礫で、住居跡に伴う土器は出土していない。棒状礫はやや散逸した状態で出土した。出土位置の下位にはHP09が位置していた。カマドでは構築材に使用されている板状礫の中に砥石が含まれていた。続縄文文化期等、古い時期の石器を再利用した可能性がある。また北側袖石上で擦文土器が出土している。同一個体片が竪穴住居跡外の包含層でも出土しており、袖石との間に若干の周堤帯起源土を挟んでいた



図Ⅲ-7 2号竪穴住居跡出土遺物(2)

ため、住居跡廃棄後に流れ込んだ可能性が高い。住居跡覆土Ⅲb層では他にも擦文文化期の土器が出土しているが、いずれも住居跡が廃棄され、B-Tmが堆積した後に窪み内へ流れ込んだものと考えられる。

出土遺物(図Ⅲ-6・7):1・4・5は覆土のB-Tm層より上位から、2・3は周堤帯中の遺物である。1はカマド袖石の上から間層を挟んで出土したⅦB2aの甕胴部上半部片である。横走沈線の上に樹枝状の沈線を重ね、文様帯下縁に竹管状工具による円形の刺突が2列並ぶ。2はⅦB1bの甕口縁部片で、浅く幅広い沈線が横走し、口唇部形状は角張る。3はⅦB2aの胴部片。4・5は同一個体でⅦE4aのロクロ製土師器口縁部片、及び底部片である。6は焼土粒集中の脇で出土した、たたき石である。扁平な棒状礫の面を使用している。7もたたき石、8は砥石で、共にカマドの構築礫として再利用されたものである。9~41は床面で出土した集石構成礫である。長軸平均が約90mmあり、アイヌ文化期住居跡に伴うものより大きい。

表Ⅲ-2 ⅢH-02属性表

挿図番号	図版番号	計測項目	グリッド	層位	長軸方向	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ・厚さ(cm)	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
Ⅲ-3	21-2	主体部	AE-19-20	ⅢcU	N-87°W	456	448	432	416	46	
Ⅲ-2	21-1	掘上土	AD-19-20, AE-18~21, AF-19~21			1152	1048	-	-	(8)	

表Ⅲ-3 ⅢH-02カマド属性表

挿図番号	図版番号	計測対象	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ・厚さ(cm)	構築材	備考
			長軸	短軸	長軸	短軸			
Ⅲ-4	24-2	煙道部	160	80	126	36	52	板状礫	
Ⅲ-4	25-4	燃焼部(HF01)	84	56	-	-	6	-	

表Ⅲ-4 ⅢH-02焼土粒集中属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-3	25-6	HF02	AE-20	2	長楕円形	62	24	2	骨	

表Ⅲ-5 ⅢH-02柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm)			傾き(度)	タイプ	備考
			上端	下端	深さ			
Ⅲ-3	23-1	HP01	8	2	32	0°	打込み	
Ⅲ-3	23-5	HP02	20	4	28	5°	打込み	
Ⅲ-3	23-3	HP03	10	2	24	4°	打込み	
Ⅲ-3	-	HP04	12	2	16	6°	打込み	
Ⅲ-3	23-4	HP05	12	2	14	12°	打込み	
Ⅲ-3	23-6	HP06	8	2	22	0°	打込み	
Ⅲ-3	-	HP07	15	2	20	6°	打込み	
Ⅲ-3	-	HP08	6	2	20	14°	打込み	
Ⅲ-3	-	HP09	10	2	18	0°	打込み	
Ⅲ-3	23-2	HP10	14	4	14	24°	打込み	
Ⅲ-3	23-7	HP11	22	8	18	5°	掘立?	

表Ⅲ-6 ⅢH-02出土土器属性表

押図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考			
										内側	外側					
Ⅲ-6-1	80-1-1	SP060A	ⅤB2a	18927,18929,18930絶	2	ⅢH-02,KM	AE-20	甕	口縁〜胴部	ハケミミガキ 黒色処理	ハケミミガキ	7				
				20164								ⅢMO	-	AE-22	1	
				23209											1	
Ⅲ-6-2	80-1-2	SP052A	ⅤB1b	23209絶	ⅢMO	ⅢH-02	AF-20	甕	口縁	ヘラナデ	ヘラナデ	2				
Ⅲ-6-3	80-1-3	SP053A	ⅤB2a?	23238	ⅢMO	ⅢH-02	AF-19	甕	胴部	ミガキ	ハケミ	1				
Ⅲ-6-4	80-1-4	SP512B	ⅤE4a?	18304	ⅢbM	ⅢH-02	AE-19	甕	口縁	-	ロクロナデ	1				
Ⅲ-6-5	80-1-5	SP512A	ⅤE4a?	18305	ⅢbM	ⅢH-02	AE-19	甕	底部	-	ロクロナデ	1				

表Ⅲ-7 ⅢH-02出土遺物属性表

押図番号	図版番号	個体番号	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-6-6	80-1-6	-	22005	たたき石	I A1	1	ⅢH-02	-	(116.0)	56.5	23.0	290	Sa.	
Ⅲ-6-7	80-1-7	-	22318	たたき石	I A2	2	ⅢH-02	-	193.0	98.0	58.0	550	Sa.	
Ⅲ-6-8	80-1-8	-	22339	紙石	-	2	ⅢH-02KM	-	286.0	195.0	50.0	454	Sa.	

表Ⅲ-8 ⅢH-02礫集中属性表

押図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考				
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ							標準偏差			
Ⅲ-7-9	81-1	-	18951	2	完形	64.0	-25.2	49.1	3.9	17.9	-8.7	1.3	0.1	67.2	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-10	81-1	-	18949	2	完形	64.1	-25.1	42.5	-2.7	24.6	-2.0	1.5	0.3	78.9	-	Mud.	-			
Ⅲ-7-11	81-1	-	18952	2	欠損	(71.8)	-	36.9	-8.3	37.8	11.2	(1.9)	-3.2	127.1	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-12	81-1	-	18976	2	完形	78.7	-10.5	32.2	-13.0	30.1	3.5	2.4	1.2	82.4	-	Mud.	-			
Ⅲ-7-13	81-1	-	18948	2	欠損	(80.7)	-169.9	41.8	-3.4	39.7	13.1	(1.9)	-3.2	153.6	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-14	81-1	-	18956	2	完形	79.6	-9.6	54.4	9.2	29.2	2.6	1.5	0.2	153.7	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-15	81-1	-	18983	2	欠損	(81.7)	-	39.0	-6.2	27.7	1.1	(2.1)	-3.3	123.3	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-16	81-1	-	18953	2	欠損	(86.8)	-	45.2	0.0	21.4	-5.2	(1.9)	-3.1	152.6	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-17	81-1	-	18977	2	完形	84.4	-4.8	40.5	-4.7	21.5	-5.1	2.1	0.9	119.6	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-18	81-1	-	18958	2	欠損	(85.4)	-	38.4	-6.8	35.8	9.2	(2.2)	-3.4	106.4	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-19	81-1	-	18971	2	完形	86.7	-2.5	39.3	-5.9	35.5	8.9	2.2	1.0	183.8	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-20	81-1	-	18973	2	完形	86.7	-2.5	48.2	3.0	20.5	-6.1	1.8	0.6	131.9	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-21	81-1	-	18960	2	完形	86.4	-2.8	50.2	5.0	39.6	13.0	1.7	0.5	215.0	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-22	81-1	-	18962	2	完形	88.7	-0.5	50.1	4.9	21.6	-5.0	1.8	0.6	112.9	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-23	81-1	-	18979	2	完形	88.9	-0.3	36.8	-8.4	27.1	0.5	2.4	1.2	135.0	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-24	81-1	-	18955	2	完形	88.4	-0.8	50.3	5.1	23.5	-3.1	1.8	0.5	110.4	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-25	81-1	-	18968	2	完形	90.2	1.0	36.5	-8.7	28.5	1.9	2.5	1.3	116.3	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-26	81-1	-	18969	2	完形	89.1	-0.1	43.8	-1.4	28.3	1.7	2.0	0.8	164.4	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-27	81-1	-	18967	2	完形	91.1	1.9	36.9	-8.3	26.8	0.2	2.5	1.2	126.4	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-28	81-1	-	18960	2	完形	93.2	4.0	45.0	-0.2	26.7	0.1	2.1	0.9	145.3	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-29	81-1	-	18964	2	完形	94.3	5.1	49.2	4.0	18.8	-7.8	1.9	0.7	128.7	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-30	81-1	-	18963	2	完形	92.5	3.3	46.9	1.7	26.3	-0.3	2.0	0.8	149.3	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-31	81-1	-	18957	2	完形	95.5	6.3	43.6	-1.6	20.4	-6.2	2.2	1.0	119.8	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-32	81-1	-	18961	2	欠損	95.4	6.2	50.5	5.3	(17.0)	-	1.9	0.7	128.9	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-33	81-1	-	18954	2	完形	97.6	8.4	54.8	9.6	19.2	-7.4	1.8	0.6	146.2	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-34	81-1	-	18965	2	完形	96.6	9.4	36.2	-9.0	28.4	1.8	2.7	1.5	146.9	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-35	81-1	-	18972	2	完形	98.7	9.5	45.7	0.5	23.6	-3.0	2.2	0.9	163.1	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-36	81-1	-	18959	2	完形	98.1	8.9	43.6	-1.6	30.6	4.0	2.3	1.0	165.5	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-37	81-1	-	18970	2	完形	102.2	13.0	39.7	-5.5	21.4	-5.2	2.6	1.4	108.8	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-38	81-1	-	18978	2	完形	106.6	16.4	40.6	-4.6	33.1	6.5	2.6	1.4	190.4	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-39	81-1	-	18947	2	欠損	(122.5)	-	56.8	11.6	29.3	2.7	(1.6)	-2.8	220.0	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-40	81-1	-	18984	2	欠損	(117.5)	-	57.1	11.9	59.1	32.5	(2.1)	-3.3	575.0	-	Sa.	-			
Ⅲ-7-41	81-1	-	18981	2	欠損	(106.6)	-	72.6	27.4	21.8	-4.8	(1.5)	-2.7	194.7	-	Sa.	-			
						83.0		45.3		26.6		1.10		136.3						
																総点数	41点		※完形	24点

第2節 集中区

擦文文化期の遺構・遺物検出面であるⅢbLからは、多数の資料が得られたが、その分布をみると、調査区内においてある程度密度の濃淡が認められる。報告に際して、アイヌ文化期の記載と同様、特に遺物分布密度の高い範囲を集中区として捉えた。擦文文化期の集中区としては3ヵ所を設定している。

集中区3 (図Ⅲ-8~12 図版 26, 81-2~83-1)

位置：N・0-12~14区 規模：1140×780cm

関連遺構：土坑 ⅢP-01・03 焼土 ⅢF-33 土器集中 ⅢPB-01・02

礫集中 ⅢSB-01・02

確認・調査：N・0-12~14区のⅢb層を掘削した際、多数の土器、礫が出土した。特に密集して出土した範囲を集中遺物と捉え、土器集中2ヵ所(ⅢPB-01・02)、礫集中2ヵ所(ⅢSB-01・02)を設定し、出土状態の記録を行った。ⅢPB-01、ⅢSB-02の西側で焼土(ⅢF-33)を検出したため、平面形、断面の記録を行い、土壌サンプルを採取した。遺物を取り上げ、全体をⅢc上面まで掘削した際、0-13区において楕円形プランを呈するⅢb層落込みを確認した。半截したところ、底面が平らで基本土層が掘り込まれていることが確認できたため、土坑と判断しⅢP-01とした。またV層調査時での確認となったが、ⅢP-01の北側に隣接する位置でⅢP-03を検出した。報告段階でⅢF-33、集中遺物と合わせ集中区として設定した。

土坑(図Ⅲ-9)：ⅢP-01・03が集中区に関連する土坑である。ⅢP-01は108×72cmの楕円形プランを呈し、深さは40cmを測る。坑底面は平坦だが若干傾斜した状態で、壁面は緩やかに開きながら開口する。堆積土は土坑掘削時のV層を多く含む土で埋め戻されているが、埋土5層中にB-Tmを含むことから、形成時期はB-Tm降下より新しいと考えられる。ⅢP-03は100×104cmの円形プランで、深さ22cmを測る。坑底面はほぼ水平で壁面は緩やかに立ち上がっている。堆積土はV層を多く含み、ⅢP-01と同様埋め戻されたと考えられる。埋土3層中でⅢPB-01出土土器片と接合する擦文土器片が出土した。B-Tmは確認できなかった。

焼土(図Ⅲ-9)：ⅢF-33は長さ156cm、幅76cmを測る長大な焼土である。被熱層の厚さも10cmあり、良好に形成された焼土であるが、上面で確認できた焼骨片はごく僅かであった。

土器集中(図Ⅲ-10)：集中区に関連する土器集中はⅢPB-01・02の2ヵ所である。ⅢPB-01は総点数301点の土器片が出土し、主にSP002・003・024の個体片で構成されていた。SP002はⅢP-03坑底出土土器片と接合している。ⅢPB-02は総点数153点の土器片が出土し、SP027個体片で構成されている。

礫集中(図Ⅲ-8)：集中区に関連する礫集中はⅢSB-01・02の2ヵ所である。ⅢSB-01は欠損した大型歪角礫で構成される礫集中で、ⅢF-33北側の段丘縁で出土した。総点数26点中完形のもの1点のみであった。ⅢSB-02はⅢPB-01の北側に密接して出土した。棒状礫を主体とする礫集中で、総点数52点の内、完形個体は11点であった。

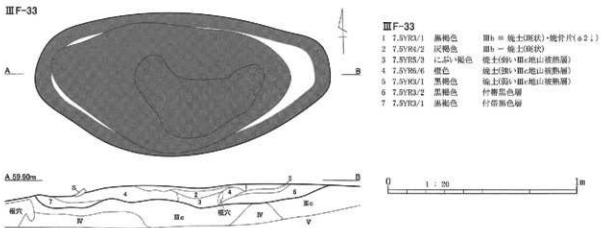
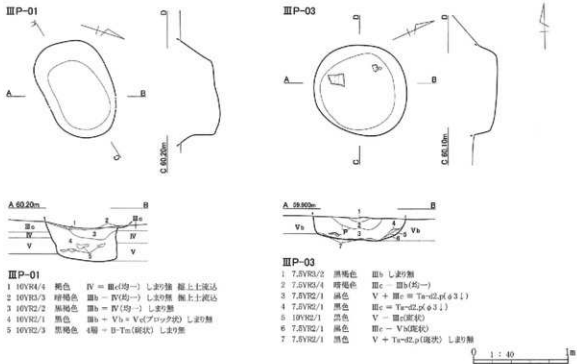
出土遺物(図Ⅲ-11・12)：1・9~11・13は集中区範囲内で散逸して出土し、4~6はⅢPB-02、7~10・13はⅢPB-01で出土した。1はⅧB2aの甕である。深く明瞭な横走沈線の上に単調な刻線を重ねている。胴部の調整は内外面ともにハケメが残る。4~6は同一個体で、ⅧB3aの甕である。7・8は同一

集中区3



図Ⅲ-8 集中区3平面図

個体でVII B3aの甕である。沈線は幅広で深い。9は口唇下に木口面を押しあてた刻みが廻る。器形は口縁部が外反し、底部から胴部は直線的に開く。文様構成と共伴土器からVII B3dと判断した。10はVII B3cの甕で、口縁部に矢羽状配置の刻みが廻り、文様帯下縁には先の尖った断面円形の棒状工具を用いた刻みが入られている。2は口唇部形態が角状のVII B1aの甕口縁部片である。3は内面黒色処理を施したVII B2aの甕胴部片である。11・12は甕底部片。13はVIC2bの環で、横位の沈線で区画した後、斜位の沈線を粗雑な矢羽状配置に施文している。14は基部断面が「C」字形に巻かれた鉄斧である。刃部と基部が分かれて出土した。

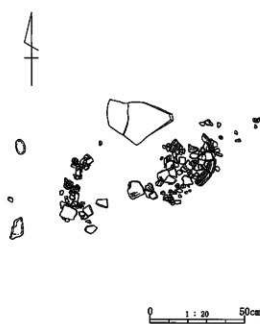


図III-9 集中区3関連遺構(1)

ⅢPB-01・ⅢSB-02



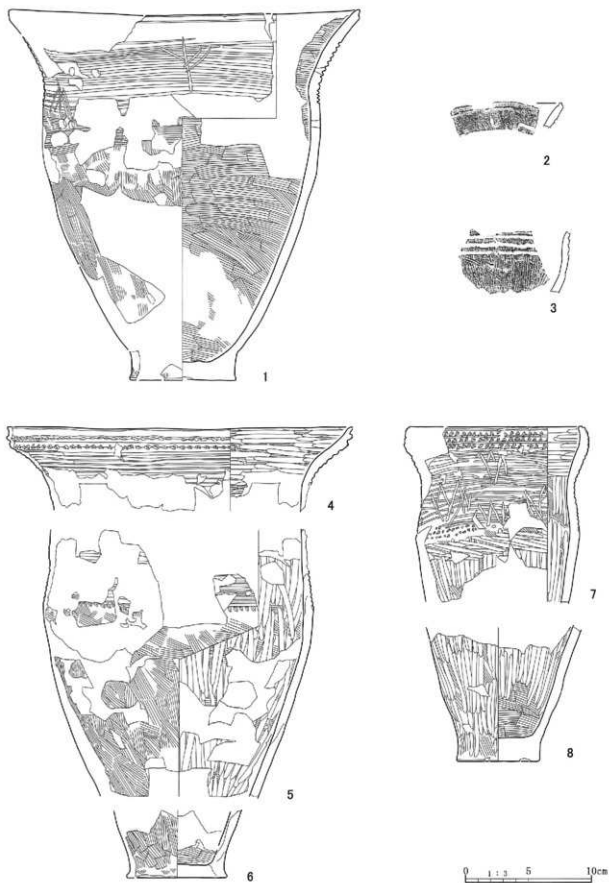
ⅢPB-02



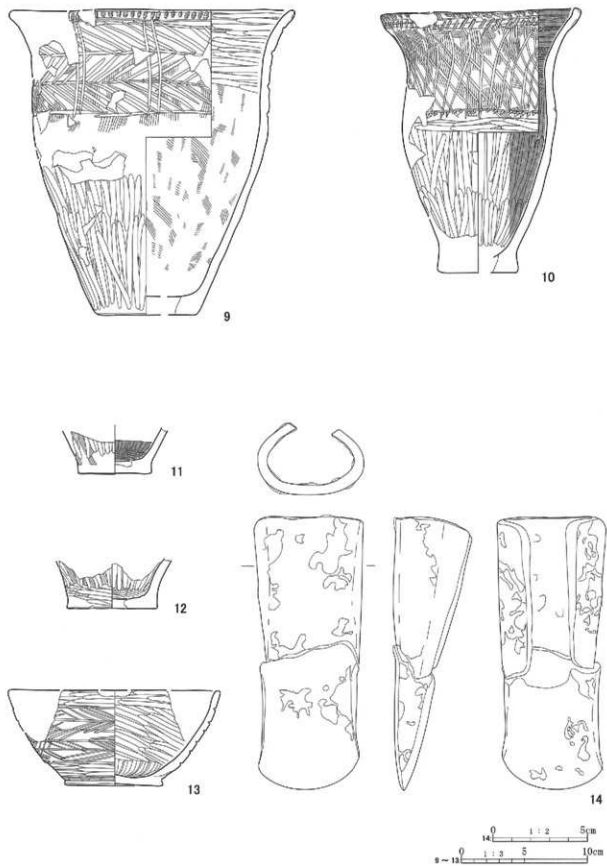
ⅢSB-01



図Ⅲ-10 集中区3関連遺構(2)



図Ⅲ-11 集中区3出土遺物(1)



図Ⅲ-12 集中区3出土遺物(2)

表Ⅲ-9 集中区3土坑属性表

押函番号	図版番号	遺構名	グリッド	検出層位	平面形 調査面/ 坑底面	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸方向	調査面 長短比	坑底面 長短比	出土 遺物	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸						
Ⅲ-9	26-1-2	ⅢP-01	O-13	ⅢcU	長楕円/ 長楕円	108	72	76	52	40	N-35°E	1.50	1.46	-	
Ⅲ-9	26-5-6	ⅢP-03	O-13	Vb	楕円/楕円	100	104	80	76	22	N-25°W	0.96	1.05		

表Ⅲ-10 集中区3焼土属性表

押函番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・ 骨片	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-9	26-3-4	ⅢF-33	N・O-13	ⅢcU	長楕円形	156	76	10	骨	

表Ⅲ-11 集中区3出土土器属性表

押函番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器高調査		点数	備考				
										内側	外側						
Ⅲ-11-1	81-2-1	SP007A	ⅡB2a	702	ⅢbL	ⅢF-20	N-11	変	口縁 ～ 底部	ハケメ	ハケメ ナデ	1					
				2600他								ⅢPB-01		N-13	2		
				2726								O-13		1			
				337,342,344他								ⅢcU		N-12	17		
				1030他											4		
				368,369,361他								ⅢbL		O-12	29		
				1076,1078,1084他											10		
				461,462,463他											10		
				992,994,995他								ⅢcU		O-13	6		
				2759他											4		
640	ⅢbL	F-12	1														
Ⅲ-11-2	82-1-12	SP014A	ⅡB1a?	2723	ⅢbL	ⅢPB-01	O-13	変	口縁	ミガキ	ヘラナデ	1					
				1000							ⅢcU	-		ミガキ	1		
Ⅲ-11-3	82-1-13	SP021B	ⅡB2a?	2890	Ⅰ	ⅢP-03	O-13	変	胴部	ハケメ ミガキ 黒色処理	ハケメ ミガキ	1					
Ⅲ-11-4	81-2-2	SP027A	ⅡB3a	3650,3653,3660他	ⅢbL	ⅢPB-02	O-12	変	口縁	ハケメ ミガキ	ハケメ ナデ	5					
Ⅲ-11-5	81-2-3	SP027B	ⅡB3a	3662,3665,3673他	ⅢbL	ⅢPB-02	O-12	変	胴部	ハケメ ミガキ	ハケメ	31					
Ⅲ-11-6	81-2-4	SP027C	ⅡB3a	2400	ⅢbL	-	M-12	変	底部	ハケメ ミガキ	ハケメ	1					
				1035								ⅢcU		N-12	1		
Ⅲ-11-7	82-1-6	SP024A	ⅡB3a	2548,2612,2616他	ⅢbL	ⅢPB-01	O-13	変	口縁 ～ 胴部	ハケメ ミガキ	ハケメ ミガキ	7					
				2568,2601他								ⅢbL		N-13	24		
				782											ⅢF-43	R-14	1
				786,787,788他													Q-14
Ⅲ-11-8	82-1-7	SP024B	ⅡB3a	2557	ⅢbL	ⅢPB-01	O-13	変	胴部 ～ 底部	ハケメ ミガキ	ハケメ ミガキ	1					
				2721								ⅢcU		-	N-13	1	
				1037												N-12	1
				2472,2473,2474他													O-13
Ⅲ-12-9	82-1-11	SP003A	ⅡB3d	2566,2570,2571他	ⅢbL	ⅢPB-01	N-13	変	口縁 ～ 底部	ハケメ ミガキ ナデ	ハケメ ミガキ ナデ	35					
				2891他								2		ⅢP-03	O-13	3	
Ⅲ-12-10	82-1-5	SP002A	ⅡB3c	2638,2639,2641他	ⅢbL	ⅢPB-01	N-13	変	口縁 ～ 底部	ハケメ ミガキ 黒色処理	ハケメ ミガキ	63					
				345他								ⅢcU		-	N-12	3	
				654他												P-12	2
				1113													1
				467,469,999他													ⅢbL
Ⅲ-12-12	82-1-8	SP016A	ⅡB5	2681 2748	ⅢbL	ⅢPB-01	N-13	変	底部	ハケメ ミガキ	ハケメ ミガキ	2					
Ⅲ-12-13	82-1-16	SP01A	ⅡC2b	2583 2588	ⅢbL	ⅢPB-01	N-13	変	口縁 ～ 台部	ミガキ 黒色処理	ハケメ ミガキ	2					
				2391								L-12		1			
				341,343								N-12		2			
				423,424他								N-13		3			
				296,384他								O-11		3			
				355,356								O-12		2			
				1045								ⅢcU		O-12	1		

表Ⅲ-12 集中区3出土遺物属性表

押図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-12-14	82-1-14	-	80	鉄斧	-	ⅢbL	-	O-13	144.0	56.0	38.0	505.0	Im.	

表Ⅲ-13 ⅢSB-01属性表

押図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	備考		
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ						標準 偏差	
Ⅲ-10	-	-	74	ⅢbL	欠損	41.3	-64.3	35.8	-27.1	10.8	-19.0	1.2	-0.5	22.9	-	Qu.	-
		-	73	ⅢbL	完形	80.3	-25.3	31.9	-31.0	19.6	-10.2	2.5	0.9	65.3	-	Sa.	-
		-	72	ⅢbL	欠損	64.2	-41.4	60.8	-2.1	29.4	-0.4	1.1	-0.6	171.1	○	Sa.	-
		-	71	ⅢbL	欠損	69.4	-36.2	37.9	-25.0	39.2	9.4	1.8	0.2	144.3	○	Sa.	-
		-	437	ⅢbL	欠損	88.7	-16.9	71.9	9.0	25.6	-4.2	1.2	-0.4	275.0	-	Sa.	-
		-	426	ⅢbL	欠損	124.9	19.3	72.8	9.9	43.1	13.3	1.7	0.1	515.0	-	Sa.	-
		ⅢS053	435	ⅢbL	欠損	270.1	164.5	129.5	66.6	40.8	11.0	2.1	0.4	1365.0	-	Sa.	-
						105.6	62.9	29.8	1.66			365.5					
														総点数	26点	※完形	1点

表Ⅲ-14 ⅢSB-02属性表

押図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	備考				
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ						標準 偏差			
Ⅲ-10	83-1	-	2690	ⅢbL	完形	32.6	-66.2	16.5	-33.0	5.7	-25.5	2.0	0.0	3.1	-	Mud.	-		
		-	5371	ⅢbL	磨完形	41.2	-57.6	32.1	-17.4	16.5	-14.7	1.3	-0.6	18.1	-	Mud.	-		
		-	3622	ⅢbL	完形	57.7	-41.1	27.0	-22.5	15.5	-15.7	2.1	0.2	31.7	-	Sa.	-		
		-	3617	ⅢbL	完形	68.0	-30.8	40.7	-8.8	31.0	-0.2	1.7	-0.3	117.5	-	Sa.	-		
		-	2686	ⅢbL	完形	69.8	-29.0	44.6	-4.9	29.0	-2.2	1.6	-0.4	111.1	-	Sa.	-		
		-	2691	ⅢbL	完形	82.2	-16.6	40.8	-8.7	25.6	-5.6	2.0	0.1	98.6	-	Sa.	-		
		-	3618	ⅢbL	完形	84.8	-14.0	37.4	-12.1	31.5	0.3	2.3	0.3	112.3	-	Sa.	-		
				ⅢS050	2760	ⅢbL	磨完形	84.7	-14.1	49.8	0.3	24.5	-6.7	1.7	-0.2	120.2	-	Sa.	-
		-	3613	ⅢbL	完形	84.8	-14.0	46.5	-3.0	29.3	-1.9	1.8	-0.1	142.1	-	Sa.	-		
		-	2685	ⅢbL	完形	88.3	-10.5	46.8	-2.7	25.8	-5.4	1.9	0.0	125.1	-	Sa.	-		
		-	3612	ⅢbL	完形	87.4	-11.4	44.8	-4.7	31.7	0.5	2.0	0.0	145.6	-	Sa.	-		
				ⅢS061	2749	ⅢbL	欠損	330.0	231.2	152.3	102.8	99.6	68.4	2.2	0.2	3920.0	-	Sa.	-
		-	2687	ⅢbL	欠損	173.0	74.2	64.3	14.8	39.4	8.2	2.7	0.8	600.0	-	Sa.	-		
								98.8	49.5	31.2	1.93			426.6					
																総点数	52点	※完形	11点

集中区4 (図Ⅲ-13~17 図版27, 28, 83-2~84)

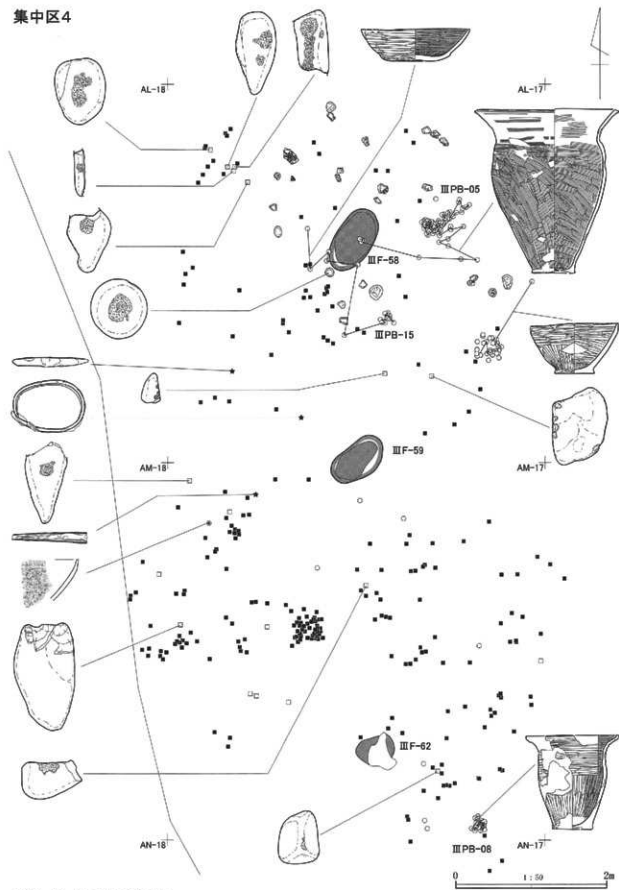
位置: AL-AM-17-18区 規模: 1020×660cm

関連遺構: 焼土 ⅢF-58-59-62 土器集中 ⅢPB-05-08-15

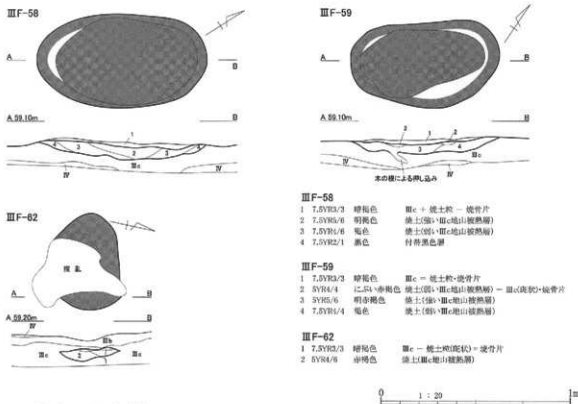
確認・調査: 本集中区は平成19-20年度の両調査区に拡がっている。平成19年度の調査では、AL-17区のⅢb層調査中、長大な焼土(ⅢF-58)と共に土器集中2ヵ所(ⅢPB-05・15)を検出した。出土した土器がこれまでの町内出土例と比べ古い時期と想定される資料でまとまっていたため、焼土を中心とする遺構・遺物群と考え、出土状態の記録を作成した。調査が進み、周囲の掘削を行ったところ、別の焼土2ヵ所(ⅢF-59・62)と新たに土器集中1ヵ所(ⅢPB-08)を検出した。平成20年度の調査では、礫を中心に多数の遺物が出土した。ⅢF-62南側で出土したⅢPB-08も古手の土器で構成されていたため、報告書作成段階においてⅢF-58周辺以外にAL-AM-17-18区の遺構・遺物を含め、1つの集中区として設定した。

焼土(図Ⅲ-14): 集中区に関連する焼土はⅢF-58-59-62の3ヵ所である。ⅢF-58は90×50cmの規模を測る長大な焼土で、厚さ6cmの良好な被熱層が形成されている。焼骨片が認められたが、この場所では下位に縄文文化期の焼土が形成されていたため、そこから浮遊、散逸した骨片の可能

集中区4



図Ⅲ-13 集中区4平面図

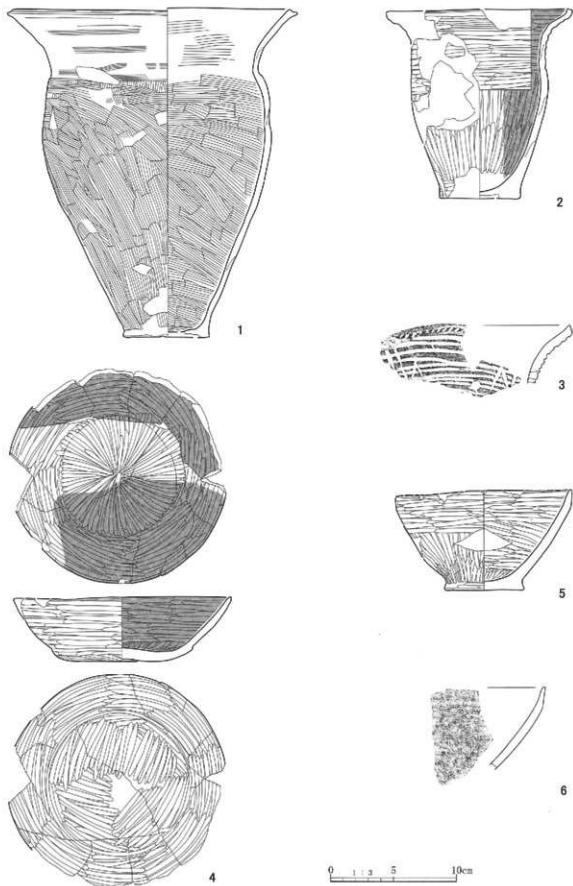


図Ⅲ-14 集中区4関連遺構

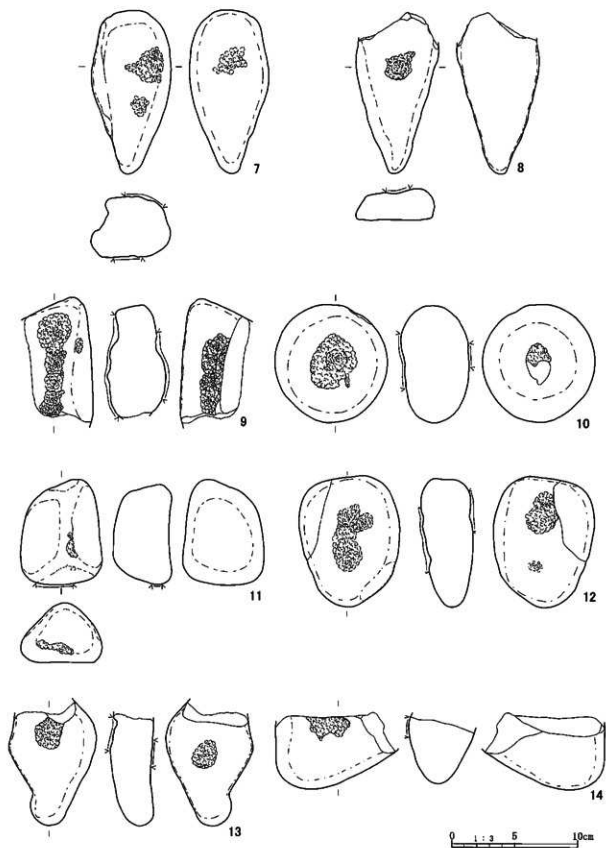
性もある。周囲からはⅢPB-05・15が出土しており、遺跡内出土資料の中でも特に古手の椽文土器に相当する。フローテーションで回収した炭化材をAMSにかけたが、混入した続縄文文化期の炭化材を抽出したために極端に古い年代値が得られたと考えられる。ⅢF-59も長大な焼土で、78×44 cmの規模を測る。被熱層も厚さ8 cmと良好に形成されている。焼骨片が認められたが、ⅢF-58と同様に続縄文文化期の混入の可能性が高い。ⅢF-62は平成19・20年度両調査区にかかる位置で検出した。平成20年度に重機でⅢ層上面を検出した際、一部を削平している。ⅢF-58・59と比べ小規模な焼土で、平面規模は50×32 cm、被熱層の厚さは6 cmであった。

土器集中(図Ⅲ-13)：集中区に関連する土器集中はⅢPB-05・08・15の3ヵ所である。ⅢPB-05はⅢF-58の東側に位置し、144点の土器片が出土した。SP001の個体片で構成されている。ⅢPB-15はⅢF-58の南側に位置し、12点の土器片が出土した。SP502の個体片で構成されている。一部の破片は焼土上面でも出土しており、二次被熱により内面の黒色処理が飛ばされている。ⅢPB-08はⅢF-62の南東で出土した。90点の土器片から成り、SP005の個体片で構成されている。

出土遺物(図Ⅲ-15～17)：1はⅢPB-05、2はⅢPB-08、4はⅢPB-15、3・5・6は集中区範囲内で散逸して出土した。1はⅦB1aの甕で、胴部は内外面共にやや長いストロークのハケメ調整が施され、頸部に明瞭な段が廻る。頸部から胴部上半にかけての外面に炭化物が多く付着している。2は口縁部が大きく反外して立ち上がり、胴部外面はミガキ調整、内面は黒色処理が施されている。文様は横走沈線のみであるが、新しい時期の特徴を有するためⅦB2aもしくはⅦB3a属すると思われる。3はⅦB2aの甕口縁部片で、深く明瞭な沈線が引かれている。4は体部下半に段のあるⅦC1の坏である。外面底部中央を除き全面にミガキ調整が施され、内面底部のミガキは放射状に行われている。黒色処理を内面に施してあるが、廃棄後に受けた被熱で吸着した炭が飛ばされ、破片ごとに黒色化の状

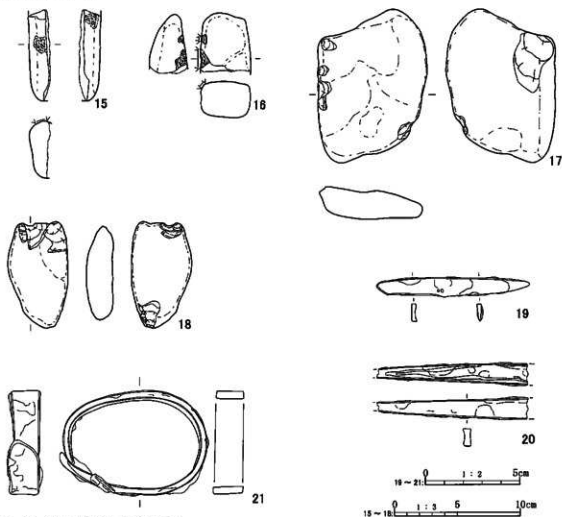


図Ⅲ-15 集中区4出土遺物(1)



図Ⅲ-16 集中区4出土遺物(2)

態が異なる。5・6はⅧC2aの環である。これら土器は、1・4の古い特徴を有するものと、2・3・5・6の新しい特徴を有するものの2時期に分けられる。前者はⅢF-58周囲に近接して出土しているため、この焼土に関わる一群と捉えられる。後者はⅢF-59・62と関連する一群であろう。7～16はたたき石である。素材礫の面を使用したものが多いが、11・15・16のように側縁を使用したものも認められる。石材は11が花崗岩、14が泥岩で、他は砂岩である。17・18は加工痕のある礫で扁平礫の縁辺が剥離されている。19は全長80.2mmの小型の刀子である。区は形成されておらず、茎には漬れが認められる。20は刀子茎で、加工時の漬れが認められる。21は縮金具で、錆で一体化しているが端部の合せ目が確認できる。



図Ⅲ-17 集中区4出土遺物(3)

表Ⅲ-15 集中区4焼土属性表

押図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-14	27-2・3	ⅢF-58	AL-17	ⅢcU	長楕円形	90	50	6	骨	
Ⅲ-14	27-4・5	ⅢF-59	AM-AL-17	ⅢcU	長楕円形	78	44	8	骨	
Ⅲ-14	28-1・2	ⅢF-62	AM-17	ⅢcU	楕円形	50	32	6	骨	

表Ⅲ-16 集中区4出土土器属性表

棟図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調査		点数	備考		
										内側	外側				
Ⅲ-15-1	83-2-1	SP001A	ⅤB1a	4594,4597,4598他	ⅢcU	ⅢF-58	AL-17	甕	口縁～ 底部	ハケメ	ハケメ	9			
				4700,4701,4703他						ⅢcM	ⅢPB-05			93	
				4630,4631,4632他						ⅢcU				10	
Ⅲ-15-2	83-2-2	SP005A	ⅤB2a?	4812,4819,4820他	ⅢcU	ⅢF-59	AM-17	甕	口縁～ 底部	ハケメ	ハケメ	6			
				4658,4659,4660他						ⅢcM	ⅢPB-06	黒色処理	ミガキ	59	
Ⅲ-15-3	83-2-3	SP012A	ⅤB2a	2880	ⅢbL	ⅢF-59	S-14	甕	口縁	ハケメ		1			
												ミガキ	ナゲ	1	
Ⅲ-15-4	84-1-4	SP502A	ⅤC1	4596,4600,4601他	ⅢcU	ⅢF-58	AL-17	坏	口縁～ 底部	ミガキ		6			
				4800,4801,4802他						ⅢcM	ⅢPB-15	黒色処理	ミガキ	12	
Ⅲ-15-5	84-1-5	SP503A	ⅤC2a	4565,4566,4568他	ⅢcU	ⅢF-58	AL-17	坏	口縁～ 底部	ハケメ	ハケメ	12			
				5425						ⅢcM	ⅢF-58-02	ミガキ	ミガキ	1	
Ⅲ-15-6	84-1-6	SP510A	ⅤC2a?	12887	ⅢcU	-	AM-17	坏	口縁～ 底部	ハケメ	ハケメ	1			
										ミガキ	ミガキ				

表Ⅲ-17 集中区4出土遺物属性表

棟図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物番 号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-16-7	84-1-7	-	13278	たたき石	I B1	ⅢcU	ⅢSB-15	-	130.0	64.0	48.0	490.0	Sa.	
Ⅲ-16-8	84-1-8	-	12947	たたき石	I A1	ⅢcU	-	AM-17	(129.0)	66.0	25.0	220.0	Sa.	
Ⅲ-16-9	84-1-9	-	13280	たたき石	IV	ⅢcU	ⅢSB-15	-	(94.0)	(49.0)	47.0	245.0	Sa.	
Ⅲ-16-10	84-1-10	-	4848	たたき石	ⅢA	ⅢcU	-	AN-17	93.0	89.0	54.0	580.0	Sa.	
Ⅲ-16-11	84-1-11	-	4140	たたき石	ⅡB2	ⅢcU	-	AM-17	83.0	65.0	47.0	340.0	Cra.	
Ⅲ-16-12	84-1-12	ⅢST009	13272	たたき石	-	ⅢcU	ⅢSB-15	-	103.0	78.0	39.0	460.0	Sa.	
Ⅲ-16-13	84-1-13	-	13282	たたき石	I A1	ⅢcU	ⅢSB-15	-	(89.0)	69.0	32.0	270.0	Sa.	
Ⅲ-16-14	84-1-14	-	4642	たたき石	IV	ⅢcU	ⅢF-59	-	(58.0)	(96.0)	50.0	380.0	Mud.	
Ⅲ-17-15	84-1-15	ⅢST010	13279	たたき石	IV	ⅢcU	ⅢSB-15	-	(71.0)	(16.0)	16.0	65.0	Sa.	
Ⅲ-17-16	84-1-16	-	4532	たたき石	IV	ⅢcU	ⅢF-58	-	(47.0)	40.0	30.0	70.0	Sa.	
Ⅲ-17-18	84-1-17	-	12921	加工痕のある礫	-	ⅢcU	-	AM-17	84.0	48.0	21.0	105.0	Sa.	
Ⅲ-17-17	84-1-18	-	4631	加工痕のある礫	-	ⅢcU	ⅢF-58	-	110.0	87.0	23.0	380.0	Sa.	
Ⅲ-17-19	84-1-19	-	12884	刀子	-	ⅢcU	-	AL-17	80.2	9.8	2.1	7.2	lrn.	
Ⅲ-17-20	84-1-20	-	12886	刀子茎	-	ⅢcU	-	AM-17	79.0	10.5	4.3	13.1	lrn.	
Ⅲ-17-21	84-1-21	-	12885	鍔金具	-	ⅢcU	-	AL-17	75.6	53.5	13.6	59.0	lrn.	

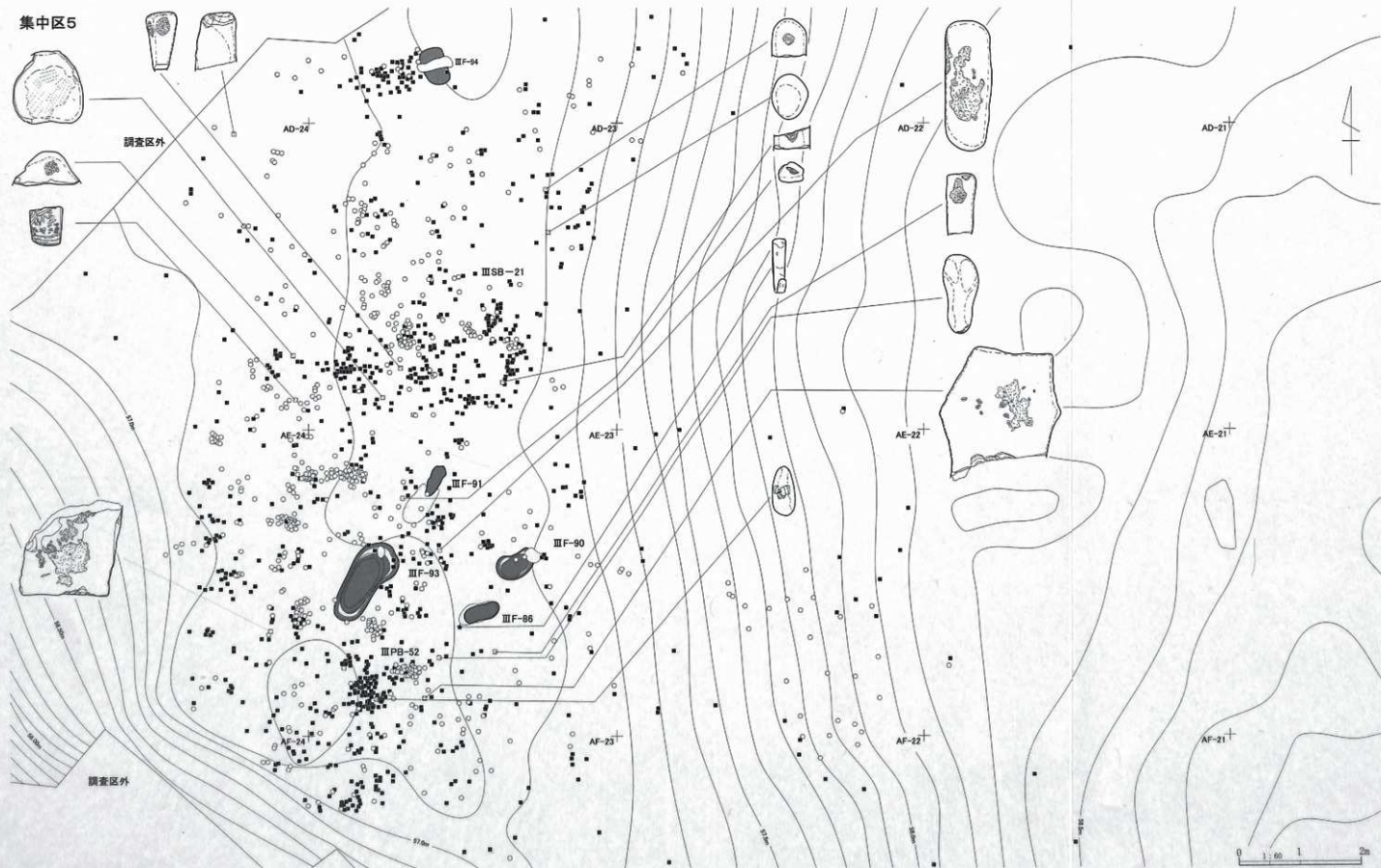
集中区5 (図Ⅲ-18～27 図版 29, 30, 85～91)

位置: AC～AF-22～24区 規模: 1,380×1,140cm

関連遺構: 焼土 ⅢF-86-90-91-93 礫集中 ⅢSB-21

確認・調査: AC～AF-22～24区のⅢb層を掘削した際、多数の遺物と共に焼土4カ所(ⅢF-86-90-91-93)を検出した。この場所は遺跡内でも厚真川とオニキシベ川との合流点に近い、一段低いテラス状の段丘面に相当する。水場に近い狭小な段丘面を利用した作業場の性格を想定し、遺物の検出を進めたところ、焼土群の北側に特に密集して遺物が出土したため、ⅢSB-21とした。ⅢSB-21は検出が進むにつれ、擦文土器や礫のみでなく、続縄文土器や石斧も伴うことを把握した。また出土した土器も通常の集中遺物のように個体でまとまる状態ではなかったため、擦文文化期における廃棄行為により別地点から持ち込まれたものと判断した。出土状態の撮影後、遺物を取り上げ、焼土の記録を作成した。報告書作成段階において、ⅢSB-21の北側で検出したⅢF-94も合わせ、集中区として設定した。

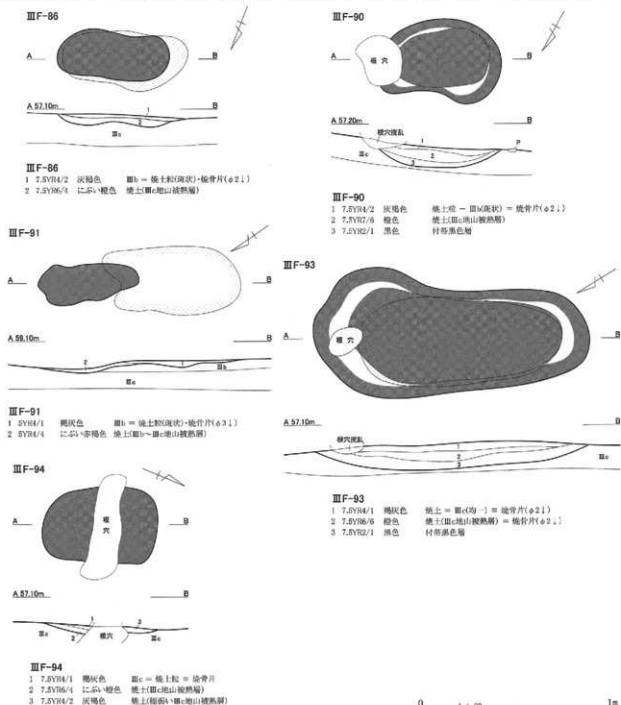
焼土(図Ⅲ-19): ⅢF-86-90-91-93-94の5カ所が集中区に関連する焼土である。この内、ⅢF-94のみが北側に離れて検出され、他はⅢSB-21南側で近接した配置で形成されていた。ⅢF-86は長さ58cmの長楕円形で、被熱層の厚さは4cmである。ⅢF-90は長さ62cmの長楕円形で、被熱層の厚さは10cmあり、強く赤色化している。ⅢF-91は長さ54cmの長楕円形で、被熱層の厚さは2cmである。



図Ⅲ-18 集中区5平面図

焼骨片分布範囲が焼土範囲から南にずれているため、灰の掻き出しを行った可能性がある。ⅢF-93は長さ146cmの長大な焼土で、厚さ12cmの良好な被熱層が形成されている。被熱層中に焼骨片を含んでいるため、ⅢF-91と同様灰の掻き出しを行った可能性がある。ⅢF-94は長さ60cmの楕円形で、厚さ4cmの極めて弱い被熱層が形成されていた。いずれも上位に焼骨片を伴うが、ⅢF-86・90・91・93で特に多く認められた。

礫集中(図Ⅲ-18)：本集中区では多くの遺物が出土しているが、ⅢSB-21はその中でも特に密集度の高い範囲に対して設定した集中遺物である。礫集中として設定しているが、実際には土器も多く

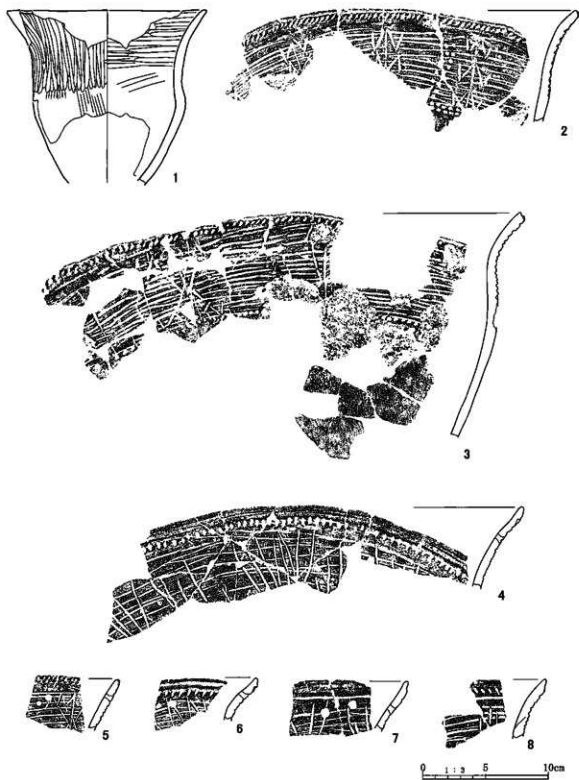


図Ⅲ-19 集中区5関連遺構

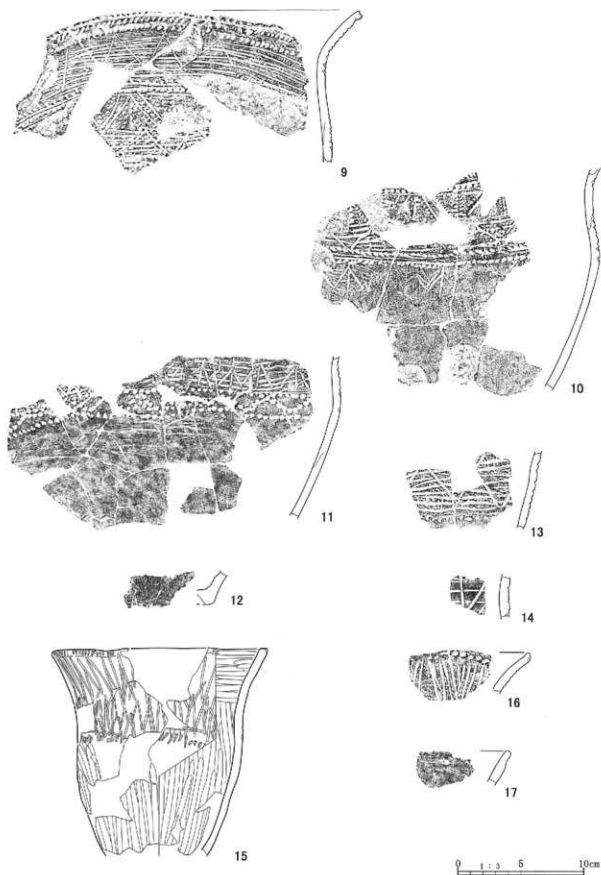
含まれている。360×300 cmの範囲で総点数 391 点の遺物が出土した。この内土器は 143 点、土製品は 1 点、礫石器は 9 点、礫は 238 点である。出土した土器片には擦文土器だけでなく、統縄文土器も含まれており、両者は平面的、層位的にも混在した状態で出土していた。また出土した礫も欠損礫が多く、礫石器に石斧片も含まれていたことから、別地点で割れた遺物をこの場に持ち込んで廃棄した場所と判断した。

遺物出土状態：集中区内で出土した遺物の大半は集中区が形成された狭小な段丘面内で接合完形をもつが、土器、及び礫の一部に上位段丘面との間に接合関係もみられた。接合した資料はⅢH-02の周堤帯内、及びその周辺で出土しているため、本集中区の内、ⅢSB-21 に関わる遺物は、ⅢH-02構築時掘上土中に含まれた古い時代の遺物をまとめて廃棄した場所の可能性が高い。

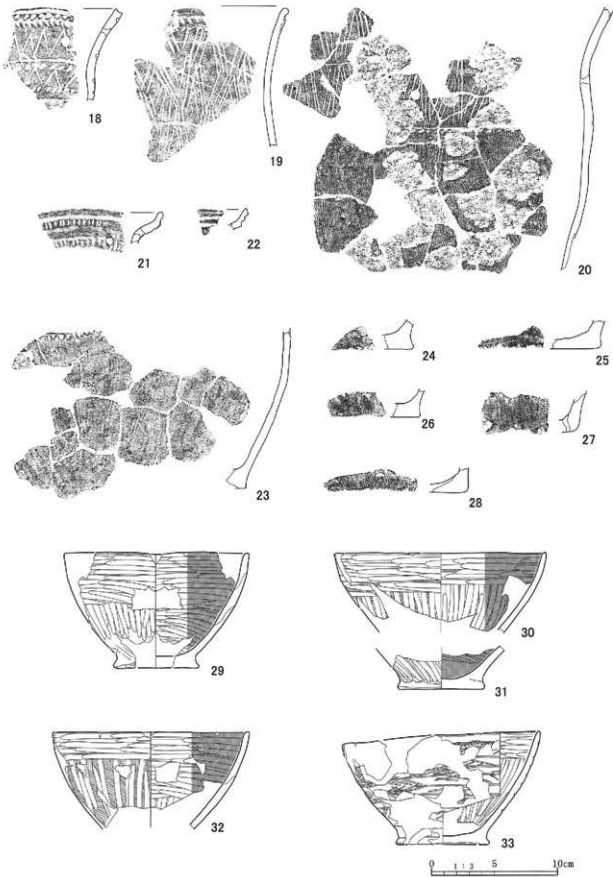
出土遺物(図Ⅲ-20~25)：1は無文の甕形土器で、頸部が段状に括れ、垂直気味に立ち上がった後、開口する。内外面共に粗雑なミガキ調整が施されている。一般的な擦文土器とは異なる器形であることや、包含層から円形刺突文の入った北大式土器片が出土していることを考慮すると、本資料はⅧAに属するものと考えられる。2~14はⅧB2aの甕口縁部片である。2はⅢH-02掘上土器片と同一個体で、沈線による施文の他、竹管状工具による刺突文も認められる。2次被熱により外面全体が劣化している。9・10は同一個体で、横走沈線による地文の上に、文様帯上半には鋸歯文を、下半には鋸歯文周囲に、刺突文を並行させている。11・12は同一個体。文様帯下縁に板状工具の角と考えられる部位を用いた刺突が廻る。15・16はⅧB2bの甕。文様構成が似ているが、15は口唇部や刻みの形態、沈線の深さが異なる。16は2次被熱による外面の劣化が著しい。17はⅧB2cの甕口縁部片である。18~20はⅧB2bの口縁部片で、19・20は同一個体である。いずれも内面が黒色処理されている。21・22はⅧB3に属する甕口縁部片である。23は文様帯下縁に刻みを廻らせた甕胴部片。24~28は甕底部片である。29~32はⅧC2aの坏で、いずれも内面黒色処理が施されている。33はⅧC2bの坏で、横位の沈線で区画した後、斜位の沈線を粗雑な矢羽状配置に引いている。34・35は坏の口縁部片で、35には沈線による文様が認められる。36~38はクロロ製の坏片である。37・38は同一個体で、内面が黒色処理されている。39~41は後北B式の統縄文土器で、40と41は同一個体である。42は土製の平玉。穿孔部に紐ずれの痕跡は認められなかった。43は石斧刃部片で、折損面に敲打痕が形成されており、楔状の道具に再利用されたことがわかる。44~52はたたき石である。47では側縁、48は頂端を使用し、他は素材礫の面を使用している。48・50は被熱していた。53は砥石。54は泥岩を素材としたすり石である。55・56は板状礫を素材とした台石で、55にはすり痕も形成されている。共に縁辺に加工痕が認められる。57は端部が剥離された加工痕のある礫である。58は両区の形成された刀子で、ⅢGP-03形成時の掘上土中から出土した。59はⅢF-86の燃焼面中より出土した刀子切先片で、刃部の幅が狭い。60は鈎状製品であるが、端部を尖らせていないため刀装具等の留金具の可能性が考えられる。



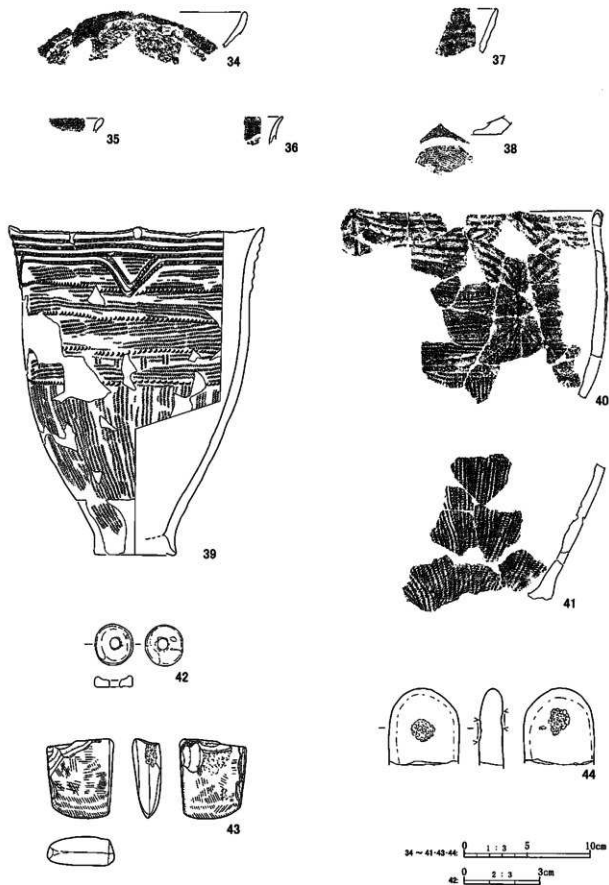
図Ⅲ-20 集中区5出土遺物(1)



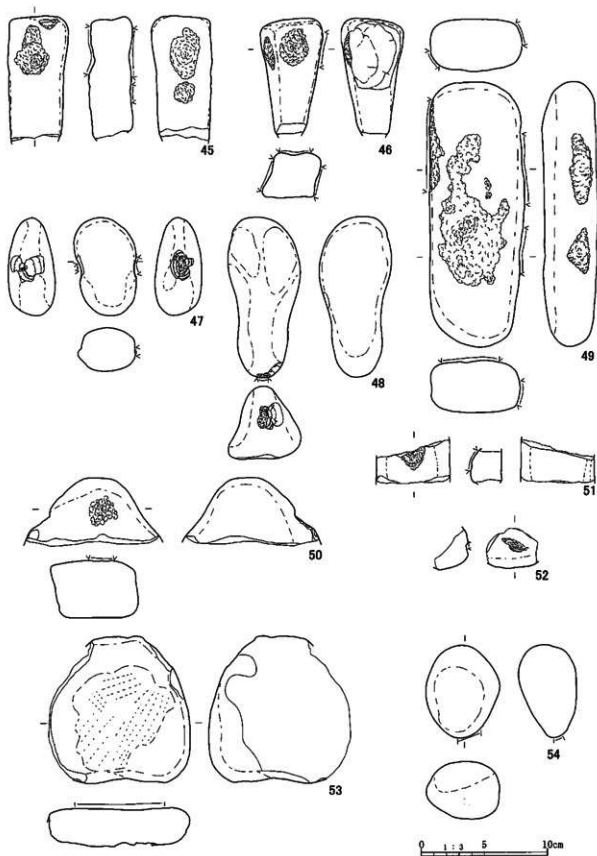
图Ⅲ-21 集中区5出土遗物(2)



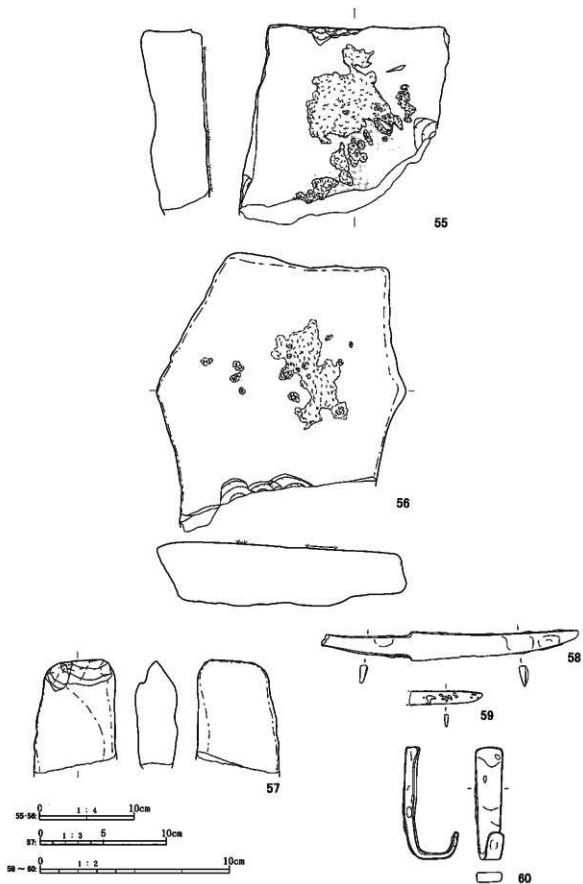
図Ⅲ-22 集中区5出土遺物(3)



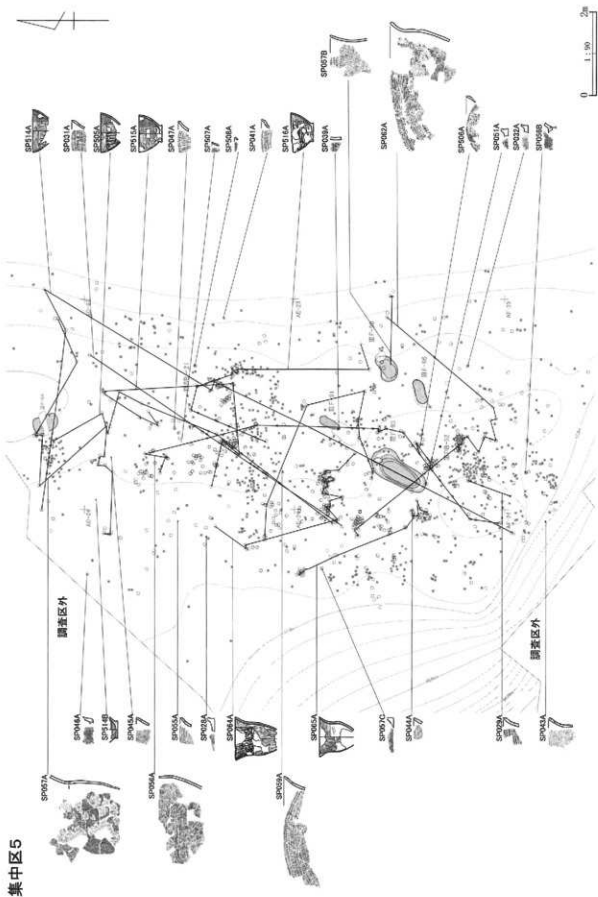
图Ⅲ-23 集中区5出土遺物(4)



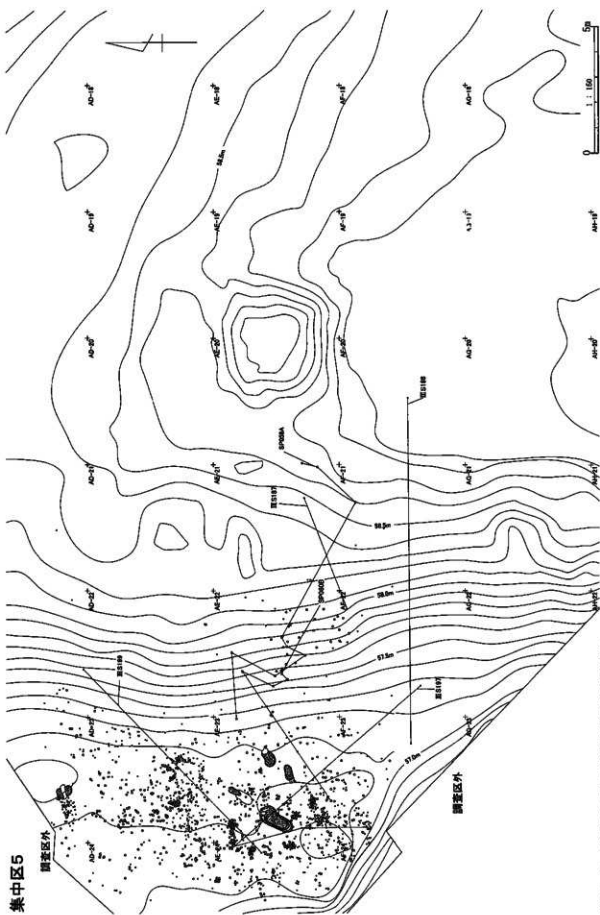
图Ⅲ-24 集中区5出土遺物(5)



図Ⅲ-25 集中区5出土遺物(6)



図Ⅲ-26 集中区5出土遺物接合関係図(1)



図Ⅲ-27 集中区5出土遺物接合関係図(2)

表Ⅲ-18 集中区5焼土属性表

押図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片	備考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-19	29-3・4	ⅢF-86	AE-23	ⅢbL	長楕円形	58	22	4	骨	
Ⅲ-19	30-1・2	ⅢF-90	AE-23	ⅢbL	長楕円形	62	42	10	-	
Ⅲ-19	30-3	ⅢF-91	AE-23	ⅢbL	長楕円形	54	22	2	骨	焼土粒
Ⅲ-19	30-4・5	ⅢF-93	AE-23	ⅢcU	長楕円形	146	64	12	骨	
Ⅲ-19	30-6	ⅢF-94	AC-23	ⅢcU	楕円形	60	38	4	骨	

表Ⅲ-19 集中区5出土土器属性表(1)

押図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-20-1	85-1-1	SP065A	ⅤB	20948	ⅢbL	-	AE-23 AE-24	甕	口縁～ 胴部	ハケメ	ハケメ	3	
				22786,22790,22792他						ミガキ	ミガキ	15	
Ⅲ-20-2	85-1-2	SP060B	ⅤB2a	20151,20173,20176他	ⅢMO	-	AH-22 AE-23	甕	口縁～ 胴部	ハケメ	ハケメ	5	
				20930						ミガキ	黒色処理	2	
Ⅲ-20-3	85-1-3	SP062A	ⅤB2a	20966,20972,20980他	ⅢbL	ⅢPB-92	AE-23 AE-24	甕	口縁～ 胴部	ハケメ	ハケメ	12	
				22823,22824,22826他						ミガキ	黒色処理	4	
Ⅲ-20-4	85-1-4	SP059A	ⅤB2a	20908,20921,20925他	ⅢbL	-	AE-23	甕	口縁	ハケメ	ハケメ	11	
				22254						ミガキ		1	
Ⅲ-20-5	85-1-5	SP045A	ⅤB2a	20894,20895,20901他	ⅢcU	-	AE-23	甕	口縁	ハケメ	ハケメ	5	
				22734,22735						ミガキ		2	
Ⅲ-20-6	85-1-6	SP065A	ⅤB2a	22773	ⅢbL	-	AD-23 AD-24	甕	口縁	ハケメ	ハケメ	1	
				22853						ミガキ	黒色処理	1	
Ⅲ-20-7	85-1-7	SP031A	ⅤB2a	22829	ⅢbL	ⅢPB-92	AE-24 AD-23	甕	口縁	ハケメ	ハケメ	2	
				21652						ミガキ		2	
Ⅲ-20-8	85-1-8	SP029A	ⅤB2a	20936	ⅢcU	-	AE-23 AF-23	甕	口縁	ハケメ	ハケメ	2	
				22609						ミガキ		2	
Ⅲ-21-9	86-1-9	SP058B	ⅤB2a	22060,22061	ⅢbL	-	AE-21	甕	口縁～ 胴部	ハケメ	ハケメ	2	
				24133						ミガキ		1	
Ⅲ-21-10	86-1-10	SP058A	ⅤB2a	20207	ⅢMO	-	AG-22 AE-20	甕	胴部	ハケメ	ハケメ	7	
				18252						ミガキ		1	
Ⅲ-21-11	86-1-11	SP056A	ⅤB2a?	20153,20168,20170他	ⅢMO	-	AE-22 AE-23	甕	胴部	ハケメ	ハケメ	1	
				20215						ミガキ		1	
Ⅲ-21-12	86-1-12	SP056B	ⅤB2a?	18259	ⅢcU	ⅢSB-21	AF-21 AD-23	甕	胴部	ハケメ	ハケメ	6	
				22891,22893,22894他						ミガキ		1	
Ⅲ-21-13	86-1-13	SP038A	ⅤB2a?	22610	ⅢbL	-	AE-24	甕	底面	ハケメ	ハケメ	2	
				20912						ミガキ		2	
Ⅲ-21-14	86-1-14	SP039A	ⅤB	22739	ⅢcU	-	AE-23	甕	胴部	ハケメ	ハケメ	2	
				23335						ミガキ		2	
Ⅲ-21-15	86-1-15	SP064A	ⅤB2b	22257	ⅢbL	ⅢF-91	AE-23	甕	胴部	ハケメ	ハケメ	1	
				22846,22847,22851						ミガキ		3	
Ⅲ-21-16	86-1-16	SP047A	ⅤB2a	20849,20853,20855他	ⅢbL	-	AE-23	甕	口縁～ 胴部	ハケメ	ハケメ	41	
				23324						ミガキ		1	
Ⅲ-21-17	86-1-17	SP044A	ⅤB2c	20832	ⅢbL	-	AE-24	甕	口縁	ハケメ	ハケメ	1	
				21674						ミガキ		1	
Ⅲ-21-18	87-1-18	SP043A	ⅤB2b	23574	ⅢbL	-	AE-24	甕	口縁	ハケメ	ハケメ	1	
				20834						ミガキ	黒色処理	3	
Ⅲ-22-18	87-1-18	SP043A	ⅤB2b	20834	ⅢbL	-	AE-24	甕	口縁	ハケメ	ハケメ	3	
				20155						ミガキ		1	
Ⅲ-22-19	87-1-19	SP057B	ⅤB2b	22619	ⅢMO	-	AH-22	甕	口縁～ 胴部	ハケメ	ハケメ	3	
				20910						ミガキ		1	
Ⅲ-22-20	87-1-20	SP067A	ⅤB2b	23336	ⅢcM	-	AE-23	甕	胴部	ハケメ	ハケメ	1	
				21604,21609,21610他						ミガキ		10	
Ⅲ-22-21	87-1-21	SP041A	ⅤB3	21659,21667,21668他	ⅢbL	-	AC-23 AD-23	甕	胴部	ハケメ	ハケメ	6	
				21685						ミガキ	黒色処理	4	
Ⅲ-22-22	87-1-22	SP048A	ⅤB3	23553,23555	ⅢcU	-	AD-24	甕	底面	ハケメ	ハケメ	2	
				20909						ミガキ		1	
Ⅲ-22-23	87-1-23	SP030A	ⅤB	22029	ⅢcU	-	AB-22	甕	口縁	ハケメ	ハケメ	1	
				21612,21613,21614他						ミガキ	黒色処理	1	
Ⅲ-22-24	87-1-24	SP051A	ⅤB	23303,23305	ⅢcM	-	AC-23	甕	胴部～ 底部	ハケメ	ハケメ	11	
				23448,23550						ミガキ		4	
Ⅲ-22-25	87-1-25	SP028A	ⅤB	22947	ⅢbL	ⅢF-93	AE-23	甕	底面	ナデ	ナデ	1	
				20208						ミガキ		2	

表Ⅲ-19 集中区5出土土器属性表(1)(続き)

押図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	表面調査		点数	備考		
										内側	外側				
Ⅲ-22-26	87-1-26	SP032A	ⅤB	20915	ⅢbL	-	AE-23	甕	底部	ミガキ 黒色処理	ハケム ミガキ	2			
Ⅲ-22-27	87-1-27	SP046A	ⅤB	23552	ⅢcU	-	AD-24	甕	底部	ハケム ナデ	ミガキ	1			
Ⅲ-22-28	87-1-28	SP057C	ⅤB2b	22799	ⅢbL	-	AE-24	甕	底部	-	ハケム	1			
Ⅲ-22-29	87-1-29	SP515A	ⅤC2a	20501,20512,20529他	ⅢbL	重SB-21	AD-23	坏	口縁へ 台部	ハケム ミガキ 黒色処理	ハケム ミガキ	4			
				21655,21656,21663								3			
				23529,23530								2			
				20547,20548								2			
Ⅲ-22-30	87-1-30	SP514A	ⅤC2a	21598	ⅢbL	-	AD-23	坏	口縁へ 体部	ハケム ミガキ 黒色処理	ハケム ミガキ	1			
				21605,21608他								3			
				21617								1			
				20899								1			
				23659								ⅢcU	AF-24	1	
				20509								ⅢbL	AD-23	1	
Ⅲ-22-31	87-1-31	SP514B	ⅤC2a	21601	ⅢbL	-	AD-22	坏	台部	ミガキ 黒色処理	ハケム ミガキ	1			
Ⅲ-22-32	87-1-32	SP605A	ⅤC2a	20509	ⅢbL	重SB-21	AD-23	坏	口縁へ 体部	ハケム ミガキ 黒色処理	ハケム ミガキ	1			
				21613他								2			
				21658,21660,21661他								12			
Ⅲ-22-33	87-1-33	SP516A	ⅤC2b	20537,20542,20564他	ⅢbL	重SB-21	AD-23	坏	口縁へ 台部	ミガキ 黒色処理	ハケム ミガキ	4			
				20905,20906他								3			
Ⅲ-23-34	88-34	SP606A	ⅤC	22946,20952他	ⅢbL	-	AE-23	坏	口縁へ 体部	ハケム ミガキ	ハケム ミガキ	1			
				22741								ⅢcU	1		
Ⅲ-23-35	88-35	SP508A	ⅤC	20546	ⅢbL	重SB-21	AD-23	坏	口縁	ミガキ 黒色処理	ミガキ	1			
Ⅲ-23-36	88-36	SP507A	ⅤE4a	21675	ⅢbL	-	AD-23	坏	口縁	ロクロナデ	ロクロナデ	1			
Ⅲ-23-37	88-37	SP902B	ⅤE4b	22778	ⅢbL	-	AD-23	坏	口縁	ミガキ 黒色処理	ロクロナデ	1			
Ⅲ-23-38	88-38	SP902C	ⅤE4b	20913	ⅢbL	-	AE-23	坏	底部	ミガキ 黒色処理	ロクロナデ	1			

表Ⅲ-20 集中区5出土土器属性表(2)

押図番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	点数	器形	突起	口唇部断面形	底部断面形	文様要素	文様構成	刺突文	地文	備考		
Ⅲ-23-39	88-1-39	ZP023A	Ⅴc2	20555他	ⅢbL	ⅢSB-21	-	15											
				22913他	ⅢcU	ⅢSB-21	-	27											
				23289	ⅢcM	-	AD-23	1											
				22727他	ⅢbL	-	AE-23	2											
				22852他	ⅢcU	-	AE-23	2											
Ⅲ-23-40	88-1-40	ZP038A	Ⅴc2	23313他	ⅢcM	-	AE-23	9											
				20523他	ⅢbL	ⅢSB-21	-	20											
				22927他	ⅢcU	ⅢSB-21	-	7											
				23288	ⅢcM	-	AD-23	1											
Ⅲ-23-41	88-1-41	ZP038B	Ⅴc2	20933	ⅢbL	-	AE-23	1											
				20847	ⅢbL	-	AE-23	1											
				23475	ⅢcM	-	AE-23	1											
Ⅲ-23-42	88-1-42	ZP038C	Ⅴc2	20809他	ⅢbL	-	AE-24	3											
				23565	ⅢcU	-	AE-24	1											

表Ⅲ-21 集中区5出土遺物属性表

押図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-23-42	88-1-42	-	20591	土玉	-	ⅢbL	ⅢSB-21	-	16.3	15.3	4.8	1.4	Cray	
Ⅲ-23-43	88-1-43	-	23513	石斧	-	ⅢcU	ⅢSB-21	-	63.0	52.0	23.0	130.0	Gr-Mud	
Ⅲ-23-44	88-1-44	-	21638	たたき石	I A1	ⅢbL	-	AD-23	(62.0)	52.0	18.0	98.1	Sa.	
Ⅲ-24-45	89-1-45	-	21571	たたき石	I B1	ⅢbL	-	AE-23	(100.0)	42.0	34.0	260.0	Sa.	
Ⅲ-24-46	89-1-46	-	21462	たたき石	I B1	ⅢbL	ⅢSB-21	-	(91.0)	50.0	36.0	230.0	Sa.	
Ⅲ-24-47	89-1-47	-	21518	たたき石	I A2	ⅢbL	ⅢSB-22	-	77.0	36.0	35.0	170.0	Sa.	
Ⅲ-24-48	89-1-48	-	21570	たたき石	I B2	ⅢbL	-	AE-23	128.0	58.0	57.0	420.0	Sa.	
Ⅲ-24-49	89-1-49	-	22649	たたき石	A	ⅢcU	-	AE-23	211.0	75.0	42.0	1160.0	Sa.	
Ⅲ-24-50	89-1-50	-	22961	たたき石	IV	ⅢcU	ⅢSB-21	-	(51.0)	104.0	45.0	310.0	Sa.	
Ⅲ-24-51	89-1-51	-	21387	たたき石	IV	ⅢbL	ⅢSB-21	-	(32.0)	59.0	(24.0)	60.0	Sa.	
Ⅲ-24-52	89-1-52	-	22256	たたき石	IV	ⅢbL	ⅢF-91	-	(39.0)	31.0	25.0	30.0	Sa.	
Ⅲ-24-53	89-1-53	-	22992	砥石	-	ⅢcU	ⅢSB-21	-	116.0	113.0	(30.0)	605.0	Sa.	
Ⅲ-24-54	89-1-54	-	21310	すり石	E	ⅢbL	-	AD-23	74.0	59.0	46.0	265.0	Mud.	

表Ⅲ-21 集中区5出土遺物属性表 (続き)

神岡 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-25-05	90-55	-	23631	白石	-	ⅢcU	-	AE-24	(211.0)	(211.0)	64.0	4160.0	Sa.	-
Ⅲ-25-06	90-56	-	23646	白石	-	ⅢcU	-	AE-23	(292.0)	(262.0)	66.0	5780.0	Sa.	-
Ⅲ-25-07	90-57	-	18989	加工痕のある 陶片	-	ⅢbL	-	AD-24	(82.0)	65.0	33.0	250.0	Sa.	-
Ⅲ-25-08	90-58	-	20203	刀子	-	ⅢMO	ⅢC-60遺構土	AH-22	134.4	14.9	4.2	19.8	Irn.	-
Ⅲ-25-09	90-59	-	-	刀子切先	-	ⅢbL	ⅢF-86	-	38.6	7.5	3.1	2.4	Irn.	-
Ⅲ-25-00	90-60	-	21586	鉤状製品	-	ⅢbL	-	AE-23	42.8	18.5	7.0	9.9	Irn.	-

表Ⅲ-22 ⅢSB-21属性表

神岡 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	重量 (g)	被熱	材質	備考		
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ						標準 偏差	
-	-	-	21383	ⅢbL	完形	23.5	-47.4	15.3	-29.5	12.1	-14.0	1.5	-7.1	6.1	-	Sa.	-
-	-	-	21487	ⅢbL	完形	26.1	-44.8	17.5	-27.3	8.1	-18.0	1.5	-7.1	5.1	-	Sa.	-
-	-	-	21385	ⅢbL	完形	25.8	-45.1	19.9	-24.9	14.0	-12.1	1.3	-7.3	9.1	-	Sa.	-
-	-	-	20585	ⅢbL	完形	25.1	-45.8	22.5	-22.3	6.0	-20.1	1.1	-7.5	5.0	-	Sa.	-
-	-	-	20582	ⅢbL	完形	31.4	-39.5	21.6	-23.2	6.9	-19.2	1.5	-7.1	3.9	-	Mud.	-
-	-	-	20583	ⅢbL	完形	32.5	-38.4	18.1	-26.7	12.8	-13.3	1.8	-6.8	5.7	-	Mud.	-
-	-	-	20587	ⅢbL	完形	32.6	-38.3	21.5	-23.3	45.0	18.9	1.5	-7.1	3.5	-	Mud.	-
-	-	-	22989	ⅢbL	完形	32.3	-38.6	12.8	-32.0	3.5	-22.6	2.5	-6.1	3.1	-	Sa.	-
-	-	-	22993	ⅢbL	完形	38.3	-32.6	17.0	-27.8	15.0	-11.1	2.3	-6.3	12.5	-	Sa.	-
-	-	-	22996	ⅢbL	完形	40.1	-30.8	35.3	-9.5	11.4	-14.7	1.1	-7.5	19.5	-	Sa.	-
-	-	-	22997	ⅢcU	完形	42.2	-28.7	34.4	-10.4	7.6	-18.5	1.2	-7.4	18.7	-	Sa.	-
-	-	-	21392	ⅢcU	完形	46.8	-24.1	28.2	-16.6	5.8	-20.3	1.7	-6.9	7.1	-	Mud.	-
-	-	-	21468	ⅢcU	完形	46.5	-24.4	42.6	-2.2	31.1	5.0	1.1	-7.5	64.7	-	Sa.	-
-	-	-	20588	ⅢcU	完形	46.6	-24.3	21.8	-23.0	13.3	-12.8	2.1	-6.5	28.4	-	Sa.	-
-	-	-	21369	ⅢcU	完形	44.8	-26.1	30.0	-14.8	5.3	-20.8	1.5	-7.1	8.3	-	Sa.	-
-	-	-	21353	ⅢcU	完形	49.3	-21.6	23.1	-21.7	6.5	-19.6	2.1	-6.5	16.6	-	Sa.	-
-	-	-	20586	ⅢcU	完形	51.9	-19.0	30.0	-14.8	11.0	-15.1	1.7	-6.9	22.0	-	Sa.	-
-	-	-	21372	ⅢcU	完形	53.5	-17.4	35.2	-9.6	11.3	-14.8	1.5	-7.1	23.4	-	Sa.	-
-	-	-	21411	ⅢcU	完形	55.3	-15.6	35.9	-8.9	15.8	-10.3	1.5	-7.1	34.1	-	Sa.	-
-	-	-	21436	ⅢcU	完形	58.9	-12.0	49.9	5.1	11.3	-14.8	1.2	-7.4	42.7	-	Sa.	-
-	-	-	21398	ⅢcU	完形	63.5	-7.4	33.9	-10.9	23.1	-3.0	1.9	-6.7	65.9	-	Sa.	-
-	-	-	21405	ⅢcU	完形	62.1	-8.8	46.4	1.6	31.9	5.8	1.3	-7.3	91.3	-	Sa.	-
-	-	-	21450	ⅢcU	完形	65.6	-5.3	36.7	-8.1	26.2	0.1	1.8	-6.8	83.8	-	Sa.	-
-	-	-	21414	ⅢcU	完形	65.9	-5.0	47.3	2.5	18.4	-7.7	1.4	-7.2	69.0	-	Sa.	-
-	-	-	21441	ⅢcU	完形	69.2	-1.7	47.2	2.4	26.7	0.6	1.5	-7.1	104.6	-	Sa.	-
-	-	-	21401	ⅢcU	完形	65.1	-5.8	59.8	15.0	18.6	-7.5	1.1	-7.5	64.0	-	Sa.	-
-	-	-	21455	ⅢcU	完形	70.0	-0.9	35.3	-9.5	36.6	10.5	2.0	-6.6	116.4	-	Sa.	-
-	-	-	21415	ⅢcU	完形	70.3	-0.6	39.5	-5.3	24.2	-1.9	1.8	-6.8	78.1	-	Sa.	-
-	-	-	21454	ⅢcU	完形	70.2	-0.7	37.3	-7.5	25.4	-0.7	1.9	-6.7	84.6	-	Sa.	-
-	-	-	21368	ⅢcU	完形	71.6	0.7	40.0	-4.8	30.3	4.2	1.8	-6.8	115.8	-	Sa.	-
-	-	-	21350	ⅢcU	完形	73.5	2.6	50.8	6.0	26.4	0.3	1.4	-7.2	117.0	-	Sa.	-
-	-	-	21418	ⅢcU	完形	62.9	-8.0	42.1	-2.7	24.2	-1.9	1.5	-7.1	75.1	-	Sa.	-
-	-	-	21442	ⅢcU	完形	75.3	4.4	40.2	-4.6	27.8	1.7	1.9	-6.7	109.7	-	Sa.	-
-	-	-	21364	ⅢcU	完形	74.4	3.5	41.5	-3.3	27.7	1.6	1.8	-6.8	133.5	-	Sa.	-
-	-	-	21336	ⅢcU	完形	77.5	6.6	44.1	-0.7	26.9	0.8	1.8	-6.8	111.5	-	Sa.	-
-	-	-	21408	ⅢcU	完形	76.6	5.7	40.8	-4.0	33.5	7.4	1.9	-6.7	162.4	-	Sa.	-
-	-	-	21429	ⅢcU	完形	75.8	4.9	53.9	9.1	30.2	4.1	1.4	-7.2	165.4	-	Sa.	-
-	-	-	21352	ⅢcU	完形	82.0	11.1	43.5	-1.3	27.5	1.4	1.9	-6.7	105.3	-	Sa.	-
-	-	-	21426	ⅢcU	完形	78.1	7.2	34.0	-10.8	28.8	2.7	2.3	-6.3	80.1	-	Sa.	-
-	-	-	21461	ⅢcU	完形	72.8	1.9	59.5	14.7	30.3	4.2	1.2	-7.4	182.3	-	Sa.	-
-	-	-	21463	ⅢcU	完形	78.4	7.5	47.5	2.7	29.5	3.4	1.7	-6.9	130.6	-	Sa.	-
-	-	-	21464	ⅢcU	完形	76.6	5.7	49.9	5.1	28.9	2.8	1.5	-7.1	158.6	-	Sa.	-
-	-	-	21443	ⅢcU	完形	80.1	9.2	45.7	0.9	30.7	4.6	1.8	-6.8	124.7	-	Sa.	-
-	-	-	21374	ⅢcU	完形	80.6	9.7	45.6	0.8	37.7	11.6	1.8	-6.8	128.3	-	Sa.	-
-	-	-	21396	ⅢcU	磨光形	81.0	10.1	44.7	-0.1	33.3	7.2	1.8	-6.8	120.9	-	Sa.	-
-	-	-	21424	ⅢbL	完形	80.6	9.7	40.3	-4.5	32.6	6.5	2.0	-6.6	114.5	-	Sa.	-
-	-	-	21351	ⅢbL	完形	83.0	12.1	39.5	-5.3	24.1	-2.0	2.1	-6.5	94.4	-	Sa.	-
-	-	-	21460	ⅢbL	完形	79.5	8.6	48.8	4.0	30.7	4.6	1.6	-7.0	97.1	-	Mud.	-
-	-	-	21358	ⅢbL	完形	82.7	11.8	37.8	-7.0	32.6	6.5	2.2	-6.4	145.9	-	Sa.	-
-	-	-	21447	ⅢbL	完形	82.9	12.0	32.9	-11.9	28.7	2.6	2.5	-6.1	97.8	-	Sa.	-
-	-	-	21489	ⅢbL	完形	86.5	15.6	42.7	-2.1	32.1	6.0	2.0	-6.6	115.4	-	Mud.	-
-	-	-	22995	ⅢbL	完形	85.8	14.9	45.2	0.4	26.4	0.3	1.9	-6.7	160.9	-	Sa.	-
-	-	-	21448	ⅢbL	磨光形	92.5	21.6	38.3	-6.5	27.9	1.8	2.4	-6.2	109.3	-	Sa.	-
-	-	-	21432	ⅢbL	完形	97.8	26.9	39.0	-5.8	25.2	-0.9	2.5	-6.1	129.0	-	Sa.	-

表Ⅲ-22 ⅢSB-21属性表(続き)

採回 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値 (mm)					長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備 考		
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ							標準 偏差	
-	91-1	-	21446	ⅢbL	欠損	73.2	2.3	47.0	2.2	6.9	-19.2	1.6	-7.0	30.6	-	Qur-Ser.	-	
-		-	22986	ⅢbL	完形	85.3	14.4	75.9	31.1	49.7	23.6	1.1	-7.5	320.0	○	Sa.	-	
-		-	21376	ⅢbL	欠損	71.7	0.8	70.2	25.4	28.9	2.8	1.0	-7.6	215.0	○	Sa.	-	
-		-	21332	ⅢbL	欠損	74.5	3.6	58.4	13.6	54.2	28.1	1.3	-7.3	235.0	○	Ser.	-	
-		-	21373	ⅢbL	完形	66.7	-4.2	58.8	14.0	40.3	14.2	1.1	-7.5	249.0	-	Sa.	-	
-		-	21486	ⅢbL	完形	89.2	18.3	63.3	18.5	41.7	15.6	1.4	-7.2	300.0	-	And.	-	
-		-	21435	ⅢbL	欠損	146.3	75.4	74.0	29.2	35.1	9.0	2.0	-6.6	630.0	-	Sa.	-	
-		-	21537	ⅢbL	欠損	147.8	76.9	92.2	47.4	30.4	4.3	1.6	-7.0	649.0	-	Sa.	-	
-		-	21416	ⅢbL	完形	141.8	70.9	79.2	34.4	43.2	17.1	1.8	-6.8	799.0	-	And.	-	
-		-	23551	ⅢbL	欠損 (240.0)	-	-	75.0	30.2	59.7	33.6	-3.2	-11.8	1495.0	-	Sa.	-	
-		-	ⅢS172 23507	ⅢbL	欠損 (260.2)	-	-	109.5	64.7	36.9	10.8	-2.4	-11.0	1665.0	-	Sa.	-	
-		-	23511	ⅢbL	完形	248.0	177.1	56.3	11.5	55.1	29.0	4.4	-4.2	1049.0	-	Sa.	-	
-		-	21416	ⅢbL	欠損 (138.9)	-	-	75.0	30.2	46.4	20.3	-1.9	-10.5	790.0	-	Sa.	-	
-		-	23507	ⅢbL	欠損 (265.0)	-	-	107.9	63.1	30.8	4.7	-2.5	-11.1	1067.0	-	Sa.	-	
						70.9		44.8		26.1		1.5	201.1					
												総点数	236点	完形				60点

第3節 土坑

今回報告対象となる遺構の内、集中区に属さない土坑は2基ある。土坑は縄縄文文化期のものも多数みつがっているが、堆積土中にB-Tmを含むものを擦文文化期の遺構として捉えた。

ⅢP-02 (図Ⅲ-28 図版 31-1・2)

位置：N-11区 規模：(120)×124×36cm 平面形：楕円形

確認・調査：B地区の試掘トレンチ壁面でⅢ層黒色土の落込みを確認した。土坑と判断し、ⅢP-02とした。セクションラインをトレンチ壁面よりやや奥の位置に設定し、堆積状態の記録を行った。完掘後、平面形の記録を作成し、調査を終了した。

形態：北側がトレンチで壊されているが、楕円形に近い形態と考えられる。坑底面は水平で、壁面は直線的に立ち上がっている。

堆積状態：坑底面近くでB-Tmが2cmの厚さで層状に堆積している(7層)。この層を境とし、下位にはV層主体土が、上位にはⅢb主体土が堆積していた。下位のV層主体土は土坑壁面の崩落と考えられることから、この土坑はB-Tm降下直前に構築され、埋め戻されることなく、自然に埋没した可能性が高い。

ⅢP-04 (図Ⅲ-28 図版 31-3・4)

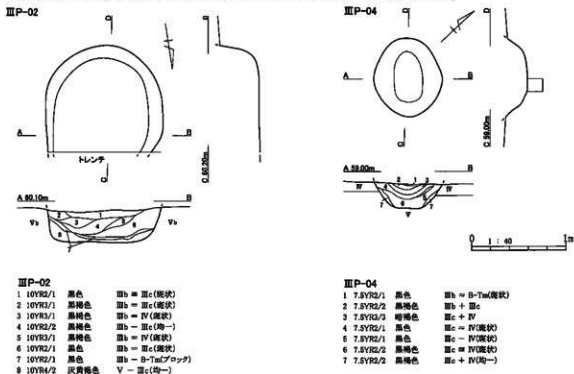
位置：AL-16区 規模：84×72×24cm 平面形：不整楕円形

確認・調査：平成19年度A地区調査区のAL-16区を調査中、IV層上面においてⅢb主体土落込みを確認した。トレンチを掘削したところ、底面が平坦に形成され、基本土層が掘り込まれていることを把握したことから土坑と判断し、ⅢP-04とした。堆積状態の記録後完掘し、平面形の記録を行った。

形態：確認面での形態は隅丸の菱形に近い不整楕円形である。底面は長楕円形を呈している。長さ84cm、幅72cmを測り、確認面からの深さは24cmであった。壁面の立ち上がりは大きく直線的に

開いている。

堆積状態：堆積土はⅢc 主体土で構成され、上位に B-Tm を含むⅢb が僅かに堆積している。V 層起源の土を含まないため、壁面の崩れにより自然に埋没した可能性が想定される。



図Ⅲ-28 縄文文化期土坑

表Ⅲ-23 縄文文化期土坑属性表

神宮 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸方向	調査面 長短比	坑底面 長短比	出土 遺物	備考
					調査面/ 坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸						
Ⅲ-28	31-1	ⅢP-02	N-11	ⅢcU	楕円/楕円	(120)	124	(100)	100	36	N-7°E	-	-	-	-
Ⅲ-28	31-3	ⅢP-04	AL-16	VI	不整形楕円/ 長楕円	84	72	52	30	24	N-48°W	1.17	1.73	-	-

第4節 焼土

Ⅲb 層下位～Ⅲc 層上面において検出し、集中区として捉えられない単独の焼土は合計 39 か所確認した。大半が B 地区での検出である。以下個別に記載した上で、全体の概観について報告する。

ⅢF-08 (図Ⅲ-29 図版 31-5・6)

P-12 区のⅢbL で検出した。52×22 cm の不整形プランの焼土で、4 cm と薄いが赤色化の強い被熱層が形成されていた。焼骨片は含まれていない。

ⅢF-09 (図Ⅲ-29 図版 31-7・8)

J-6・7 区のⅢcU で検出した。40×32 cm の不整形プランの焼土である。被熱層の形成は弱い、炭化物を伴っていた。焼骨片は含まれていない。

ⅢF-11 (図Ⅲ-29 図版 32-1・2)

Q-13 区で検出した。長楕円形プランを呈し、74×48 cmの規模を測る長大な焼土である。被熱層は8 cmの厚さで良好に形成されている。上位に焼骨片は認められなかった。

ⅢF-13 (図Ⅲ-29 図版 32-3・4)

P-13 区で検出した楕円形プランの焼土である。48×42 cmの規模を測り、被熱層は6 cmの厚さで良好に形成されている。焼骨片は伴っていない。

ⅢF-14 (図Ⅲ-29 図版 32-5・6)

Q-13 区で検出した楕円形プランの焼土である。26×20 cmの規模を測り、被熱層は4 cmの厚さで形成されている。焼骨片は伴っていない。

ⅢF-21 (図Ⅲ-29 図版 32-7・8)

0-11 区で検出した長楕円形プランの焼土である。120×52 cmを測る長大な規模で、被熱層も12 cmの厚さで良好に形成されている。上位に多量の焼骨片を伴う。フローテーションの結果、ササ属とクルミ属の種子を得ている。

ⅢF-28 (図Ⅲ-29 図版 33-1・2)

M-11 区で検出した長楕円形プランの焼土である。92×52 cmを測る長大な規模で、被熱層も12 cmの厚さで良好に形成されている。上位には微量だが焼骨片を伴っていた。焼土の脇からは図Ⅲ-36-1に図示した滑沢面のある礫が出土している。またフローテーションの結果、クルミ属の種子を得ている。

ⅢF-30 (図Ⅲ-30 図版 33-3・4)

I-9 区で検出した。不整楕円形プランの焼土で、32×22 cmの規模を測る。3 cmの厚さの弱い被熱層が形成されている。焼骨片は含まれていなかった。

ⅢF-32 (図Ⅲ-30 図版 33-5・6)

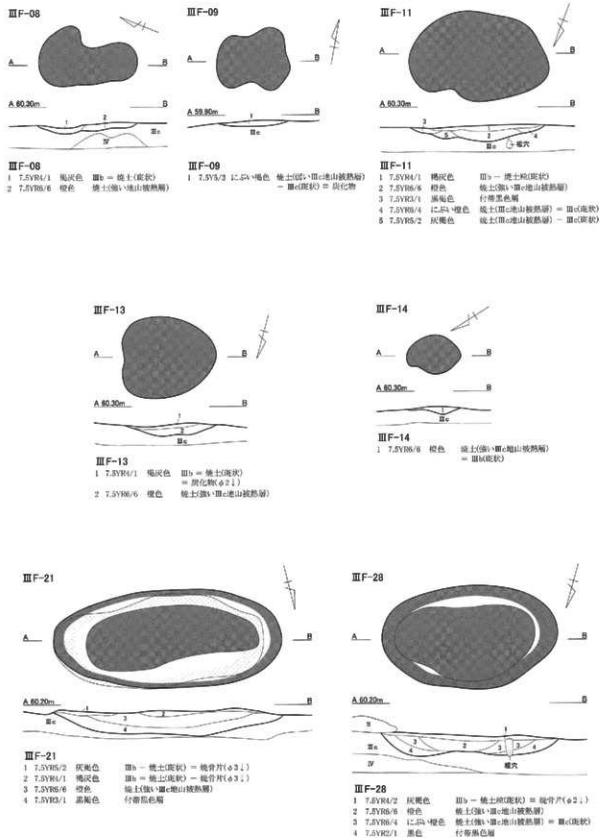
J-11 区で検出した。不整円形プランの焼土で、40×36 cmの規模を測る。厚さ4 cmの強く赤色化した被熱層が形成されている。焼骨片は含まれていなかった。周囲からは図Ⅲ-36-2・3に図示した滑沢面のある礫と砥石が出土した。

ⅢF-34 (図Ⅲ-30)

0-11 区で検出した。88×56 cmの規模を測る楕円形プランの長大な焼土である。厚さ6 cmの良好な被熱層が形成されている。上位には炭化物が僅かに認められたが、焼骨片は含まれていなかった。

ⅢF-35 (図Ⅲ-30 図版 33-7・8)

P-7 区の試掘トレンチ壁面を清掃した際に断面で確認した。周囲のⅢB層を掘削したところ、不



0 1 : 20 50cm

図III-29 擦文文化期焼土(1)

整形プランの焼土を検出したため、平面形の記録を行い、断面はトレンチ壁面で記録を行った。57×(23)cmの規模で、被熱層は2cmの厚さで形成されている。炭化物を僅かに伴うが、焼骨片は含まれていなかった。

ⅢF-39 (図Ⅲ-30 図版 34-1・2)

J・K-8区で検出した。82×60cmの規模を測る楕円形プランの焼土である。被熱層は厚さ6cmで形成されているが、赤色化は弱い。上位に少量の灰を伴っていた。

ⅢF-40 (図Ⅲ-30 図版 34-3・4)

K-8区の浅いⅢbの落込み内で検出した。この窪みは底面が凹凸をもち、明瞭な掘り込みを確認できなかったため、自然の窪みと判断した。焼土は46×32cmの不整形プランで、厚さ2cmの弱い被熱層が形成されていた。焼骨片は認められなかった。

ⅢF-41 (図Ⅲ-30 図版 34-5・6)

M・N-9区で検出した。70×46cmの規模を測る不整形プランの焼土である。厚さ12cmの良好な被熱層が形成されていたが、焼骨片は認められなかった。

ⅢF-42 (図Ⅲ-30 図版 34-7・7)

J-6区で検出した。36×32cmの規模を測る円形プランの焼土で、厚さ6cmの良好な被熱層が形成されている。炭化物を僅かに伴っているが、焼骨片は認められなかった。フローテーションの結果、スモモ属の種子を得ている。

ⅢF-43 (図Ⅲ-31 図版 35-1・8)

Q-14区で検出した。52×33cmの規模を測る不整形プランの焼土である。厚さ2cmの弱い被熱層が形成され、焼骨片は伴わない。焼土南側を中心に礫を主体とし、まとまった数の遺物が出土したため出土状態の記録を行った。図Ⅲ-36の7・8は焼土周辺で出土した遺物で、7は甕の底部、8は台石である。

ⅢF-44 (図Ⅲ-31 図版 35-2)

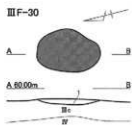
K-6区で検出した。33×24cmを測る不整形プランの小規模な焼土で、厚さ2cmだが強く赤色化した被熱層が形成されている。炭化物を僅かに伴っていた。

ⅢF-45 (図Ⅲ-31 図版 35-3・4)

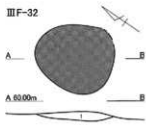
P-13・14区で検出した。82×42cmを測る不整形楕円形プランの焼土で、厚さ10cmの良好な被熱層が形成されている。炭化物を僅かに伴っていた。

ⅢF-47 (図Ⅲ-31 図版 35-5~7)

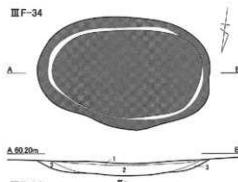
O・P-9区で検出した。84×52cmを測る楕円形プランの焼土で、厚さ10cmの良好な被熱層が形成



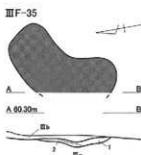
III F-30
1 7.SYR5/3 にごい・褐色
黄土(強い礫c地山被熟層) - 礫c(泥状)



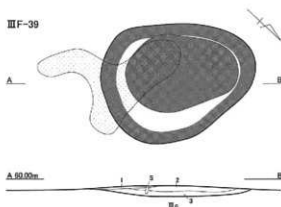
III F-32
1 7.SYR7/8 棕色 黄土(強い礫c地山被熟層)
= 礫c(泥状)



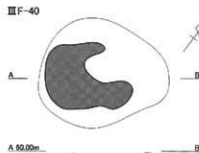
III F-34
1 7.SYR3/3 暗褐色 礫b(泥状) = 炭化物
2 SYR6/6 棕色 黄土(強い礫c地山被熟層)
3 SYR2/1 黒褐色 付着黒色層



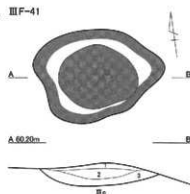
III F-35
1 7.SYR6/1 にごい・棕色 黄土(強い礫c地山被熟層) = 炭化物(a11)
2 7.SYR4/2 灰褐色 黄土(強い礫c地山被熟層) = 礫b(泥状)



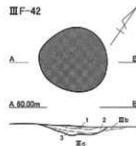
III F-39
1 7.SYR2/3 暗褐色 礫b(泥状) = 炭(均-) = 炭化物
2 SYR4/1 にごい・赤褐色 黄土(強い礫c地山被熟層) = 礫b(泥状)
3 SYR2/1 黒褐色 付着黒色層



III F-40
1 7.SYR3/3 暗褐色 黄土(強い礫c地山被熟層)
= 礫c(泥状) = 炭化物



III F-41
1 7.SYR3/1 赤褐色 礫b = 黄土粒(泥状)
2 7.SYR5/6 赤褐色 黄土(強い礫c地山被熟層)
3 7.SYR2/1 黒色 付着黒色層



III F-42
1 7.SYR2/1 黒色 礫b = 黄土粒(泥状)
= 炭化物
2 7.SYR4/6 褐色 黄土(強い礫c地山被熟層)
= 礫c(泥状)
3 7.SYR2/2 黒褐色 付着黒色層



図III-30 擦文文化期焼土(2)

されている。上位に焼骨片と炭化物を伴っていた。

ⅢF-48 (図Ⅲ-32 図版 35-8, 36-1・2)

Q・R-13 区で検出した。130×44 cmを測る長楕円形プランの長大な焼土である。被熱層は12 cmの厚さで形成されているが、2層に分層でき、上位の土層2は強いしまりをもっていた。灰と焼骨片を伴い、上面に被熱した土器と礫が出土している。図Ⅲ-36-4・5は上面で出土した土器片で、被熱により表面が著しく劣化している。

ⅢF-49 (図Ⅲ-32 図版 36-3・4)

M-12・13 区で検出した。180×90 cmを測る不整長楕円形プランの長大な焼土である。厚さ8 cmの良好な被熱層が形成されている。上位に焼骨片を伴っていた。

ⅢF-50 (図Ⅲ-32 図版 36-5・6)

J-11 区で検出した。60×38 cmを測る不整楕円形プランの焼土である。厚さ6 cmの良好な被熱層が形成されている。焼骨片は伴っていない。

ⅢF-51 (図Ⅲ-32 図版 36-7・8)

K-12 区で検出した。90×50 cmを測る不整楕円形プランの焼土である。被熱層は厚さ8 cmとやや薄い、強く赤色化している。上位に焼骨片と炭化物を伴っていた。

ⅢF-52 (図Ⅲ-32 図版 37-1・2)

M・N-10 区の古い風倒木窪み内で検出した。36×18 cmを測る不整長楕円形プランの焼土である。被熱層は厚さ2 cmでやや薄い、強く赤色化していた。風倒木痕堆積土中にB-Tmが認められたため、B-Tm降下後の形成と考えられる。

ⅢF-54 (図Ⅲ-33 図版 37-4)

R-13 区で検出した。106×60 cmを測る長楕円形プランの長大な焼土である。厚さ10 cmの良好な被熱層が形成され、上位に焼骨片を伴っていた。

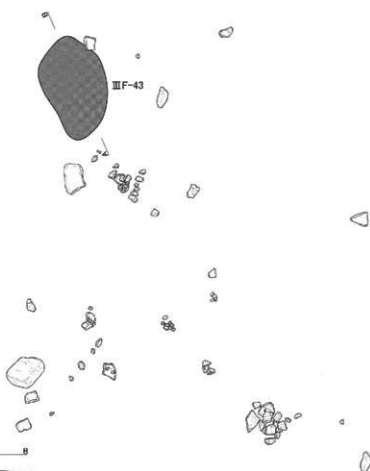
ⅢF-55 (図Ⅲ-33 図版 37-5・6)

R-13 区で検出した。74×36 cmを測る不整形プランの焼土である。被熱層は厚さ4 cmで、赤色化が弱く、焼骨片も伴っていない。

ⅢF-57 (図Ⅲ-33 図版 37-7・8)

S-14 区で検出した。76×44 cmを測る不整楕円形プランの焼土である。厚さ8 cmの良好な被熱層が形成されている。中央が根による攪乱を受けているが、残存範囲内に焼骨片は認められなかった。

ⅢF-43

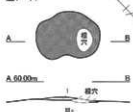


ⅢF-43

1 7.5Y8/4 にごい褐色 焼土(Ⅱ・Ⅲc地山被熱層) - 焼骨片

0 1 : 20 50cm

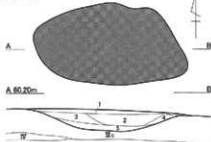
ⅢF-44



ⅢF-44

1 7.5Y6/8 明褐色 焼土(Ⅱ・Ⅲc地山被熱層) - Ⅲc(現状) = 炭化地

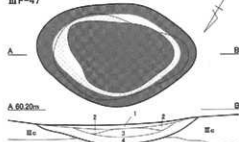
ⅢF-45



ⅢF-45

1 7.5Y8/1 黒灰色 Ⅲb = 焼土(現状) = 炭化物(φ11)
 2 7.5Y8/6 棕色 焼土(Ⅱ・Ⅲc地山被熱層) = Ⅲc(現状)
 3 7.5Y8/4 にごい褐色 焼土(Ⅱ・Ⅲc地山被熱層) - Ⅲc(現状)
 4 7.5Y5/2 河褐色 焼土(Ⅱ・Ⅲc地山被熱層) - Ⅲc(現状)
 5 2.5Y8/1 黒色 付帯黒色層

ⅢF-47



ⅢF-47

1 7.5Y8/1 黒灰色 Ⅲb = 焼土(現状) = 炭骨片(φ11) = 炭化物(φ11)
 2 7.5Y8/3 にごい褐色 焼土(Ⅱ・Ⅲc地山被熱層) = Ⅲc(現状)
 3 8Y8/8 明赤褐色 焼土(Ⅱ・Ⅲc地山被熱層)
 4 2.5Y8/2 黒褐色 付帯黒色層

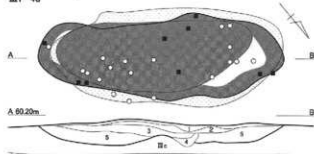
0 1 : 20 50cm

図Ⅲ-31 擦文文化期焼土(3)

III F-63 (図III-33 図版 38-1・2)

AG-17 区で検出した。52×44 cmを測る不整形円形プランの焼土である。厚さ 8 cmの被熱層が形成されている。上位に焼骨片を多く伴っていた。

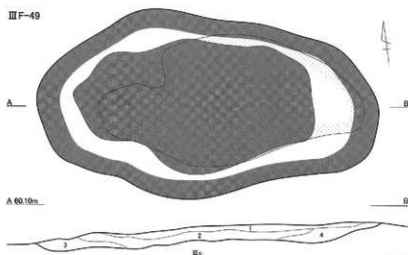
III F-48



III F-48

- | | | | |
|---|----------|------|------------------------------|
| 1 | 10YR4/6 | 褐色 | 焼土(強いⅢc地山被熱層)
= 灰(粥状)・焼骨片 |
| 2 | 5YR5/6 | 明赤褐色 | 焼土(弱いⅢc地山被熱層)
石灰質 |
| 3 | 7.5YR5/8 | 明褐色 | 焼土(強いⅢc地山被熱層) |
| 4 | 10YR3/3 | 暗褐色 | 焼土(強いⅢc地山被熱層)
灰による焼土層は |
| 5 | 7.5YR3/1 | 黒褐色 | 付帯黒色層 |

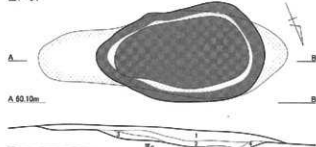
III F-49



III F-49

- | | | | |
|---|----------|-------|----------------------------|
| 1 | 7.5YR6/4 | にがい褐色 | 焼土(焼 → Ⅲb(粥状) = 焼骨片(e.l.)) |
| 2 | 7.5YR6/6 | 褐色 | 焼土(強いⅢc地山被熱層) |
| 3 | 7.5YR3/1 | 黒褐色 | 付帯黒色層 |
| 4 | 7.5YR3/1 | 黒褐色 | 付帯黒色層 |

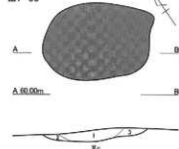
III F-51



III F-51

- | | | | |
|---|----------|----|-----------------------|
| 1 | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ⅲb = 焼土(粥状) = 焼骨片・炭化物 |
| 2 | 7.5YR6/6 | 褐色 | 焼土(強いⅢc地山被熱層) |
| 3 | 7.5YR2/1 | 黒色 | 付帯黒色層 |
| 4 | 7.5YR2/1 | 黒色 | 付帯黒色層 |

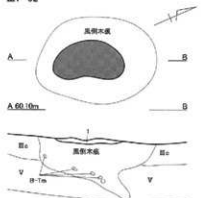
III F-50



III F-50

- | | | | |
|---|----------|----|---------------|
| 1 | 7.5YR6/6 | 褐色 | 焼土(強いⅢc地山被熱層) |
| 2 | 7.5YR4/3 | 褐色 | 焼土(強いⅢc地山被熱層) |
| 3 | 7.5YR4/3 | 褐色 | 焼土(強いⅢc地山被熱層) |

III F-52

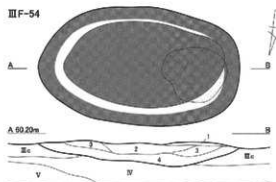


III F-52

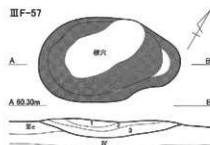
- | | | | |
|---|----------|-------|----------------|
| 1 | 7.5YR6/4 | にがい褐色 | 焼土(中強いⅢb地山被熱層) |
|---|----------|-------|----------------|

0 1 20 50cm

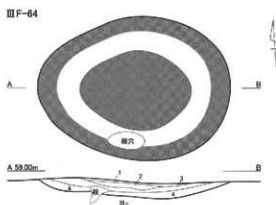
図III-32 擦文文化期焼土(4)



- III F-54
- | | | | |
|---|-----------|------|-----------------------|
| 1 | 10YR4/6 | 褐色 | 焼土(灰→黒)(灰状) = 焼骨片 |
| 2 | 5YR6/6 | 褐色 | 焼土(強い黒い地山被熟層) |
| 3 | 7.5YR6/4 | 濃い褐色 | 焼土(強い黒い地山被熟層) = 黒(灰状) |
| 4 | 10YR1.7/1 | 黒色 | 付帯黒色層 |

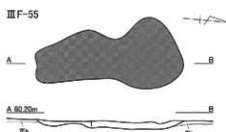


- III F-57
- | | | | |
|---|-----------|-----|-----------------|
| 1 | 10YR1.7/1 | 黒色 | 焼土(上の面) = 黒(灰状) |
| 2 | 7.5YR 5/6 | 暗褐色 | 焼土(強い黒い地山被熟層) |
| 3 | 10YR1.7/1 | 黒色 | 付帯黒色層 |

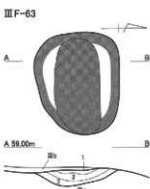


- III F-64
- | | | | |
|---|----------|-----|---------------------|
| 1 | 7.5YR2/2 | 黒褐色 | 黒土 - 灰(面状) = 焼骨片 |
| 2 | 7.5YR4/6 | 褐色 | 焼土(強い黒い地山被熟層) = 焼骨片 |
| 3 | 7.5YR6/6 | 褐色 | 焼土(強い黒い地山被熟層) |
| 4 | 7.5YR2/1 | 黒色 | 付帯黒色層 |
- ※焼土中に骨片が混ざっているため黒出しが行われた可能性あり

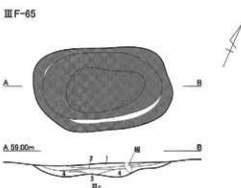
図III-33 擦文文化期焼土(5)



- III F-55
- | | | | |
|---|----------|----|---------------------------|
| 1 | 7.5YR4/6 | 褐色 | 焼土(強い黒い地山被熟層) = 炭化物・黒(灰状) |
|---|----------|----|---------------------------|



- III F-63
- | | | | |
|---|----------|-------|-------------------------|
| 1 | 7.5YR6/1 | 暗灰色 | 黒土 - 焼土(灰状) = 焼骨片(φ3.1) |
| 2 | 10YR7/3 | 濃い黄褐色 | 焼土(黒土→黒い地山被熟層) = 黒(灰状) |
| 3 | 10YR2/1 | 黒色 | 付帯黒色層 |



- III F-65
- | | | | |
|---|----------|-----|------------------|
| 1 | 7.5YR2/2 | 黒褐色 | 黒土 - 灰(面状) = 焼骨片 |
| 2 | 7.5YR5/6 | 暗褐色 | 焼土(強い黒い地山被熟層) |
| 3 | 7.5YR4/3 | 褐色 | 焼土(強い黒い地山被熟層) |
| 4 | 7.5YR2/1 | 黒色 | 付帯黒色層 |

0 1 : 20 50cm

III F-64 (図III-33 図版38・3・4)

AK-17 区で検出した。102×74 cmを測る楕円形プランの焼土である。厚さ 6 cmの良好な被熟層が形成されている。上位に土壌化した灰・焼骨片を多く伴っていた。

ⅢF-65 (図Ⅲ-33 図版 38-5・6)

AK-16・17 区のⅢF-64 北東側で検出した。70×42 cmを測る不整楕円形プランの焼土である。厚さ 12 cmの被熱層が形成されている。上位に土壌化した灰・焼骨片を多く伴っていた。

ⅢF-66 (図Ⅲ-34 図版 38-7・8)

AI-17 区で検出した。確認が遅れ北側を削平し、南西側が根による攪乱を受けているためプランは明瞭でない。被熱層は厚さ 8 cmで、良好に形成されている。上位に土壌化した灰・焼骨片を多く伴っていた。

ⅢF-67 (図Ⅲ-34 図版 39-1・2)

AK-17 区においてⅢF-64・65 の間で検出した。36×26 cmの小規模な不整形プランの焼土である。被熱層は 4 cmの厚さで形成されている。上位に土壌化した灰・焼骨片を伴っていた。

ⅢF-82 (図Ⅲ-34 図版 39-3・4)

AF・AG-18 区でⅢF-63 に隣接して検出した。60×36 cmを測る不整楕円形プランの焼土である。厚さ 6 cmの被熱層が形成され、燃焼面はやや窪んでいる。上位に焼骨片を少量伴っていた。

ⅢF-83 (図Ⅲ-34 図版 39-5・6)

AH-20 区で検出した。50×36 cmを測る楕円形プランの焼土である。被熱層は厚さ 6 cmで、上位に僅かな焼骨片を伴っていた。

ⅢF-84 (図Ⅲ-34 図版 39-7・8)

AI-20 区で検出した。56×28 cmを測る楕円形プランの焼土である。被熱層は厚さ 8 cmで、赤色化は弱い。焼骨片は確認できなかった。

ⅢF-87 (図Ⅲ-34 図版 40-1・2)

AH-20 区のⅢF-83 の北西側で検出した。90×74 cmを測る比較的規模の大きな不整楕円形プランの焼土である。被熱層は厚さ 12 cmで良好に形成されている。上位には僅か炭化物が認められたが、焼骨片は確認できなかった。

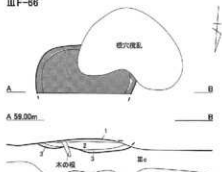
ⅢF-92 (図Ⅲ-34 図版 40-3・4)

AF-20 区のⅢH-02 周堤帯直下で検出した。102×60 cmを測る長楕円形プランの長大な焼土である。被熱層は厚さ 8 cmで良好に形成されている。上位に焼骨片を伴う。焼土中にも焼骨片が含まれているため、灰の掻き出しによる燃焼面の更新が行われた可能性が高い。

ⅢF-95 (図Ⅲ-35 図版 40-5・6)

AG-20 区で検出した。50×46 cmを測る不整円形プランの焼土である。厚さ 6 cmの被熱層が形成されている。焼骨片は確認できなかった。

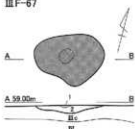
ⅢF-66



ⅢF-66

- 1 5YR3/4 暗赤褐色 土壌化した灰層、骨片多混入
- 2 5YR4/4 にぶい赤褐色 焼土
- 3 10YR2/1 黒色 付着黒色土

ⅢF-67



ⅢF-67

- 1 10YR2/2 暗褐色 Ⅲb - 灰(灰状) = 焼骨片
- 2 7.5YR4/4 靑色 焼土(Ⅲc地山被熱層)

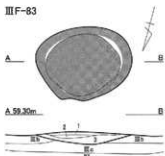
ⅢF-82



ⅢF-82

- 1 7.5YR2/3 暗緑褐色 Ⅲc = 焼土(灰状)・炭骨片・灰化物
- 2 7.5YR5/6 明褐色 焼土(Ⅲd地山被熱層)
- 3 7.5YR2/2 暗褐色 焼土(Ⅲb・Ⅲc地山被熱層)
- 4 10YR2/1 黒色 付着黒色層

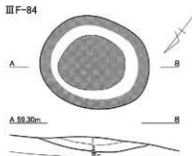
ⅢF-83



ⅢF-83

- 1 7.5YR5/6 明褐色 焼土(Ⅲb地山被熱層) = 焼骨片
- 2 7.5YR5/6 明褐色 焼土(Ⅲb・Ⅲc地山被熱層)
- 3 7.5YR2/1 黒色 付着黒色層

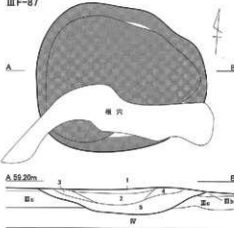
ⅢF-84



ⅢF-84

- 1 7.5YR4/4 褐色 焼土(Ⅲc地山被熱層)
- 2 7.5YR2/1 黒色 付着黒色層

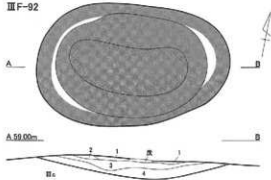
ⅢF-87



ⅢF-87

- 1 7.5YR2/3 暗緑褐色 Ⅲb = 被熱シムト岩(φ3~6[]) = 灰化物
- 2 7.5YR5/6 明褐色 焼土(Ⅲb・Ⅲc地山被熱層)
- 3 7.5YR3/3 暗褐色 焼土(Ⅲb・Ⅲc地山被熱層)
- 4 7.5YR4/3 靑色 焼土(Ⅲb・Ⅲc地山被熱層)
- 5 7.5YR2/1 黒色 付着黒色層

ⅢF-92



ⅢF-92

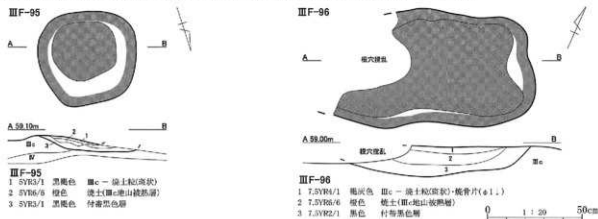
- 1 7.5YR3/1 暗褐色 Ⅲc = シムト岩(φ10[]) ⅢH-92線土
- 2 7.5YR4/1 褐灰色 Ⅲc = 焼土(灰状) = 焼骨片(φ1[])
- 3 7.5YR7/6 棕色 焼土(Ⅲc地山被熱層) = 焼骨片(φ2[])
- 4 7.5YR2/1 黒色 付着黒色層



図Ⅲ-34 擦文文化期焼土(6)

ⅢF-96 (図Ⅲ-35 図版40-7・8)

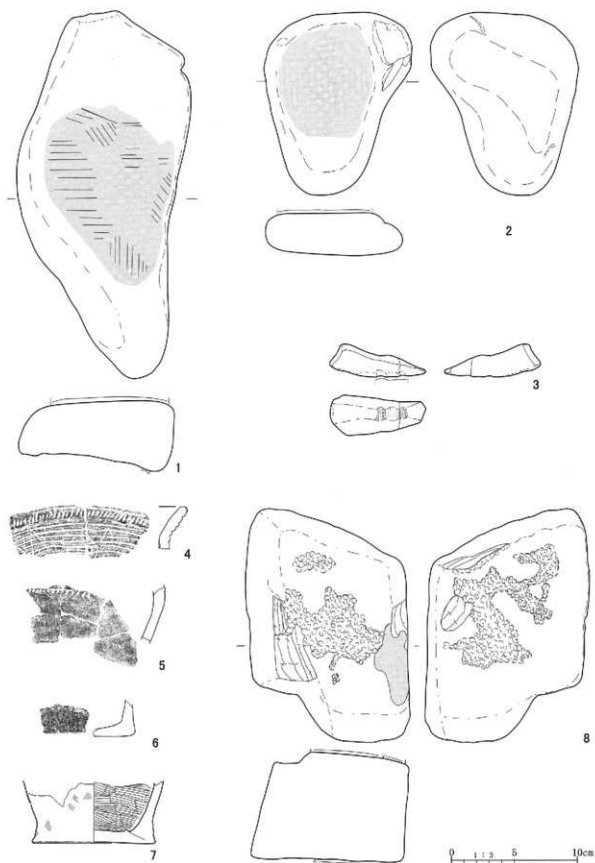
AF・AG-19・20 区の杭位で検出した。残存範囲だけでも(100)×60 cmを測る長大な焼土である。被熱層は16 cmの厚さで良好に形成されている。上位に焼骨片を多く伴っていた。



図Ⅲ-35 擦文文化期焼土(7)

表Ⅲ-24 擦文文化期焼土属性表

棟号 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・ 骨片	備 考
						長軸	短軸	厚さ		
Ⅲ-29	31-5	ⅢF-08	P-12	ⅢbL	不整形	52	22	4	-	
Ⅲ-29	31-7	ⅢF-09	J-6-7	ⅢcU	不整形	40	32	3	-	
Ⅲ-29	32-1	ⅢF-11	Q-13	ⅢcU	長楕円形	74	48	8	-	
Ⅲ-29	32-3	ⅢF-13	P-13	ⅢbL	楕円形	48	42	6	-	
Ⅲ-29	32-5	ⅢF-14	Q-13	Ⅲbl	楕円形	26	20	4	-	
Ⅲ-29	32-7	ⅢF-21	O-11	Ⅲbl	長楕円形	120	52	12	骨	
Ⅲ-29	33-1	ⅢF-28	M-11	ⅢbL	長楕円形	92	52	12	骨	
Ⅲ-30	33-3	ⅢF-30	I-9	Ⅲbl	不整形円形	32	22	3	-	
Ⅲ-30	33-5	ⅢF-32	J-11	ⅢcU	不整形円形	40	36	4	-	
Ⅲ-30	-	ⅢF-34	O-11	Ⅲbl	長楕円形	88	56	6	-	
Ⅲ-30	33-7	ⅢF-35	P-7	Ⅲbl	不整形	57	(23)	2	-	
Ⅲ-30	34-1	ⅢF-39	J-K-8	Ⅲbl	楕円形	82	60	6	灰	
Ⅲ-30	34-3	ⅢF-40	K-8	ⅢbL	不整形	46	32	2	-	
Ⅲ-30	34-5	ⅢF-41	M-N-9	ⅢbL	不整形	70	46	12	-	
Ⅲ-30	34-7	ⅢF-42	J-6	ⅢbL	円形	36	32	6	-	
Ⅲ-31	35-1	ⅢF-43	Q-14	Ⅲbl	不整形	52	33	2	-	
Ⅲ-31	35-2	ⅢF-44	K-6	Ⅲbl	不整形	33	24	2	-	
Ⅲ-31	35-3	ⅢF-45	P-13-14	Ⅲbl	不整形円形	82	42	10	-	
Ⅲ-31	35-6	ⅢF-47	O-P-9	Ⅲbl	長楕円形	84	52	10	骨	
Ⅲ-32	35-8	ⅢF-48	Q-R-13	Ⅲbl	長楕円形	130	44	12	灰・骨	
Ⅲ-32	36-3	ⅢF-49	M-12-13	Ⅲbl	不整形円形	180	90	8	骨	
Ⅲ-32	36-5	ⅢF-50	J-11	Ⅲbl	不整形円形	60	38	6	-	
Ⅲ-32	36-7	ⅢF-51	K-12	Ⅲbl	不整形円形	90	50	8	骨	
Ⅲ-32	37-1	ⅢF-52	M-N-10	Ⅲbl	不整形円形	36	18	2	-	
Ⅲ-33	37-4	ⅢF-54	R-13	Ⅲbl	長楕円形	106	60	10	骨	
Ⅲ-33	37-5	ⅢF-55	R-13	Ⅲbl	不整形	74	36	4	-	
Ⅲ-33	37-7	ⅢF-57	S-14	Ⅲbl	不整形円形	76	44	8	-	
Ⅲ-33	38-1	ⅢF-63	AG-17	Ⅲbl	不整形円形	52	44	8	骨	
Ⅲ-33	38-3	ⅢF-64	AK-17	Ⅲbl	楕円形	102	74	6	灰・骨	
Ⅲ-33	38-5	ⅢF-65	AK-16-17	ⅢcU	不整形円形	70	42	12	灰・骨	
Ⅲ-34	38-7	ⅢF-66	AI-17	ⅢcU	楕円形	50	24	8	灰・骨	
Ⅲ-34	39-1	ⅢF-67	AK-17	ⅢcU	不整形	36	26	4	灰・骨	
Ⅲ-34	39-3	ⅢF-82	AF・AG-18	Ⅲbl	不整形円形	80	36	6	骨	
Ⅲ-34	39-5	ⅢF-83	AH-20	Ⅲbl	楕円形	50	36	6	骨	
Ⅲ-34	39-7	ⅢF-84	AI-20	ⅢcU	楕円形	56	28	8	-	
Ⅲ-34	40-1	ⅢF-87	AH-20	Ⅲbl	不整形円形	90	74	12	-	
Ⅲ-34	40-3	ⅢF-92	AF-20	ⅢcU	長楕円形	102	60	8	骨	
Ⅲ-35	40-5	ⅢF-95	AG-20	ⅢcU	不整形円形	50	46	6	-	
Ⅲ-35	40-7	ⅢF-96	AF・AG-19-20	ⅢcU	隅丸方形	(100)	60	16	骨	



図Ⅲ-36 擦文文化期焼土出土遺物

表Ⅲ-25 擦文文化期焼土出土土器属性表

押図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調整		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-36-4	92-1-4	SP013A	ⅧB2a	109	ⅢbL	ⅢF-48	R-13	甕	口縁	ハケメ	ハケメ	1	
				868						Q-13	ミガキ	ナデ	1
Ⅲ-36-5	92-1-5	SP013C	ⅧB2a	112	ⅢbL	ⅢF-48	R-13	甕	胴部	ハケメ	ハケメ	1	
				667,668						-	ミガキ	ミガキ	2
Ⅲ-36-6	92-1-6	SP023B	ⅧB	865	ⅢbL	-	R-13	甕	底部	ミガキ	ミガキ	1	
Ⅲ-36-7	92-1-7	SP028A	ⅧB	807,808,809他	ⅢbL	ⅢF-43	R-14	甕	底部	ハケメ ミガキ	ハケメ ミガキ	11	

表Ⅲ-26 擦文文化期焼土出土遺物属性表

押図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-36-1	92-1-1	-	2440	滑沢面のある礫	-	ⅢbM	ⅢF-28	-	285.0	132.0	57.0	2720.0	Sa.	
Ⅲ-36-2	92-1-2	-	1222	滑沢面のある礫	-	ⅢbL	ⅢF-32	-	145.0	117.0	34.0	780.0	Sa.	
Ⅲ-36-3	92-1-3	-	1229	砥石	-	ⅢbL	ⅢF-32	-	(22.0)	(46.0)	32.0	(65.0)	Sa.	
Ⅲ-36-8	92-1-8	-	759	台石	-	ⅢbL	ⅢF-43	-	181.0	128.0	85.0	3320.0	Sa.	

オニキシペ2遺跡検出擦文文化期焼土の概観

オニキシペ2遺跡では擦文文化期の焼土を多数検出したが、集中区のものも含めると合計48カ所に及ぶ。A地区、B地区双方で検出しているが、地区毎の焼土の様相には差異が認められる。A地区では合計20カ所の焼土が見つかったが、この内焼骨片を伴うものが16カ所であった。一方B地区では合計28カ所見つかった内、焼骨片を伴うものは9カ所で、A地区と比べ少ない。両地区間で被熱層の発達度合いに違いは認められなかったため、焼骨片の有無は焼土形成の時間的長短ではなく、そこで行われた行為の違いを反映している可能性が高い。

第5節 集中遺物

集中区に含まれず、単独で検出した集中遺物は、土器集中がⅢPB-03・21・28・29・48・50の6カ所、礫集中がⅢSB-03・04・06・07・13・15・20の7カ所である。以下で個別に記載する。

ⅢPB-03 (図Ⅲ-37, 39-1 図版41-1, 93-1)

0-10区で検出した。50×30cmの範囲からSP006個体片で構成される43点の土器片が出土している。1が復元されたⅧB3aの甕で、幅広の深い沈線で施文されている。集中区3のⅢPB-01で出土したSP024(図Ⅲ-11-7・8)と器形、沈線の入れ方が良く似た資料である。胴部下半の資料のみで構成され、文様、口縁部形態等は不明である。接合し得た部分の中から底部片のみを図示した(2)。外面はハケメ調整の後、ナデ調整が行われ、内面はナデ調整である。

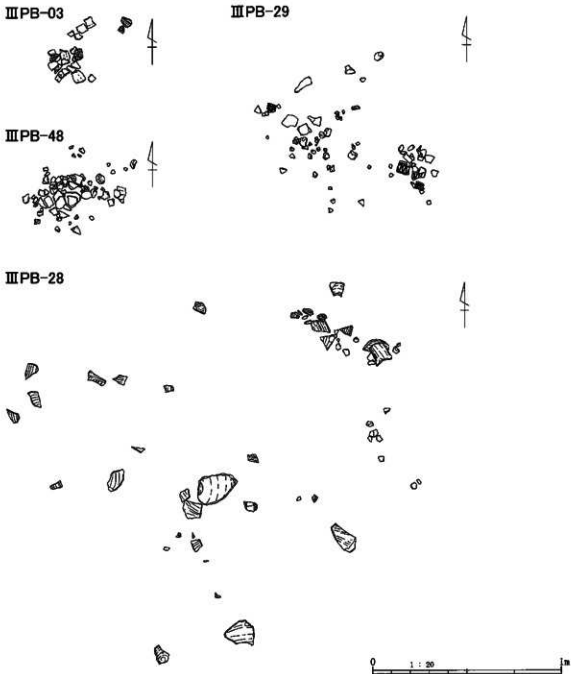
ⅢPB-21 (図Ⅲ-39-2 図版93-2)

AD-23区で検出した。180×156cmの範囲からSP034個体片で構成される113点の土器片が出土している。

ⅢPB-28 (図Ⅲ-37, 39-3 図版41-2, 93-3)

AG-14区のⅢb層で検出した。224×200cmの範囲からSP903個体片で構成される86点の土器片が出土している。口唇部は欠損して失われているが器形は広口の壺である。粘土紐の継ぎ目が部分的に残り、輪積み成形が行われていることがわかる。胴部外面上半と内面全体はロクロ成形痕が認め

られ、外面下半はヘラケズリ調整が施されている。外面の胴部最大径部分よりやや下位に、たたき調整痕が認められる。胎土には粒形1mm程の小礫が目立つ。色調は還元炎焼成により器表面は灰色だが、剥離部分や破断面で観察できる内部の色調は赤褐色を呈する。出土層位が黒色の強いⅢb層中であつたことや、道内出土須恵器には見慣れない器形であつたため、当初中世陶器の可能性も想定していた。しかし五所川原市教育委員会藤原氏に実見いただいた結果、生産量は少ないが、五所川原窯でも広口壺は生産されており、胎土、成形、調整方法の特徴からも、五所川原産と考へて間違いないとのご教示を得た。本資料は氏の分類での壺Ⅱb類に相当し、口唇部を欠損しているため時期決定が難しいが、藤原氏からは他の道内出土須恵器の傾向から10世紀第4四半期に属する資料



図Ⅲ-37 土器集中平面図

の可能性が高いとのご教示を得ている。

ⅢPB-29 (図Ⅲ-37, 39-4 図版 41-5, 93-4)

AG-16・17 区で検出した。106×88cm の範囲から SP063 個体片で構成される 91 点の土器片が出土している。4 はⅧB3c の甕で、胴部は垂直気味に立ち上がり、口縁は内湾する。文様は細い沈線を用いて上下 2 段に描かれ、上段は 3 条一對の沈線で鋸歯状に引き、下段は横走綾杉文を施文している。上下の文様を施文した後、最後に文様帯下縁に横走沈線による区画を行っている。胴部の調整は外面がハケメ調整の後、胴部下半のみミガキ調整を加え、内面は丁寧なミガキ調整を行った後、黒色処理を行っている。

ⅢPB-48 (図Ⅲ-37, 39-5 図版 41-7, 93-5)

AG-20 区で検出した。66×48cm の範囲から SP066 個体片で構成される 126 点の土器片が出土している。5 はⅧB2a の甕で、横走沈線の地文の上に 2 条一對の沈線で樹枝状文を重ねている。文様帯下縁には鋸歯文に縦位の沈線を加え、三又状に配置した文様を連続させている。内面はミガキ調整の後、黒色処理が施されている。

ⅢPB-50 (図Ⅲ-40-6 図版 41-8, 94-6)

AF-20 区で検出した。56×45cm の範囲から SP061 個体片で構成される 78 点の土器片が出土している。SP61 は無文の甕で、細片化が著しく接合はほとんどできなかったが、口縁が大きく開く器形のものとして推定される。6 は口縁部片で、外面はミガキ調整、内面はミガキ調整の後、黒色処理が施されている。

ⅢPB-51 (図Ⅲ-40-7 図版 42-1, 94-7)

AI-19 区で検出した。145×50cm の範囲から SP040 個体片で構成される 78 点の土器片が出土している。復元できたのは 7 の底部部分のみである。底部は大きく括れて三角状に張り出し、底面は平らである。外面はミガキ調整が施されているが、内面はナデ調整のみである。接合し得なかった胴部片に文様は確認できなかった。他の擦文土器底部と比べ独特な底部形状を呈していることから、ⅧA 相当の底部の可能性はある。

ⅢSB-03 (図Ⅲ-1 図版 42-1, 94-13)

N-12 区で検出した。240×70cm の範囲から棒状礫を中心に 19 点の礫が出土した小規模な礫集中である。完形個体は 15 点で欠損率は極めて低い。

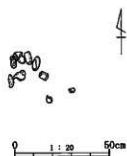
ⅢSB-04 (図Ⅲ-38・40-10 図版 94-10・14)

P-13 区で検出した。124×96cm の範囲から棒状礫を中心に 25 点の礫が出土した。完形個体は 7 点で欠損率がやや高い。10 は礫と共に出土した遺物で、棒状礫を素材としたたき石である。

ⅢSB-04



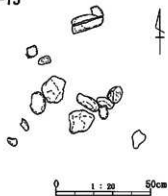
ⅢSB-06



ⅢSB-07



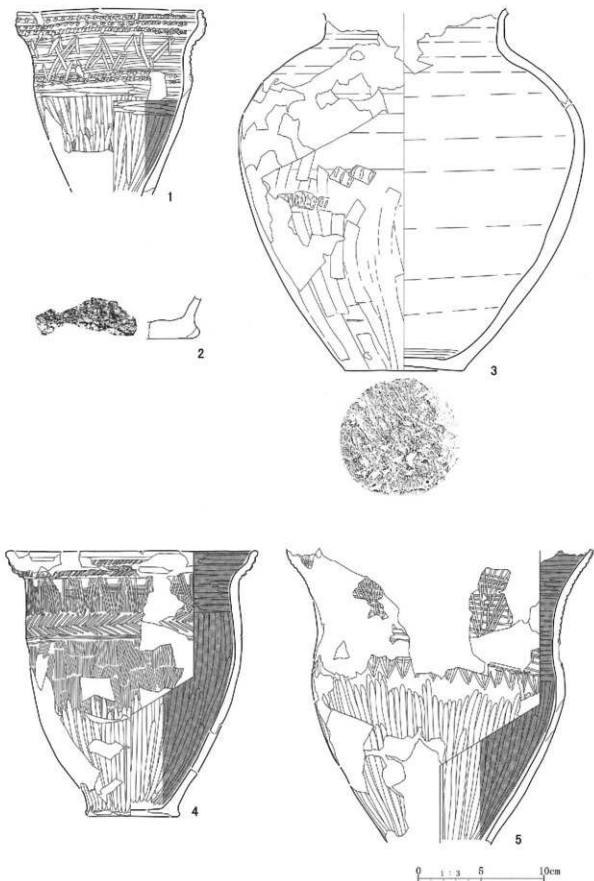
ⅢSB-15



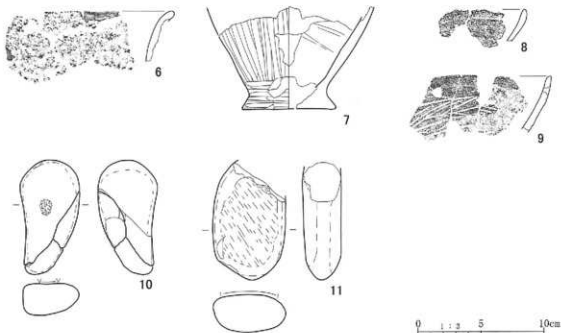
ⅢSB-20



図Ⅲ-38 礫集中平面図



図Ⅲ-39 土器集中出土遺物



図Ⅲ-40 土器集中・礫集中出土遺物

ⅢSB-06 (図Ⅲ-38 図版 42-2, 94-15)

P-9 区で検出した。39×22cm の範囲から棒状礫を中心に 29 点の礫が出土した。完形個体は 6 点で欠損率が高い。

ⅢSB-07 (図Ⅲ-38・40-11 図版 42-3, 94-16)

Q-13 区で検出した。178×40cm の範囲から棒状礫を中心に 21 点の礫が出土した。完形個体は 10 点である。礫と共に、11 の砥石が出土した。

ⅢSB-13 (図Ⅲ-40-8 図版 42-4, 94-8, 95-17)

A0-AN-17 区で検出した。350×150cm の範囲から棒状、板状等多様な形状の 60 点の礫が出土した。完形個体は 6 点で欠損率が極めて高い。礫と共に 8 の坏口縁部片が出土している。

ⅢSB-15 (図Ⅲ-38 図版 42-5, 95-18)

AL-17 区で検出した。86×80cm の範囲から板状等のやや大型の礫を中心に 10 点が出土した。完形個体は 4 点である。

ⅢSB-20 (図Ⅲ-38・40-9 図版 42-6, 94-9, 95-19)

AF-20 区で検出した。140×90cm の範囲から棒状礫を中心に 68 点が出土した。完形個体は 28 点である。礫と共に 9 の坏が出土した。体部には横走沈線による区画ごとに傾斜方向の異なる斜位の沈線を連続して並行させ、全体として矢羽状配置の文様が描かれている。内面には黒色処理が施されている。

表Ⅲ-27 擦文文化期集中遺物出土土器属性表

押印番号	図版番号	個体名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面装飾		点数	備考	
										内側	外側			
Ⅲ-39-1	93-1	SP066A	ⅤB3a	705,706,707他	ⅢbL	ⅢPB-03	O-10	甕	口縁～ 底部	ハケメ	ハケメ	43		
				1179,1181他						黒色地埋	ミガキ	3		
				1156他	ⅢcU	-	O-11					3		
Ⅲ-39-2	93-2	SP034A	ⅤB	20575	ⅢbL	ⅢPB-21	AD-23	甕	底部	ナデ	ハケメ ナデ	1		
Ⅲ-39-3	93-3	SP903A	ⅤE2	11191,11192,11193他	ⅢbL	ⅢPB-25	AG-14	甕	頸部～ 底部	ロクロナデ ヘラナデ	ロクロナデ ヘラナデ	67		
Ⅲ-39-4	93-4	SP063A	ⅤB3c	10010,10011,10012他	ⅢbL	ⅢPB-29	AG-17	甕	口縁～ 底部	ミガキ 黒色地埋	ハケメ ミガキ	29		
				10052,10055,10056他								AG-16	23	
				18636,18637,18638他								AG-17	8	
				19927,19931,19932他	ⅢbL	ⅢPB-48	AG-20				54			
Ⅲ-39-5	93-5	SP066A	ⅤB2a	19117	ⅢcM	-	AI-18	甕	口縁～ 胴部	ハケメ ミガキ 黒色地埋	ハケメ ミガキ	1		
Ⅲ-40-6	94-6	SP061B	ⅤB3a	19884,19885,19889他	ⅢbL	ⅢPB-60	AF-20	甕	口縁	ミガキ 黒色地埋	ナデ	7		
Ⅲ-40-7	94-7	SP040A	ⅤA?	19633,19634,19635	ⅢcM	ⅢPB-51	AI-19	甕	底部	ヘラナデ ナデ	ヘラナデ ミガキ	3		
Ⅲ-40-8	94-8	SP040A	ⅤC	4113,4115	ⅢbL	ⅢSB-13	AL-16	坏	口縁	ミガキ 黒色地埋	ミガキ	2		
Ⅲ-40-9	94-9	SP513B	ⅤC	20020,20023,20024	ⅢbL	ⅢSB-20	AF-20	坏	口縁	ハケメ ミガキ 黒色地埋	ハケメ ミガキ	5		

表Ⅲ-28 擦文文化期集中遺物出土礫石器属性表

押印番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-40-10	94-10	-	961	たたく石	I A1	ⅢbM	ⅢSB-04	P-13	89.0	49.0	25.0	115.0	Sa.	
Ⅲ-40-11	94-11	-	890	礫石		ⅢbL	ⅢSB-07	Q-13	97.0	57.0	30.0	215.0	Sa.	

表Ⅲ-29 ⅢSB-03属性表

押印番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)						重量(g)	被熱	材質	備考			
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差					長短比	標準偏差	
-	94-13	-	2702	ⅢbL	完形	28.8	-40.8	17.9	-10.7	12.4	-7.0	1.6	-0.9	8.6	-	Sa.	-	
		-	3636	ⅢbL	完形	60.4	-9.2	27.6	-1.0	16.3	-3.1	2.2	-0.4	37.8	○	Sa.	-	
		-	3635	ⅢbL	略完形	62.6	-7.0	28.2	-0.4	14.8	-4.6	2.2	-0.3	35.9	○	Sa.	-	
		-	3630	ⅢbL	完形	66.4	-3.2	32.0	3.4	26.1	6.7	2.1	-0.5	63.3	○	Sa.	-	
		-	3640	ⅢbL	完形	70.2	0.6	19.5	-9.1	19.7	0.3	3.6	1.1	25.0	○	Sa.	-	
		-	3633	ⅢbL	完形	72.1	2.5	24.9	-3.7	13.5	-5.9	2.9	0.3	32.1	○	Sa.	-	
		-	ⅢS047	3638	ⅢbL	完形	72.9	3.3	27.3	-1.3	16.7	-2.7	2.7	0.1	33.6	○	Sa.	-
		-	3629	ⅢbL	完形	70.8	1.2	29.9	1.3	14.5	-4.9	2.4	-0.2	49.3	-	Sa.	-	
		-	3637	ⅢbL	略完形	69.5	-0.1	30.2	1.6	15.7	-3.7	2.3	-0.2	36.7	○	Sa.	-	
		-	3643	ⅢbL	完形	80.7	11.1	26.2	-2.4	16.6	-2.8	3.1	0.5	43.6	○	Sa.	-	
		-	2699	ⅢbL	完形	75.3	5.7	47.4	18.8	29.7	10.3	1.6	-1.0	125.1	-	Sa.	-	
		-	3631	ⅢbL	完形	84.2	14.6	19.3	-9.3	20.6	1.2	4.4	1.8	50.3	-	Sa.	-	
		-	2695	ⅢbL	完形	88.0	18.4	34.1	5.5	35.9	16.5	2.6	0.0	131.6	-	Sa.	-	
		-	3642	ⅢbL	完形	90.1	20.5	33.6	5.0	16.4	-3.0	2.7	0.1	63.9	-	Sa.	-	
		-	3648	ⅢbL	完形	90.2	20.6	46.0	17.4	22.8	3.4	2.0	-0.6	122.4	-	Sa.	-	
						72.1	29.6	19.4	2.5	57.3								
												総点数	19点	※完形		15点		

表Ⅲ-30 ⅢSB-04属性表

押印番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)						重量(g)	被熱	材質	備考		
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差					長短比	標準偏差
Ⅲ-38	94-14	-	756	ⅢbL	完形	40.3	-32.9	20.6	-20.0	13.6	-6.7	2.0	0.1	10.2	-	Sa.	-
		-	738	ⅢbL	完形	48.4	-24.8	36.6	-4.0	12.9	-7.4	1.3	-0.5	33.5	-	Sa.	-
		-	752	ⅢbL	完形	53.9	-19.3	34.3	-6.3	25.3	5.0	1.6	-0.2	68.0	-	Sa.	-
		-	744	ⅢbL	完形	78.7	5.5	50.3	9.7	22.6	2.3	1.6	-0.2	117.6	-	Sa.	-
		-	748	ⅢbL	完形	82.2	9.0	52.3	11.7	23.0	2.7	1.6	-0.2	148.1	-	Sa.	-
		-	745	ⅢbL	完形	102.4	29.2	40.1	-0.5	23.3	3.0	2.6	0.7	126.1	-	Sa.	-
		-	753	ⅢbL	完形	106.7	33.5	50.2	9.6	21.1	0.8	2.1	0.3	130.2	-	Sa.	-
						73.2	40.6	20.3	1.8	90.5							
												総点数	25点	※完形		7点	

表Ⅲ-31 ⅢSB-06属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	重量(g)	被熱	材質	備考		
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ						標準 偏差	
Ⅲ-38	94-15	-	825	Ⅲbl	完形	66.6	-2.4	28.3	-0.9	17.9	0.7	2.4	0.0	53.9	-	Sa.	-
		-	829	Ⅲbl	完形	63.4	-5.6	23.8	-5.4	15.2	-2.0	2.7	0.3	28.9	-	Mud.	-
		-	843	Ⅲbl	完形	66.2	-2.8	26.2	-3.0	16.5	-0.7	2.5	0.1	33.0	-	Mud.	-
		-	822	Ⅲbl	完形	67.4	-1.6	26.5	-2.7	13.6	-3.6	2.5	0.2	30.9	-	Mud.	-
		-	826	Ⅲbl	略完形	72.1	3.1	33.7	4.5	19.6	2.4	2.1	-0.3	66.3	-	Sa.	-
		ⅢS032	839	Ⅲbl	略完形	78.1	9.1	36.5	7.3	20.4	3.2	2.1	-0.3	58.2	-	Mud.	-
						69.0		29.2		17.2		2.4		45.2			
												総点数 29点		※完形 6点			

表Ⅲ-32 ⅢSB-07属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	重量(g)	被熱	材質	備考		
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ						標準 偏差	
Ⅲ-38	94-16	-	885	Ⅲbl	略完形	62.3	-25.2	45.8	2.1	25.3	-1.5	1.4	-0.7	95.5	-	Sa.	-
		-	884	Ⅲbl	完形	79.0	-8.5	40.7	-3.0	26.1	-0.7	1.9	-0.2	128.5	○	Sa.	-
		-	897	Ⅲbl	完形	80.7	-6.8	50.7	7.0	35.9	9.1	1.6	-0.5	138.7	-	Sa.	-
		-	892	Ⅲbl	完形	82.4	-5.1	49.8	6.1	33.2	6.4	1.7	-0.4	210.0	○	Sa.	-
		-	902	Ⅲbl	完形	84.4	-3.1	31.7	-12.0	23.2	-3.6	2.7	0.6	103.2	-	Sa.	-
		-	887	Ⅲbl	完形	87.8	0.3	35.2	-8.5	25.0	-1.8	2.5	0.4	99.4	○	Sa.	-
		-	903	Ⅲbl	完形	90.6	3.1	50.3	6.6	27.7	0.9	1.8	-0.3	163.1	-	Sa.	-
		-	893	Ⅲbl	完形	92.0	4.5	55.5	11.8	26.1	-0.7	1.7	-0.4	210.0	-	Sa.	-
		-	904	Ⅲbl	完形	98.3	10.8	48.1	4.4	28.6	1.8	2.0	-0.1	293.4	-	Sa.	-
		-	889	Ⅲbl	完形	117.0	29.5	40.4	-3.3	23.8	-3.0	2.9	0.8	106.8	-	Mud.	-
								87.5		44.8		27.5		2.0		155.0	
												総点数 21点		※完形 10点			

表Ⅲ-33 ⅢSB-13属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	重量(g)	被熱	材質	備考		
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ						標準 偏差	
	95-17	-	4185	Ⅲbl	完形	72.8	-46.1	34.2	-35.7	21.8	-8.3	2.1	0.1	85.5	-	Sa.	-
		-	4094	Ⅲbl	完形	74.4	-44.5	37.2	-32.7	15.1	-15.0	2.0	0.0	49.4	-	Sa.	-
		-	4084	Ⅲbl	完形	78.3	-40.6	37.4	-32.5	31.4	1.3	2.1	0.1	86.7	-	Mud.	-
		-	4071	Ⅲbl	略完形	91.3	-27.6	36.9	-33.0	16.2	-13.9	2.5	0.5	65.6	-	Sa.	-
		-	1450	Ⅲbl	完形	98.8	-20.1	73.3	3.4	38.6	8.5	1.3	-0.7	560.0	○	Sa.	-
		-	4120	Ⅲbl	完形	298.0	179.1	148.3	78.4	57.7	27.6	2.0	0.0	3036.0	-	Sa.	-
						118.9		61.2		30.1		2.0		647.2			
												総点数 60点		※完形 6点			

表Ⅲ-34 ⅢSB-15属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	重量(g)	被熱	材質	備考		
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ						標準 偏差	
Ⅲ-38	95-18	-	13277	ⅢcU	略完形	72.4	-59.9	93.4	-2.8	45.4	-15.7	0.8	-0.7	510.0	○	Sa.	-
		-	13281	ⅢcU	完形	136.4	4.1	108.9	12.7	50.9	-11.1	1.3	-0.2	1008.0	-	Sa.	-
		-	13273	ⅢcU	完形	144.3	12.0	117.6	21.4	87.0	25.9	1.2	-0.3	1048.0	-	Con.	-
		ⅢS190	13268	ⅢcU	完形	180.4	48.1	65.0	-31.2	66.0	4.9	2.8	1.3	1016.0	-	Sa.	-
						133.4		96.2		62.1		1.6		895.5			
												総点数 10点		※完形 4点			

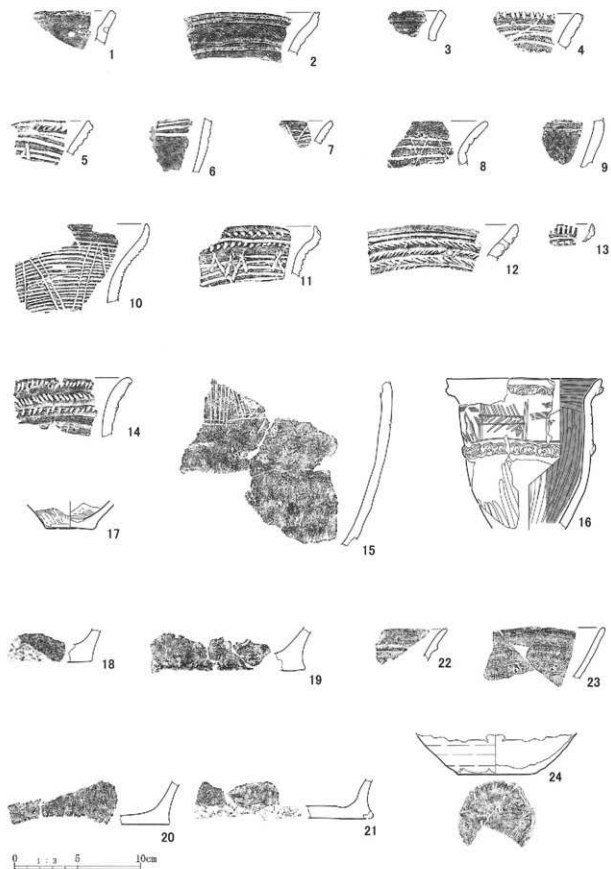
表Ⅲ-35 ⅢSB-20属性表

押図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比 標準 偏差	重量(g)	被熱	材質	備考		
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ						標準 偏差	
		-	19476	Ⅲbl	壳形	56.9	-9.0	33.6	-4.7	26.7	5.4	1.7	-0.3	91.2	-	Sa	-
		-	19473	Ⅲbl	壳形	61.1	-4.8	39.1	0.8	16.3	-6.0	1.6	-0.4	61.2	-	Sa	-
		-	19499	Ⅲbl	壳形	67.8	1.9	43.6	5.3	23.3	2.0	1.6	-0.4	81.6	-	Sa	-
		-	19477	Ⅲbl	欠損	65.4	-0.5	51.2	12.9	16.4	-4.9	1.3	-0.7	89.9	-	And.	-
		-	19486	Ⅲbl	壳形	63.3	-2.6	37.5	-0.8	17.8	-3.5	1.7	-0.3	63.4	-	Sa	-
		-	19461	Ⅲbl	略壳形	66.6	0.7	41.7	3.4	21.9	0.6	1.6	-0.4	53.7	○	Mud.	-
		-	19470	Ⅲbl	壳形	67.4	1.5	41.8	3.5	32.0	10.7	1.6	-0.3	141.1	-	Sa	-
		-	20001	Ⅲbl	壳形	67.3	1.4	34.4	-3.9	18.2	-3.1	2.0	0.0	50.8	-	Sa	-
		-	19500	Ⅲbl	壳形	69.2	3.3	21.7	-16.6	21.2	-0.1	3.2	1.2	61.5	-	Sa	-
		-	19482	Ⅲbl	壳形	65.2	-0.7	49.6	10.3	15.0	-6.3	1.3	-0.6	93.3	-	Sa	-
		-	19498	Ⅲbl	壳形	72.2	6.3	39.4	0.1	14.1	-7.2	1.9	-0.1	51.8	-	Sa	-
		-	19485	Ⅲbl	略壳形	69.5	3.6	40.8	2.5	26.1	4.8	1.7	-0.3	104.4	-	Sa	-
		-	19466	Ⅲbl	壳形	74.0	8.1	46.8	8.5	21.8	0.5	1.6	-0.4	93.7	-	Sa	-
		-	20002	Ⅲbl	略壳形	73.3	7.4	34.1	-4.2	21.7	0.4	2.1	0.2	74.2	-	Sa	-
		-	19450	Ⅲbl	壳形	75.6	9.7	37.1	-1.2	29.1	7.8	2.0	0.1	113.4	-	Sa	-
		-	19460	Ⅲbl	壳形	79.0	13.1	37.1	-1.2	26.1	4.8	2.1	0.2	130.1	-	Sa	-
		-	19474	Ⅲbl	壳形	79.7	13.8	31.9	-6.4	17.7	-3.6	2.5	0.5	63.3	-	Mud.	-
		-	19463	Ⅲbl	壳形	76.1	10.2	45.3	7.0	19.4	-1.9	1.7	-0.3	106.6	-	Sa	-
		-	19497	Ⅲbl	壳形	77.8	11.9	42.0	3.7	29.6	8.3	1.9	-0.1	110.1	-	Mud.	-
		-	19467	Ⅲbl	壳形	80.0	14.1	36.7	-1.6	20.3	-1.0	2.2	0.2	74.5	-	Sa	-
		-	19486	Ⅲbl	壳形	79.5	13.6	38.9	0.6	37.8	16.5	2.0	0.1	139.5	-	Sa	-
		-	19459	Ⅲbl	壳形	82.4	16.5	38.8	0.5	28.8	7.5	2.1	0.2	86.4	○	Sa	-
		-	19472	Ⅲbl	壳形	82.7	16.8	40.8	2.5	21.9	0.6	2.0	0.1	95.4	-	Sa	-
		-	19471	Ⅲbl	略壳形	84.7	18.8	30.7	-7.6	23.7	2.4	2.8	0.8	81.5	-	Sa	-
		-	20011	Ⅲbl	壳形	84.1	18.2	35.1	-3.2	26.1	4.8	2.4	0.4	80.1	○	Sa	-
		-	19483	Ⅲbl	壳形	86.6	20.7	50.6	12.3	17.8	-3.5	1.7	-0.2	124.0	-	Sa	-
		-	19453	Ⅲbl	壳形	89.1	23.2	30.2	-8.1	25.1	3.8	3.0	1.0	97.6	-	Sa	-
		-	19455	Ⅲbl	壳形	90.0	24.1	40.2	1.9	25.7	4.4	2.2	0.3	109.7	○	Sa	-
		-	19458	Ⅲbl	壳形	101.0	55.2	55.2	16.9	28.5	7.2	1.8	-0.1	173.7	-	Sa	-
						75.4		39.4		23.1		2.0		93.0			
													総点数 68点				※壳形 28点

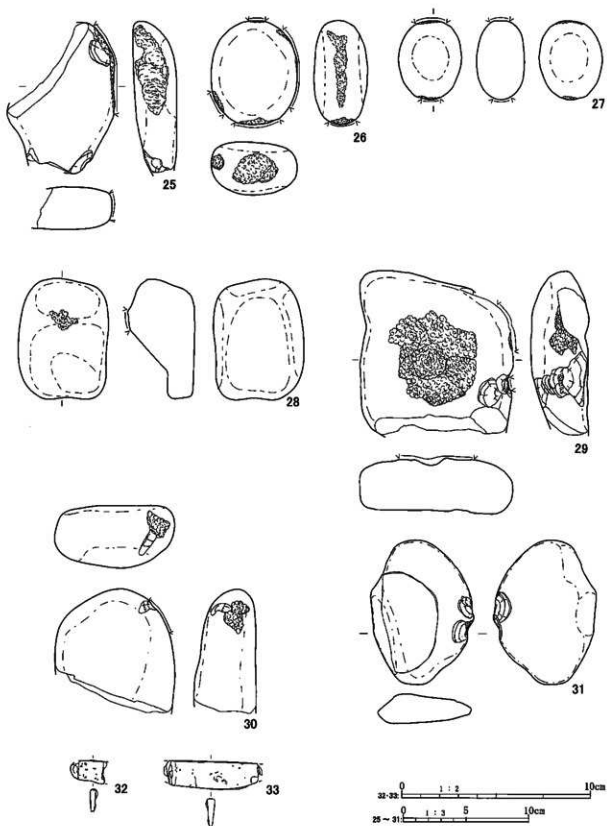
第6節 濠文文化期包含層出土遺物 (図Ⅲ-41・42 図版 96・97)

礫石器と鉄器は出土層位から判断し、Ⅲbl～cl から出土したものをここで扱っている。但し、Ⅲ層からはアイヌ期～縄文時代晩期の遺物が出土していることから別の時期のものが混入している可能性もある。

1は円形刺突の施されたⅦA相当の口縁部片である。口唇部は角状に成形されている。2・3はⅦB1。2は沈線間の幅が広い段状沈線が引かれている。4～9はⅦB2a。4は酸化炭による赤色化が強く、胎土に白色の砂粒を多く含んでいる。5・6は同一個体で深く明瞭な沈線で施文されている。7は内面に丁寧なミガキ調整が施されている。8・9は同一個体で、深くて幅の狭い沈線による粗雑な文様が描かれている。内面にミガキ調整が行われているが、粘土紐の継ぎ目が残る粗雑さも窺える。10・11はⅦB3aの口縁部片。10は横走沈線地の上に2条一対の沈線を鋸歯状に重ねている。11は口縁部が大きく内湾する器形で、沈線は深く幅広に引かれている。同じ特徴の土器は集中区3のSP024、集中遺物ⅢPB-03出土のSP006にも認められ、時期だけでなく、製作者も同じ可能性が想定される。12・13はⅦB3の口縁部片である。12は非常に硬く焼き締められ、文様の刻みも明瞭に入れられている。断面は厚味があり、色調は赤味が強い。14・15はⅦB3c 甕の同一個体で、口縁部は外反し、胴部文様帯は4条一対の沈線による鋸歯状文様が描かれているものと推定される。文様帯下縁の横走沈線による区画は最初に引かれている。16はⅦB3cの小型の甕である。文様は細く稚拙な沈線で一部分のみに施文されている。口縁部と貼付帯には馬蹄形圧痕文が押捺されている。17～21は甕底部片。



図Ⅲ-41 擦文文化期包含層出土遺物(1)



図Ⅲ-42 擦文文化期包含層出土遺物(2)

22は段状沈線の廻る坏口縁部片。23・24は同一個体でロクロ製の坏。底部は回転糸切無調整で内面は黒色処理されている。25～30はたたき石である。26・27はやや厚みのある楕円礫を素材とし、26

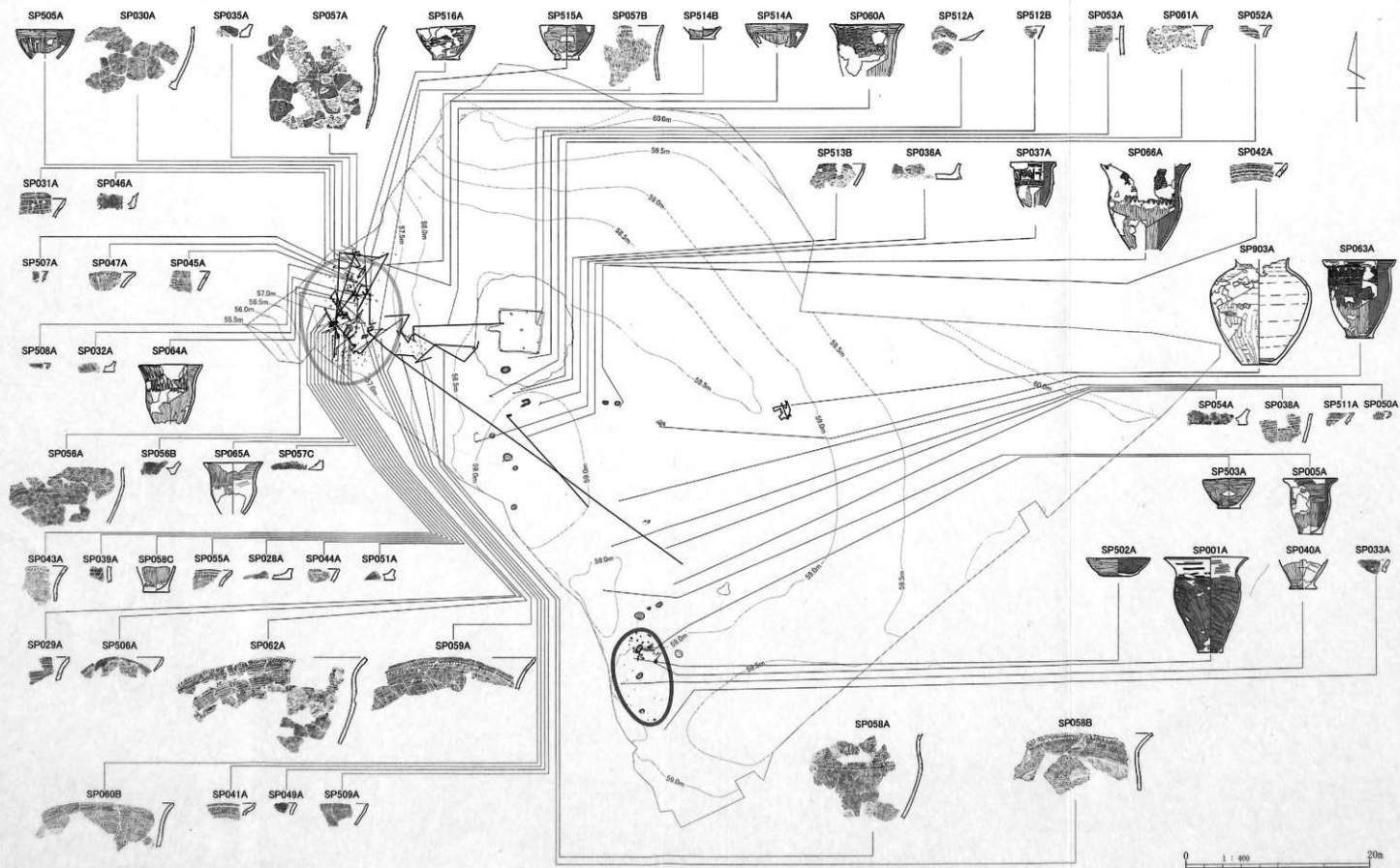
は周縁を部分的に、27は両端を使用している。28は不整形な礫を素材としており、頂部を使用している。29のみ平坦な面を使用している。29はやや大型のものである。表面の敲打痕の中央は敲打により非常に深く窪んでいる。表面の敲打痕は礫の把握方法等を考慮すると、受動的に使われたと考えられるので、台石としても利用されたと考えられる。26が珪岩。27が安山岩で他はすべて砂岩である。31は側縁に加工痕のある礫である。両面に打ち欠きが見られることから人為的なものと判断した。扁平な泥岩を素材としている。32・33は鉄製品で、32は刀子茎尻片、33は刀身部片である。

表Ⅲ-36 擦文文化期包含層出土土器属性表

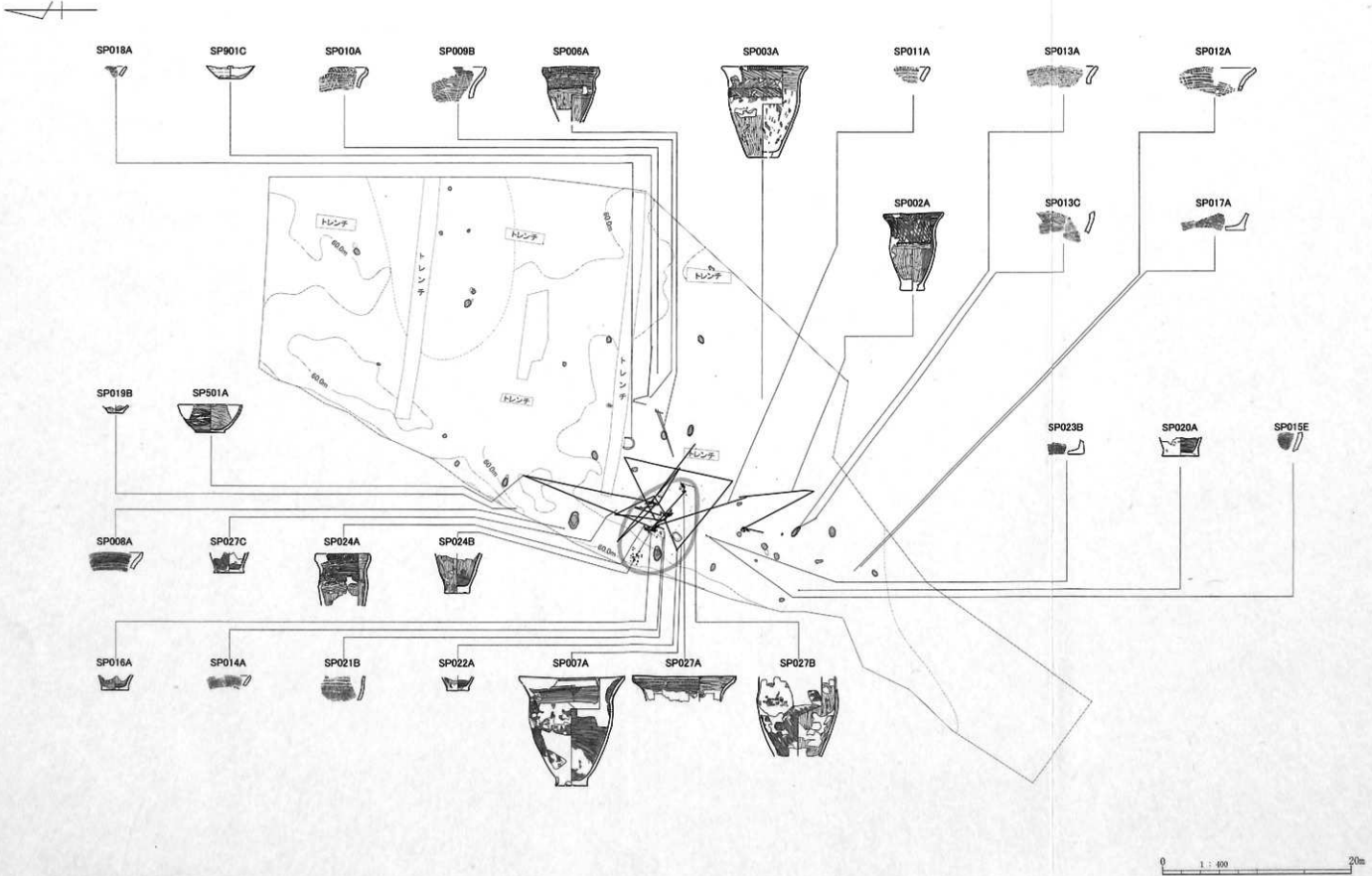
神岡 番号	国庫 番号	器物 名称	分類	遺物番号	層位	遺構名	グリッド	器種	部位	器面調査		点数	備考
										内側	外側		
Ⅲ-41-1	96-1	SP033A	VIB A	19257他	ⅢcJ	-	AK-18	甕	口縁	ヘラナデ ミガキ	ヘラナデ	2	
Ⅲ-41-2	96-2	SP008A	VIB1	1316	ⅢbL	-	M-13	甕	口縁	ミガキ	ミガキ	1	
Ⅲ-41-3	96-3	SP049A	VIB1	20188	ⅢMO	-	AH-22	甕	口縁	ミガキ 黒色処理	ヘラナデ	1	
Ⅲ-41-4	96-4	SP011A	VIB2a	32,33	ⅢbL	-	Q-10	甕	口縁	ミガキ? ミガキ	ハケメ	2	
Ⅲ-41-5	96-5	SP026A	VIB2a	9982	-	立会	-	甕	口縁	ミガキ 黒色処理	ナデ	1	
Ⅲ-41-6	96-6	SP028B	VIB2a	9983	-	立会	-	甕	胴部	ハケメ ミガキ 黒色処理	ミガキ	1	
Ⅲ-41-7	96-7	SP018A	VIB2a	1132	ⅢcJ	-	N-11	甕	口縁	ミガキ	ハケメ ミガキ	1	
Ⅲ-41-8	96-8	SP015C	VIB2a	9984	KR	-	O-13	甕	口縁	ハケメ ミガキ	ナデ	1	
Ⅲ-41-9	96-9	SP015E	VIB2a	1112	ⅢcJ	-	P-13	甕	胴部	ハケメ ミガキ	ミガキ	1	
Ⅲ-41-10	96-10	SP009B	VIB3a	241	ⅢbL	-	P-10	甕	口縁	ミガキ	ミガキ	1	
Ⅲ-41-11	96-11	SP010A	VIB3a	1695	ⅢbM	-	O-09	甕	口縁	ハケメ ミガキ 黒色処理	ハケメ	1	
Ⅲ-41-12	96-12	SP042A	VIB3	18643	ⅢcL	-	AG-17	甕	口縁	ハケメ ミガキ	ハケメ ミガキ	1	
Ⅲ-41-13	96-13	SP050A	VIB3	17478	ⅢcL	-	AF-17	甕	口縁	-	ミガキ	1	
Ⅲ-41-14	96-14	SP025A	VIB3c	9711他	-	立会	-	甕	口縁	ハケメ ミガキ 黒色処理	ハケメ ナデ	2	
Ⅲ-41-15	96-15	SP025B	VIB3c	9737	-	立会	-	甕	胴部	ハケメ ミガキ 黒色処理	ハケメ ミガキ	1	
Ⅲ-41-16	96-16	SP037A	VIB3c	22114他	ⅢbL	-	AG-20	甕	口縁～ 胴部	ハケメ ミガキ 黒色処理	ナデ	2	
				23117他	ⅢcM							2	
				10001,10003他	ⅢbL							5	
				10002,10004,10005他	ⅢbL							7	
				17547,17550他	ⅢbU							29	
Ⅲ-41-17	96-17	SP019B	VIB	939,941	ⅢbM	-	L-12	甕	底部	ハケメ ナデ	ハケメ ミガキ	2	
Ⅲ-41-18	96-18	SP035A	VIB	23303他	ⅢcM	-	AC-23	甕	底部	ハケメ ナデ	ナデ	2	
Ⅲ-41-19	96-19	SP054A	VIB	16580,16584,16585	ⅢcM	-	AK-16	甕	底部	ナデ	ハケメ ナデ	3	
Ⅲ-41-20	96-20	SP017A	VIB	2770	ⅢbL	-	S-14	甕	底部	ナデ	ハケメ ミガキ	1	
Ⅲ-41-21	96-21	SP036A	VIB	19784,22182	ⅢbL	-	AG-19	甕	底部	ハケメ ナデ	ハケメ ナデ	2	
Ⅲ-41-22	96-22	SP511A	VIB2a	23133,23134	ⅢcM	-	AJ-18	坏	口縁	ミガキ? ミガキ?	ミガキ?	1	
Ⅲ-41-23	96-23	SP901A	VIB4b	99,100,101	ⅢbL	-	N-09	坏	口縁	ミガキ 黒色処理	ログロナデ	3	
Ⅲ-41-24	96-24	SP901C	VIB4a	81,83,84他	ⅢbL	-	N-10	坏	体部～ 底部	-	ログロナデ	6	
				89			N-09					1	

表Ⅲ-37 標文文化期包含層出土遺物属性表

標函 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
Ⅲ-42-25	97-25	-	279	たたき石	I A2	ⅢbL	-	O-11	(120.0)	86.0	44.0	400.0	Sa.	
Ⅲ-42-26	97-26	-	19997	たたき石	ⅢA	ⅢbL	-	AF-19	80.0	70.0	42.0	360.0	Qua.	
Ⅲ-42-27	97-27	-	1361	たたき石	ⅢA	ⅢbL	-	J-10	63.0	50.0	34.0	180.0	And.	
Ⅲ-42-28	97-28	-	23929	たたき石	ⅡB1	ⅢcU	-	AF-20	97.0	72.0	54.0	460.0	Sa.	
Ⅲ-42-29	97-29	-	1356	たたき石	ⅡA1	ⅢbL	-	M-10	123.0	131.0	44.0	980.0	Sa.	
Ⅲ-42-30	97-30	-	98	たたき石	IV	ⅢcU	-	N-13	(114.0)	88.0	50.0	700.0	Sa.	
Ⅲ-42-31	97-31	-	272	加工痕のある礫	-	ⅢbL	-	O-11	115.0	80.0	23.0	250.0	Mud.	
Ⅲ-42-32	97-32	-	2882	刀子茎片	-	ⅢbL	-	S-13	18.8	11.8	3.1	1.5	Irn.	
Ⅲ-42-33	97-33	-	2844	刀子片	-	ⅢbL	-	S-13	51.7	14.7	4.0	7.9	Irn.	



図Ⅲ-43 A地区縄文文化期土器接合関係図



図Ⅲ-44 B地区擦文文化期土器接合関係図